

横壁中村遺跡(4)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第10集

2006

国 土 交 通 省

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

横壁中村遺跡(4)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第10集

2006

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



28区全景 上方が東。左手に吾妻川。最初に着手された調査区で、全域から列石・配石遺構が確認された。住居の大半は、これらの下で確認されている。



18区全景 上方が南にあたる。縄文時代中期後半～後期中葉の住居28軒が分布。28区寄りの下方ほど地山の礫が増える。左手の林は「東沢」。



28区5号住居
(南から)



同住居掘り方
柱穴に根がための
「石囲い」が伴う



同住居 柱穴3に伴う石囲い (1号配石)



同住居 柱穴1に伴う石囲い (2号配石)

序

八ツ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。

八ツ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で12年目を迎えます。横壁中村遺跡は平成8年度から発掘調査が開始され、平成18年度以降も調査の継続が予定されており、長期にわたる大規模な調査となりました。また調査された遺構や遺物は本遺跡が縄文時代を中心とする、非常に大きく、また長く続いた集落であることを示しております。これら膨大な資料を整理し報告する作業は平成15年度から開始され、今回は縄文時代中期の住居跡24軒に関する報告を纏めることができました。本書は縄文時代の集落の構造を考える上で、また長野県、新潟県地域との広域な交流を考える上で重要な資料となると考えております。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願い序といたします。

平成18年5月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇夫

例 言

- 1 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う事前調査として、平成8年度から実施されている「横壁中村遺跡」の発掘調査報告書である。横壁中村遺跡の発掘調査報告書は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』を第1冊目として既に3冊が刊行されている。本書は横壁中村遺跡18・28区で検出された縄文時代中期竪穴住居24軒を取り扱っており、横壁中村遺跡の発掘調査報告書の第4冊目である。
- 2 横壁中村遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂530他に所在し、長野原町教育委員会と協議の結果、本遺跡名が決定された。
- 3 本発掘調査は、群馬県教育委員会の調整に基づき、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省関東地方整備局（平成13年1月までは建設省）の委託を受けて実施した。平成14年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に八ッ場ダム地域埋蔵文化財調査を目的に設置された八ッ場ダム調査事務所が担当している。
- 4 発掘調査は平成8年4月1日から平成18年3月31日まで実施し、平成18年度以降も調査は継続する。今回報告する住居の調査年度は、第1章第1節内で住居ごとに記載しているが、平成9～11・13・14年度に調査されたものである。
- 5 発掘調査組織は下記の通りである。

管理・指導 理事長 小寺弘之（平成8・9年度）、菅野 清（平成10年度）、小野宇三郎（平成11～17年7月まで）、高橋勇夫（平成17年7月から）

常務理事 菅野 清（平成8・9年度）、赤山容造（平成10～12年度）、吉田 豊（13・14年度）、住谷永市（平成15・16年度）、木村裕紀（平成17年度）

事務局長 原田恒弘（平成8・9年度）、赤山容造（平成10～13年度）

事業局長 神保侑史（平成14～16年度）、津金澤吉茂（平成17年度）

管理部長 蜂巢 実（平成8年度）、渡辺 健（平成9・10年度）、住谷 進（平成11～13年度）、萩原利通（平成14・15年度）、矢崎俊夫（平成16・17年度）

八ッ場ダム調査事務所長 水田 稔（平成14・15年度）、巾 隆之（平成16・17年度）

調査研究部長 赤山容造（平成8～10年度）、神保侑史（平成11年度）、能登 健（平成12・13年度）、津金澤吉茂（平成14・15年度）、佐藤明人（平成16・17年度）

調査研究課長 岸田治男（平成8年度）、能登 健（平成9～11年度）、飯島義雄（平成12年度）、下城 正（平成13・14年度）、斎藤和之（平成15・16年度）、中沢 悟（平成17年度）

事務担当 小淵 淳、笠原秀樹、国定 均、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、宮崎忠司、井上 剛、岡島伸昌、坂本敏夫、小山建夫、片岡徳雄、森下弘美、大島信夫、野口富太郎、矢嶋知恵子、富沢よねこ、町田文雄

調査担当 阿久津 聡、池田政志、石坂 聡、石田 真、今井和久、岡部 豊、小野和之、金井 武、唐沢友之、久保 学、児島良昌、小林大悟、斎藤幸男、関 俊明、田村公夫、原 雅信、榛沢健二、廣津英一、藤巻幸男、松原孝志、諸田康成、渡辺弘幸、綿貫邦男

- 6 整理期間は平成17年4月1日から平成18年3月31日である。

- 7 整理組織は下記の通りである。

管理・指導 理事長 小野宇三郎（7月まで）高橋勇夫（7月から）、常務理事 木村裕紀

事業局長 津金沢吉茂、管理部長 矢崎俊夫、八ッ場ダム調査事務所長 巾 隆之、同事務所調査研究部長兼整理課長 佐藤明人

事務担当 ハツ場ダム調査事務所庶務係長 町田文雄、主事 富沢よねこ

整理担当 池田政志

8 本報告書作成の担当

編集 池田政志

本文執筆 新山保和（土器観察表）、池田政志（前記以外）

石材鑑定 渡辺弘幸

遺構写真撮影 各調査担当者

遺物写真撮影 佐藤元彦

機械実測 富沢スミ江 伊東博子 岸 弘子 廣津真希子

委託関係 遺構測量および空中写真 株式会社測研

遺構図デジタル編集 株式会社測研

整理補助 新山保和（専門嘱託員）足立やよい 篠原麻衣 霜田順子 宮沢直樹 湯本よし子

9 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財センターで保管している。

10 発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の機関、諸氏から貴重なご教示やご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称省略、五十音順）

国土交通省関東地方建設局ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化課、長野原町教育委員会
飯島義雄 石田 真 大竹幸恵 金子直行 小池岳史 佐藤雅一 白石光男 寺内隆夫 富田孝彦
能登 健 萩原昭朗 平林 彰 福島 永 松島榮治 綿田弘実 渡辺清志

凡 例

- 1 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。本書で使用する測量図の座標はすべて、2002年4月改正以前の日本測地系を用いている。
- 2 遺構図の縮尺については、住居の全体にかかる図は1/60、住居内の炉等、個別の図は1/30である。
- 3 遺構番号は、調査時の番号を用いている。今回の報告は、縄文時代中期の竪穴住居を対象としているため、遺構番号は連続しない。また、発掘調査中、整理作業中に住居と認定できないものもあり、これらも欠番としている。
- 4 遺構図面中における遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。また、●は遺物の出土位置を表しており、図示した遺物でこの表示のない遺物、遺構図中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。
- 5 遺物図の縮尺は土器実測図は1/4、土器拓本は1/3、石器1/3を原則としたが、これ以外の縮尺を用いている場合も多い。その場合は各遺物実測図に記したので参照していただきたい。
- 6 写真図版中の遺物の縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺とした。
- 7 遺物観察表、石器計測表の記載方法は下記の通りである。
 - (1) 土器の計測値の単位はcmである。
 - (2) 石器の計測値の単位はmmである。
 - (3) 石器類の重量はすべて残存値であり、単位はgである。
 - (4) 色調については、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の新版標準土色帖に基づいている。
- 8 石器実測図におけるトーンは、磨り面を表す。

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

図版目次

表目次

第1章 調査の方法と経過

- 第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 第2節 調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 第3節 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章 遺跡の環境

- 第1節 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第3章 発見された遺構と遺物

- 第1節 遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 第2節 基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 第3節 竪穴住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - 遺物図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
 - 遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
 - 土層説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94

抄録

写真図版

挿図目次

- 第1図 年度別調査区全体図
- 第2図 遺跡位置及び周辺遺跡図
- 第3図 横壁中村遺跡全体図
- 第4図 基本土層図
- 第5図 住居出土土器集計グラフ
- 第6図 18区縄文時代中期住居全体図
- 第7図 28区縄文時代中期住居全体図
- 第8図 18区1号住居・2号住居
- 第9図 18区3号住居・6号住居
- 第10図 18区12号住居・20号住居
- 第11図 18区21号住居・24号住居
- 第12図 18区26号住居
- 第13図 18区28号住居
- 第14図 28区1号住居
- 第15図 28区2号住居・3号住居
- 第16図 28区4号住居
- 第17図 28区5号住居・6号住居
- 第18図 28区5号住居
- 第19図 28区6号住居
- 第20図 28区7号住居
- 第21図 28区9号住居
- 第22図 28区11号住居・13号住居
- 第23図 28区14号住居
- 第24図 28区15号住居・19号住居
- 第25図 18区1号住居出土遺物
- 第26図 18区2号、3号住居出土遺物
- 第27図 18区6号住居出土遺物(1)
- 第28図 18区6号住居出土遺物(2)
- 第29図 18区12号住居出土遺物
- 第30図 18区20号、21号、24号住居出土遺物
- 第31図 18区24号住居出土遺物(2)
- 第32図 18区24号住居出土遺物(3)
- 第33図 18区26号住居出土遺物(1)
- 第34図 18区26号住居出土遺物(2)
- 第35図 18区26号住居出土遺物(3)・28号住居出土遺物
- 第36図 28区1号、2号住居出土遺物
- 第37図 28区2号住居出土遺物(2)
- 第38図 28区2号住居出土遺物(3)
- 第39図 28区3号住居出土遺物(1)
- 第40図 28区3号住居出土遺物(2)
- 第41図 28区3号住居出土遺物(3)
- 第42図 28区3号住居出土遺物(4)・4号住居出土遺物
- 第43図 28区5号住居出土遺物(1)
- 第44図 28区5号住居出土遺物(2)・6号住居出土遺物(1)
- 第45図 28区6号住居出土遺物(2)
- 第46図 28区7号住居出土遺物(1)
- 第47図 28区7号住居出土遺物(2)
- 第48図 28区7号住居出土遺物(3)
- 第49図 28区7号住居出土遺物(4)
- 第50図 28区9号住居出土遺物
- 第51図 28区11号住居・13号住居出土遺物
- 第52図 28区13号住居出土遺物(2)・14号住居出土遺物
- 第53図 28区14号住居出土遺物(2)
- 第54図 28区14号住居出土遺物(3)
- 第55図 28区15号住居・19号住居出土遺物
- 第56図 28区19号住居出土遺物(2)

図版目次

- PL1 1 18区1号住居全景(北から)
- 2 18区1号住居掘り方(北から)
- 3 18区1号住居炉全景(北東から)
- 4 18区2号住居炉全景(北西から)
- 5 18区2号住居全景(南東から)
- PL2 1 18区3号住居全景(北から)
- 2 18区3号住居石棒出土状況(北東から)
- 3 18区3号住居周辺状況(北東から)
- 4 18区3号住居掘り方(北から)
- 5 18区3号住居調査状況(東から)
- PL3 1 18区6号住居全景(南東から)
- 2 18区6号住居遺物出土状況(北から)
- 3 18区6号住居炉全景(南から)
- 4 18区6号住居周辺状況(南東から)
- PL4 1 18区12号住居全景(西から)
- 2 18区12号住居確認状況(北西から)
- 3 18区12号住居確認状況(北から)
- 4 18区12号住居埋甕出土状況(東から)
- 5 18区12号住居炉全景(北から)
- PL5 1 18区20号住居周辺状況(南から)
- 2 18区20号住居炉全景(西から)
- 3 18区20号住居炉内埋設土器出土状況(南から)
- 4 18区21号住居全景(南から)
- 5 18区21号住居炉内埋設土器出土状況(西から)
- PL6 1 18区24号住居全景(北から)
- 2 18区24号住居出入り口部と思われる立石(西から)
- 3 18区24号住居遺物出土状況(北から)
- 4 18区24号住居炉全景(北から)
- 5 18区24号住居炉掘り方(北から)
- PL7 1 18区26号住居全景(北から)
- 2 18区26号住居確認状況(南から)
- 3 18区26号住居周辺状況(南から)
- 4 18区26号住居炉内埋設土器出土状況(北から)
- 5 18区26号住居炉底部の礫(北から)
- PL8 1 18区28号住居全景(西から)
- 2 18区28号住居床面炭化物出土状況(南から)
- 3 18区28号住居掘り方(東から)
- 4 18区28号住居炉全景(南から)
- 5 18区28号住居周辺状況(上は5号列石)(西から)
- PL9 1 28区1号住居全景(北東から)
- 2 28区1号住居周辺状況(北東から)
- 3 28区1号住居炉全景(東から)
- 4 28区1号住居床面の敷石と思われる礫(東から)
- 5 28区1号住居炉下面(東から)
- PL10 1 28区2号住居全景(東から)
- 2 28区3号住居全景(南から)
- PL11 1 28区4号住居北半部(東から)
- 2 28区4号住居埋甕出土状況(北から)
- 3 28区5号住居全景(南から)
- 4 28区5号住居炉遺物出土状況(東から)
- 5 28区5号住居炉全景(西から)
- PL12 1 28区5号住居周辺状況(奥は6号住居)(東から)
- 2 28区5号住居内1号配石確認状況(北から)
- 3 28区5号住居内2号配石全景(南から)
- 4 28区5号住居遺物出土状況(東から)
- 5 28区5号住居掘り方(南から)
- PL13 1 28区6号住居全景(東から)
- 2 28区6号住居周辺状況(東から)
- PL14 1 28区6号住居炉全景(北から)
- 2 28区6号住居内1号配石(南から)

- 3 28区6号住居内2号配石 (南から)
- 4 28区6号住居1号埋甕 (西から)
- 5 28区6号住居2号埋甕 (東から)
- 6 28区6号住居3号埋甕 (東から)
- 7 28区6号住居4号埋甕確認状況 (東から)
- 8 28区6号住居4号埋甕断面 (東から)
- P L 15 1 28区7号住居全景 (北東から)
- 2 28区7号住居遺物出土状況 (北から)
- 3 28区7号住居炉全景 (東から)
- 4 28区7号住居全景 (南から)
- 5 28区7号住居遺物近接 (北から)
- P L 16 1 28区9号住居全景 (北西から)
- 2 28区9号住居炉全景 (北から)
- 3 28区11号住居全景 (北から)
- 4 28区11号住居炉遺物出土状況 (西から)
- 5 28区11号住居炉全景 (南西から)
- P L 17 1 28区13号住居全景 (北から)
- 2 28区13号住居全景 (東から)
- 3 28区13号住居炉全景 (北から)
- 4 28区13号住居遺物出土状況 (東から)
- 5 28区13号住居遺物出土状況 (東から)
- P L 18 1 28区14号住居全景 (南東から)
- 2 28区14号住居炉全景 (西から)
- 3 28区14号住居掘り方 (東から)
- 4 28区14号住居遺物近接 (南から)
- 5 28区14号住居遺物出土状況 (北東から)
- P L 19 1 28区15号住居炉全景 (北から)
- 2 28区15号住居炉確認状況 (北から)
- 3 28区15号住居炉石復元状況
- 4 28区19号住居炉全景 (東から)
- 5 28区19号住居埋甕出土状況 (南西から)
- P L 20 18区1号住居出土遺物
- P L 21 18区2号住居出土遺物
- 18区3号住居出土遺物
- P L 22 18区6号住居出土遺物 (1)
- P L 23 18区6号住居出土遺物 (2)
- P L 24 18区12号住居出土遺物
- 18区20号住居出土遺物
- 18区21号住居出土遺物
- P L 25 18区24号住居出土遺物 (1)
- P L 26 18区24号住居出土遺物 (2)
- P L 27 18区26号住居出土遺物 (1)
- P L 28 18区26号住居出土遺物 (2)
- 18区28号住居出土遺物
- P L 29 28区1号住居出土遺物
- 28区2号住居出土遺物 (1)
- P L 30 28区2号住居出土遺物 (2)
- 28区3号住居出土遺物 (1)
- P L 31 28区3号住居出土遺物 (2)
- P L 32 28区3号住居出土遺物 (3)
- P L 33 28区3号住居出土遺物 (4)
- 28区4号住居出土遺物
- P L 34 28区5号住居出土遺物 (1)
- P L 35 28区5号住居出土遺物 (2)
- 28区6号住居出土遺物
- P L 36 28区7号住居出土遺物 (1)
- P L 37 28区7号住居出土遺物 (2)
- P L 38 28区7号住居出土遺物 (3)
- P L 39 28区7号住居出土遺物 (4)
- 28区9号住居出土遺物
- P L 40 28区11号住居出土遺物
- 28区13号住居出土遺物

- P L 41 28区14号住居出土遺物 (1)
- P L 42 28区14号住居出土遺物 (2)
- 28区15号住居出土遺物
- 28区19号住居出土遺物 (1)
- P L 43 28区19号住居出土遺物 (2)

表目次

- 表1 周辺遺跡一覧表
- 表2 横壁中村遺跡遺構数集計表 (平成8年度~16年度)
- 表3 住居出土土器集計表

第1章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局（当時。現在は国土交通省関東地方建設局）と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会（当時）が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成6年3月18日に「ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を締結し、ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実実施計画が決定されたことによって開始されることとなった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会で、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、ハツ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とするハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業がスタートした。平成6年度から実施されている調査は、工事中進入路に関するものが主体となっている。これは、ハツ場ダム建設工事の大規模な工事を円滑に進めるため、機材や重機を搬入・搬出する進入路や仮設道路の整備が先行される状況にあったためである。

平成6年度に締結された協定によると、調査対象の遺跡は48遺跡であり、そのうち本遺跡の位置する長野原町横壁地区の遺跡は7遺跡であった。横壁地区でも工事中進入路を原因とする調査が先行され、平成6年度には協定対象遺跡である横壁勝沼遺跡の調査が実施された。

本遺跡も、平成6年度に締結された協定での対象遺跡であり、平成6・7年度に行われた横壁勝沼遺跡の調査が終了した後、平成8年度から調査が行わ

れることになった。工事中進入路部分の調査は平成11年度に終了し、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分の調査に着手した。詳しくは次節「調査の経過」に譲る。

なお、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年4月1日に「ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、平成11年4月以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。

また、協定書の対象遺跡で、横壁地区に位置する7遺跡のうち、上野Ⅳ遺跡と観音堂遺跡は、長野原町教委との協議の結果、本遺跡に統合されることとなった。

第2節 調査の経過

横壁中村遺跡の調査は平成8年度より行われた。平成8年度から11年度までは工事中進入路部分、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分を中心とした調査であるが、これら工事は一体のもので、調査は継続して行われてきた。各年度ごとの調査範囲は、図示したとおりであるが、年度をまたいで調査された範囲もあるので、図示した範囲は調査の終わった年度を表している。各年度ごとの調査の経過を調査日誌を元に抜粋する。

平成8年度 調査事務所の設置、調査区への進入路等の造成工事等を行ったため、本調査は7月1日開始となった。担当者は3名による1班での調査である。本年度は、中グリッドの18区、28区を中心とする調査である。進入路が狭く重機を導入できなかったため、人力による掘削を強いられ調査は困難であった。11月23日に現地説明会を開催し、見学者は157名であった。

平成9年度 前年度の継続である18・28区の調査とともに、その西側に当たる19・20・29・30区の表土掘削を実施し、調査に着手した。担当者は4名の配置であったが、7月から9月まで1名は久々戸遺跡

第1章 調査の方法と経過

の調査にまわっている。調査面積は約5,000㎡である。11月3・4日に当事業団主催の平成9年度出土文化財巡回展示会を八ツ場地区で実施にあたり、遺物・パネルを出展した。

平成10年度 平成8・9年度の継続調査である。担当者は年度当初4名の配置であったが、うち1名は林地区及び横壁西久保遺跡の調査を担当することになったため、実質3名による1班体制による調査となった。本年度の調査面積は約6,200㎡であった。

平成11年度 前年までの継続調査と20・30区で調査区を拡張した。担当者は5名、2班の体制であったがうち2名が長野原地区の調査を担当することになったため、10月末までは3名、1班での調査となった。4月29日に前年度に検出された大型敷石住居、環状柱穴列等を現地説明会で公開し、153名の見学者を集めた。さらに、本年度は調査区西側にあたる11区でも調査を行ったが、試掘の結果、遺構は確認できなかった。

また、平成11年8月13日からの豪雨により横壁地区が被災したため、8月22日まで調査を休止した。本年度で工食用進入路部分の調査はすべて終了した。調査面積は約6,200㎡である。

平成12年度 工食用進入路の調査が終了したため、この南側の代替地護岸工事部分の調査を担当者7名による2班体制で開始する予定であったが、1班は林地区の調査に対応することとなり、残る1班も横壁西久保遺跡との掛け持ちとなったため、調査対象面積は当初予定よりも大幅に減少した。本年度の調査は20区の調査が中心となり、一部18区の試掘調査を行った。また、本年度は調査区南側にあるゲートボール場の東側にパンザマスト（気象用観測マスト）設置に伴って42㎡も併せて調査を行い、縄文時代後期の住居、中世の土坑を検出している。本年度の調査面積は約1,800㎡であった。

平成13年度 発掘作業員の雇用システム変更に手間取り、調査開始が6月4日となった。本年度の調査対象地は遺跡の中央を流れる山根沢の両側にあたり、18・19・20区にあたる。工事が予定されている

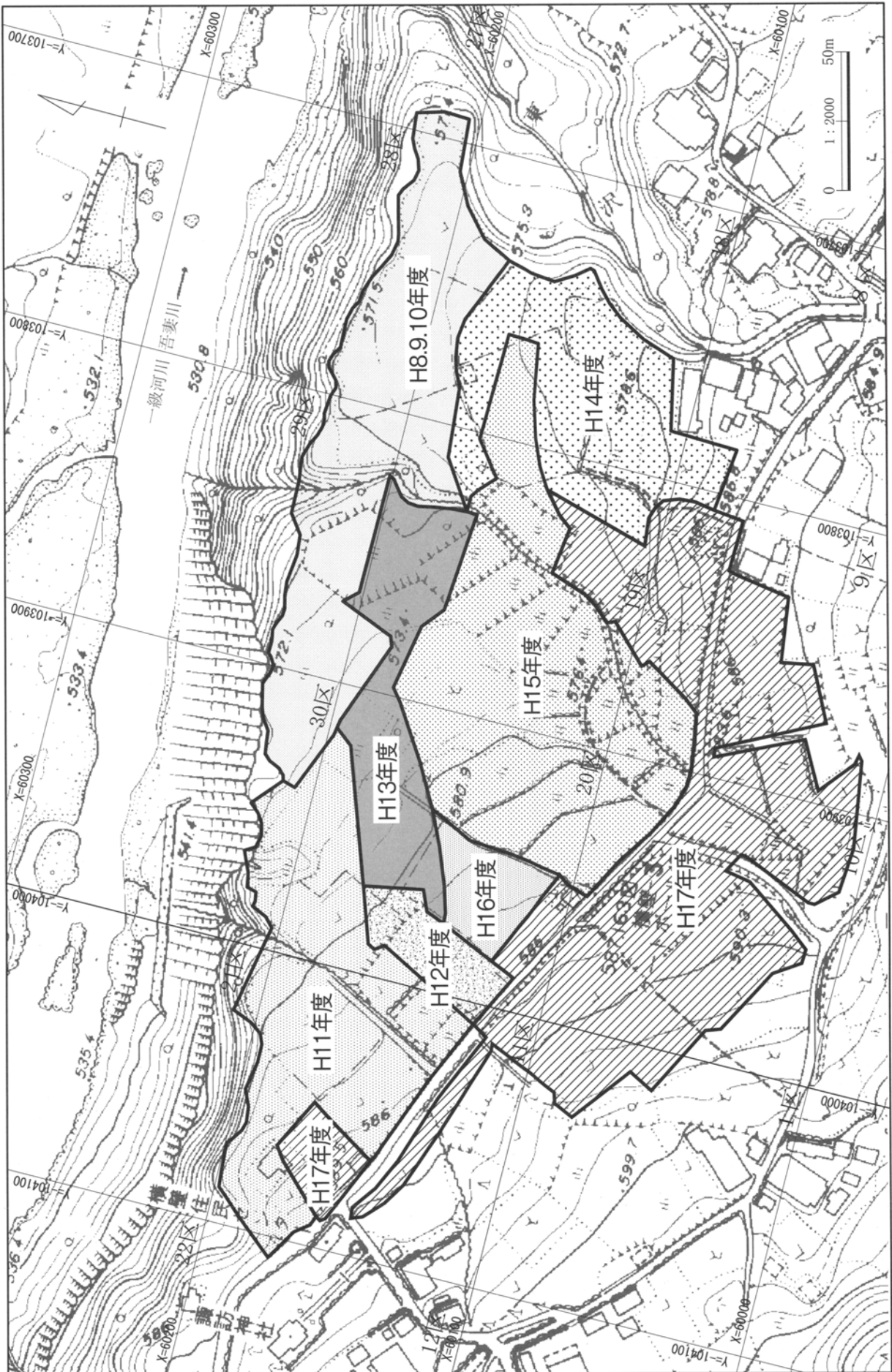
山根沢の西側地区は、工事工程にあわせて調査が終了した地区を順次、工事側に引き渡しながら進められた。11月に国土交通省より希少猛禽類の保護のため対策を講じてほしいとの要請があり、12月1日から調査体制を縮小したため調査の一部は次年度に継続となり、調査面積は年度当初予定の6,100㎡から5,200㎡となった。

平成14年度 本年度より八ツ場ダム調査事務所が開所し、八ツ場地区の調査を管轄することになった。担当者は7名の2班体制での調査となり、前年度からの継続である18区を中心に行った。本年度は6月から8月にかけて担当者2名が西ノ上遺跡へ、10月からは担当者4名が上郷岡原遺跡へ異動している。また、前年度と同様に11月下旬からは希少猛禽類保護のため調査体制を縮小しての調査となった。調査面積は5,400㎡であった。

平成15年度 前年度の継続調査の18区と9・10・19・20区の調査を行った。担当者は年度当初6名の配置であったが、4～6月は担当者2名が久々戸遺跡の調査を行い、7月からは1名が整理事業に異動となった。また11月からは1名が増員となった。調査は前年度からの継続となった埋没河道の調査から開始して、その後19・20区の調査を行った。本年度は平成12・13年度の調査区まで終了する予定であったが、用地買収が遅れ、次年度に継続となった。本年度の調査面積は約8,000㎡であった。

平成16年度 前年度に調査未了となった20区の調査を行った。担当者2名による1班体制である。本年度で代替地護岸工事部分の調査は終了の予定であったが、調査区南側の道路沿いの一部が用地買収と墓地移転の遅れにより調査が未了となり、次年度以降に継続となった。本年度の調査面積は約1,400㎡であった。

平成17年度 国道145号線部分の調査を、担当者5名による2班体制で行った。調査区は、9・10区である。調査面積は14,000㎡であった。本年度で平成8年度より続いた横壁中村遺跡の調査は一旦終了となる。



第1図 年度別調査区全体図

第3節 調査の方法

(1) 調査の手順

調査は初めはバックフォアによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構調査へと進んでいった。遺跡地の現況は畑、水田、道路であった。

出土遺物は遺構から出土したものは、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したものについては番号を付し、標高を測定して取り上げた。遺構外から出土した遺物については後述するグリッド単位で取り上げた。さらに出土位置を記録したものは遺構出土のものと同様に取り上げた。遺構測量は作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがある。縮尺については住居・土坑・配石等は1/20、炉・埋甕・埋設土器等は1/10、その他の遺構も1/20を原則としたが、溝・列石等規模の大きい遺構については1/40、全体図は1/100、1/200で作成した。また、列石の一部においては、バルーン撮影による空中写真測量も委託して実施した。

遺構の個別写真は、主に35mmモノクローム及びリバーサル、6×7判モノクロームで撮影し、一部6×7判リバーサルも状況に応じて使用している。

(2) 遺跡の名称

本遺跡は、吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂に位置する。発掘調査時の遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団で行っている遺跡命名の慣例に従うと遺跡所在地の大字名+小字名となり、「横壁観音堂遺跡」となるべきであるが、国土地理院1/25000地形図「長野原」によると遺跡地には「中村」という小字名が記されているため、平成8年度の発掘調査開始時に「横壁中村遺跡」と命名した。しかし、この「中村」という小字名は行政的には用いられおらず、正確には前述の通り「観音堂」である。また、「長野原町の遺跡－町内遺跡詳細分布調査報告書－」（長野原町教委 1990）によると本遺跡は「観音堂遺跡」「上野IV遺跡」の範囲に入っている。さらに群馬県遺跡台帳には「横壁中村遺跡」が記載されているが、記述によるとこれは本遺跡の南西に

あたり、位置がやや異なる。このように、本遺跡の遺跡名に関しては若干混乱があるが、長野原町教育委員会との協議により、「横壁中村遺跡」が本遺跡の正式名称として決定されている。

(3) 調査区の設定

調査区の設定に関しては「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集『長野原一本松遺跡(1)』」に詳しいので、詳細はそちらを参照していただきたい。

本遺跡の調査区は、地区(大グリッド)と呼称する、発掘調査対象地全域に設定した1kmグリッドでは「27地区」、その地区を1辺100mの正方形で100分割した「区」(中グリッド)では「9・10・17・18・19・20・27・28・29・30区」に相当している。本遺跡の遺構名称は、区ごとに連続する番号を付し、区をまたぐ遺構の場合は遺構の主体と考えられる区の番号を付している。

第2章 遺跡の環境

八ツ場地区の遺跡の立地する環境については、既刊の(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第287集「『長野原一本松遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集」(諸田 2002)および同第303集「『八ツ場ダム発掘調査集』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集」(松原 2003)に詳細に記述されているのでそちらを参照していただきたい。ここでは、横壁中村遺跡の立地する地理的環境および今回報告する縄文時代に関する歴史的環境について概観するととどめたい。

第1節 地理的環境

横壁中村遺跡の位置する長野原町は群馬県の北西部に位置し、草津町、嬭恋村、六合村、東吾妻町と接するとともに、長野県とも県境をなしている。本遺跡はこの長野原町の北東に位置し、吾妻川の右岸の崖上に立地する。吾妻川は長野県境の鳥居峠付近に源を発し、東流して渋川市付近で利根川と合流する全長76.2kmの1級河川である。本遺跡はこの合流点から約43km遡った地点である。また、本遺跡から約6km下流には「関東の耶馬溪」の異名を取る国指定名勝である吾妻溪谷がある。

横壁中村遺跡の標高は約570mを測る。吾妻川との比高差は40mほどであり、急峻な崖により隔てられている。調査区は、西は深沢、東に東沢という2本の沢によって形成された扇状地形上に立地する。吾妻川に向かって北東に緩く傾斜しており、調査区内での比高差は約15mである。調査区のほぼ中央を山根沢が北流しており、小さな谷を形成している。南側には山が迫っており、調査区内にはこの山から押し出されたと思われる夥しい数の礫が存在し、縄文時代の遺構面はこの礫に覆われている。

本遺跡の環境を語る上で欠かせないのが丸岩の存在である。調査区の南南西約1.5kmに位置する標高1,124mをはかる岩峰で、南側を除いた3方が100m

にも達する垂直の崖に囲まれ、本遺跡から望むと巨大な円柱状にも見える特徴的な山容を呈している。この崖面には柱状節理による割れ目が顕著に現れており、山の形状と併せ見た独特の景観は、この遺跡に暮らした人々がランドマークとして仰ぎ見たであろうことを推測するに足る奇峰と言えよう。

また、浅間山も長野原町の自然を語る上で重要である。本遺跡の中心となる縄文時代中期から後期にかけては大きな活動はないと考えられているが、本遺跡の立地する吾妻川の段丘面は、浅間山の約2万年前の噴火によって発生した応桑泥流によって形成されたと考えられている。また、今後の報告になるが、本遺跡で検出された平安時代の住居の埋土の中には浅間山起源と思われる火山灰の堆積が認められるものも存在している。

第2節 歴史的環境

横壁中村遺跡のある長野原町は明治22年の町村制実施の際に、川原畑、川原湯、横壁、林、長野原、大津、羽根尾、古森、与喜屋、応桑の旧十ヶ村を合併して成立した。町内での遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を嚆矢とし、昭和38、47、48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石畑岩陰遺跡が発掘調査された。昭和62年からは八ツ場ダム建設に先行して、町教委による埋蔵文化財詳細分布調査が実施され、183の遺跡が確認された。(調査が進み、平成17年3月現在では214遺跡に増加している。)これ以降、町教委による発掘調査が行われている。さらに平成6年からは八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業が当事業団によって進められている。これらの調査をもとに横壁中村遺跡の歴史的環境を概観してみる。

旧石器時代 現在までの調査では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述したように応桑泥流堆積物や浅間-草津黄色軽石(As-YPk)によって厚く覆われており、この下位を調査することは掘削方法や安全上の問題などから難しいのが現状である。従って山間部の遺跡などでこれらの堆積

第2章 遺跡の環境

物の下位の調査が可能になれば、当該期の遺跡が確認される可能性は否定できない。

縄文時代 長野原町による埋蔵文化財詳細分布調査によれば現在までに214の遺跡が確認されており、このうち、約半数の105遺跡で縄文時代の遺構、遺物の存在が確認されている。

まず、草創期の遺跡としては石畑Ⅰ岩陰遺跡(24)があげられる。奥行4m、幅40mをはかるかなり大規模な岩陰遺跡であり、草創期から前期、そして晩期にわたる遺物、獣骨が出土している。旧石器の遺跡は確認されていないが、縄文時代草創期には長野原町域に人間が生活していたことを証明する遺跡である。早期では、楡木Ⅱ遺跡(20)で多くの擦糸文系土器、表裏縄文土器、スタンプ形石器とともに、竪穴住居が31軒検出されている。この住居の中には石囲炉を持つものがあるとともに、重複関係を示すものもあることから、同時期の集落における定住性について新たな視点を与えるものと思われる。また、立馬Ⅰ遺跡(18)でも擦糸文期の住居と田戸下層式期の住居が検出されている。この立馬Ⅰ遺跡では早期から晩期までのほぼ全ての時期の遺物が出土している。山間の狭隘な谷に位置するこの遺跡からこのように長い時期にわたって遺物が出土していることはこの地域の縄文時代の環境を復元する上で興味深い事実である。さらに同時期の遺物は坪井遺跡(9)、長野原一本松遺跡(5)、幸神遺跡(6)でも出土が確認されている。

前期の遺跡は、坪井遺跡で花積下層式期の住居と土坑が検出されているほか、長野県域を主体とする塚田式、北陸地方の極楽寺式と関連すると思われる遺物が出土している。また、暮坪遺跡(12)では二ツ木式期の住居が検出されている。さらに長畝Ⅱ遺跡(13)では黒浜式期の住居が検出されている。本遺跡でも関山式、あるいは黒浜式期と思われる遺物が出土しているが、量は少なく、遺構も確認されていない。前期後半では、楡木Ⅱ遺跡で諸磯式期の住居が、川原湯勝沼遺跡(23)で同時期の土坑が検出されており、本遺跡でも同時期の土坑が確認されて

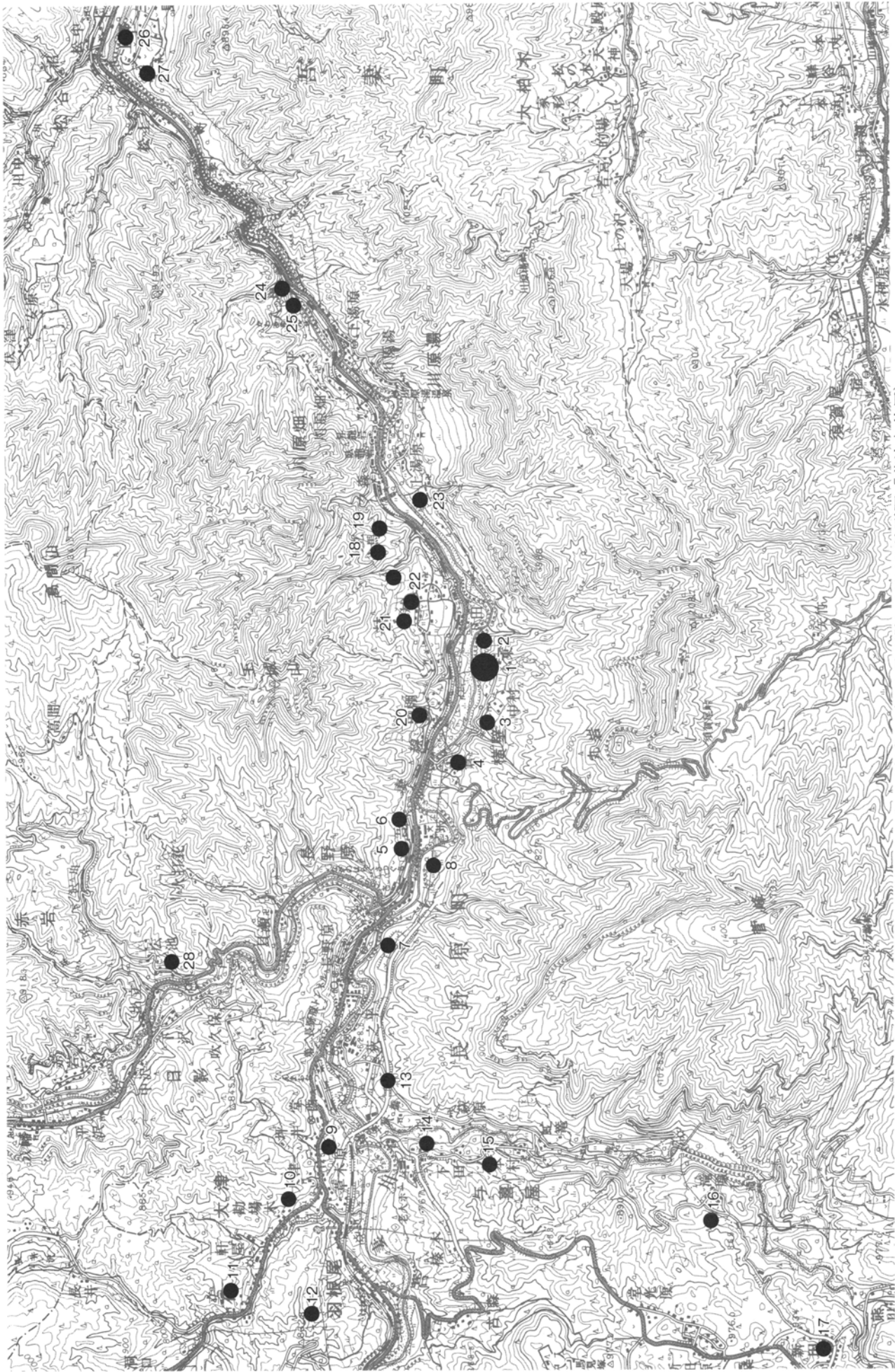
いる。

中期になると遺跡数、遺構量とも大幅に増加する。本遺跡ではこれまでのところ、最も古い勝坂式期の住居から中期末までで200軒以上の住居が確認されている。長野原一本松遺跡でも本遺跡と同様に大集落が形成されている。ただ、その始まりは本遺跡よりも若干時期が下り、中期後半の加曾利E式期になってからと思われる。この時期の特徴としては他地域との密接な交流がうかがえる点である。本遺跡の出土遺物でも、関東系の土器とともに中部高地系、特に長野県東部との関連が強く感じられる土器が多く、さらに新潟県方面から持ち込まれたと思われる土器も少なくない。これは長野原一本松遺跡でも新潟県方面から伝播したと思われる大木系の土器が出土していることや、坪井遺跡でも新潟県域で主体的な「桁倉類型」などの資料が出土していることから確認できよう。

後期になると長野原一本松遺跡の集落はやや縮小の傾向にあるが、本遺跡は加曾利B式期まで継続する。この時期の住居では、柄鏡形敷石住居の検出例が多く、本遺跡や長野原一本松遺跡の他、櫛Ⅱ遺跡(11)、向原遺跡(7)、滝原Ⅲ遺跡(16)、古屋敷遺跡(17)、上原Ⅳ遺跡(21)、林中原Ⅰ遺跡(22)、上郷岡原遺跡(26)などで確認されている。

晩期になると遺跡数は減少する傾向にあり、前述した石畑Ⅰ岩陰遺跡以外ではほとんど確認されていなかったが、最近の調査により、検出例が増加している。本遺跡でも遺物は出土していたが、平成15年度の調査で晩期終末期から弥生時代初頭と思われる埋設土器、土坑が確認された。また川原湯勝沼遺跡では、氷Ⅱ式土器による再葬墓と思われる土坑が検出された。久々戸遺跡(8)では氷式土器の鉢形土器、立馬Ⅰ遺跡でも長野県北部を主体とする女鳥羽川式土器の浅鉢が出土している。

弥生時代になると、本遺跡では中期の遺物が少量出土しているほかは、立馬Ⅰ遺跡で前期から中期の住居と中期の甕棺墓が検出されている程度で、極めて希薄な状況を呈している。



第2図 遺跡位置及び周辺遺跡図 (国土地理院 1/50,000 地形図「草津」使用)

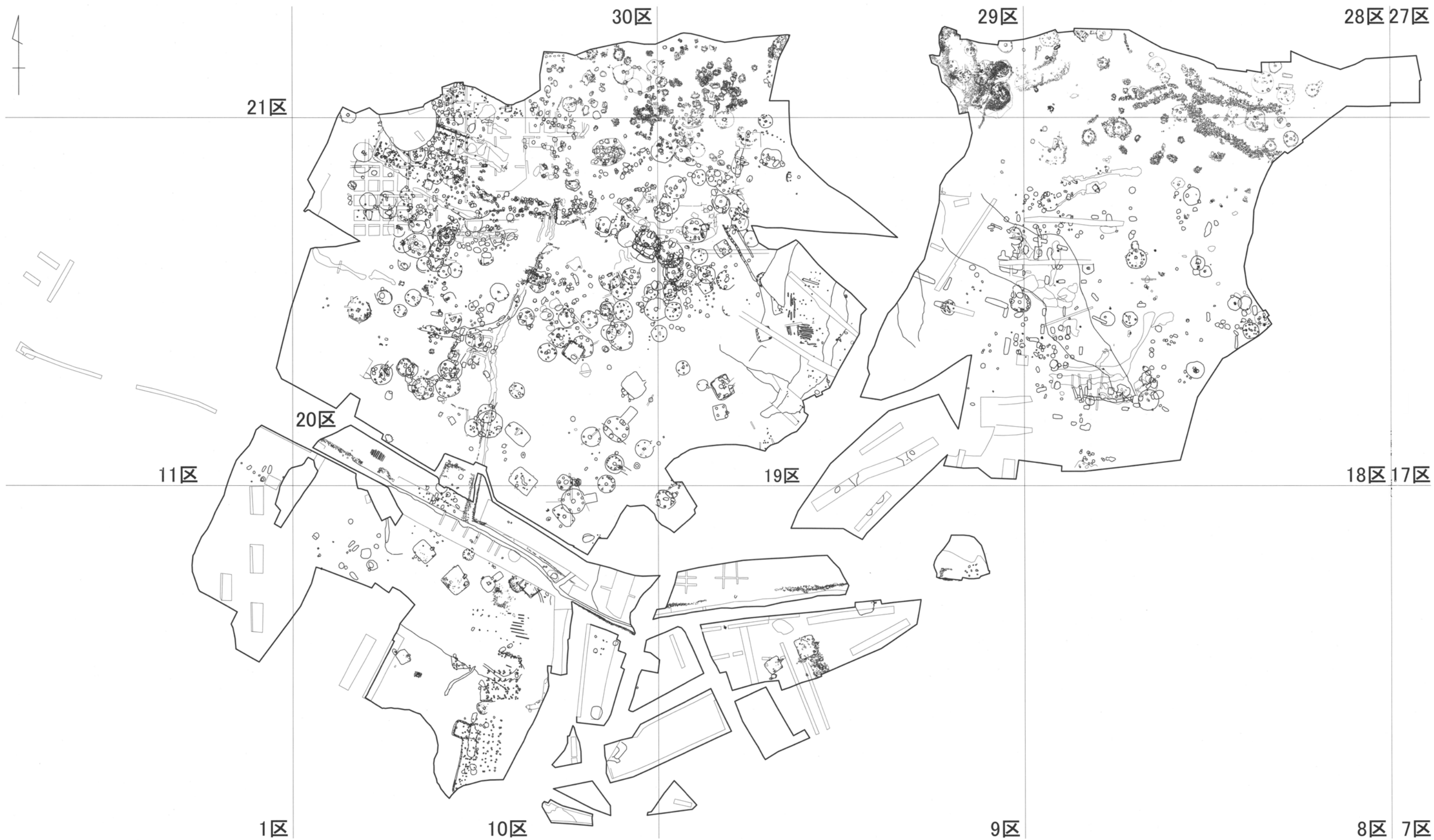
第2章 遺跡の環境

表1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の内容	文献
1	横壁中村	長野原町横壁	本遺跡	
2	横壁勝沼	長野原町横壁	中期から後期の土器片、槍先形尖頭器が出土。事業団平成6・7年度調査。	1
3	山根Ⅲ	長野原町横壁	中期後半の住居、土坑。事業団平成10・13年度調査。	2
4	西久保Ⅰ	長野原町横壁	中期末葉の敷石住居、土坑。中期の水場遺構。事業団平成6・10・12年度調査。	1
5	長野原一本松	長野原町長野原	縄文時代中期後半から後期初頭にかけたの拠点集落。事業団平成6年度～調査中。	3
6	幸神	長野原町長野原	中期中葉から後半の住居。事業団平成8・9年度調査。	4
7	向原	長野原町長野原	中期後半から後期にかけての集落。敷石住居2軒。町教委平成5年度調査。	5
8	久々戸	長野原町長野原	晩期終末期（氷式期）の鉢形土器が出土。事業団平成15年度調査。	6
9	坪井	長野原町大津	前期前半、中期後半、中期末の住居。敷石住居3軒。町教委平成3・10年度調査。	7・8
10	勘場木石器時代住居	長野原町大津	中期後半の住居。昭和29年調査。	9
11	櫛Ⅱ	長野原町大津	後期前半の敷石住居4軒。町教委昭和63年度調査。	10
12	暮坪	長野原町羽根尾	前期前半の住居。町教委平成12年度調査。	11
13	長畝Ⅱ	長野原町与喜屋	前期前半、中期後半の住居。町教委平成2年度調査。	7
14	外輪原Ⅰ	長野原町与喜屋	前期後半の土器出土。町教委平成7年度試掘調査。	12
15	上ノ平	長野原町与喜屋	中期・後期の土器、石器類出土。	12
16	滝原Ⅲ	長野原町応桑	中期後半の住居、中期末の敷石住居。町教委平成8年度調査。	13
17	古屋敷	長野原町応桑	後期前半の敷石住居。昭和34年発見。	12
18	立馬Ⅰ	長野原町林	早期初頭・晩期の住居。早期から晩期にかけての土器。事業団平成13・14年度調査。	2・14
19	立馬Ⅱ	長野原町林	中期初頭から中期後半の住居。中期中葉の土器。事業団平成14年度調査。	14
20	楡木Ⅱ	長野原町林	早期初頭の集落。前期前半、前期後半、中期初頭の住居。事業団平成12・13年度調査。	15・2
21	上原Ⅳ	長野原町林	後期前半の敷石住居。晩期後半の土器。事業団平成15年度調査。	16
22	林中原Ⅰ	長野原町林	後期前半の敷石住居。町教委平成15年度調査。	17
23	川原湯勝沼	長野原町川原湯	前期後半の土坑。晩期終末期の再葬墓。事業団平成9・16年度調査。	1・18
24	石畑Ⅰ岩陰	長野原町川原湯	草創期から晩期の遺物と獣骨が出土。県教委昭和53年度調査。	9
25	石畑	長野原町川原畑	前期後半の土坑。事業団平成9・10年度調査。	1
26	上郷岡原	吾妻町三島	中期後半の住居。後期前半の敷石住居。事業団平成14年度調査。	14
27	上郷A	吾妻町三島	縄文時代のものと思われる陥穴。押形文土器片出土。事業団平成15年度調査。	6
28	広池	六合村赤岩	中期後半の住居。群馬大学昭和44年度調査。	19

参考文献

1. 「[ハツ場ダム発掘調査集成] ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集」 群埋文 2003
2. 年報21 群埋文 2002
3. 「[長野原一本松遺跡] ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集」 群埋文 2002
4. 年報17 群埋文 1998
5. 「向原遺跡」 長野原町教育委員会 1996
6. 「[久々戸遺跡(2)・櫛Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡] ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集」 群埋文 2005
7. 「長畝Ⅱ遺跡・坪井遺跡」 長野原町教育委員会 1992
8. 「坪井遺跡Ⅱ」 長野原町教育委員会 2000
9. 「群馬県史 資料編」1 群馬県史編纂委員会 1988
10. 「櫛Ⅱ遺跡」 長野原町教育委員会 1990
11. 「暮坪遺跡」 長野原町教育委員会 2001
12. 「長野原町誌」上巻 長野原町 1976
13. 「滝原Ⅲ遺跡」 長野原町教育委員会 1997
14. 年報22 群埋文 2003
15. 年報20 群埋文 2004
16. 年報23 群埋文 2005
17. 「町内遺跡Ⅳ」 長野原町教育委員会 2004
18. 「[川原湯勝沼遺跡] ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集」 群埋文 2005
19. 「六合村誌」 六合村 1973



第3図 横壁中村遺跡全体図

0 40m

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

横壁中村遺跡は、縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落遺跡で、平成16年までの調査で竪穴住居230軒以上が確認されており、県内でも有数の大規模集落であることが判明しつつある。

遺跡は、その中央を流下する通称「山根沢」の両側に展開しており、東側は「丸岩」の足下から流れる「東沢」までを範囲としている。北側及び西側の範囲は今後の調査に負うところとなるが、冬には午後3時で日が山に入る北向きの台地に、これほどの大規模集落が維持されたのは、間近にこれらの沢があったからであろう。

この地で人々の生活が始まるのは縄文時代早期からで、19区の山根沢沿いで擦糸文土器が少量出土している。前期では、初頭の花積下層式から諸磯c式までの土器が断続的に出土しているが、この時期の住居はまだ確認されていない。中期では、五領ヶ台式から勝坂式にかけての土器がかなり広範囲で出土しており、土坑はいくつか確認されているが、この時期も住居は未確認である。中期後半は集落が最大規模となり、その後も集落はやや規模を縮小しながら継続し、列石遺構や配石遺構、掘立柱建物等が伴う集落が後期前半まで認められる。後期後半になる

と、山根沢の西側に配石墓群が形成される。この時期の集落の構成はまだはっきりしない。後期後半以後の様子を示す材料はまだ少ないが、晩期終末期の遺物は多量に出土しており、本地域の主要遺跡の一つとあって良いだろう。

弥生時代中期前半期の遺物も比較的多く出土しているが、県内で稲作農耕が始まる中期後半期になると、活動の痕跡は途絶えてしまう。この状況は本遺跡に限らず、西吾妻地域全体に認められる傾向であり、詳細は別稿に譲りたい。その後、本地域に集落が戻るのは約千年後の9世紀代からで、本遺跡でも平安時代の住居が数軒確認されている。

中世になると、本地域には海野一族が支配する「三原荘」が成立し、戦国時代にはその一系でもある真田氏が、甲斐武田氏の指示で本地域を掌握するようになる。本遺跡の南西には柳沢城と丸岩城があり、遺跡内では20区を中心に鍛冶場を伴う中世の館が確認されている。また、その他に中世～江戸期の墓や、天明3年の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した島も検出されている。

以上が本遺跡の概要であるが、遺跡の内容は多岐にわたるため、今回は平成14年度までに発掘調査された縄文時代の住居のうち、18・28区で確認された中期段階の住居24軒を対象とした報告であり、資料編的な内容と捉えて頂きたい。

表2 横壁中村遺跡遺構数集計表（平成8年度～16年度）

	9区	10区	18区	19区	20区	28区	29区	30区	合計
竪穴住居	1	3	27	52	104	19	18	13	237
土坑	2	11	258	325	541	15	22	19	1193
掘立柱建物			3	2	9		1		15
埋設土器		2	23	9	24	6	1	2	67
配石遺構			42	17	28	17	53	15	172
列石遺構			7	4	5	12	4		32
集石遺構			1		4				5
柱穴列				1			1	1	3
埋没河道			1	5					6

第2節 基本土層 (第4図)

本遺跡が乗る段丘面は、岩盤の上に吾妻川が運んだ段丘礫層を基盤としており、その上に南側の岩塊を核とする山地からの崩落土と礫が繰り返し堆積して形成された、北向きの緩傾斜地に遺跡は立地している。台地上の基本土層は、図に示したⅠ～Ⅹ層まで確認しているが、この10層が1箇所ですべて揃う断

面は今のところ認められない。また、各土層の層厚は地区によって異なっているため、敢えて記入していない。

今回の報告対象となる縄文時代中期の遺構は、土層としてはⅥ層に該当するが、第1章本文中で「地山の黄色砂質土」と呼んでいるのは、Ⅷ層に該当する。

Ⅰ	Ⅰ層 表土 (耕作土)
Ⅱ a	Ⅱ a層 浅間 A 泥流
Ⅱ b	Ⅱ b層 浅間 A 軽石
Ⅱ c	Ⅱ c層 浅間 A 軽石下畠の耕作土
Ⅲ	Ⅲ層 淡褐色土 軟質で炭化物を含む。中世に比定される土壌で、20区1号館付近では炭化物を多量に含み、黒土化していた。
Ⅳ	Ⅳ層 灰黒褐色土 やや軟質で均質。古代に比定される土壌であるが、本遺跡では大半が混土化されて、層としてはほとんど残っていない。
Ⅴ	Ⅴ層 黄褐色土 やや軟質。縄文時代後期後半頃の土壌で、加曾利 B 式期の遺構と関連する。今のところ、山根沢周囲に認められることから、Ⅷ層ないしはローム層の2次堆積の可能性が高い。
Ⅵ	Ⅵ層 灰褐色土 締まりのある土壌で、黄色軽石や白色粒子を多く含む。縄文時代に比定される土壌で、中期から後期前半の遺構・遺物はこの土層中に含まれる。なお、下半部を中心に多量の礫 (山石) を含む。
Ⅶ	Ⅶ層 西側縁辺に特有な土壌で、層位はⅧ層と同じであり、沢沿いに流れたものかもしれない。この土層の上層部には縄文時代前期前半の土器が包含され、この土層で埋没した土坑も確認されている。
Ⅷ	Ⅷ層 黄褐色粘質土 崩落したローム層の2次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの土層の高まりの上に立地していると考ええる。供給源は山根集落南側の沢上流部、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。
Ⅸ	Ⅸ層 黒褐色粘質土 硬質で粘性が強く、黄色軽石と白色粒子を多量に含む。
Ⅹ	Ⅹ層 黄色砂礫層 吾妻川が運んだ段丘砂礫層で、本遺跡北側の崖面では15 m以上の堆積が確認できる。この下層は基盤の岩塊となる。

第4図 横壁中村遺跡基本土層

第3節 竪穴住居

先述のとおり、ここでは18、28区で確認された縄文時代中期の住居24軒を対象に報告する。報告は、発掘調査時に認定した遺構名を使用しているため、調査時あるいはその後の検討で欠番になったものも多く、また今回は中期以外の住居は扱わないため、遺構番号がとんでいる。

本遺跡での住居の認定は、基本的には炉の確認をもって決定した。幸い本遺跡では後期に至るまで石囲い炉が主流であったが、炉内に焼土が残っていない住居が多く、また地山のなかにも組んだような状態の礫がかなり認められるため、炉石は水洗いし、変色・劣化・剥落・亀裂・煤付着等の被熱痕跡を確認した上で決定した。そのため、たとえ完形に近い土器等が出土しても、炉が確認できない場合はグリッド扱いにした。

また、本遺跡では地山の黒褐色土を切り込んで住居が構築されており、地山と住居覆土の見分けは困難であった。そのため、大半の住居は覆土上層がグリッド扱いになっており、整理作業で接合したものはその住居に帰属させた。

以下、住居毎に報告する。

18区1号住居

調査年度 平成10年度

位置 18区G-24グリッド

重複 なし。

形状 長軸4.2m、短軸4.0mのほぼ円形を呈する。南東の壁に礫が集中しているが、地山内の礫が露出しているものと思われる。

壁高 西壁で40cmを測る。

埋没土 暗褐色土を主体とする。自然に埋没したと思われる。

床面 床面はほぼ平坦で、顕著な硬化面は確認できなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 4基が検出されている。そのうち、柱穴3、4はやや浅く、柱穴に相当するかは不明である。柱

穴1には根固め状の配石を掘り方で確認した。ただし、この配石の掘り方は確認されていないため、写真から判断すると、地山の礫が配石状に見える可能性が高い。

炉 住居ほぼ中央に位置する。大形の扁平な礫4石を用いた石囲炉で、長軸75cm、短軸60cmの長方形を呈する。使用面までは住居床面から20cmを測る。炉石はほぼ原位置を保っていると思われ、被熱による亀裂、変色を生じている。炉内南西隅に埋甕が設置される。口径20cmの深鉢であるが、この深鉢は所在が不明になっているため明らかになり次第報告する。

遺物 出土状況は比較的散漫で、図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片38点が出土している。

時期 出土遺物の様相から、加曾利E3式期の住居であると考えられる。

18区2号住居

調査年度 平成10年度

位置 18区H-25グリッド

重複 18区2号土坑。本住居が古い。

形状 明瞭な壁が検出されなかったため、全体の形状は明らかでないが、直径4m程度の円形を推定する。

壁高 壁は検出されなかったが、断面図によると東壁で25cmほどの掘り込みが記録されている。

埋没土 暗褐色土を主体とする。自然に埋没したものである。

床面 南から北に向かう斜面に立地するため、確認された床面も北に向かってやや傾斜している。床面の1/4程度を18区2号土坑によって失っているが、残存した範囲では特に硬化した面は確認できなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 住居ほぼ中央に位置するものと思われる。北側の2辺を18区2号土坑によって失うが、扁平な礫を

第3章 発見された遺構と遺物

用いた石囲炉で1辺50cmの方形を呈するものと思われる。住居床面から使用面までは20cmを測る。使用面で固く焼き締まった焼土が確認された。埋没土には炭化物を少量含む。炉石に亀裂や剥離は確認できなかったが、南東の炉石には煤の付着が確認されている。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片19点が出土している。

時期 時期を決定する材料に乏しいが、加曾利E3式期の住居であると考えられる。

18区3号住居

調査年度 平成10年度

位置 18区I-24グリッド

重複 なし。

形状 直径3mの円形の主体部に、1.8m×1.2mの長方形の小張り出しが付く。全体として柄鏡形を呈するが、主体部に敷石を施していた痕跡は認められない。本住居は後述するように、加曾利E3式期新段階の住居であると考えられるので、柄鏡形敷石住居であっても時期的な齟齬はないが、この張り出し部からは石棒が出土していることから、祭壇状の施設としての性格も推定される。また、本住居の壁では、壁に立てかけられたような状態で礫が検出されている。掘り方の調査をおこなっていないため、この礫が壁に立てかけて据えたものなのか、住居構築時の地山の礫を壁として利用したものかは不明である。

壁高 東壁で46cmを測る。

埋没土 調査所見によると、暗褐色土を主体とし、自然埋没と思われる。

床面 東西断面には貼り床状の層が記録されている。炉とのレベルから見て、埋没土の一部とは考えにくいので貼り床の存在が推定される。ただし、この層はあまり強く締まらず、他の部分でも特に硬化した面は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 主体部ほぼ中央に位置する。板状の礫3石と扁平な礫1石を用いた石囲炉で1辺60cmの方形を呈する。住居床面から使用面までの深さは28cmを測る。使用面近くの埋没土中からは焼土が確認されている。炉石はほぼ原位置を保っていると思われ、被熱による亀裂を生じている。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片32点と剥片3点が出土している。

時期 出土遺物の様相から、加曾利E3式期新段階の住居であると考えられる。

18区6号住居

調査年度 平成10年度

位置 18区U-24グリッド

重複 なし。

形状 長軸3.7m、短軸3.4mの楕円形を呈する。

本住居が立地する地点は、地山中に夥しい礫が含まれており、記録写真から判断すると本住居はその礫を取り除いて構築されているものと思われる。

埋没土 暗褐色土を主体とする。自然に埋没したものである。

床面 前述したように本住居は地山中の礫を取り除いて構築していると考えられるため、礫を取り除いた後の床面を整地していると思われるが、その痕跡は確認されていない。顕著な硬化面も確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 炉北東に1基が検出されている。

炉 住居ほぼ中央に位置する。南東の1辺を欠くが、扁平な礫を用いた石囲炉である。形状は長軸66cm、短軸48cmの長方形を呈する。南東の炉石は抜き取られたものと思われるが、3辺の炉石は原位置を保っていると思われる。炉石は被熱による亀裂を生じているとともに煤の付着が確認されている。中央やや南西寄りに埋甕が設置されている。胴上位を欠く小形の深鉢を正位に埋設する。

遺物 1の深鉢は南東部の床面でつぶれたような状態で出土している。それ以外の遺物は散漫な出土状

況であった。図示した遺物の他は曾利Ⅱ式併行の在地系土器を中心とする土器95点と打斧片1点を含む石器類2点が出土している。

時期 出土遺物の様相から加曾利E2式期の住居であると考えられる。

18区12号住居

調査年度 平成13年度

位置 18区N-16グリッド

重複 18区13号住居。本住居が古い。

形状 明瞭な壁が検出されなかったため、全体の形状は不明であるが、直径4m程度の円形を推定しておく。

壁高 本住居は壁が検出されなかった。

埋没土 確認できなかった。

床面 本住居の床面は写真からも明らかなように多く礫が散在している。これらの礫は人為的に敷かれたり、投棄されたものではなく、地山の礫であった。このように多くの礫が床面にある状態で住居を営むことは難しいと思われるので、本住居は屋外炉としての性格も推定されるが、今回は住居として報告しておく。

周溝 検出されなかった。

柱穴 2基が検出されている。いずれも支柱穴に相当するものと思われる。

炉 住居ほぼ中央に位置するものと思われる。扁平な礫3石と楕円礫を用いた石囲炉で、1辺55cmの正方形を呈する。炉石はほぼ原位置を保っていると思われるが、被熱による亀裂、剥離を生じており、特に北側の1石は著しい剥離を生じている。使用面で焼土は確認できなかったが、埋没土中には炭化物を少量含んでいる。

埋甕 炉の南、60cmの地点で検出された。底部を打ち欠いた深鉢を逆位に埋設する。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片52点と石器類7点が出土している。

時期 埋甕の様相から、加曾利E3式新段階の住居であると考えられる。

18区20号住居

調査年度 平成14年度

調査の経過 遺構確認作業中に本住居の炉が検出された。周辺を精査したが住居本体のプランを確認することができなかったため、炉のみの調査となった。

位置 18区P-10グリッド

重複 なし。

形状 住居の形状は不明である。

炉 扁平な礫を用いた石囲炉で、やや台形状を呈するが、これは西辺の炉石が被熱による亀裂のため剥落したことによるものと思われる。本来は1辺が60cmの正方形を呈するものと思われる。住居床面から使用面までの深さは20cmを測る。北と東辺の炉石はその一部を抜き取られているが、他は原位置を保っていると思われる。炉石は被熱による亀裂を生じており、使用面では焼土が確認されている。

遺物 図示した遺物の他加曾利E3式土器を中心とする土器片19点と石器類2点が出土している。5の深鉢は炉内からの出土である。

時期 出土遺物の様相から加曾利E3式期の住居であると考えられる。

18区21号住居

調査年度 平成14年度

調査の経過 遺構確認作業中に本住居の炉が検出された。周辺を精査したが住居本体のプランを確認することができなかったため、炉のみの調査となった。

位置 18区R-11グリッド

重複 なし。

形状 住居としての形状は不明である。

炉 上部が削平を受けているため、炉の上部の構造はすべて失われているものと思われる。炉内埋甕の東側に並ぶ礫が存在しているが、これが炉石の残骸とは考えにくい。使用面で焼土が確認されているため、埋甕の設置された埋甕炉であると思われる。長軸63cm、短軸51cmの楕円形の掘り方が確認されている。

第3章 発見された遺構と遺物

遺物 炉内埋甕は1の深鉢である。本遺跡の類例から判断すると、底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設し、その上位を削平によって失っているものと思われる。図示した遺物の他は加曾利E3式土器を中心とする土器片6点と磨斧片1点が出土している。

時期 炉内埋甕の様相から、加曾利E3式期の住居であると考えられる。

18区24号住居

調査年度 平成14年度

位置 18区J-11グリッド

重複 229号、230号、232号、234号、237号土坑。いずれも本住居の床下より検出されているため、本住居よりも古いと思われる。

形状 明瞭な壁が検出されなかったため、全体の形状は不明だが、直径4.4mのやや不整の円形を呈するものと思われる。

壁高 壁は検出できなかった。

埋没土 確認できなかった。

床面 本住居は、西から東への緩やかな斜面に立地するため、確認された床面も東に向かって緩やかに傾斜しているが、東側部分は本来の床面を失っていることも考えられる。特に硬化した部分は確認されなかった。炉の西側でV字状に並ぶ礫が検出されている。板状の礫と扁平な礫が立てたように設置されており、埋甕も設置されていることから、出入口部に関する何らかの施設であることが推定される。

周溝 検出されなかった。

柱穴 8基が検出されている。いずれも壁柱穴に相当するものと思われる。

炉 住居中央に位置するものと思われる。扁平な礫4石を用いた石囲炉で、形状は1辺60cmのほぼ正方形を呈する。住居床面から使用面までの深さは15cmを測る。使用面で焼土は確認できなかった。炉石はほぼ原位置を保っていると思われるが、被熱による亀裂が著しく、剥離した炉石が炉内に落下している。

埋甕 炉西側で検出された。前述した出入口部配石下面に位置する。柱穴1の東側の板状の礫が蓋石

に相当するのではないかとと思われる。設置された埋甕は底部を打ち欠いた深鉢で、逆位に設置されていた。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片296点と石器類28点が出土している。遺物の出土状況に偏りは見られないが、出入口部配石付近からは、やや出土が多い状況が看取できる。

時期 埋甕、出土遺物の様相から加曾利E3式期の住居であると考えられる。

18区26号住居

調査年度 平成14年度

位置 18区J-13グリッド

重複 18区25号住居。本住居が古い。

形状 北西の壁を削平によって失うため、全体の形状は明らかでないが、直径3.6mの円形を呈するものと思われる。

壁高 残存の良好な南壁付近で20cmを測る。

埋没土 暗褐色土を主体とする。自然に埋没したものと思われる。

床面 地山中の礫が床面に顔を出している。それ以外の面では顕著な硬化面は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 4基が検出されている。いずれも支柱穴に相当すると思われる。

炉 住居ほぼ中央に位置する。扁平な礫4石を用いた石囲炉で、長軸70cm、短軸60cmの長方形を呈する。炉ほぼ中央に埋甕が設置される。口縁と底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設する。住居床面から使用面までの深さは20cmを測る。炉石はほぼ原位置を保っていると思われるが、被熱による亀裂が著しく、剥離した炉石は炉内に落下している。

また、埋甕の下位には扁平な礫が確認された。炉中央に埋甕の台のように位置しているが、掘り方が確認されていないので人為的に据えたものと推定するとどめる。

遺物 出土状況に特に偏りは見られない。図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片88

点と石器類8点が出土している。

時期 炉内埋設土器、出土遺物の様相から、加曾利E3式期の住居であると考えられる。

18区28号住居

調査年度 平成14年度

調査の経過 18区5号列石の下部構造を確認するためのトレンチを設定し、調査した際に石囲炉が検出されたため周辺を精査したところ、本住居が検出された。

位置 18区U-6グリッド

重複 18区5号列石。本住居が古い。

形状 長軸2.6m、短軸2.4mの小形の楕円形を呈する。

壁高 残存の良好な南壁で24cmを測る。

床面 南から北に向かう緩やかな傾斜地に立地するため、確認された床面は傾斜に沿ってわずかに北側が低くなっている。特に硬化した面は確認できなかったが、図の斜線の範囲で炭化物が検出されている。

周溝 検出されなかった。

柱穴 3基が検出された。いずれも支柱穴に相当すると思われる。

炉 住居中央に位置する。扁平な礫を5石用いた石囲炉で、径55cmほどの範囲で五角形を呈する。住居床面から使用面までの深さは18cmを測る。使用面で焼土は確認されなかったが、炉石は被熱による変色、亀裂を生じている。特に南東の炉石は亀裂が著しく、小片に割れている。

遺物 遺物の出土は少なく、図示した遺物の他、縄文時代中期のものと思われる土器片7点と石器類2点が出土しているに留まった。

時期 出土遺物の様相から加曾利E3式期の住居であると考えられる。

28区1号住居

調査年度 平成9年度

調査の経過 本住居は後述するように、柄鏡形敷石住居であるが、本住居の調査時点では、本住居に

施された敷石、あるいは礫等を配石として調査しており、それら配石の調査終了後に本住居の炉が確認された。また、本住居の連結部石囲施設も別配石として調査されていたが、この炉の検出によりここまでの配石の調査記録を見直し、連結部石囲施設を含んで、柄鏡形敷石住居として認定し、調査記録を再構築したものである。ただし、これらの操作をおこなった際に、遺構名の変更に伴って若干混乱が生じている。

位置 28区F-2グリッド

重複 なし。

形状 推定全長5.8m、主体部推定直径4.2mの柄鏡形敷石住居であると思われる。

壁高 壁は検出されなかった。

床面 主体部ほぼ全面に敷石が施されていたものと思われる。下面で検出された礫の中には板状の礫、扁平な礫が確認される。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 主体部中央に位置する。扁平な礫6石を用いた石囲炉である。長軸55cm、短軸50cmの長方形を呈するものと思われる。断面図、写真に表されているように、本住居の炉は炉石が、2段に組み立てられており、下面からも炉石が検出されている。調査所見によると、上面の東辺の炉石は煤の付着が報告されているため、炉として使われていたことは間違いはないが、本遺跡では類例を見ない構造である。

連結部石囲い施設について 本住居は張り出し部と主体部の連結部に石囲い施設を持つ。詳細図が所在不明なため詳細な構造は不明だが、扁平な礫を四方に立てて配石し、下面に礫を配するものである。これを筆者は「連結部石囲い施設」と呼称しており、加曾利E4式期から称名寺式期の敷石住居で多く見られる連結部埋甕に相当する施設であると考えられる。

遺物 遺構名変更の際の混乱で、一部の遺物が所在不明になっているようである。確認できた中では、図示した遺物の他、加曾利E3式と思われる土器片

第3章 発見された遺構と遺物

1点だけである。

時期 柄鏡形敷石住居であり、なおかつ連結部石囲い施設をもつことから、加曾利E3式期新段階の住居であると考えられる。

28区2号住居

調査年度 平成10年度

位置 28区H-2グリッド

重複 なし。

形状 北壁の一部を攪乱によって失い、また明瞭な壁が検出されなかったこともあって、全体の形状は不明だが、推定直径4.8mの円形を呈するものと思われる。

壁高 南壁で6cmほどを測る。

床面 北半は掘り下げすぎとの記録が残っているが、全体に平坦で特に硬化した部分は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 住居中央からやや北よりの地点で焼土の集中が確認されている。明瞭な壁が確認されていないことから、本住居上面はかなり削平を受けていることが推定されるため、炉は削平によって失われている可能性が高い。

遺物 出土状態に偏りは見られない。図示した遺物の他、加曾利E1式土器、曾利I式期併行の在地系土器を中心とする土器片143点と石器類28点が出土している。

時期 出土遺物の様相から勝坂式期終末から加曾利E1式期の住居であると考えられる。

28区3号住居

調査年度 平成9年度

調査の経過 遺構確認作業中に直径5m程の範囲で遺物の集中が認められたため、住居の存在を推定して調査を進めた。掘り下げるにあたって出土した遺物を取り上げる際にこの5mの範囲の遺物を28区3号住居として取り上げた。その後本住居の壁が検出

されると、上面の遺物の範囲よりも狭いことが判明した。従って、本住居として取り上げた遺物の中には住居壁外出土遺物も混在する。

位置 28区H-4グリッド

重複 なし。

形状 北側が調査区外になるため、全体の形状は明らかでないが、推定径3.5mほどの不整形円形を呈するものと思われる。

壁高 東壁で30cmを測る。

埋没土 黒褐色土を主体とする。自然に埋没したものと思われる。

床面 ほぼ平坦で特に硬化した面は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 住居ほぼ中央で炉と思われる掘り込みを確認している。焼土はそれほど顕著ではないため、石囲炉から石が抜き取られた跡ではないかと思われる。埋没土中に焼土粒が少量確認されている。規模は長径80cm、短径50cmの楕円形である。

遺物 中央付近に若干集中する傾向が看取できる。図示した遺物の他、加曾利E1式、曾利I式土器を中心とする土器片134点と石器類12点が出土している。

時期 出土遺物の様相から加曾利E1式期の住居であると考えられる。

28区4号住居

調査年度 平成10年度

調査の経過 遺構確認作業において18区I-3グリッドで埋設土器と焼土の集中が確認されたため、周辺を精査したところ、壁は検出できなかったが、柱穴に相当すると思われるピットを検出したため、住居と認定し、住居番号を付した。

位置 18区I-3グリッド

重複 28区3号土坑。新旧関係は不明である。

形状 壁は全く検出されていないため、全体の形状は不明であるが、柱穴の配置などから、直径6m程

の円形の住居を推定する。

壁高 壁は検出されなかった。

埋没土 確認できなかった。

床面 記録された床面は炉の確認状況などから、本来の床面ではないものと思われる。

周溝 検出されなかった。

柱穴 3基検出された。いずれも支柱穴に相当すると思われる。

炉 住居中央で焼土の集中が確認された。これが炉に相当すると思われる。形状は長軸50cm、短軸40cmの隅丸長方形を呈する。炉石は抜き取り痕を含めて確認されなかった。削平によって上部構造は失われているものと思われる。確認された焼土はかなり固く焼き締まっている。この面が炉の使用面とすると本来の床面は埋甕が確認された面よりもさらに上位に存在すると思われる。

埋甕 炉の南、約2.5mの位置で検出された。口縁と底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設する。設置された位置から、出入り口部埋甕と推定される。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片23点と石器類2点が出土しているが、本来の床面よりも下位の出土が多いので、本住居に伴う遺物であるかは明らかでない。

時期 埋甕および出土遺物の様相から、加曾利E3式期の住居であると考えられる。

28区5号住居

調査年度 平成10年度

位置 28区J-1グリッド

重複 28区6号住居。本住居が新しい。

形状 長径5.8m、短径5.3mの楕円形を呈する。

壁高 南壁で50cmを測る。

埋没土 暗褐色土を主体とする。自然に埋没したものと思われる。

床面 ほぼ平坦である。炉の北東脇、柱穴3の周辺で他の面よりも固く締まった部分が確認されている。層厚4～6cmの黒褐色土による貼り床が確認されている。

周溝 検出されなかった。

柱穴 3基が検出されている。柱穴1と柱穴3は根固め状の配石を持つ。調査時は炉と報告されていたが、被熱痕跡が見られないこと、下位に柱穴状のピットを持つこと、本遺跡ではこうした根固め状の配石を持つ柱穴が他にも報告されていること、検出面が掘り方面であること、などを考えると、柱穴と考えることが妥当と思われる。

炉 住居中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、形状は長軸110cm、短軸75cmの長方形を呈する。住居床面から使用面までの深さは30cmを測る。北を除く3辺の炉石は抜き取られているものと思われる。炉内で検出された礫は炉石が崩落したものと考えられる。原位置を保っている北辺の炉石には被熱による変色が認められる。埋没土には少量の炭化物と焼土が確認されている。遺物番号1の深鉢は炉の南東隅から出土しているが、つぶれたように出土している点から、炉内埋設土器ではないと思われる。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片165点と石器類47点が出土している。

時期 出土遺物の様相から、加曾利E3式期新段階の住居であると考えられる。

28区6号住居

調査年度 平成8年度

調査の経過 本住居は28区2号列石の下位で検出され、平成8年度に調査を行った。平成10年度にも周辺が調査され、重複する5号住居は平成10年度に調査されたものである。その際、本住居の掘り方調査を行い、柱穴1、2、住居内配石を検出している。したがって、遺構図の横断図A-A'は平成10年度になって調査終了後の本住居で記録したものである。

位置 28区J-1グリッド

重複 28区5号住居、28区2号列石。いずれについても本住居が古い。

形状 明瞭な壁が検出されなかったため、全体の形状は明らかでないが、直径5.3mほどの円形の住居

第3章 発見された遺構と遺物

を推定しておく。

壁高 壁は検出されなかった。

埋没土 確認できなかった。

床面 ほぼ平坦で特に硬化した面は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 住居中央に位置するものと思われる。扁平な礫4石を用いた石囲炉で、形状は1辺65cmの正方形を呈する。住居床面から使用面までの深さは20cmを測る。炉石は原位置を保っていると思われるが、被熱による亀裂が著しい。埋没土は確認されておらず、使用面でも焼土は確認されていない。南東隅に口縁を打ち欠いた深鉢を埋設する。埋甕は口縁を打ち欠いた深鉢で、上部は2次的な被熱が認められる。

埋甕 4基の埋甕が本住居に伴うものとして記録されている。うち、3基は本住居の推定範囲の外で検出されている。1号埋甕は遺物番号3の深鉢で、底部を打ち欠いた深鉢を逆位に埋設する。2号埋甕は遺物番号1の深鉢で、口縁と底部を打ち欠いた深鉢である。埋設方向は不明である。3号埋甕は遺物番号7の深鉢で、調査時は底部から胴部までが記録されているが、遺物接合の結果、図示した部分しか接合し得なかった。4号埋甕は遺物番号4の鉢形土器で、調査時点でもつぶれた状態で出土している。いずれの埋甕も住居床面とほぼ同レベルで検出されているため、本住居に伴うものとして報告しておくが、2～4号の埋甕は単独の埋設土器の可能性もある。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器を中心とする土器片18点が出土している。

時期 1号埋甕、炉内埋設土器から加曾利E3式期の住居であると考えられる。

28区7号住居

調査年度 平成9、10年度

調査の経過 平成9年度に28区N-3、4グリッドで直径4mの範囲で遺物の集中が認められた。そこ

で、28区7号住居の住居番号を付し、遺物を取り上げ調査を行ったが、住居としての施設は検出できなかった。翌10年度に、7号住居の下位の調査を行ったところ、炉と掘り込みが確認できたので、8号住居の住居番号を付した。7号住居としては住居としての施設が全く確認できなかったため、7号、8号住居は同一の遺構と考え、8号住居は欠番とし、遺物は7号住居に帰属させることとなった。しかし、7号住居の床面のレベルと遺物の出土レベルには差が認められるため、多くの遺物は本住居廃絶後に上面で認められる礫とともに投棄されたものであると考えられる。

位置 28区N-3グリッド

重複 なし。

形状 直径2.8mの円形を呈する小形の住居であるが北西の一部が張り出す。

壁高 南西壁で60cmを測る。

埋没土 暗褐色土を主体とする。

床面 ほぼ平坦で特に硬化した面は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 2基検出されている。主柱穴に相当するかは不明である。

炉 明瞭な石囲炉は確認されなかったが、焼土を含むピットが住居中央に位置する。長径60cm、短径40cmの楕円形で、埋没土中に焼土を少量含んでいる。

遺物 前述したように、7号住居として取り上げた遺物を含め、加曾利E3式、曾利Ⅲ式併行の在地系土器を中心とする土器片534点と石器類1点が出土している。

時期 出土遺物の様相から、加曾利E3式の住居であると考えられるが、上層からの出土遺物が多く、本住居はこれよりも古くなる可能性も捨てきれない。

28区9号住居

調査年度 平成11年度

位置 28区O-1グリッド

重複 なし。

形状 明瞭な壁が検出されなかったが、礫の位置などから、直径4mほどの円形を呈するものと思われる。

壁高 壁は検出されなかった。

埋没土 確認されなかった。

床面 南から北に向かう緩やかな傾斜地に立地するため、確認された床面は傾斜に沿って北側が低くなっている。特に硬化した面は確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 住居中央に位置する。扁平な礫4石を用いた石囲炉で、形状は1辺70cmの正方形を呈する。住居床面から使用面までの深さは28cmを測る。炉石はほぼ原位置を保っていると思われるが、被熱による亀裂が著しく、西、北辺の炉石は上部がかなり剥落している。南辺の炉石近くに埋甕が設置される。口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢を正位に埋設する。炉の埋没土下層には焼土が少量確認できる。

遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式土器、曾利Ⅲ式併行の在地系土器を中心とする土器片57点と石器類26点が出土している。

時期 出土遺物の様相から、加曾利E3式の住居であると考えられる。

28区11号住居

調査年度 平成9年度

位置 28区P-4グリッド

重複 28区6号埋設土器。本住居が古いと思われる。

形状 明瞭な壁が検出されなかったが、礫の位置などから、直径4mほどの不整形円形を呈するものと思われる。

壁高 壁は検出されなかった。

埋没土 確認できなかった。

床面 ほぼ平坦で、特に硬化した面も確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 住居中央に位置するものと思われる。扁平な礫を用いた石囲炉で、形状は長軸80cm、短軸60cmの長方形を呈する。北半の炉石はほぼ原位置を保っていると思われるが、南半は被熱による亀裂もしくは抜き取りによって失われている。使用面、埋没土中からは焼土は確認されなかったが、西、東辺の炉石には被熱による変色が確認された。

遺物 図示した遺物の他、曾利Ⅲ式期併行の在地系土器を中心とする土器片10点と石器類1点が出土している。

時期 出土遺物の様相から加曾利E3式期併行期の住居であると考えられる。

28区13号住居

調査年度 平成9年度

位置 28区T-4グリッド

重複 なし。

形状 長径3.4m、短径2.6mの楕円形を呈する。

壁高 東壁で40cmを測る。

埋没土 黒褐色土を主体とする。自然に埋没したものと思われる。

床面 ほぼ平坦で特に硬化した面は確認できなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 5基検出されている。柱穴1は検出された位置から、柱穴には相当しないものと思われる。また、柱穴5も規模や位置から柱穴には相当しないものと思われる。5は出入り口に関する柱穴とも推定される。

炉 住居中央に位置する。板状の礫4石を用いた石囲炉で、形状は長軸43cm、短軸40cmの長方形を呈する。炉石はほぼ原位置を保っていると思われるが、北辺の1石はやや動いているようである。埋没土中に若干の焼土が確認できるが、炉石の被熱痕跡は不明である。

遺物 出土状況に偏りは見られない。図示した遺物の他に、加曾利E3式土器を中心とする土器片55点と石器類9点が出土している。

時期 出土遺物の様相から加曾利E3式期の住居であると考えられる。

28区14号住居

調査年度 平成9、10年度

調査の経過 本住居は平成9年度に断面A-A'以南と断面B-B'以東を調査し、調査区外の部分を除き、炉を含めて床面の過半を調査した。翌平成10年に調査区の拡大に伴い、Bラインセクションの西側から西壁を調査した。

位置 28区T-6グリッド

重複 なし。

形状 北壁の一部が調査区外になるため、全体の形状は不明だが、長径4.4m、短径3.7mの楕円形を呈するものと思われる。

壁高 東壁で60cmを測る。

埋没土 黒褐色土を主体とする。自然に埋没したものと思われる。

床面 層厚6～10cmの貼り床が施されるが、顕著な硬化面は確認できなかった。炉西側で床下土坑が検出されている。ただし、この床下土坑は柱穴4によって切られているため、本住居構築以前に存在していた別遺構とも推定される。また、住居内土坑として記録されている土坑は柱穴4との新旧関係は不明であるが、本住居に伴うものとして報告しておく。

周溝 検出されなかった。

柱穴 5基が検出されている。いずれも支柱穴に相当するものと思われる。

炉 住居中央で焼土の集中を確認した。使用面と思われる面ではよく焼き締まった焼土が確認されているが、本遺跡での例を考えると、地床炉よりも炉石を抜き取られた石囲炉の痕跡と考えたい。規模・形状は長径1m、短径70cmの楕円形で使用面にはやや凹凸が認められる。

遺物 1の深鉢は住居内土坑からの出土である。4の深鉢は東壁付近の床面で、つぶれたような状況で出土している。遺物の出土状況に大きな偏りは見ら

れない。図示した遺物の他、中峠式、曾利I式併行の在り系土器を中心とする土器片69点と石器類14点が出土している。

時期 出土遺物の様相から、本住居は中期中葉末から中期後半初頭の住居であると考えられる。

28区15号住居

調査年度 平成10年度

調査の経過 遺構確認作業においてL字状の配石を確認した。断ち割って確認したところ、焼土を検出したので住居の存在を推定して周辺の精査に努めたが、検出できなかった。本住居は炉のみの調査であるが、住居番号を付して報告しておく。

位置 28区U-6グリッド

重複 なし。

形状 住居としての形状は不明である。

炉 扁平な礫を用いた石囲炉である。北辺と東辺の炉石は抜き取られたものと思われる。炉内および炉南側で検出された礫は被熱による亀裂によって割れたと思われるので、炉石の残骸であろう。残存する炉石は被熱による亀裂を生じており、北辺の炉石と炉内から検出された礫を接合したところ、写真のように復元できた。使用面と思われる面で焼土ブロックが確認されている。

遺物 図示した遺物の他は縄文時代中期と思われる土器片1点のみの出土である。

時期 出土遺物の様相から加曾利E2式の住居であると考えられる。

28区19号住居

調査年度 平成11年度

調査の経過 28区X-4グリッドにおいて、本住居の埋甕を検出した。単独の埋設土器として調査し、記録したが、その後の周辺の調査によって、本住居の炉を検出した。炉と埋甕の位置関係、住居と推定される範囲の遺物出土状況などから、この埋設土器と炉は伴うものとして判断し、同一の住居として遺構番号を付した。

位置 28区X-4グリッド

重複 28区11号列石。本住居が古い。

形状 後述するように炉の上部構造が失われている点や、埋甕も上位が失われていると思われることから、本住居の上部はかなり削平を受けているものと思われる。28区11号列石構築によるものとする、列石構築にあたっては、整地作業等が行われていることを示唆するものである。本住居の形状に関しては以上のことから、明らかでないが、炉と埋甕の位置関係、住居の時期から、柄鏡形を呈する可能性もある。

壁高 壁は検出されなかった。

埋没土 確認できなかった。

床面 全体を通した断面を記録していないため、床面の状況は不明であるが、埋甕と炉の検出面は埋甕検出面の方が10cmほど高い。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

炉 1辺70cmの正方形を呈する。確認面から使用面までの深さは30cmを測る。炉石と思われる礫や炉石の抜き取り痕が確認できることから、石囲炉であったものが、上部の削平によって上部構造を失っているものと思われる。

埋甕 炉の南西、2.7mの地点で検出された。口縁を打ち欠いた深鉢を正位に埋設する。埋設時は検出時よりも上位まで存在していたものが、削平によって失われているものと思われる。

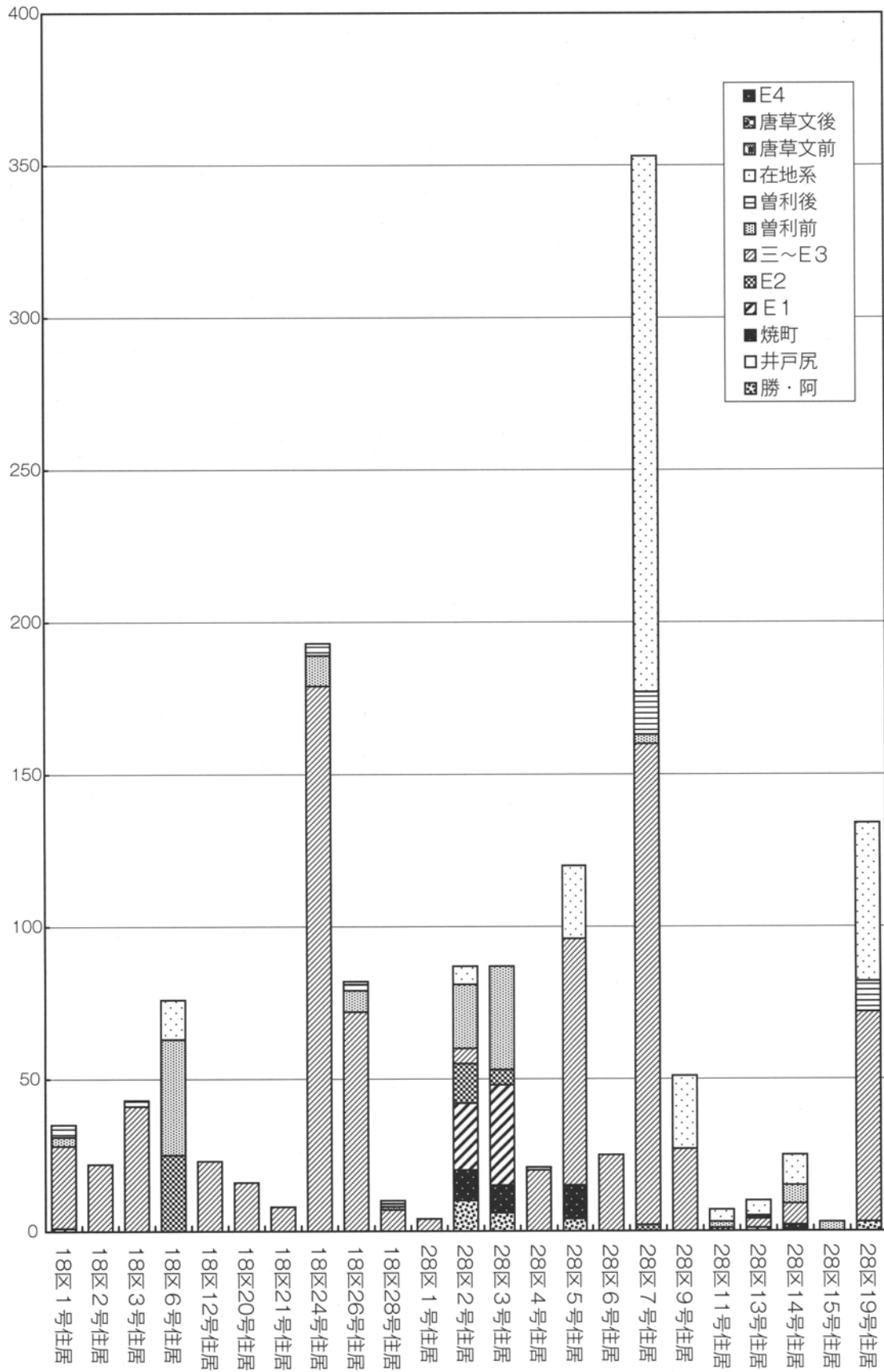
遺物 図示した遺物の他、加曾利E3式、曾利Ⅲ式併行の在地系土器を中心とする土器片299点と石器類10点が出土している。

時期 埋甕及び出土遺物の様相から、加曾利E3式の住居であると考えられる。

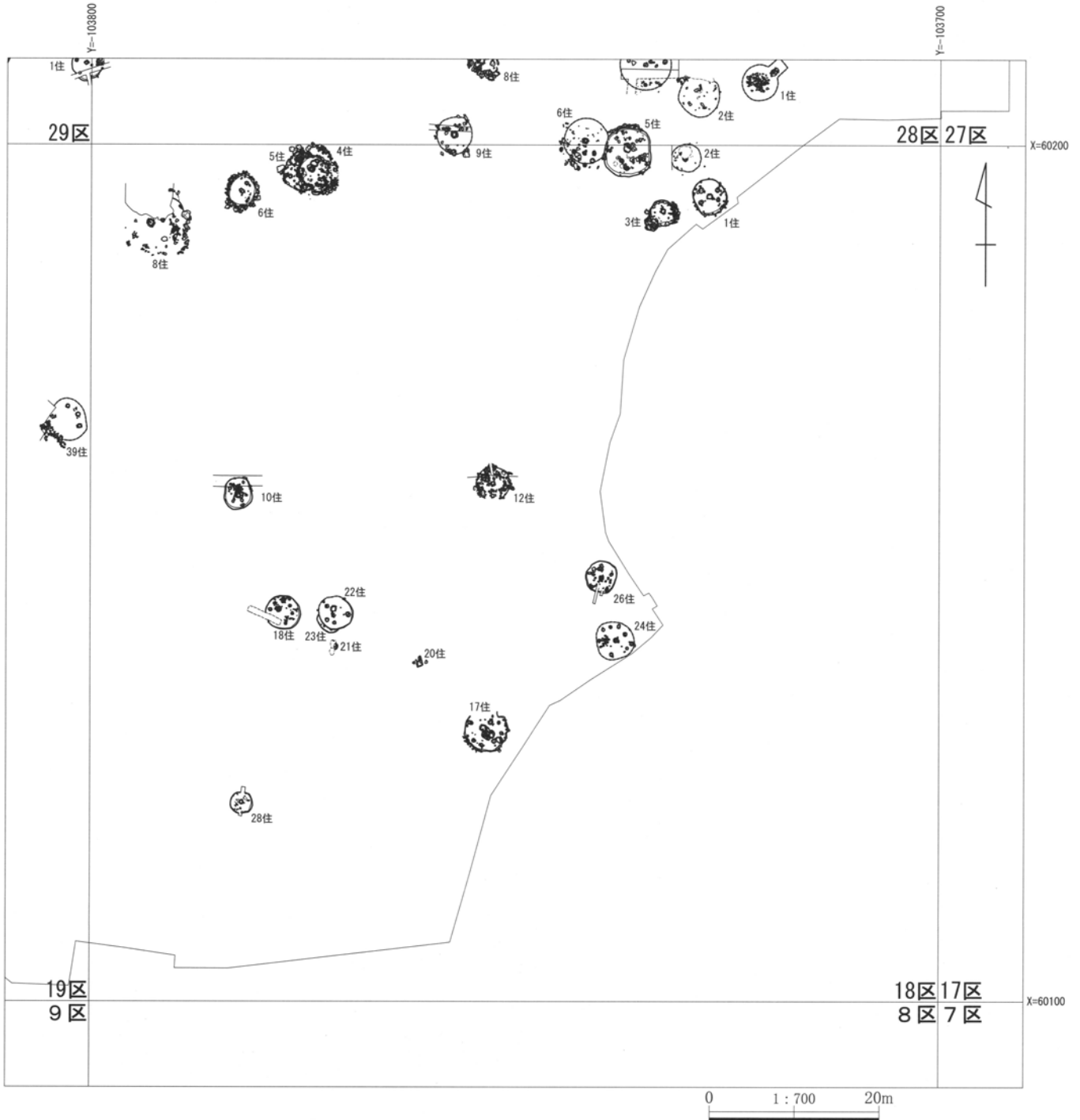
表3 住居出土土器集計表 (単位は個)

	勝・阿	井戸尻	焼町	E 1	E 2	三～E 3	曾利前	曾利後	在地系	唐草文前	唐草文後	E 4	不明・その他	合計
18区 18区1号住居	1					27	3	4					16	51
18区 18区2号住居						22							1	23
18区 18区3号住居						41		2						43
18区 18区6号住居					25		38		13				39	115
18区 18区12号住居						23							33	56
18区 18区20号住居						16							10	26
18区 18区21号住居						8								8
18区 18区24号住居						179	10	4					122	315
18区 18区26号住居						72	7	2	1				2	84
18区 18区28号住居						7	1	1	1				3	13
28区 28区1号住居						4							1	5
28区 28区2号住居	10		10	22	13	5	21		6				69	156
28区 28区3号住居	6		9	33	5		34						70	157
28区 28区4号住居						20		1					11	32
28区 28区5号住居	4		11			81			24				57	177
28区 28区6号住居						25								25
28区 28区7号住居					2	158	3	14	176				204	557
28区 28区9号住居						27			24				16	67
28区 28区11号住居					1		2		4				6	13
28区 28区13号住居	1					3		1	5				35	45
28区 28区14号住居			2			7	6		10				44	69
28区 28区15号住居							3						1	4
28区 28区19号住居	3					69		10	52				165	299

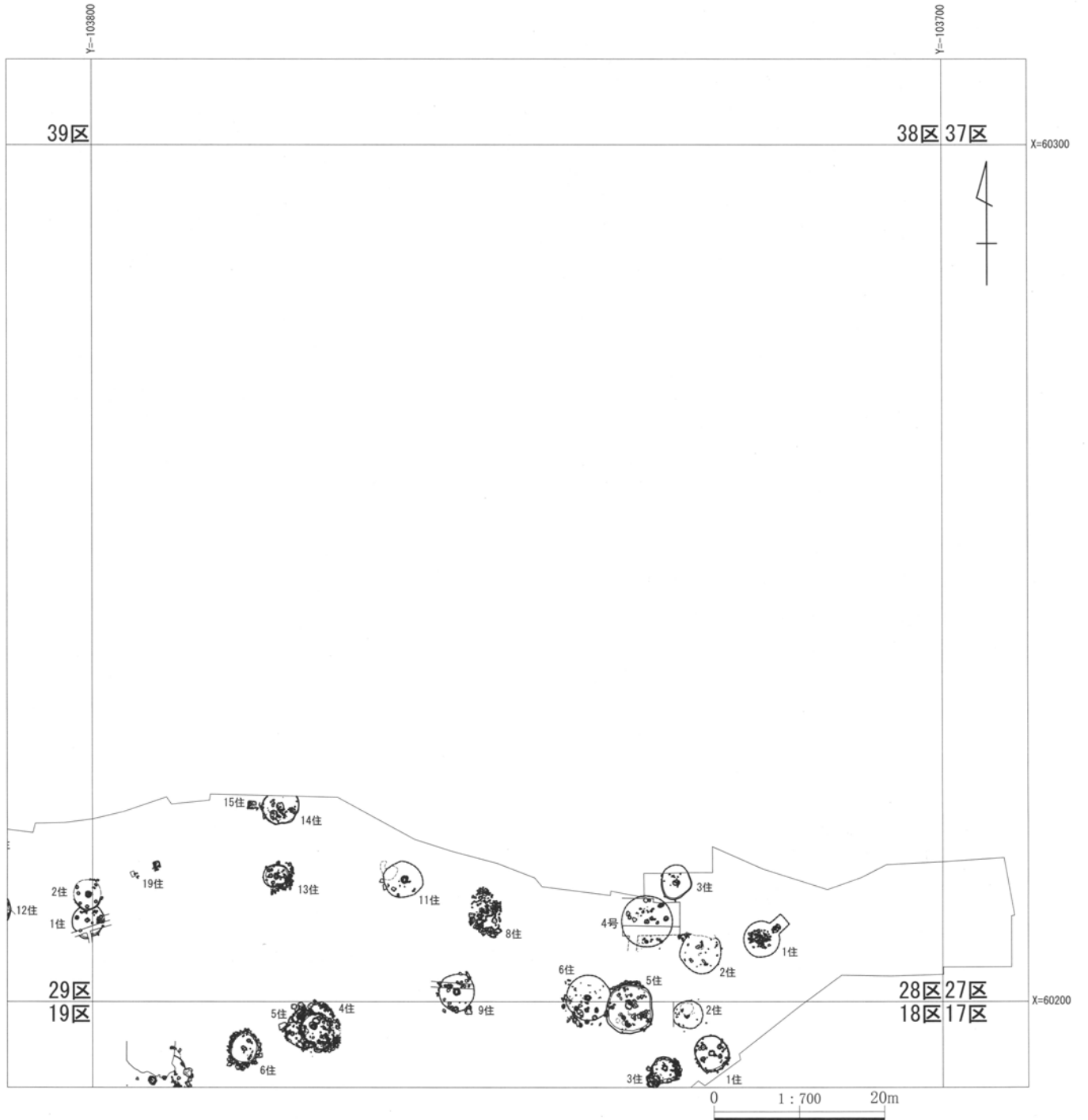
「勝・阿」は勝坂式・阿玉台式、「三～E 3」は三原田式～加曾利E 3式(中峠式を含む)、「曾利前」は曾利I・II式、「曾利後」は曾利III～V式、「唐草文前」は唐草文I・II式、「唐草文後」は唐草文III・IV式を表す。
また、時期不明の土器片数は次項のグラフには掲載していない。



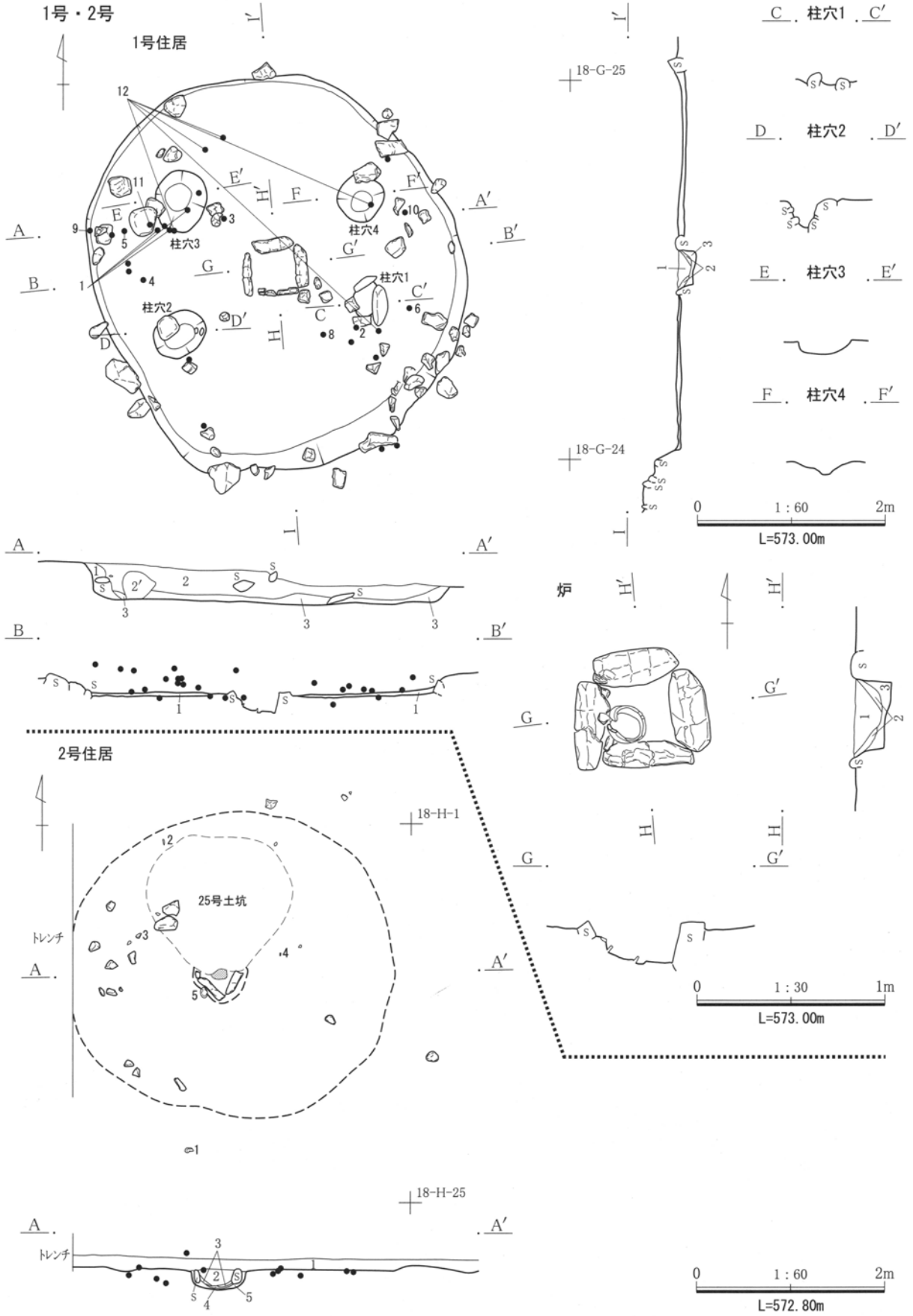
第5図 住居出土土器集計グラフ



第6図 18区縄文時代中期住居全体図

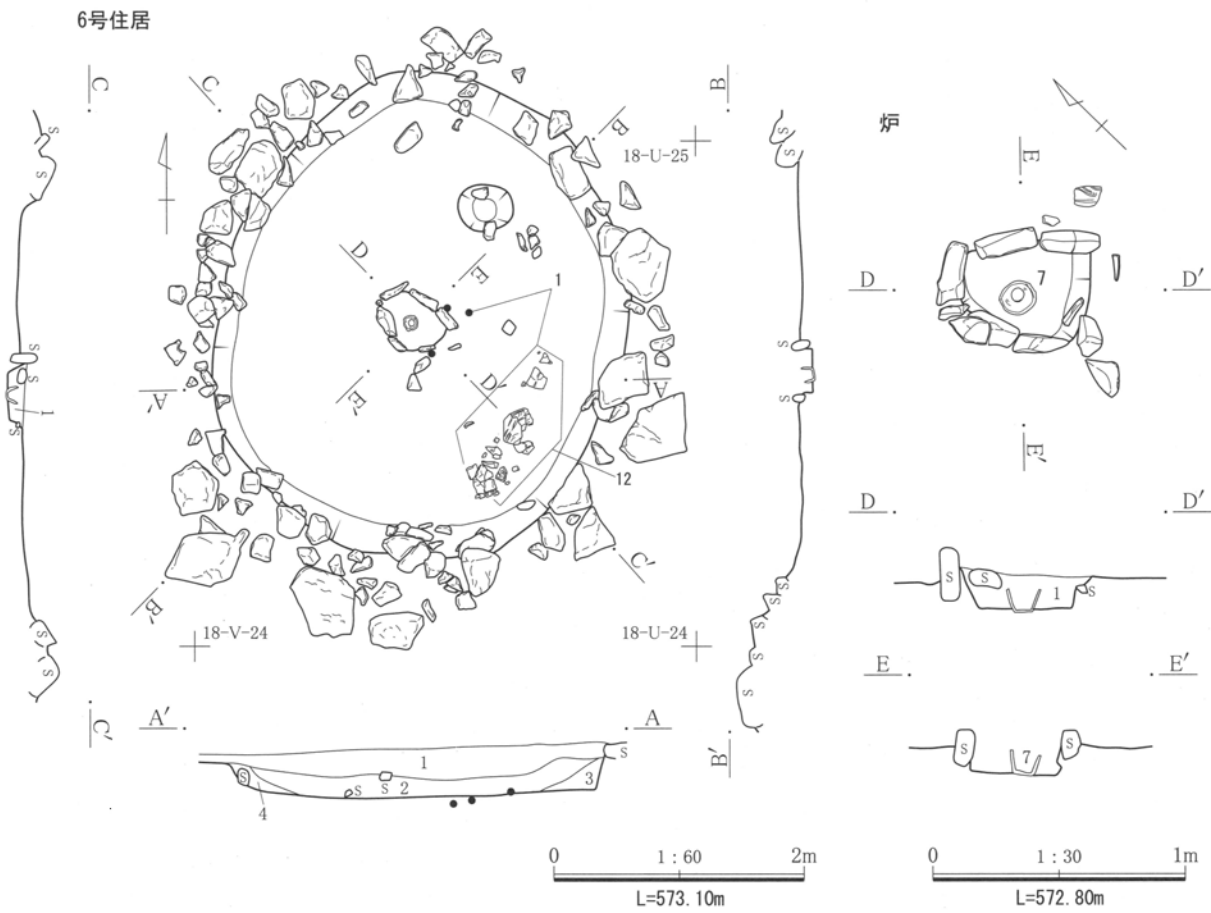
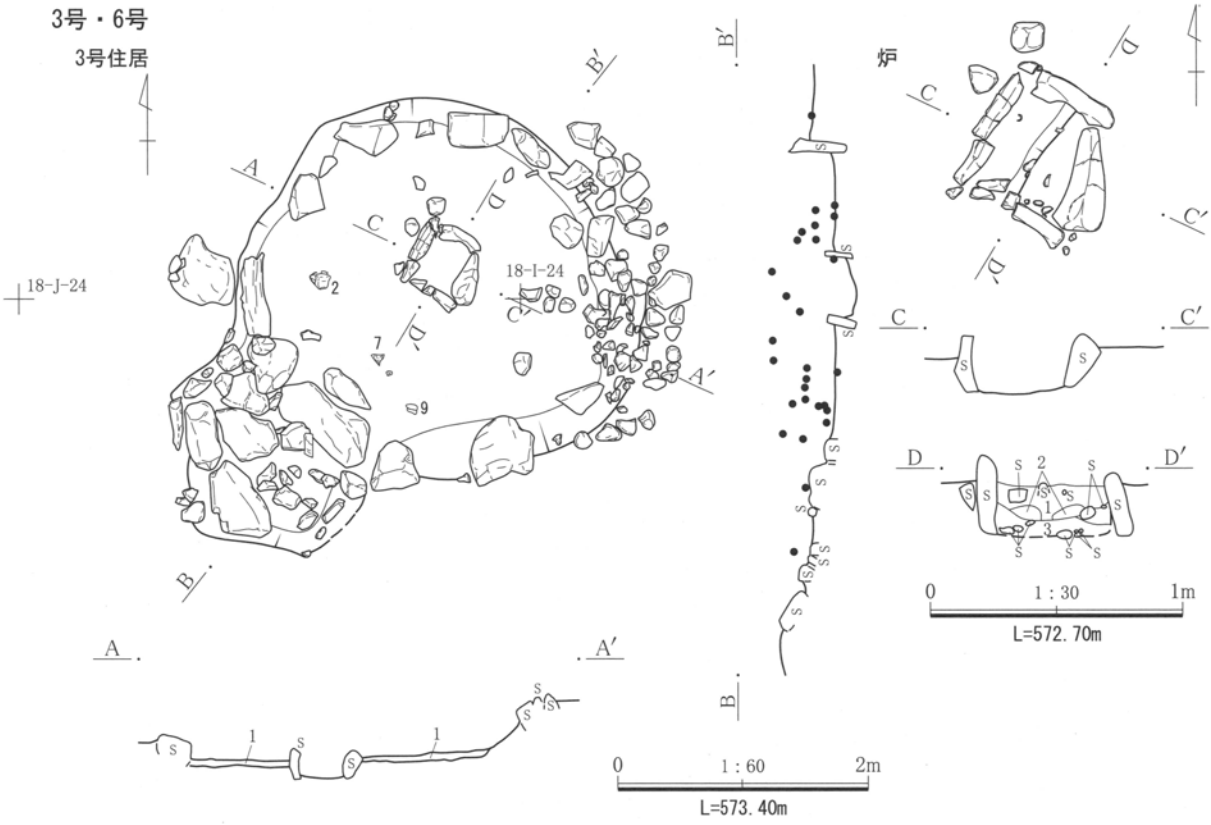


第7図 28区縄文時代中期住居全体図



第8図 18区1号住居・2号住居

第3節 遺構図

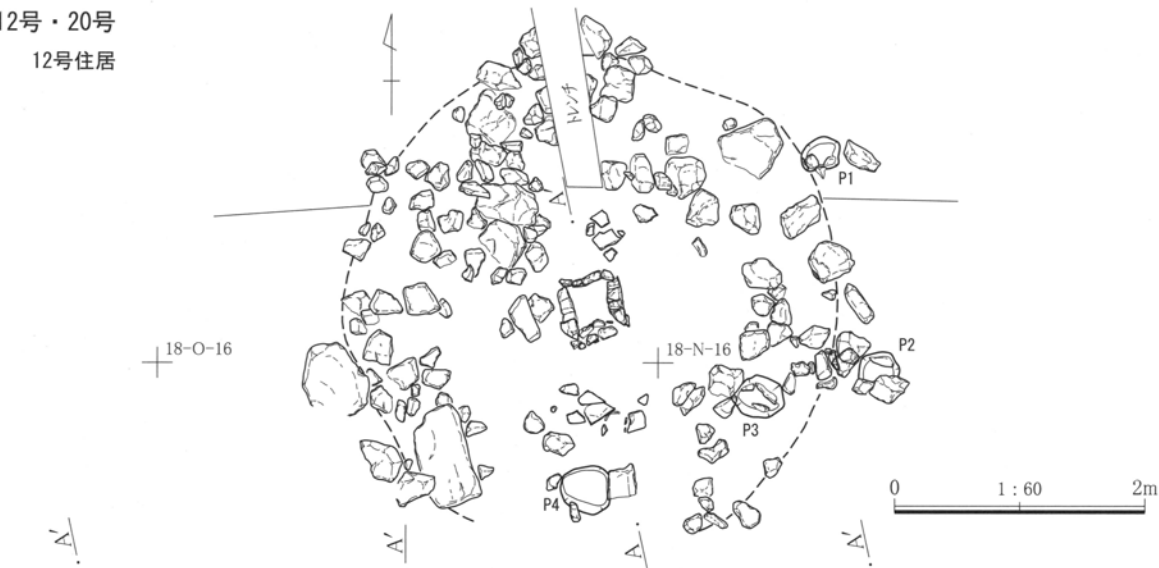


第9図 18区3号住居・6号住居

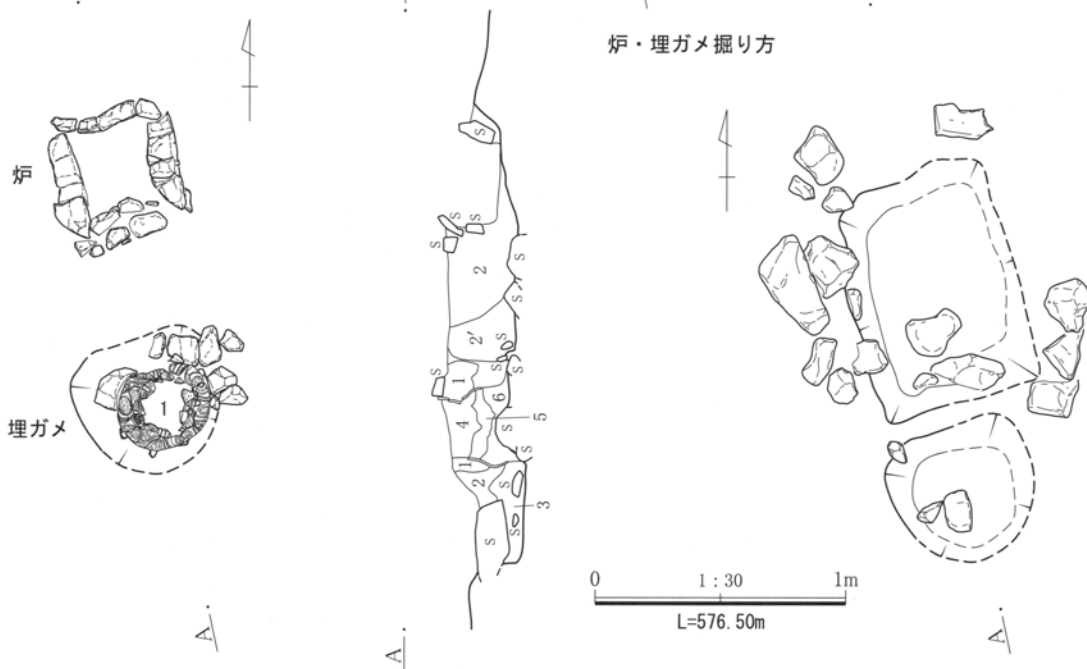
第3章 発見された遺構と遺物

12号・20号

12号住居

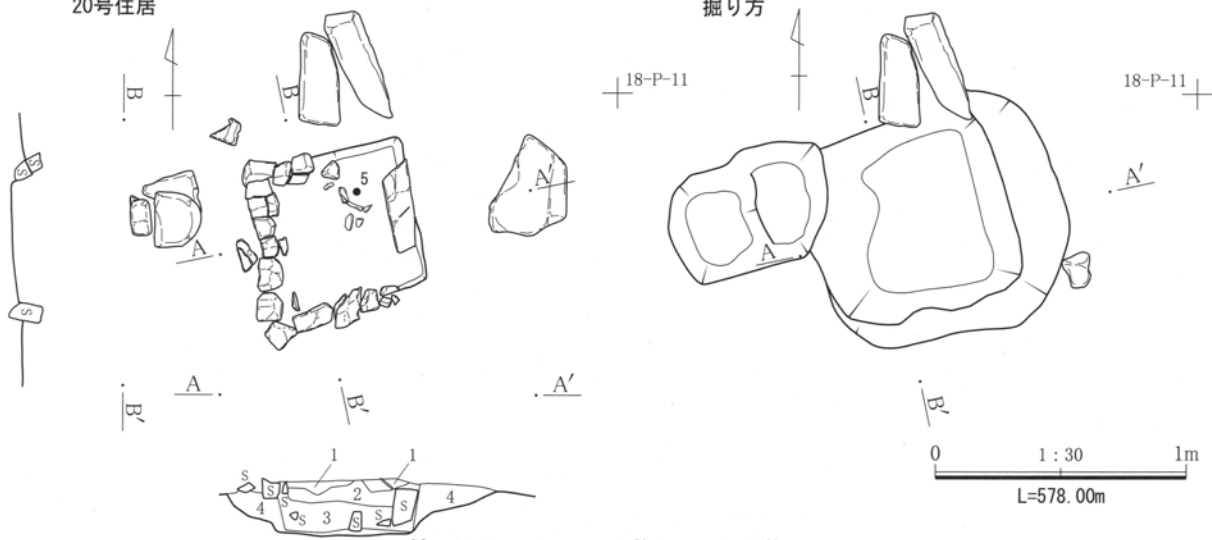


炉・埋ガメ掘り方



20号住居

掘り方



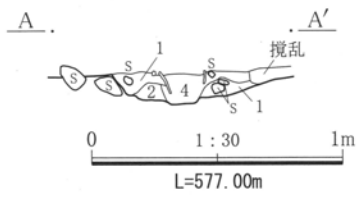
第10図 18区12号住居・20号住居

21号・24号

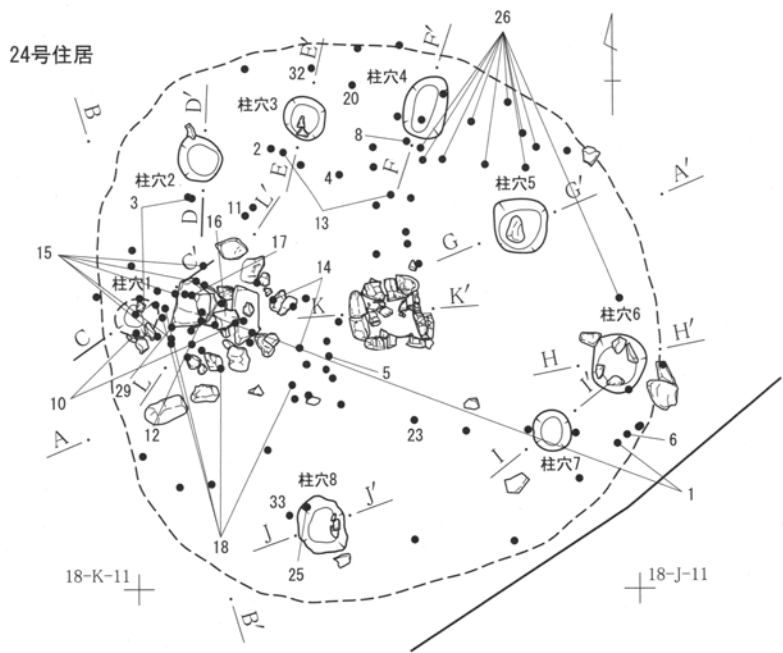
21号住居



18-S-11



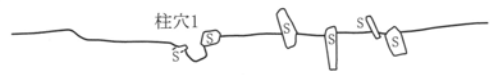
24号住居



A. A'



B. B'



C. 柱穴1 . C'



D. 柱穴2 . D'



E. 柱穴3 . E'



F. 柱穴4 . F'



G. 柱穴5 . G'



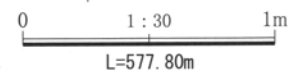
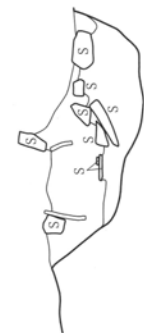
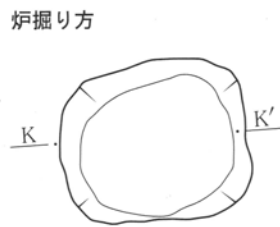
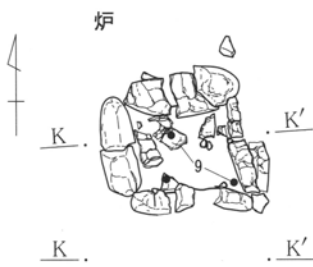
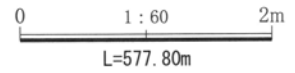
H. 柱穴6 . H'



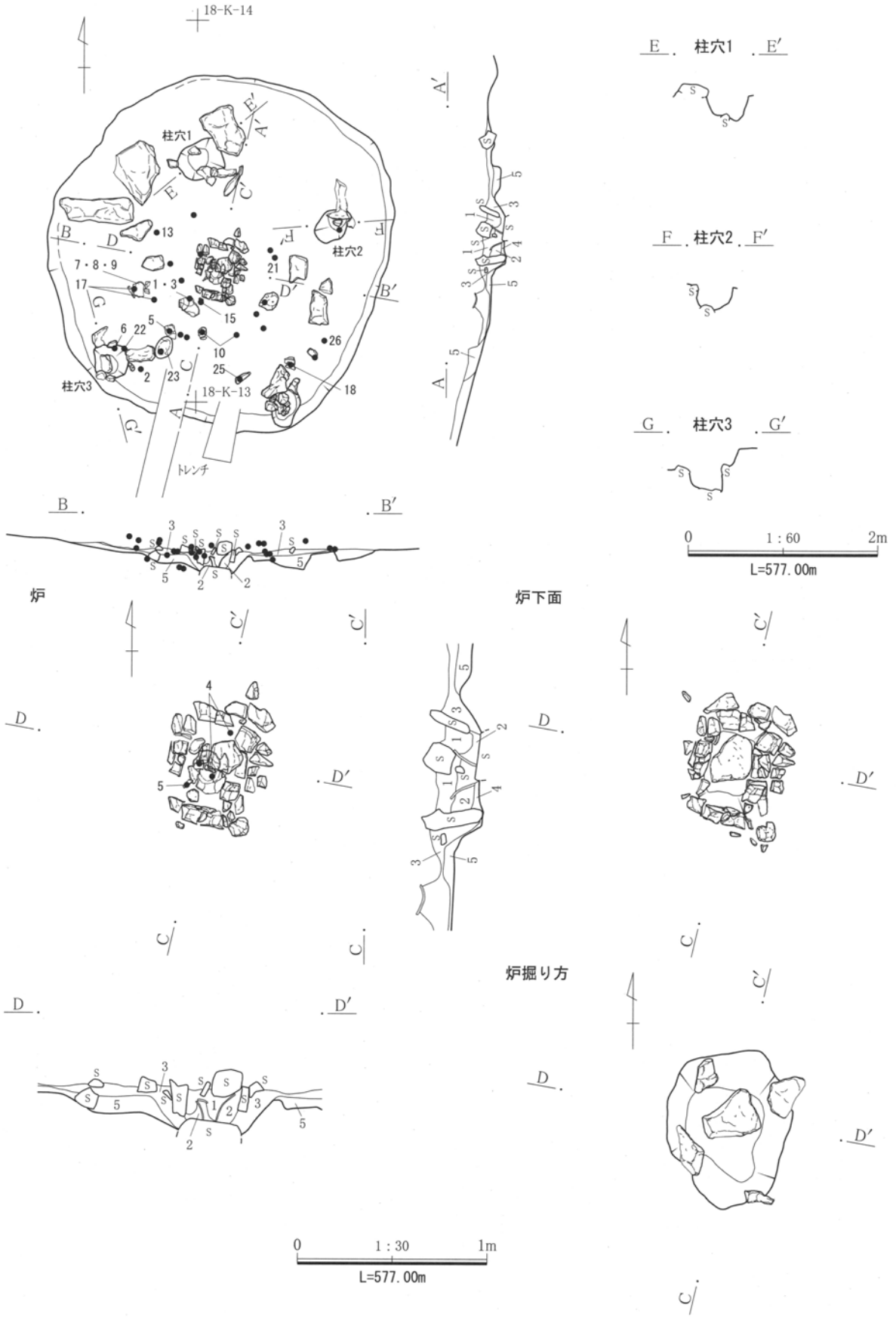
I. 柱穴7 . I'



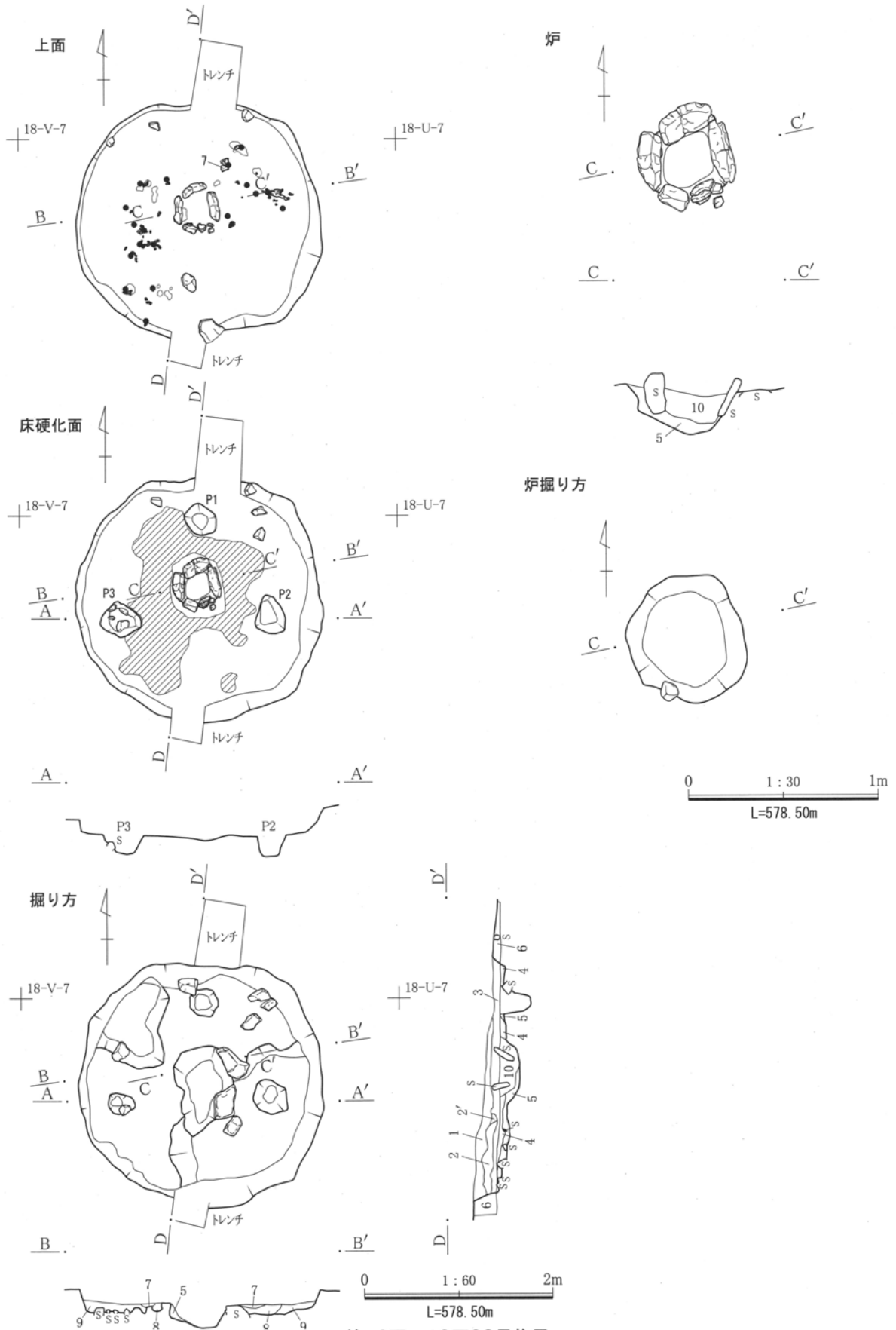
J. 柱穴8 . J'



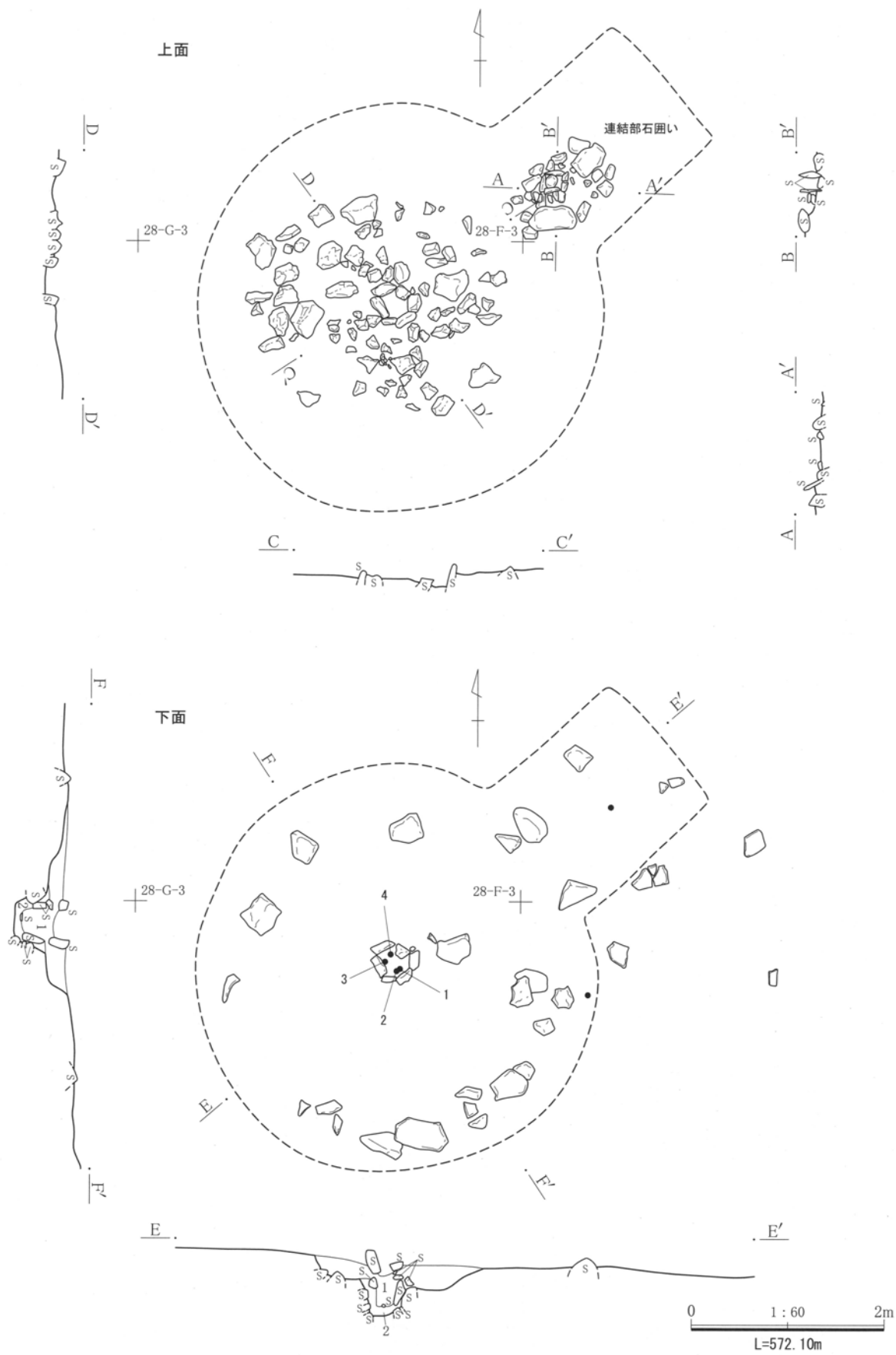
第11図 18区21号住居・24号住居



第12図 18区26号住居

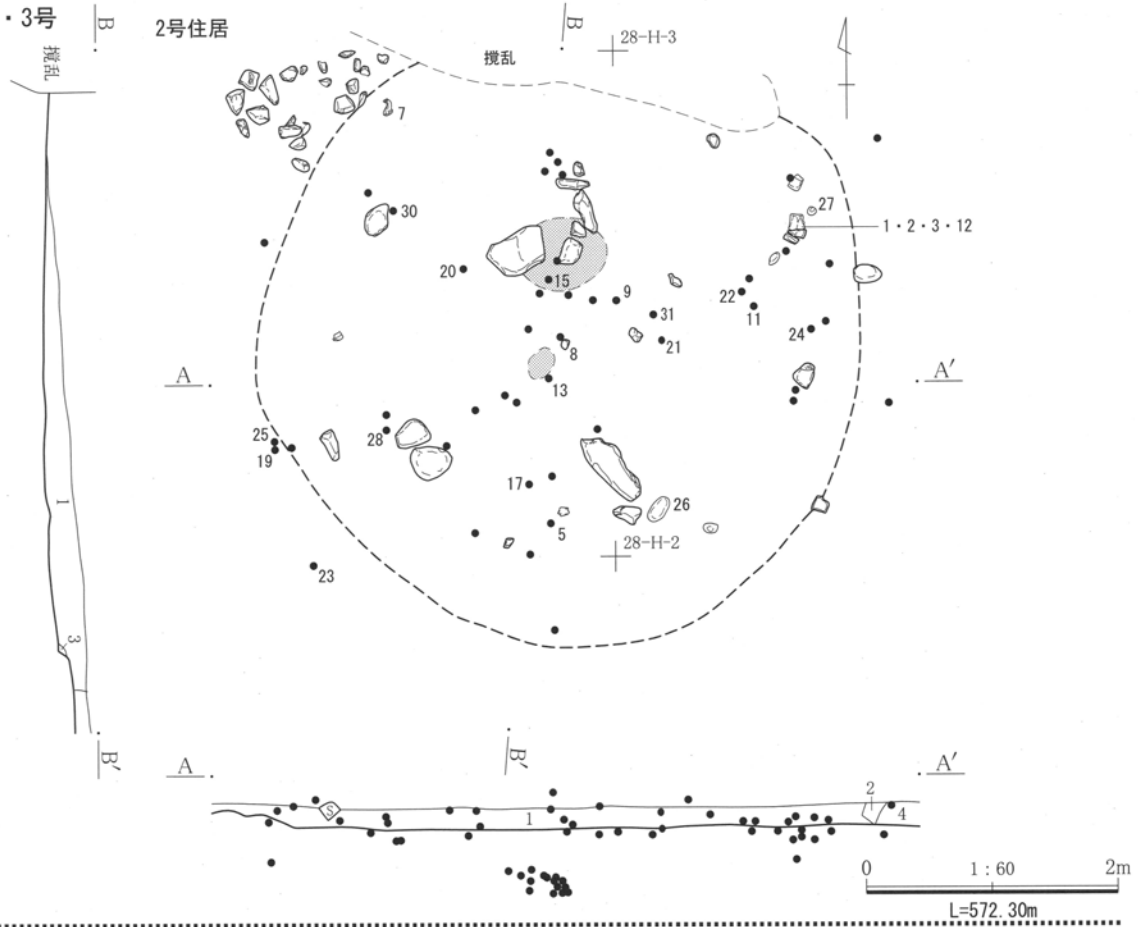


第13図 18区28号住居

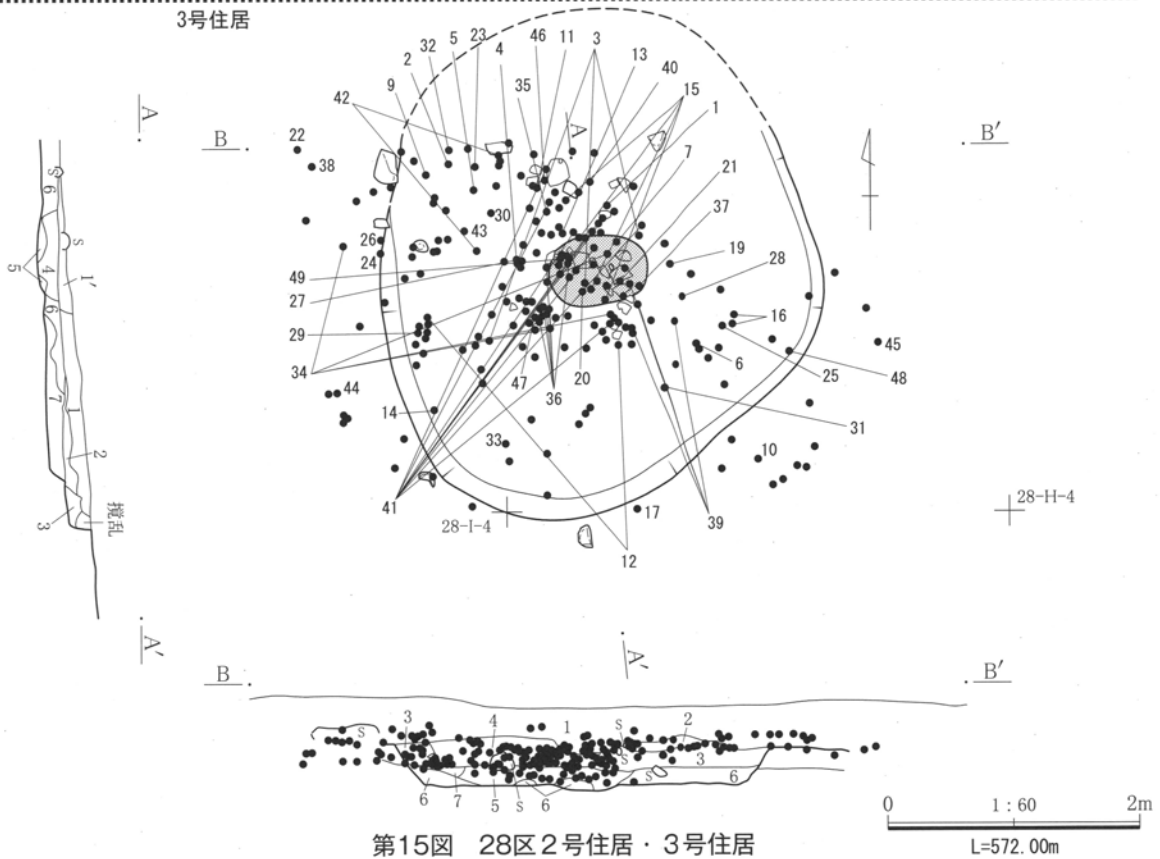


第14図 28区1号住居

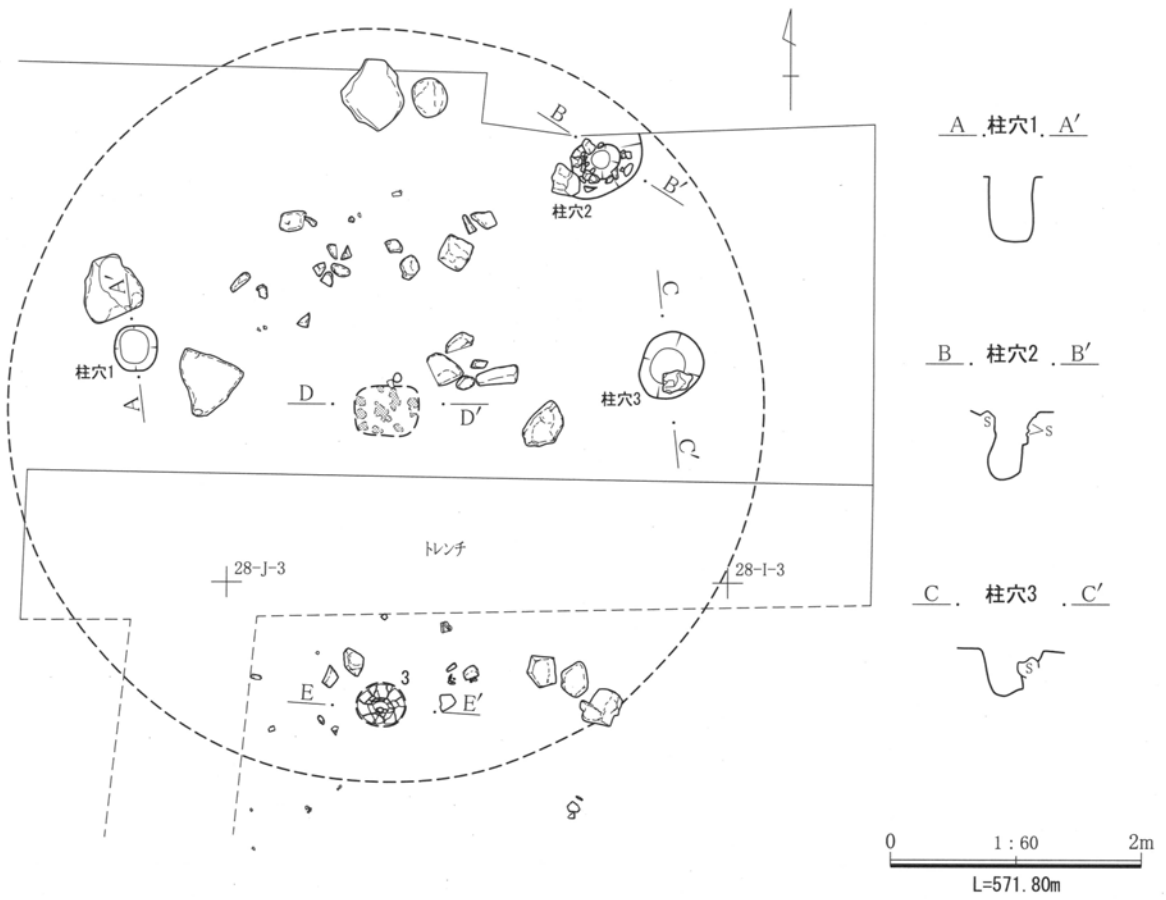
2号・3号



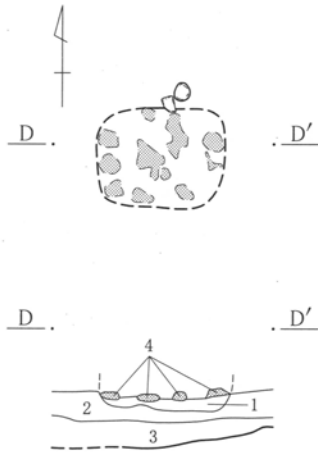
3号住居



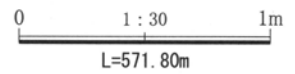
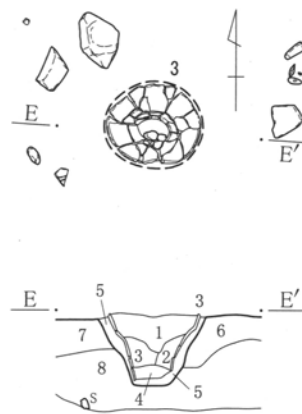
第15図 28区2号住居・3号住居



炉

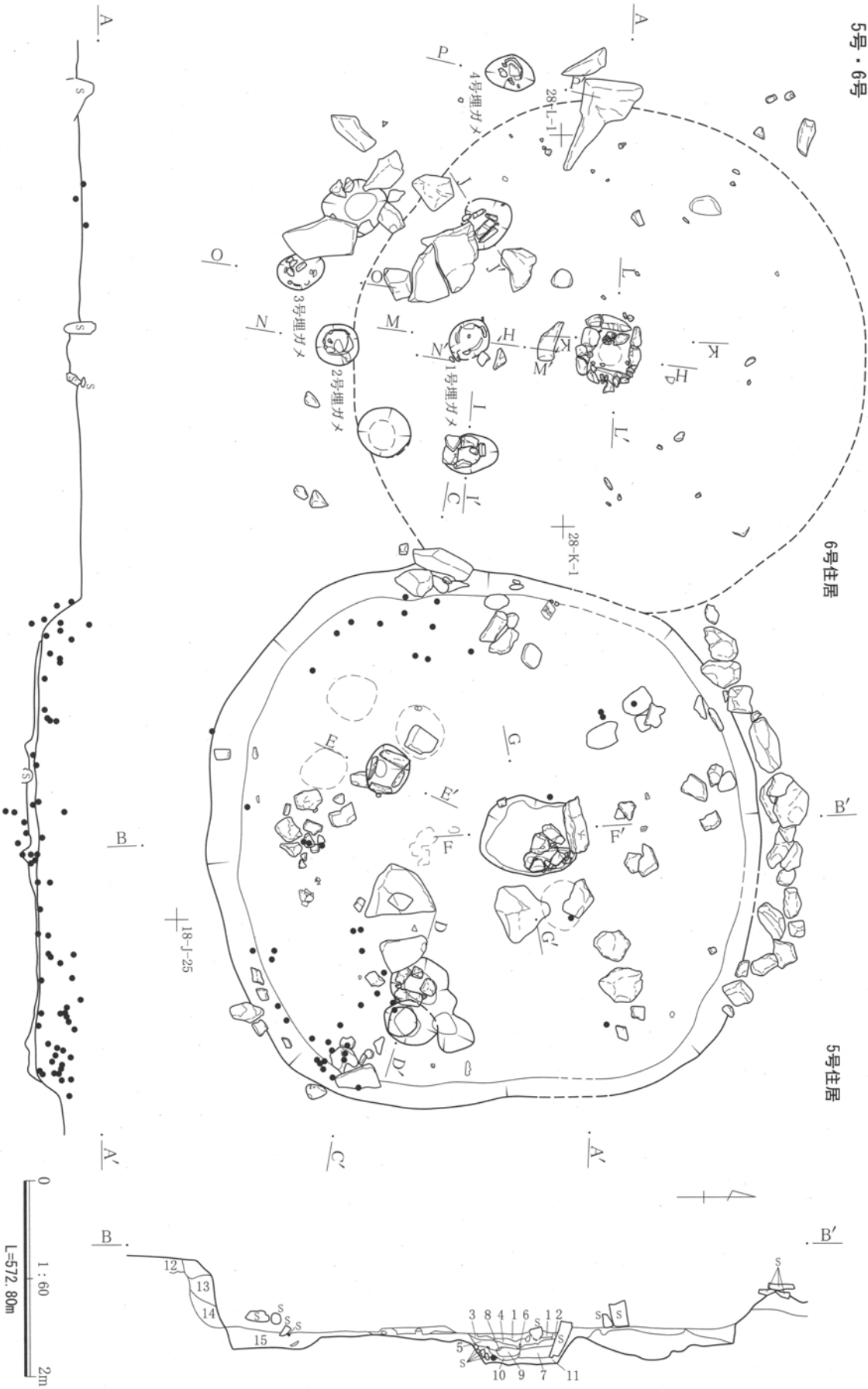


埋ガメ

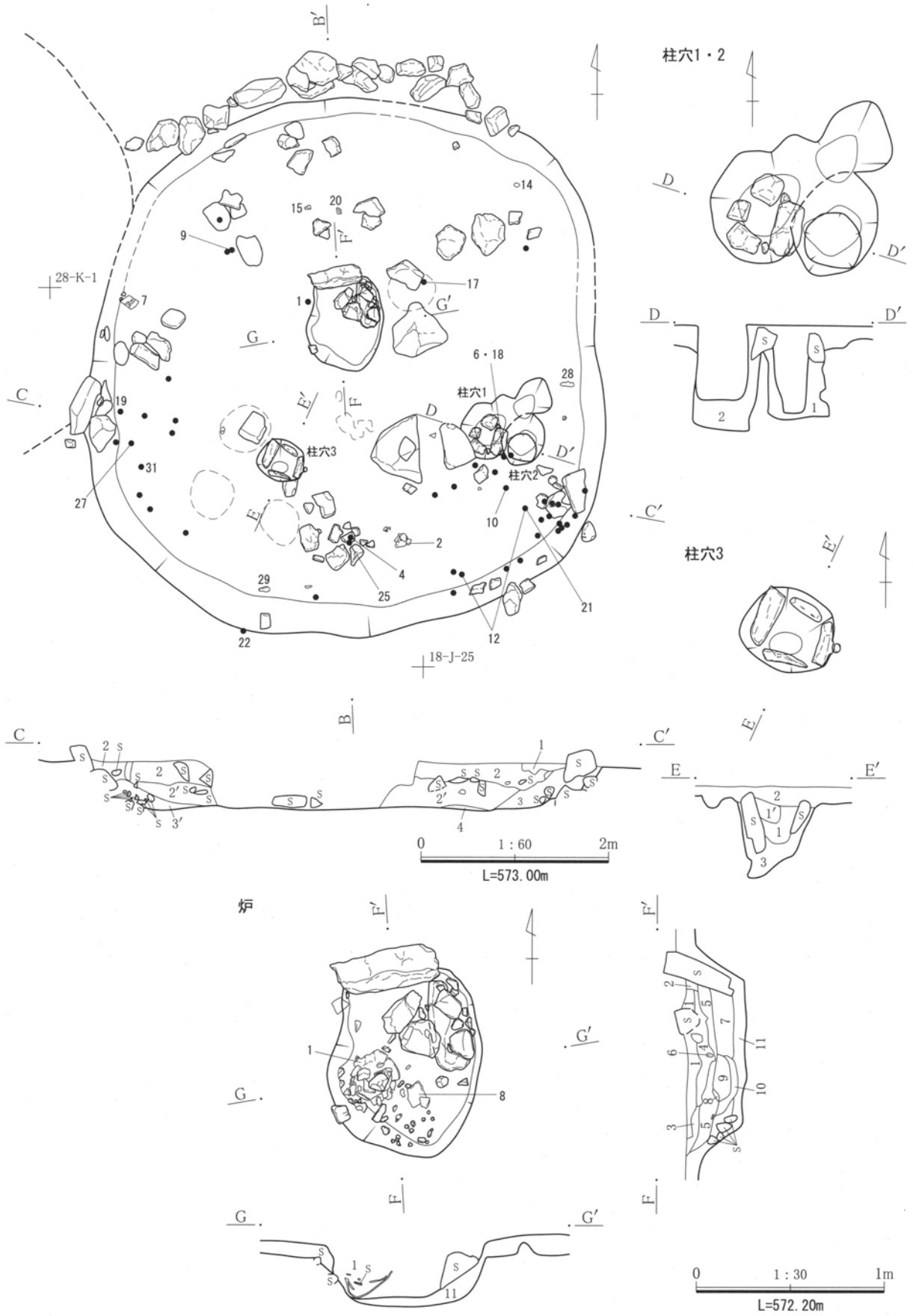


第16図 28区4号住居

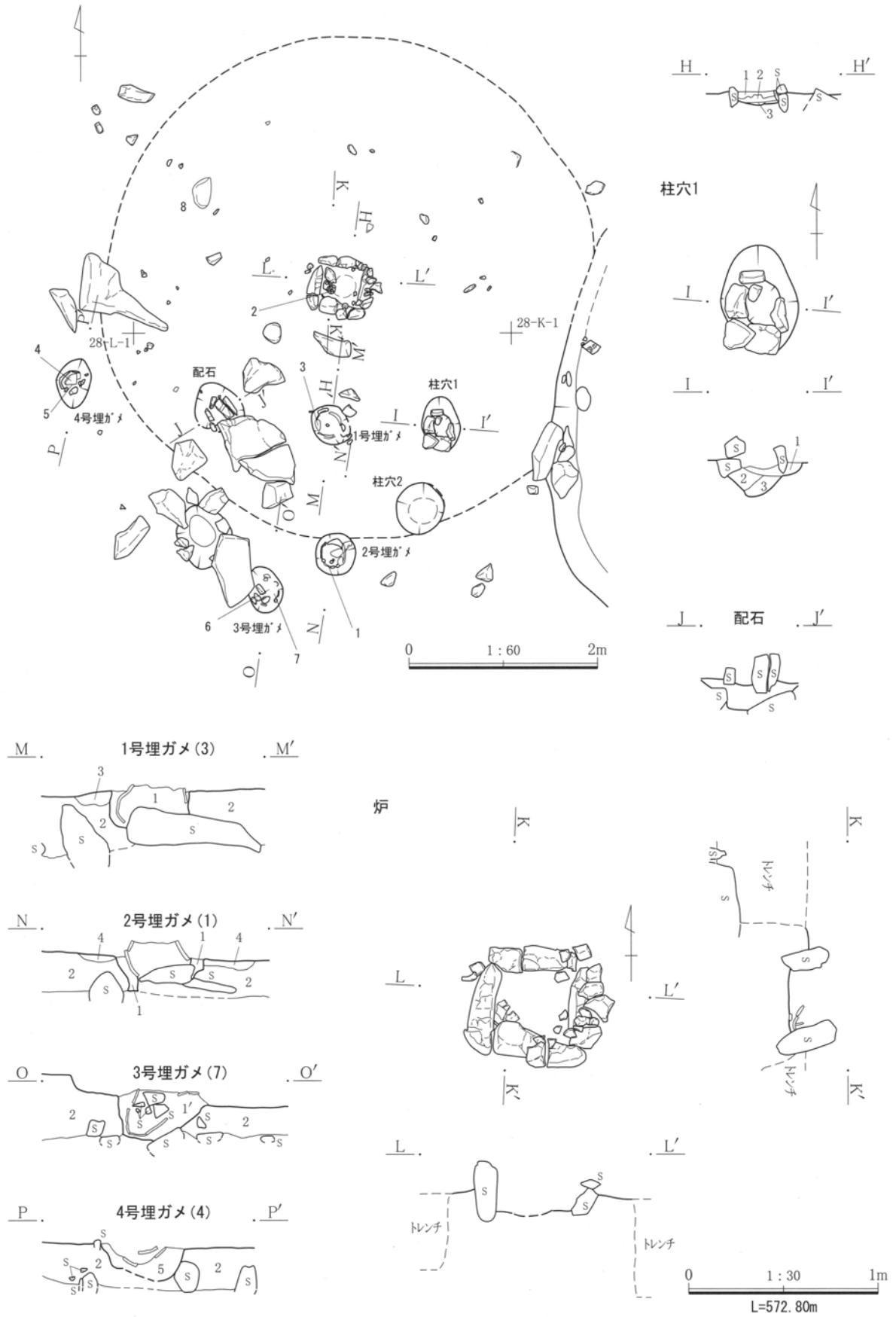
5号・6号



第17図 28区5号住居・6号住居



第18図 28区5号住居

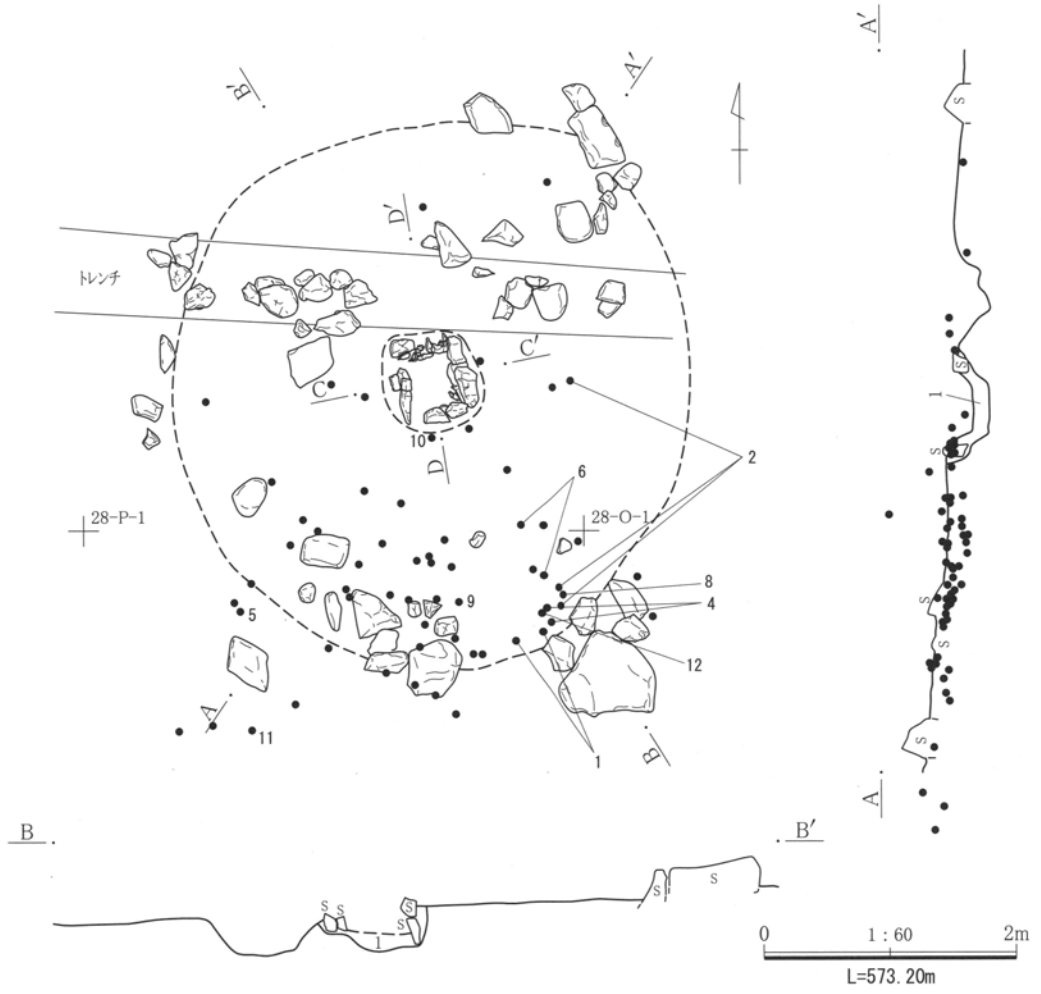


第19図 28区6号住居

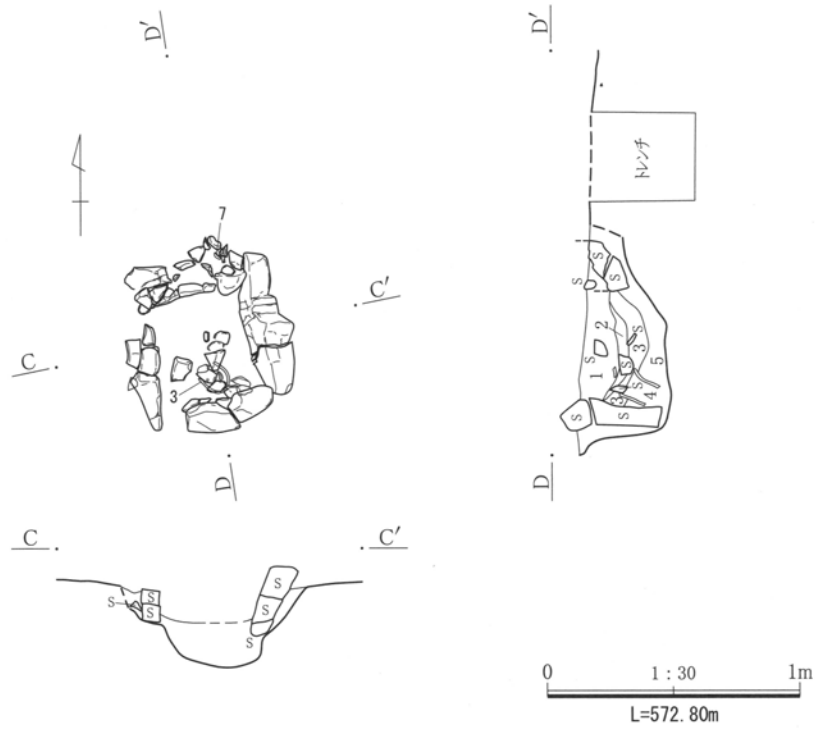
上面遺物出土状況



第20図 28区7号住居



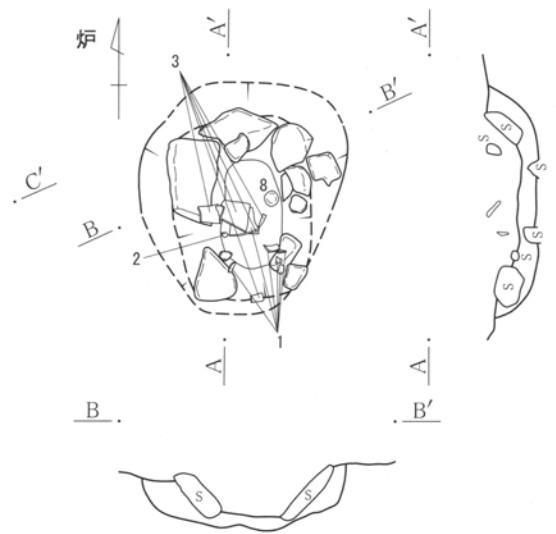
炉



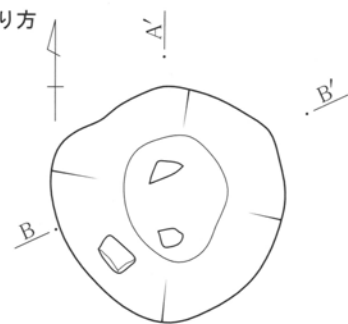
第21図 28区9号住居

11号・13号

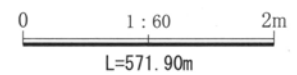
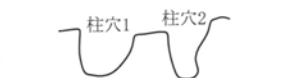
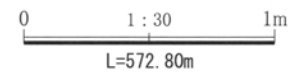
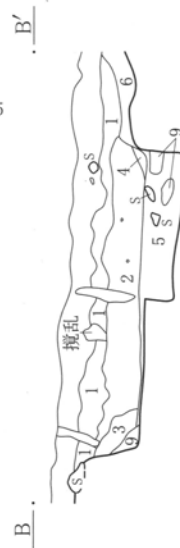
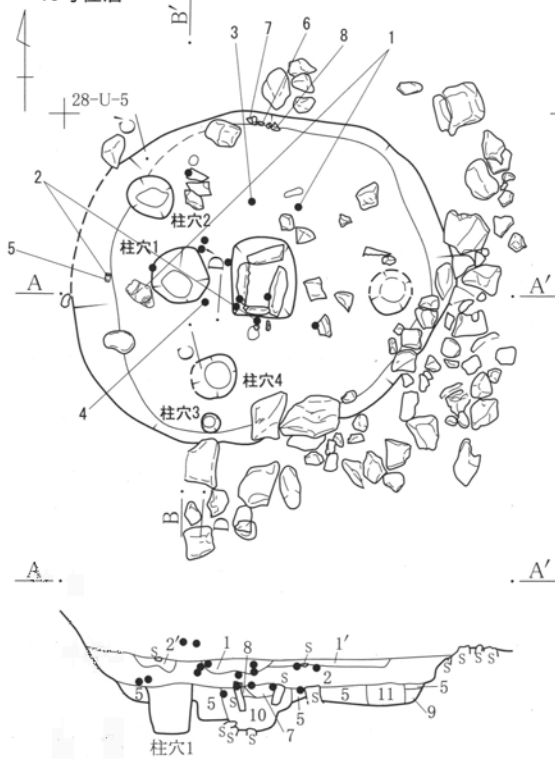
11号住居



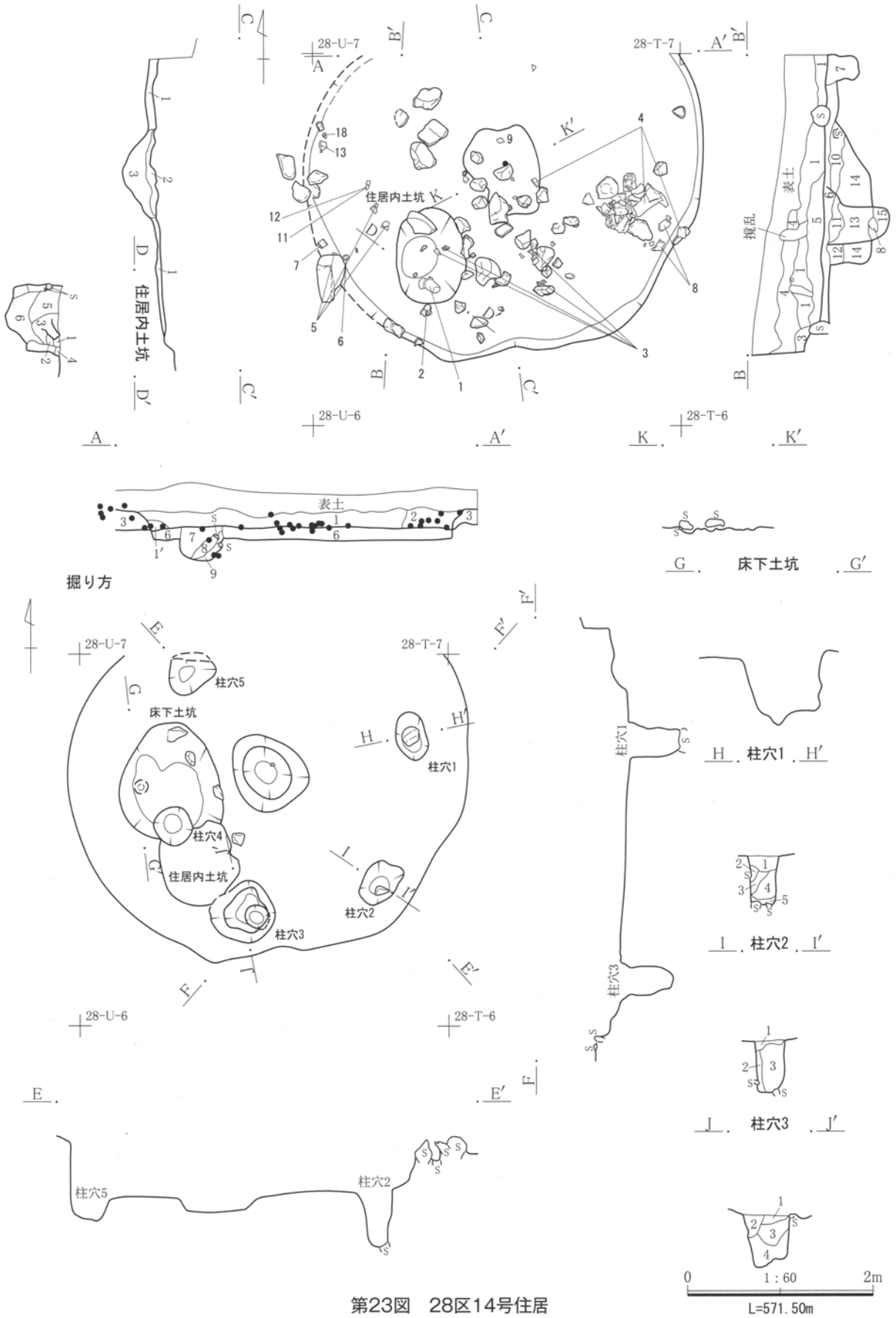
炉掘り方



13号住居



第22図 28区11号住居・13号住居

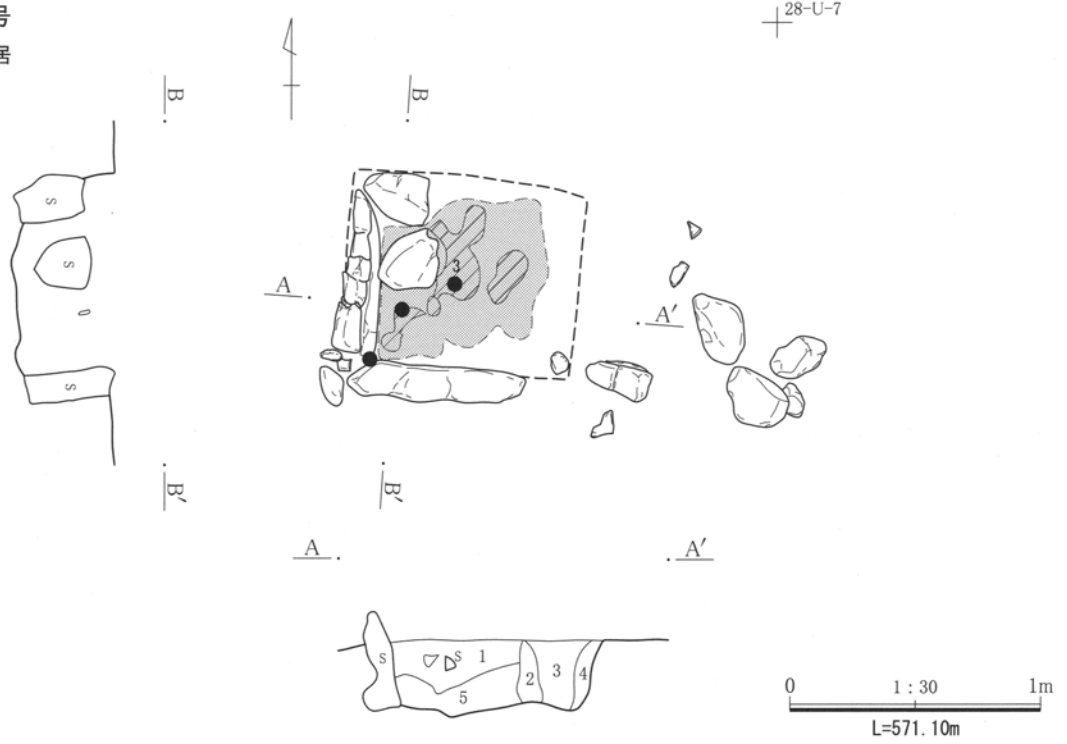


第23図 28区14号住居

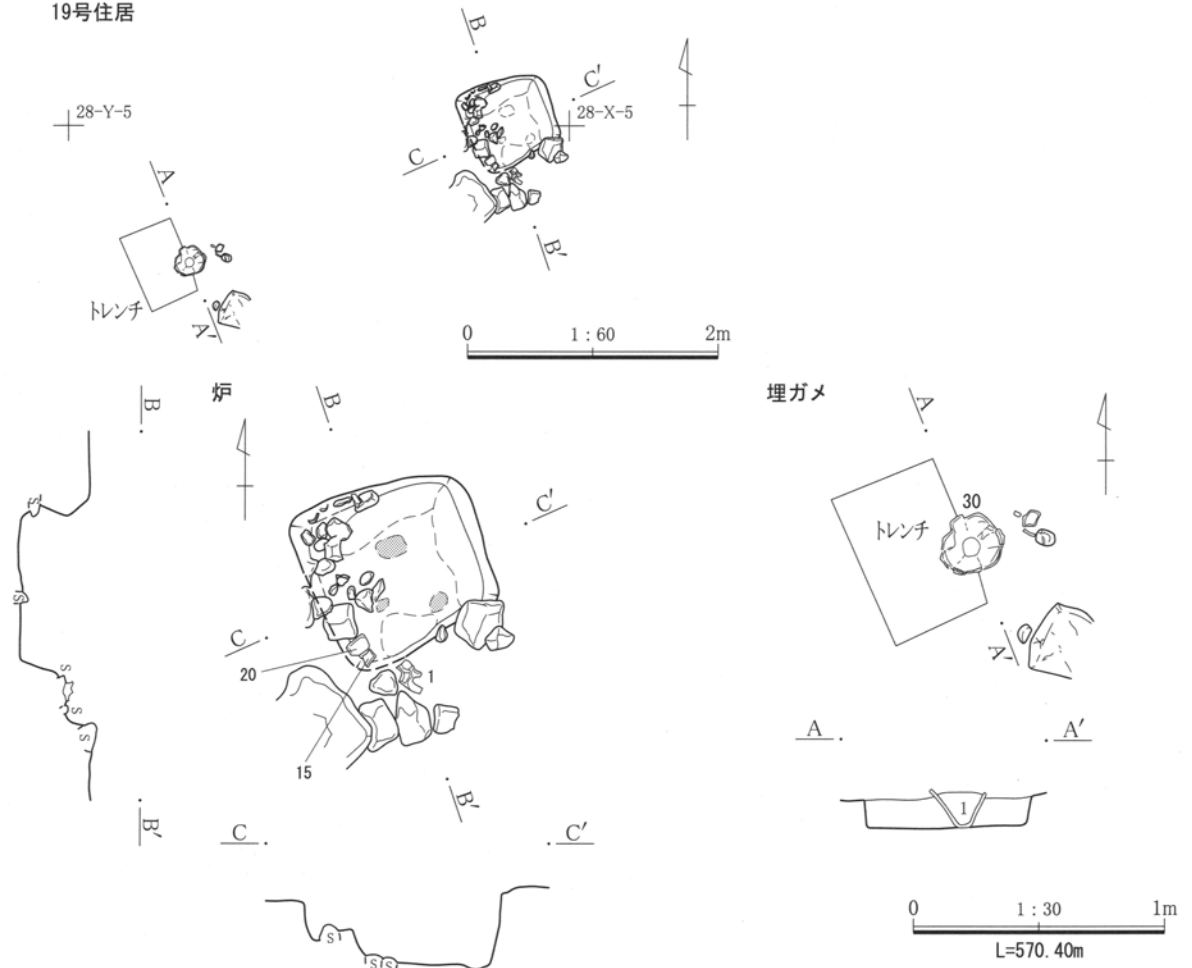
第3章 発見された遺構と遺物

15号・19号

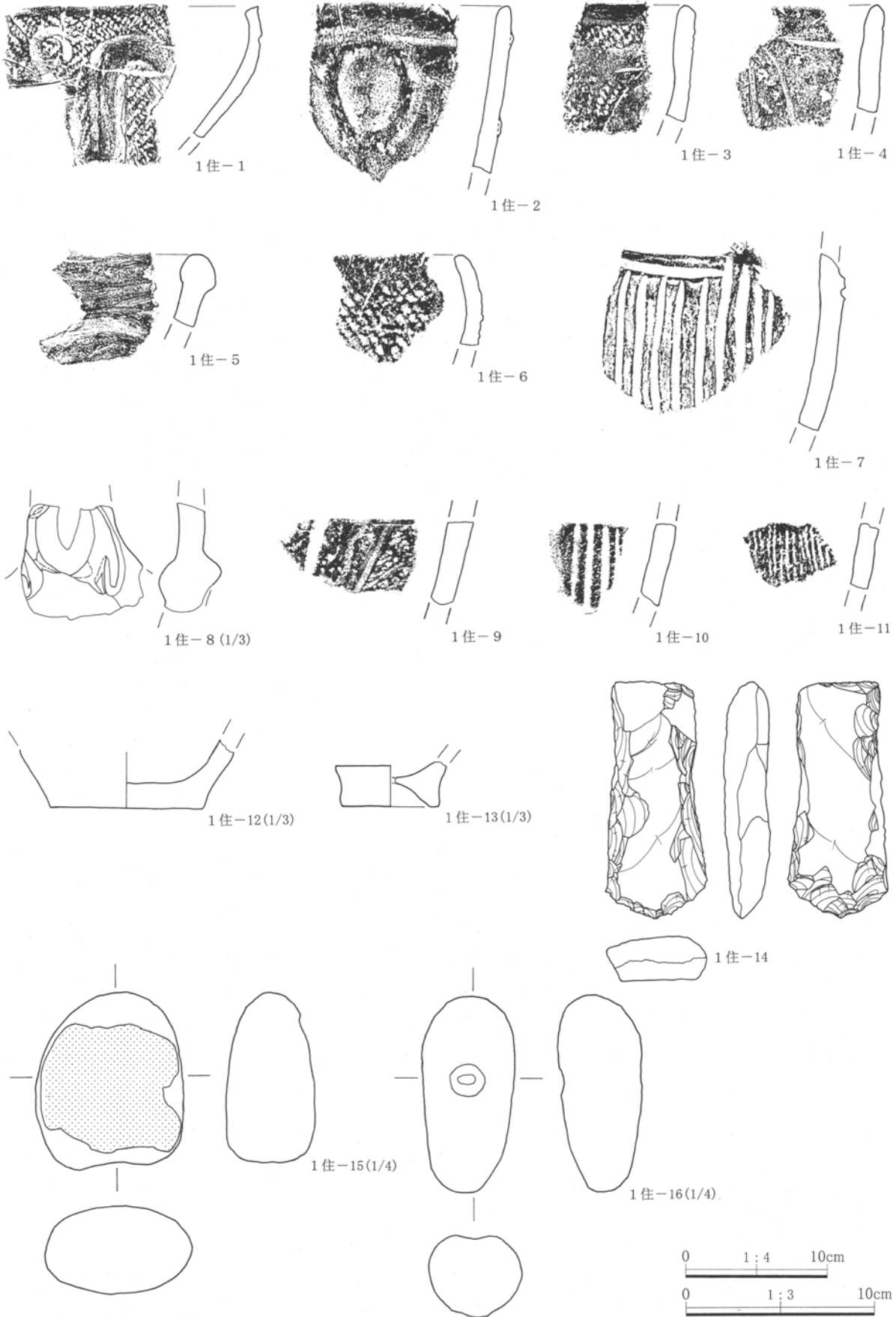
15号住居



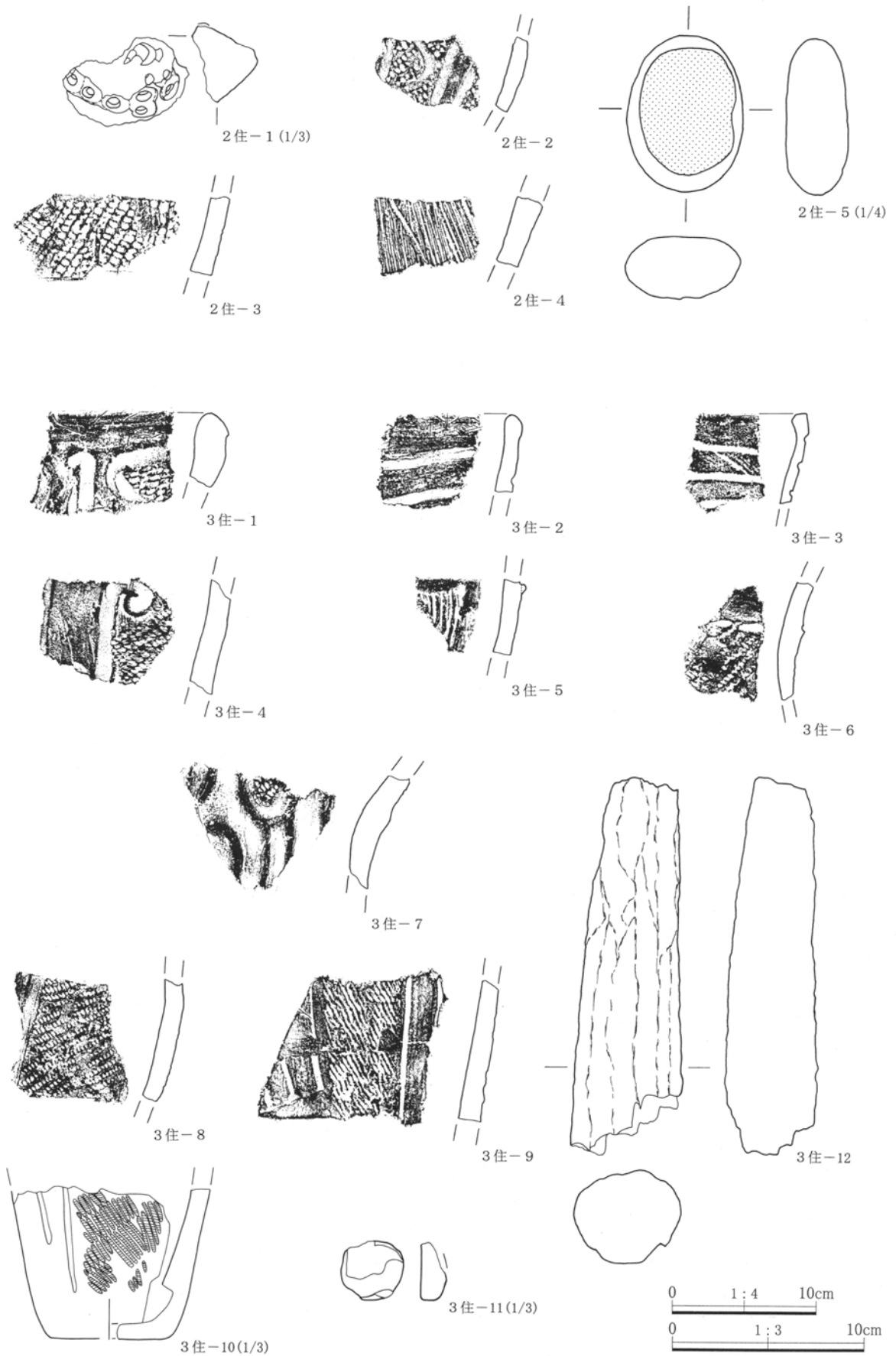
19号住居



第24図 28区15号住居・19号住居

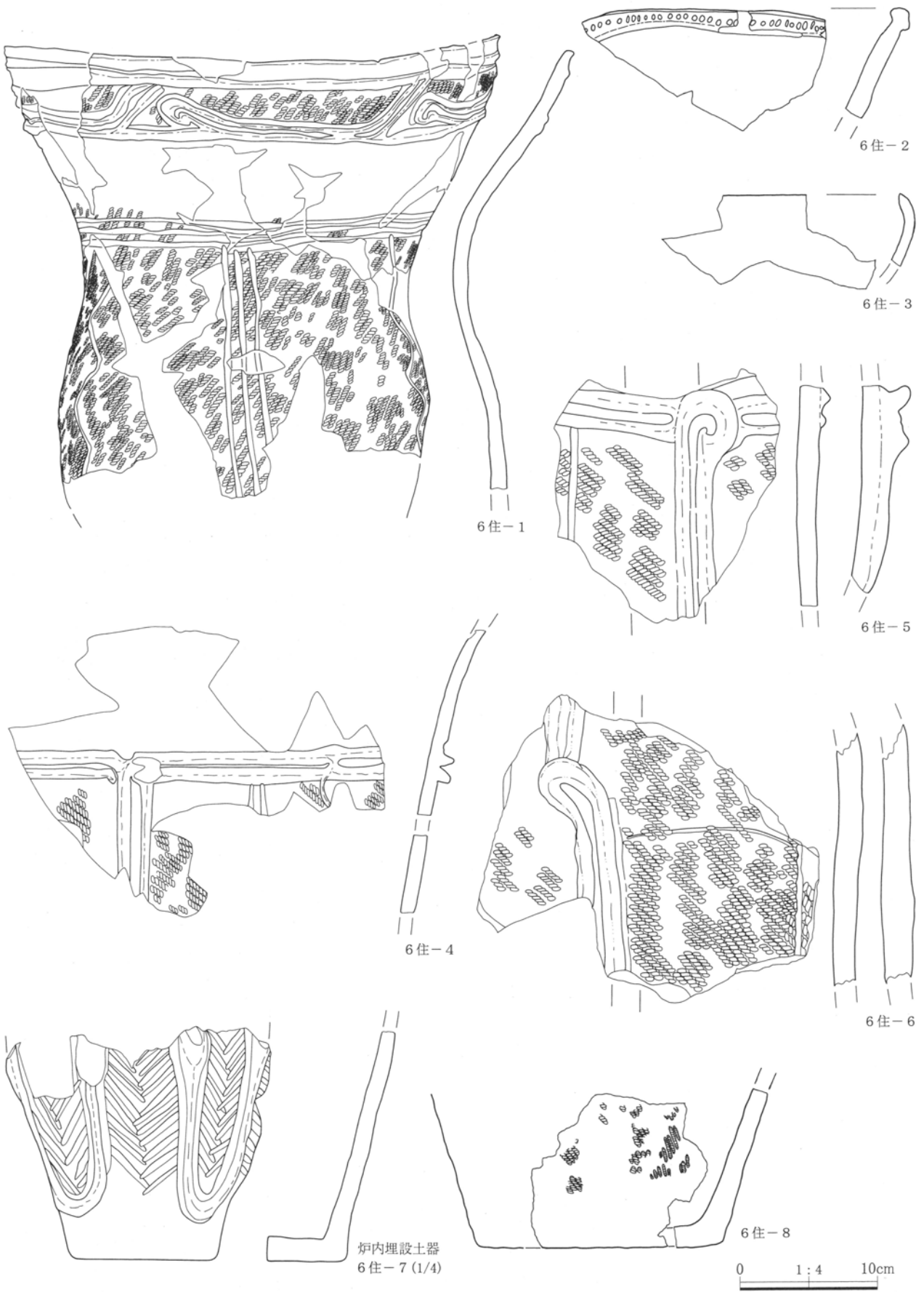


第25図 18区1号住居出土遺物

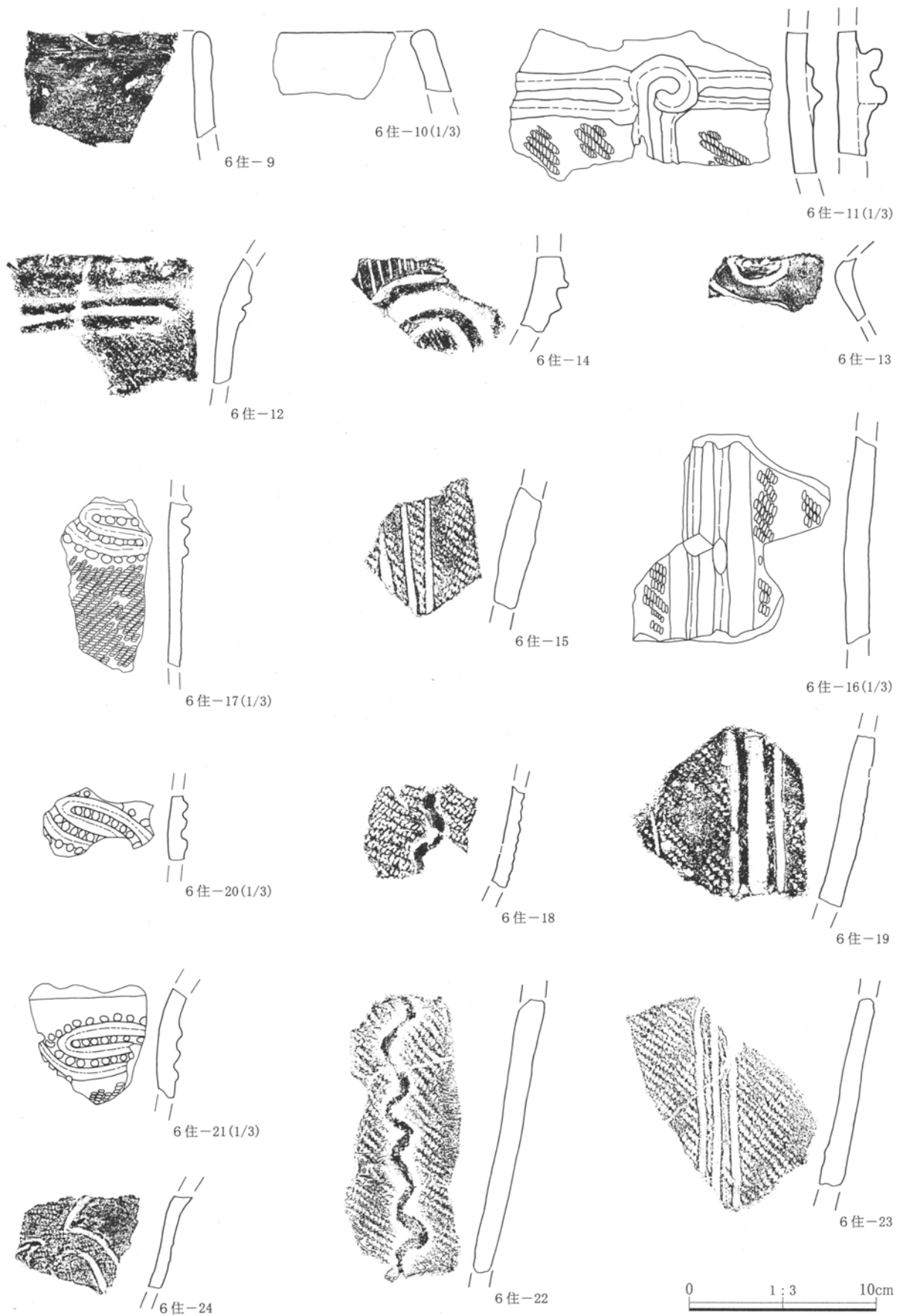


第26図 18区2号、3号住居出土遺物

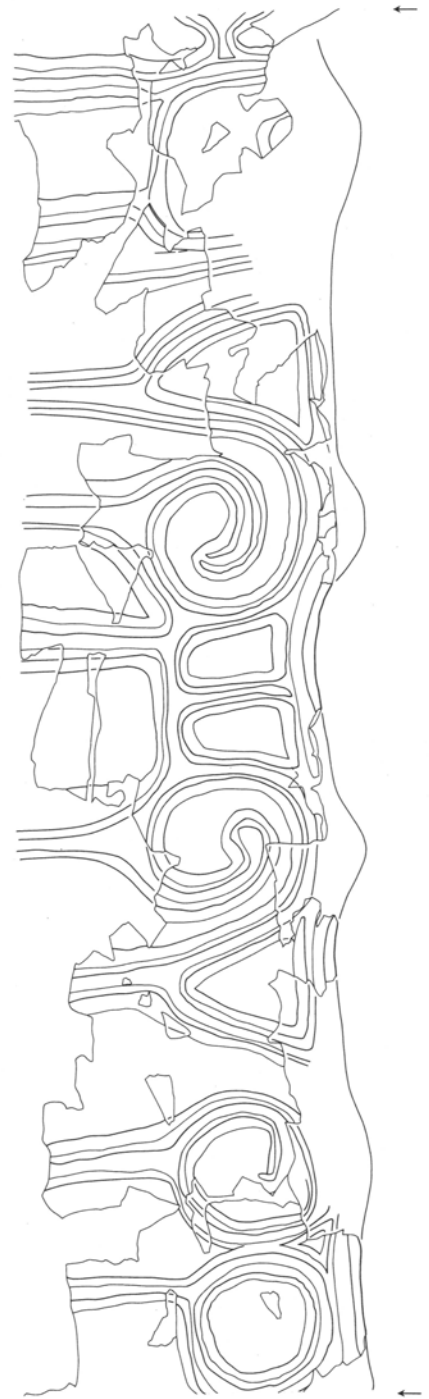
第3節 遺物図



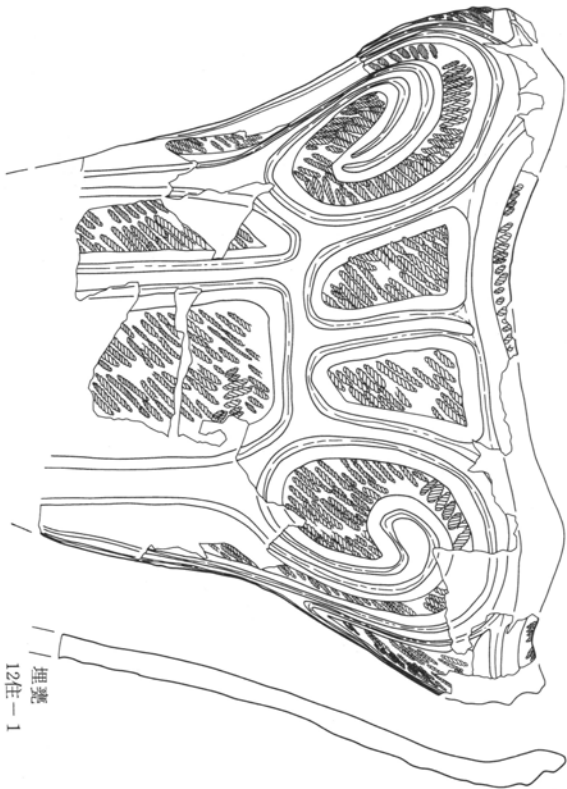
第27図 18区6号住居出土遺物(1)



第28図 18区6号住居出土遺物(2)



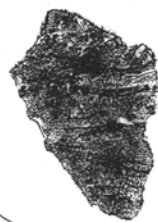
(1/8)



埋藏
12住-1



12住-2



12住-3



12住-4



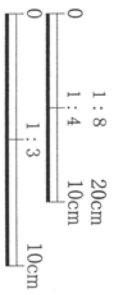
12住-5



12住-6

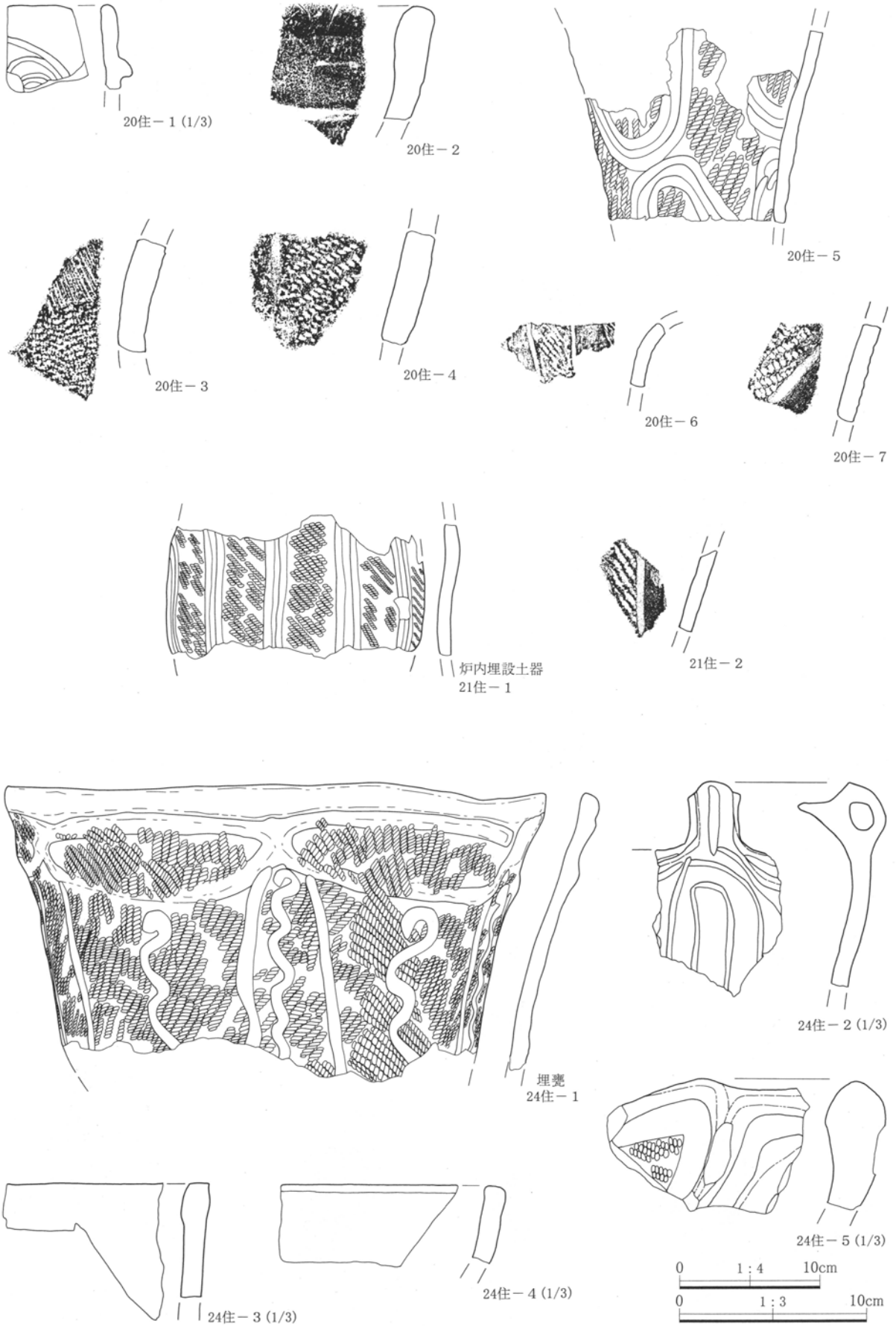


12住-7

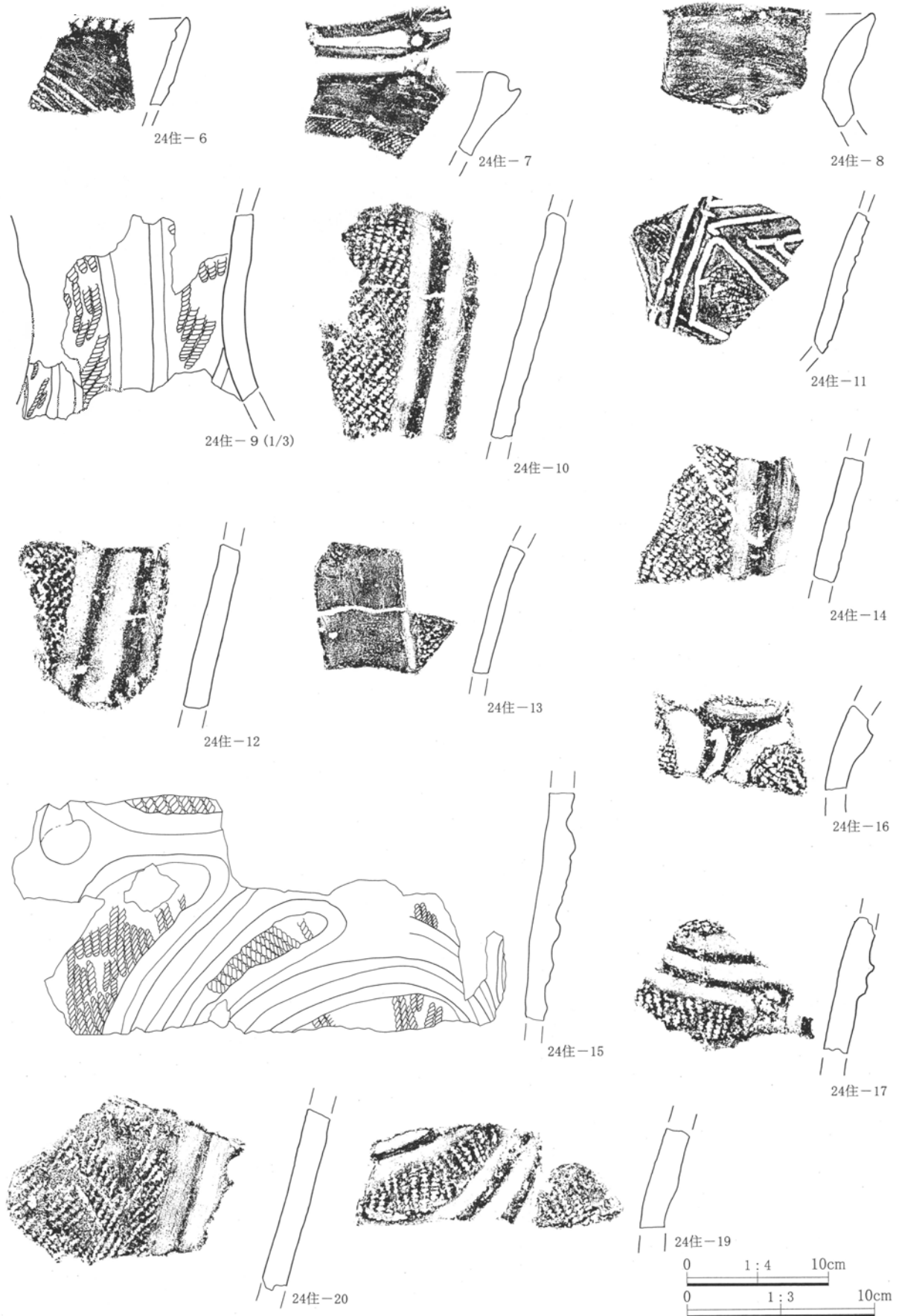


第29図 18区12号住居出土遺物

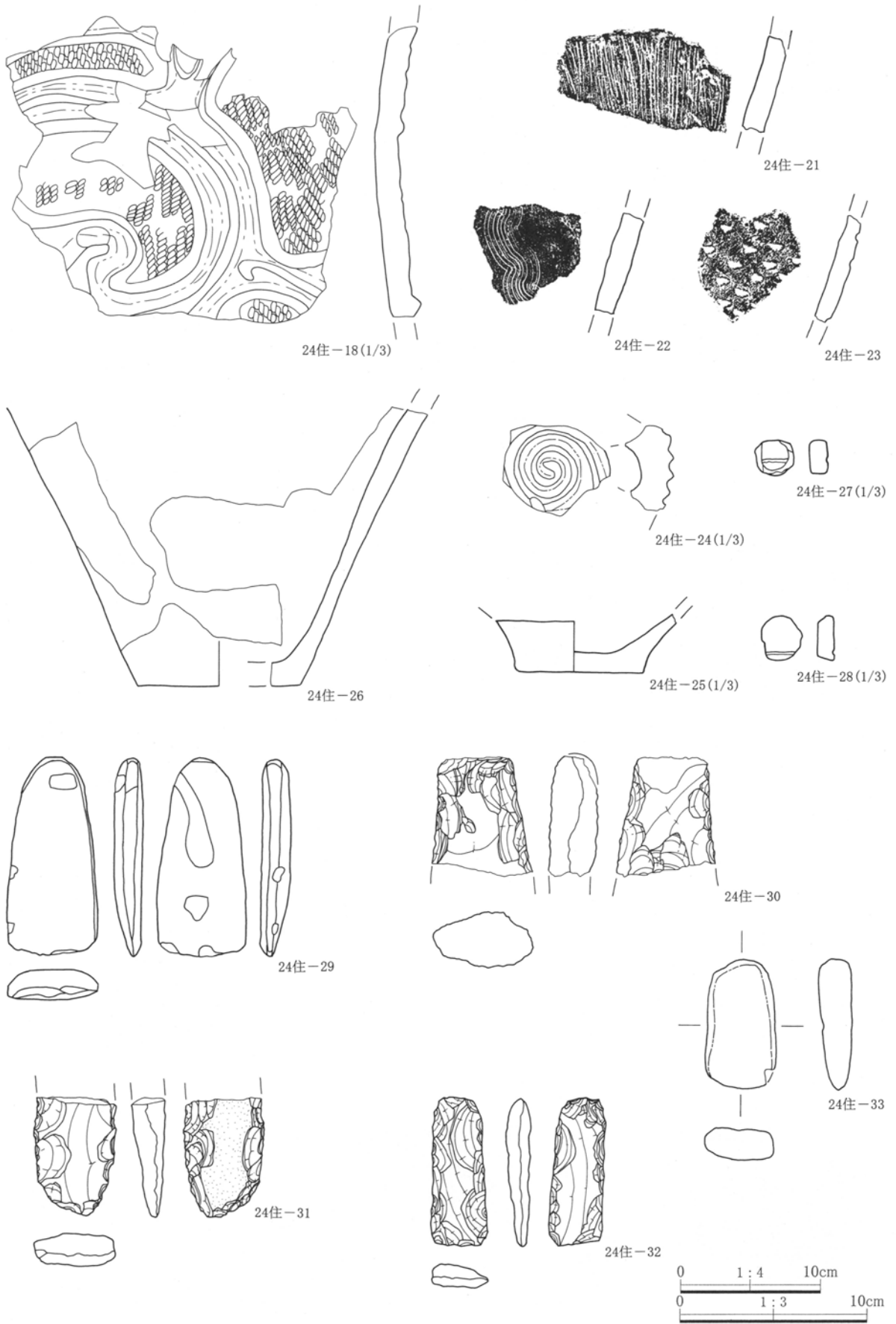
第3章 発見された遺構と遺物



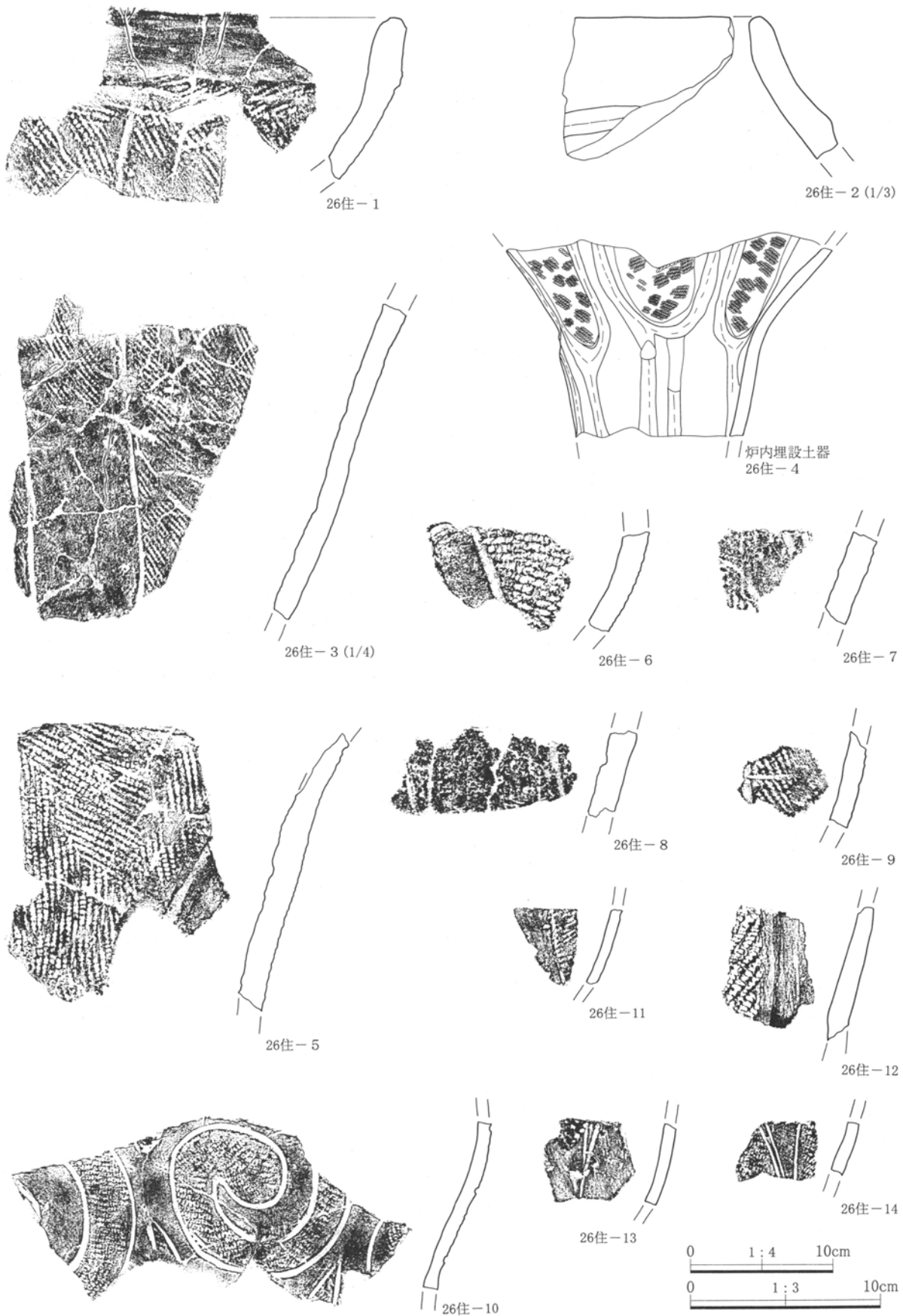
第30図 18区20号、21号、24号住居出土遺物



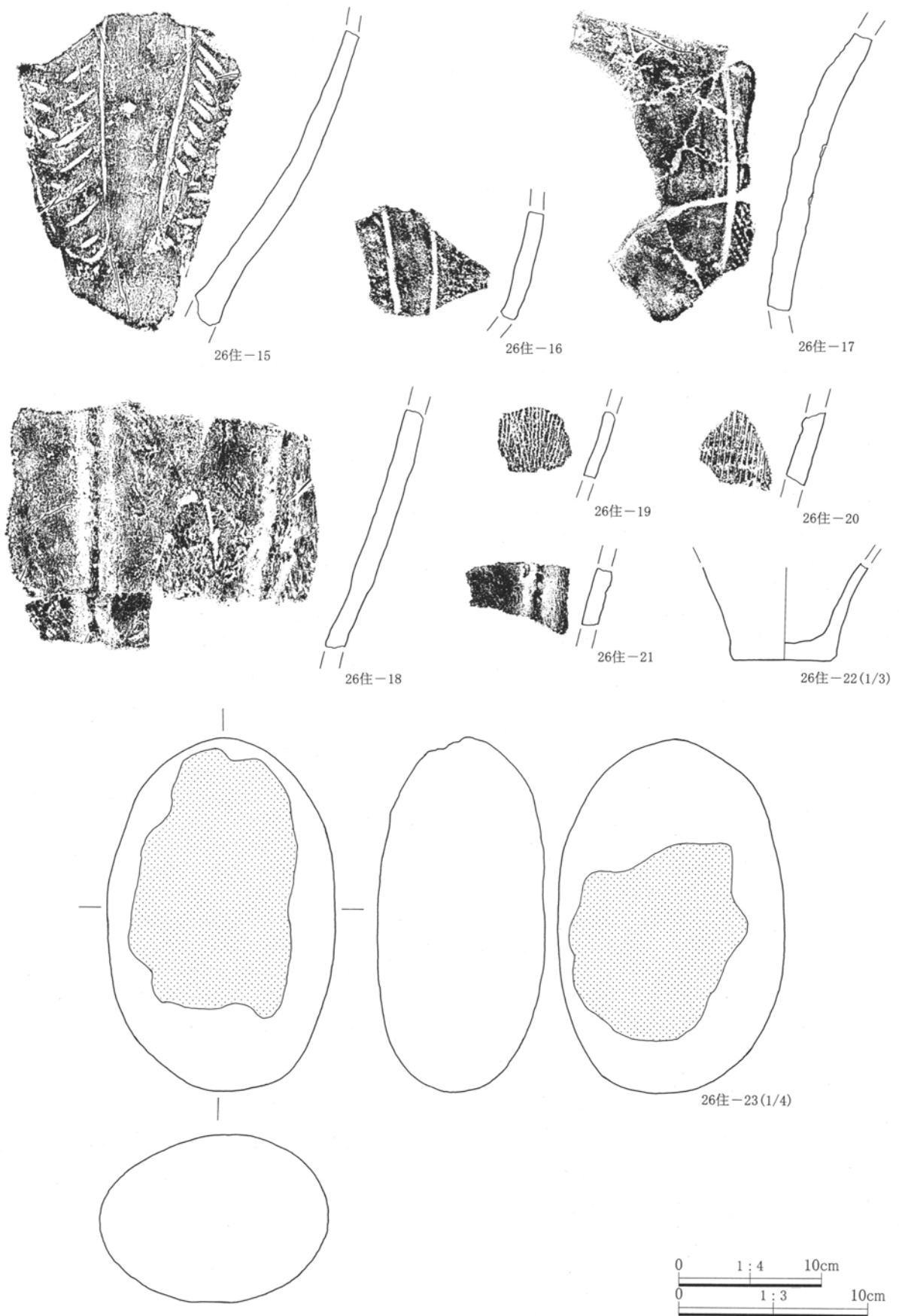
第31図 18区24号住居出土遺物 (2)



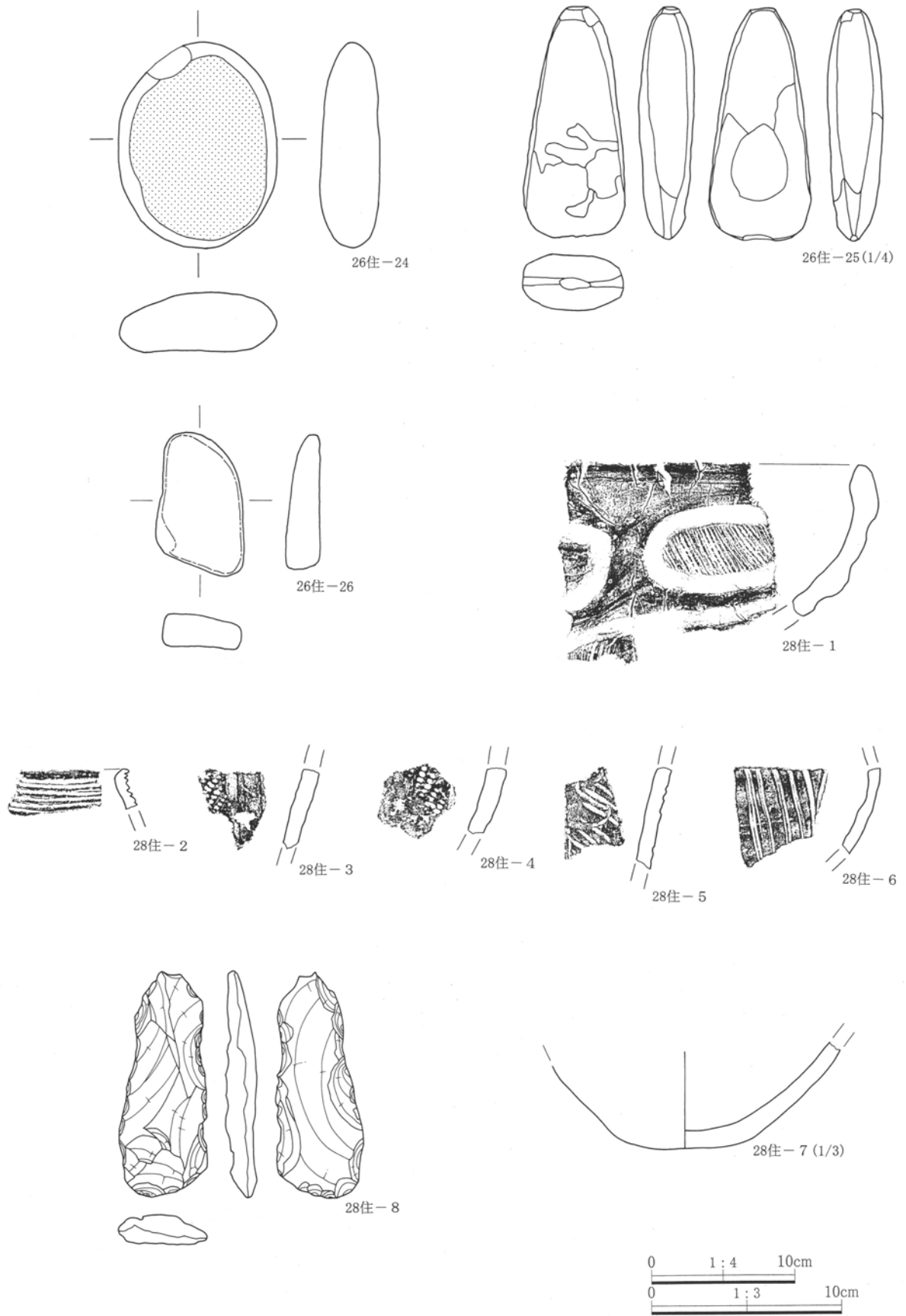
第32図 18区24号住居出土遺物(3)



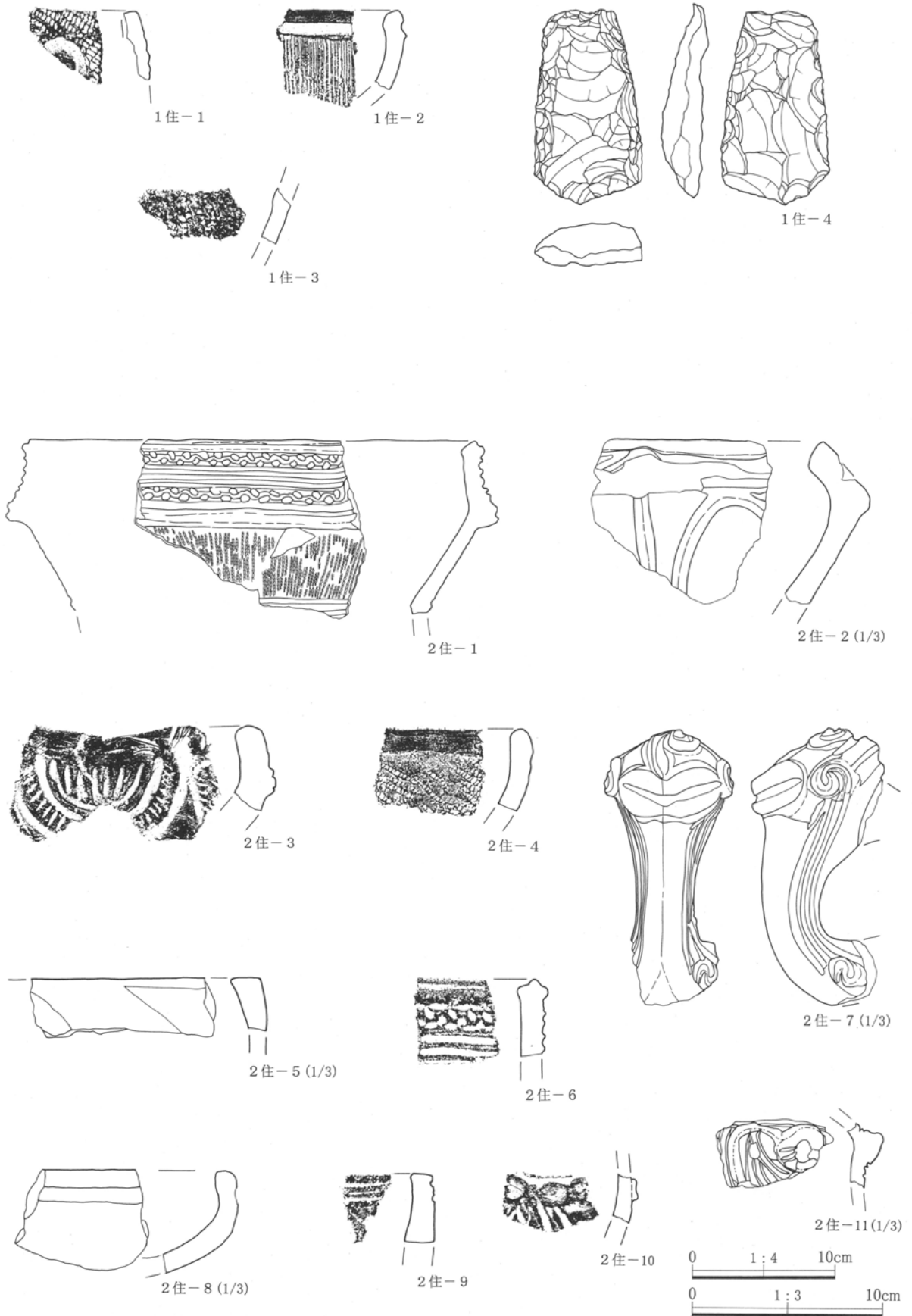
第33図 18区26号住居出土遺物(1)



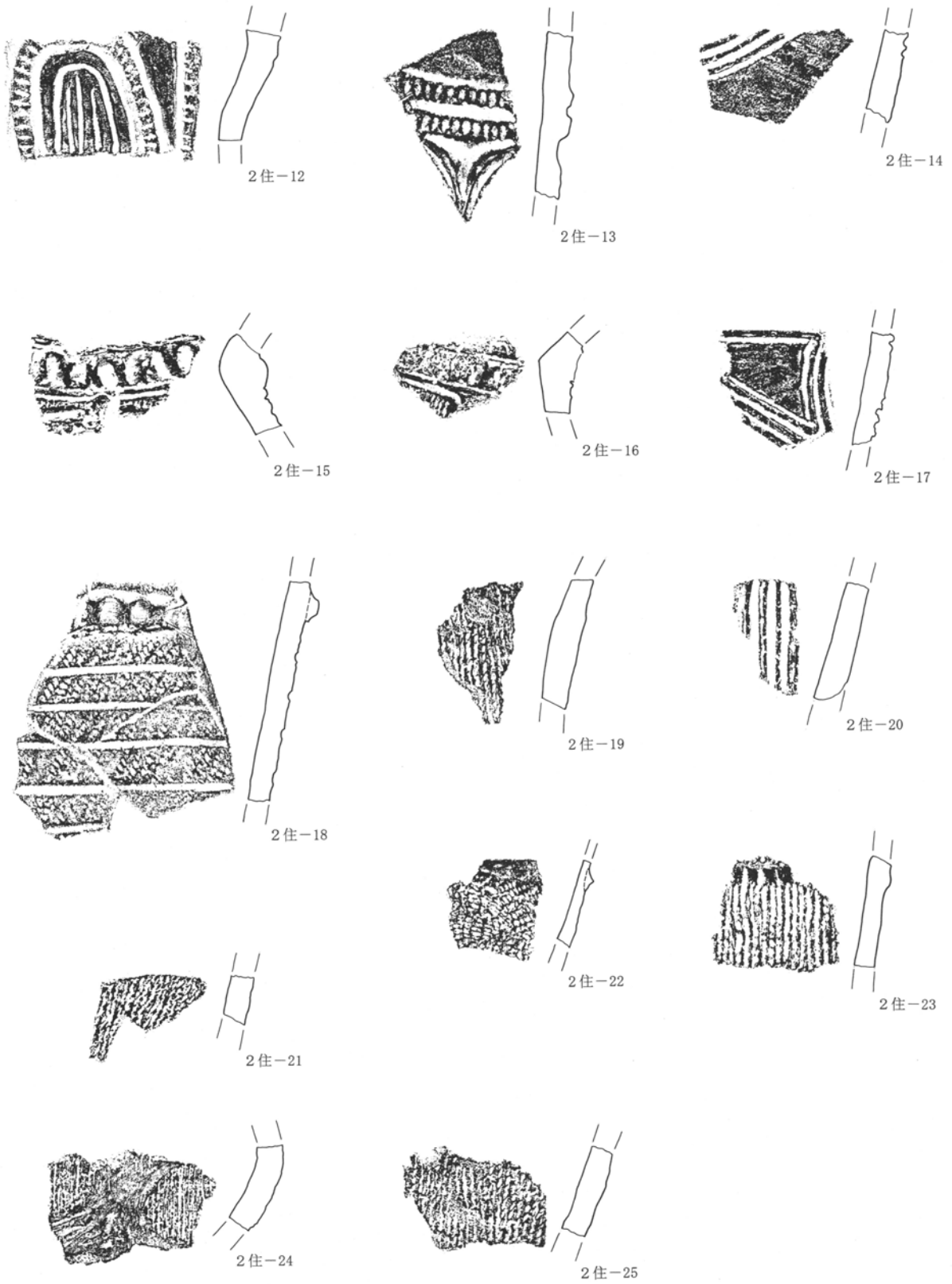
第34図 18区26号住居出土遺物 (2)



第35図 18区26号住居出土遺物(3)・28号住居出土遺物

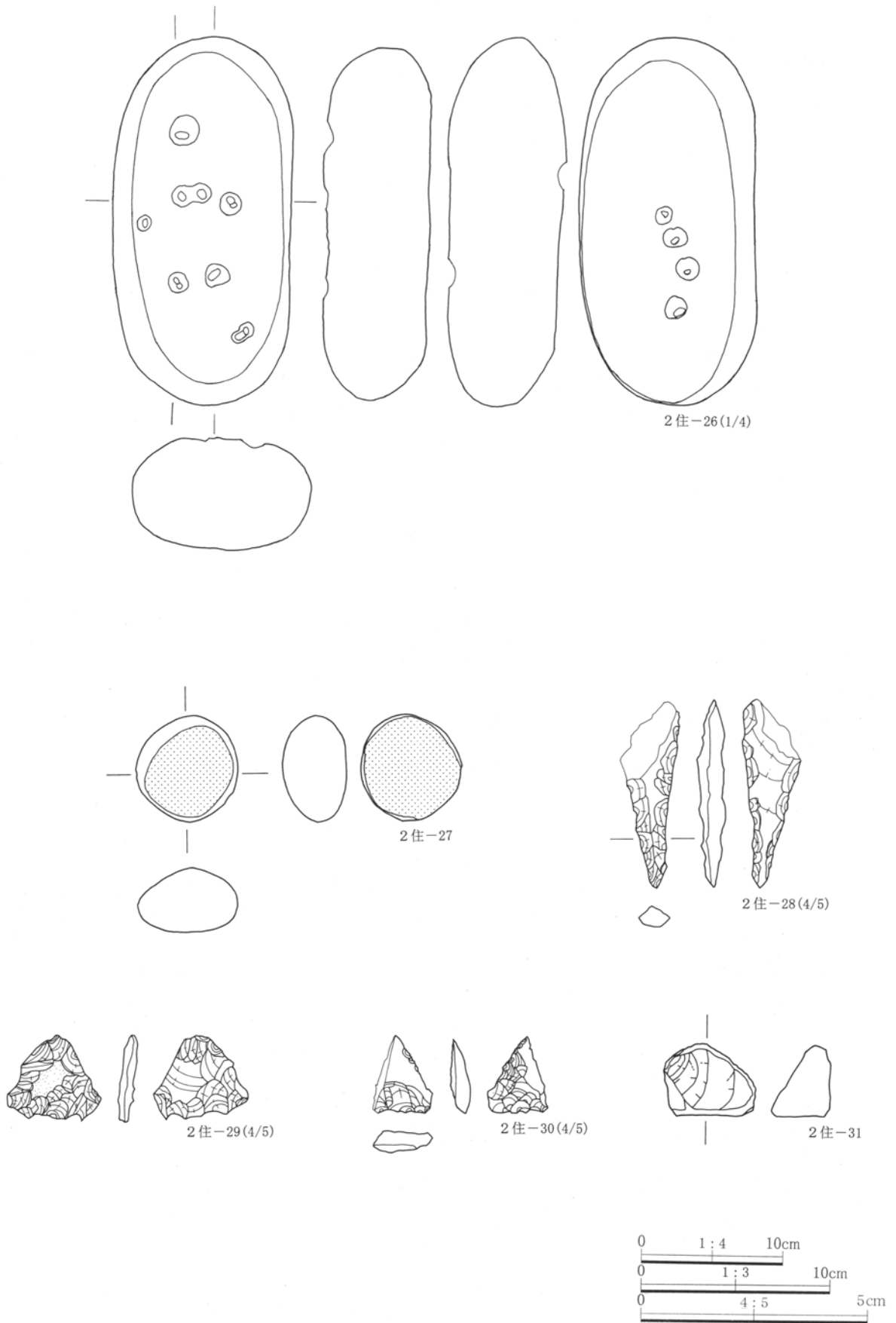


第36図 28区1号、2号住居出土遺物

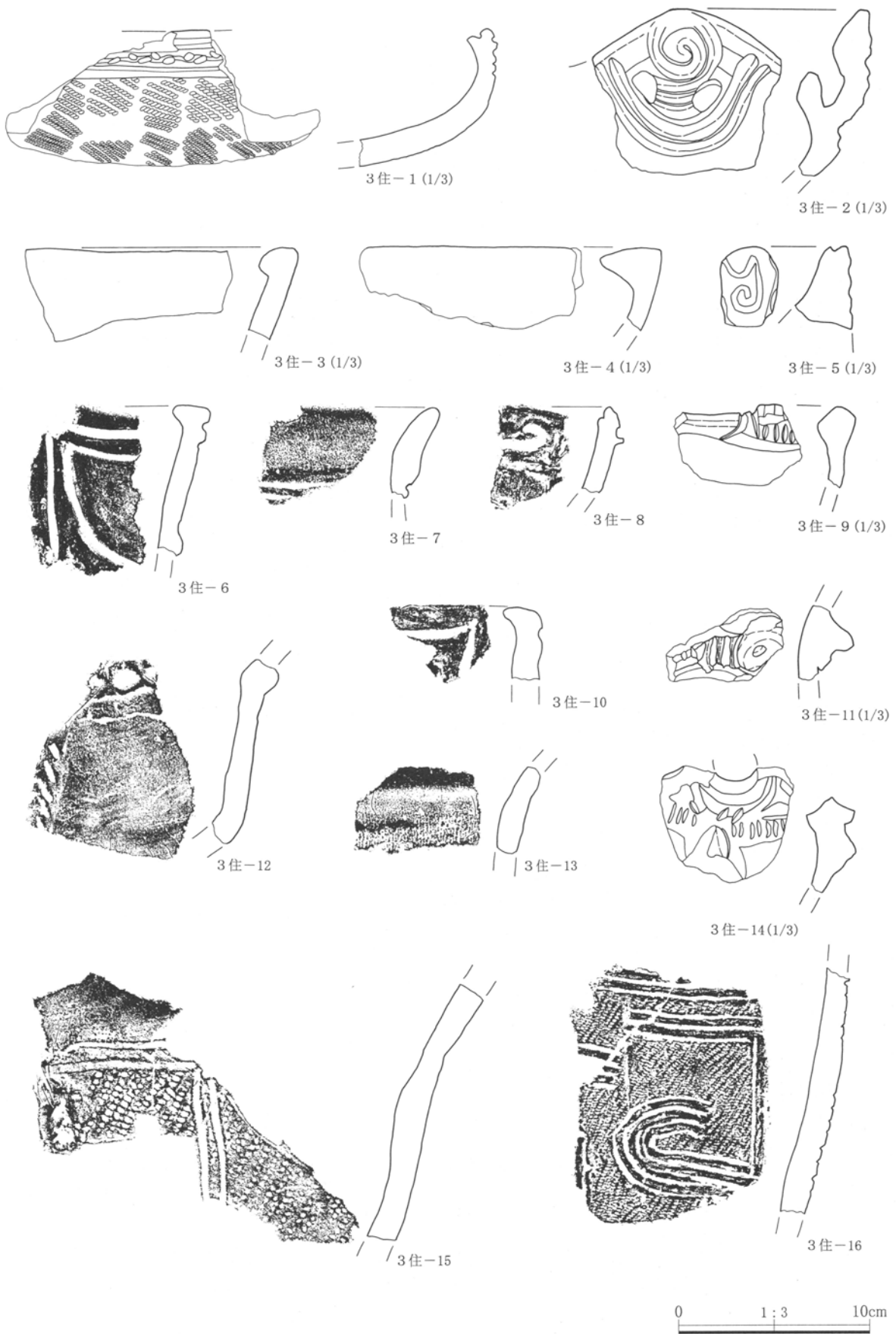


0 1:3 10cm

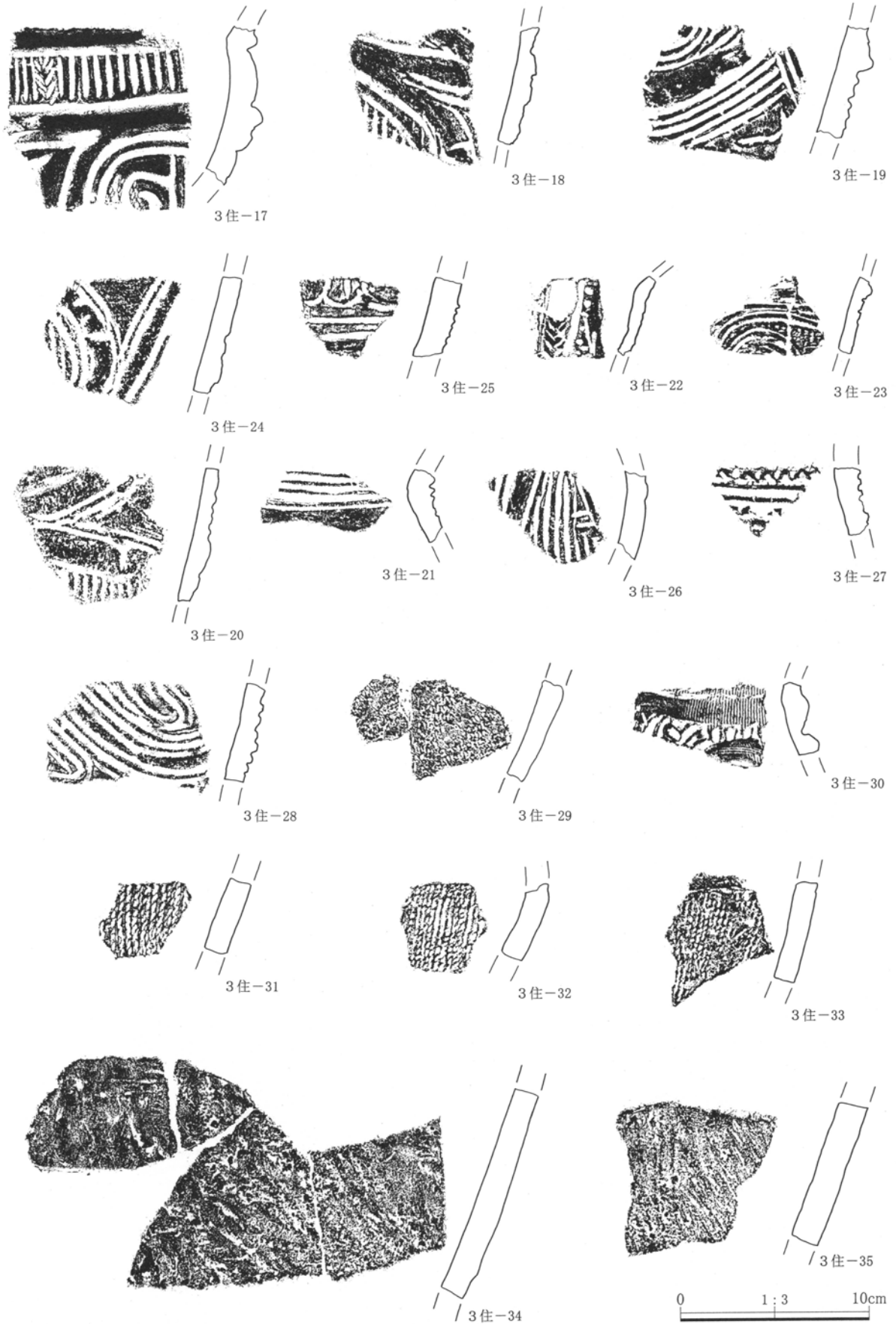
第37图 28区2号住居出土遺物(2)



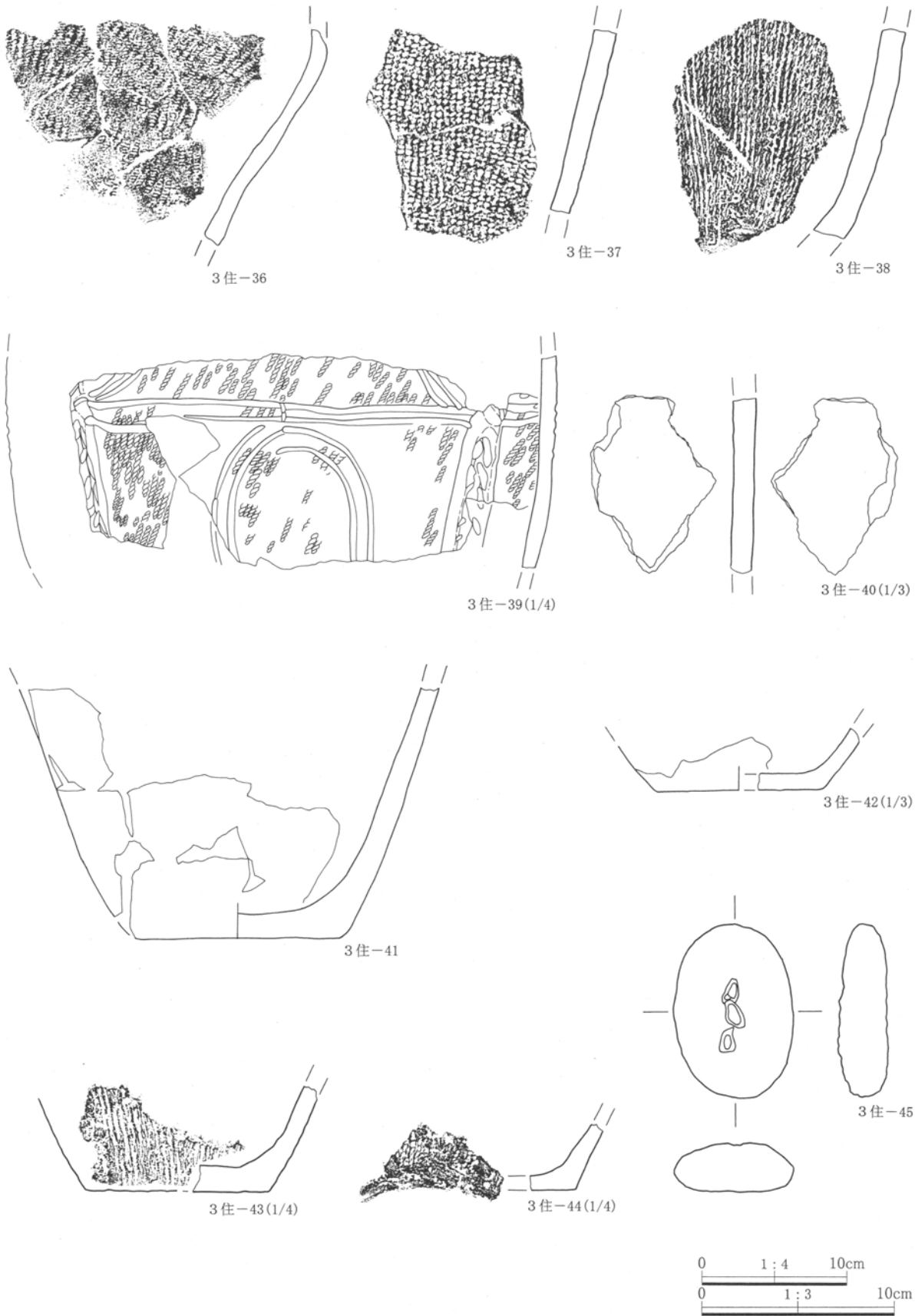
第38図 28区2号住居出土遺物 (3)



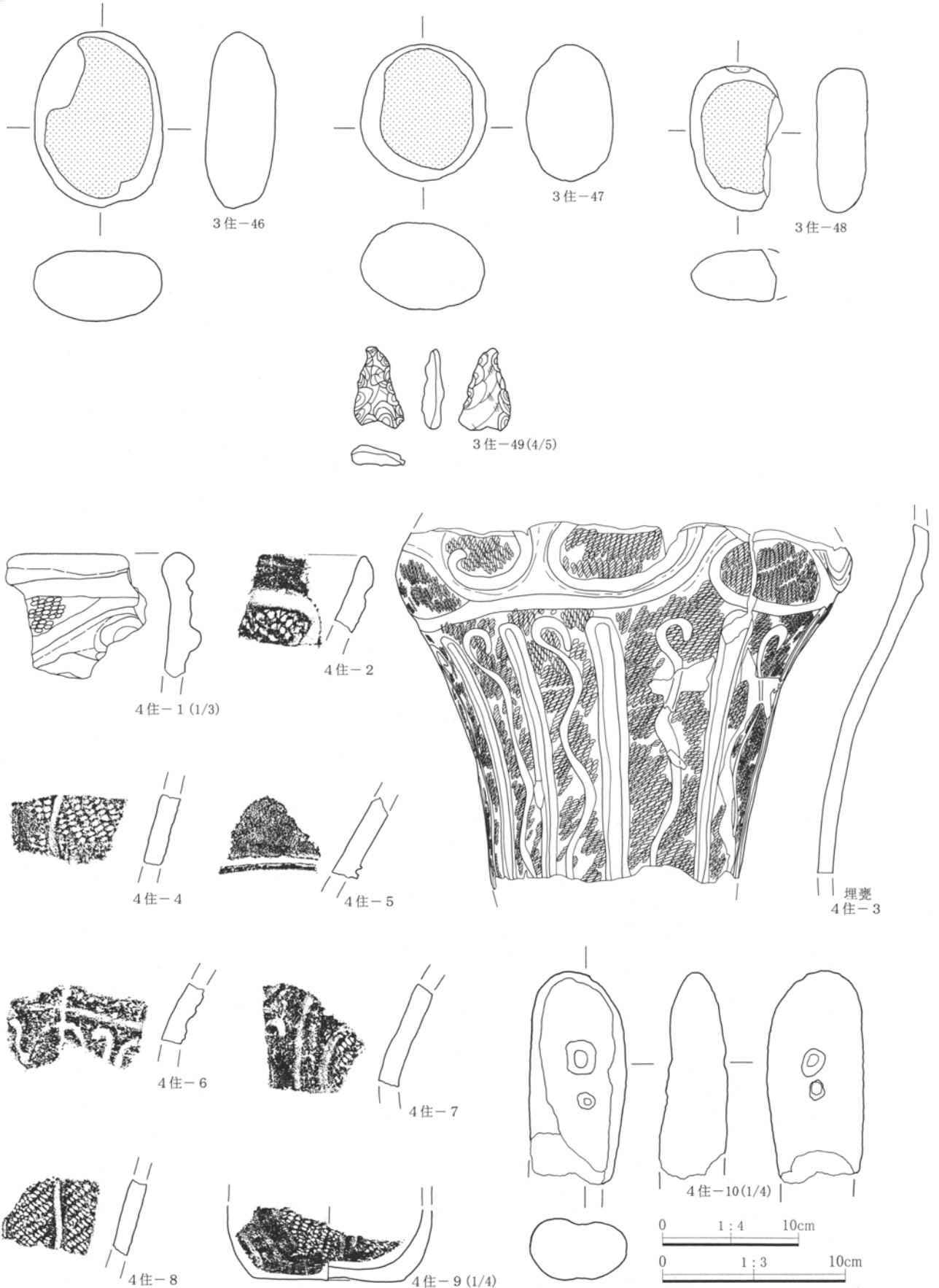
第39図 28区3号住居出土遺物(1)



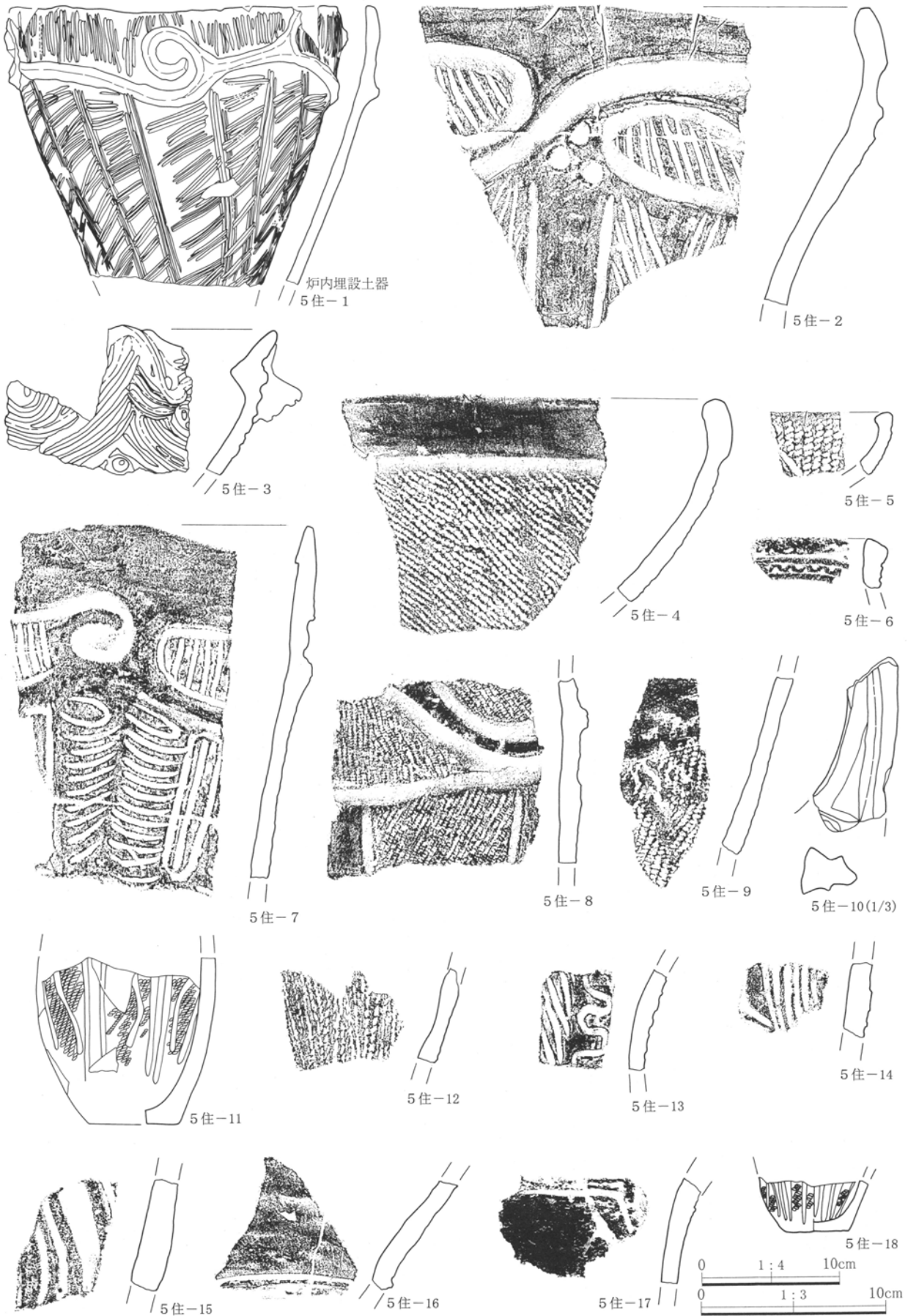
第40図 28区3号住居出土遺物(2)



第41図 28区3号住居出土遺物(3)

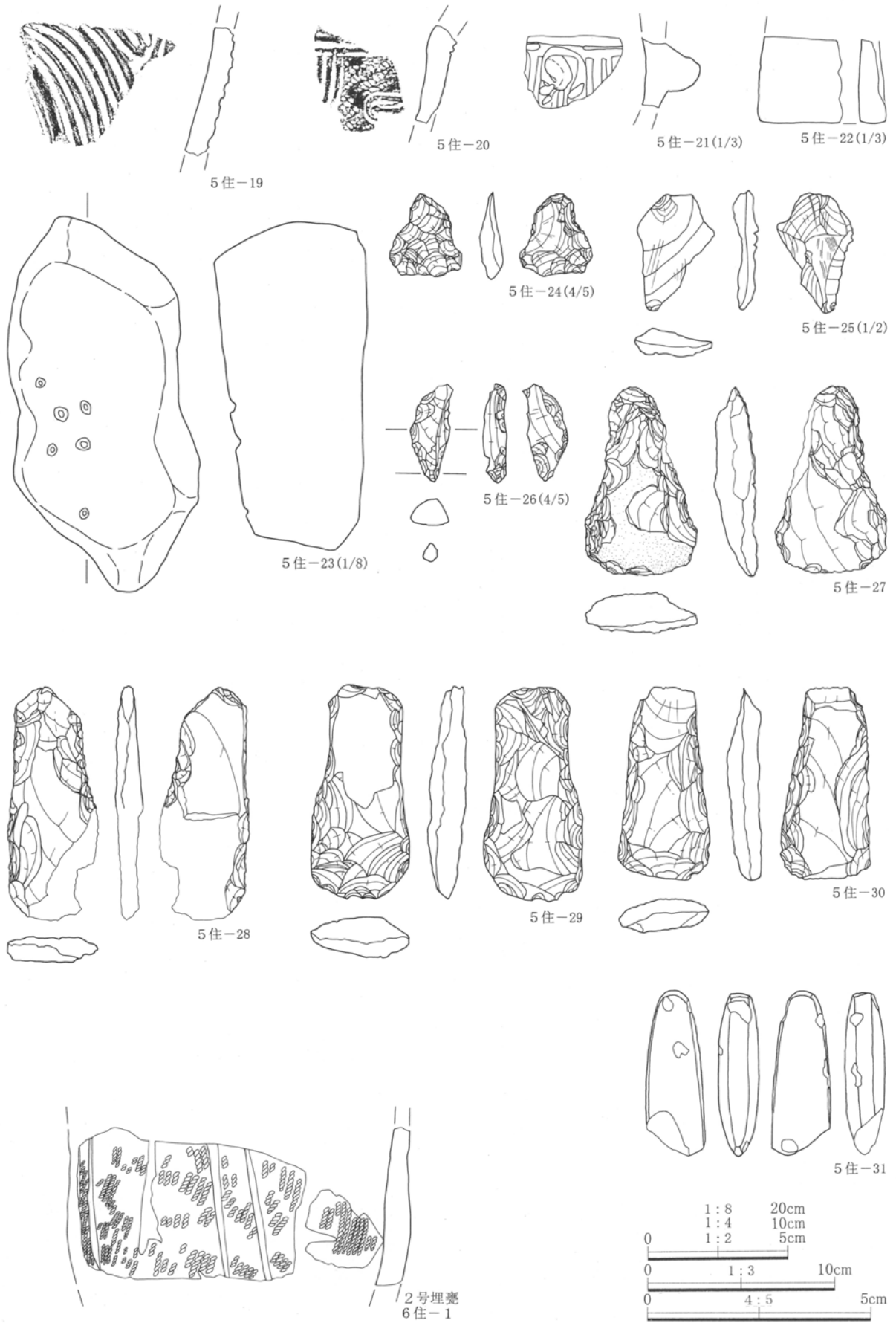


第42図 28区3号住居出土遺物(4)・4号住居出土遺物

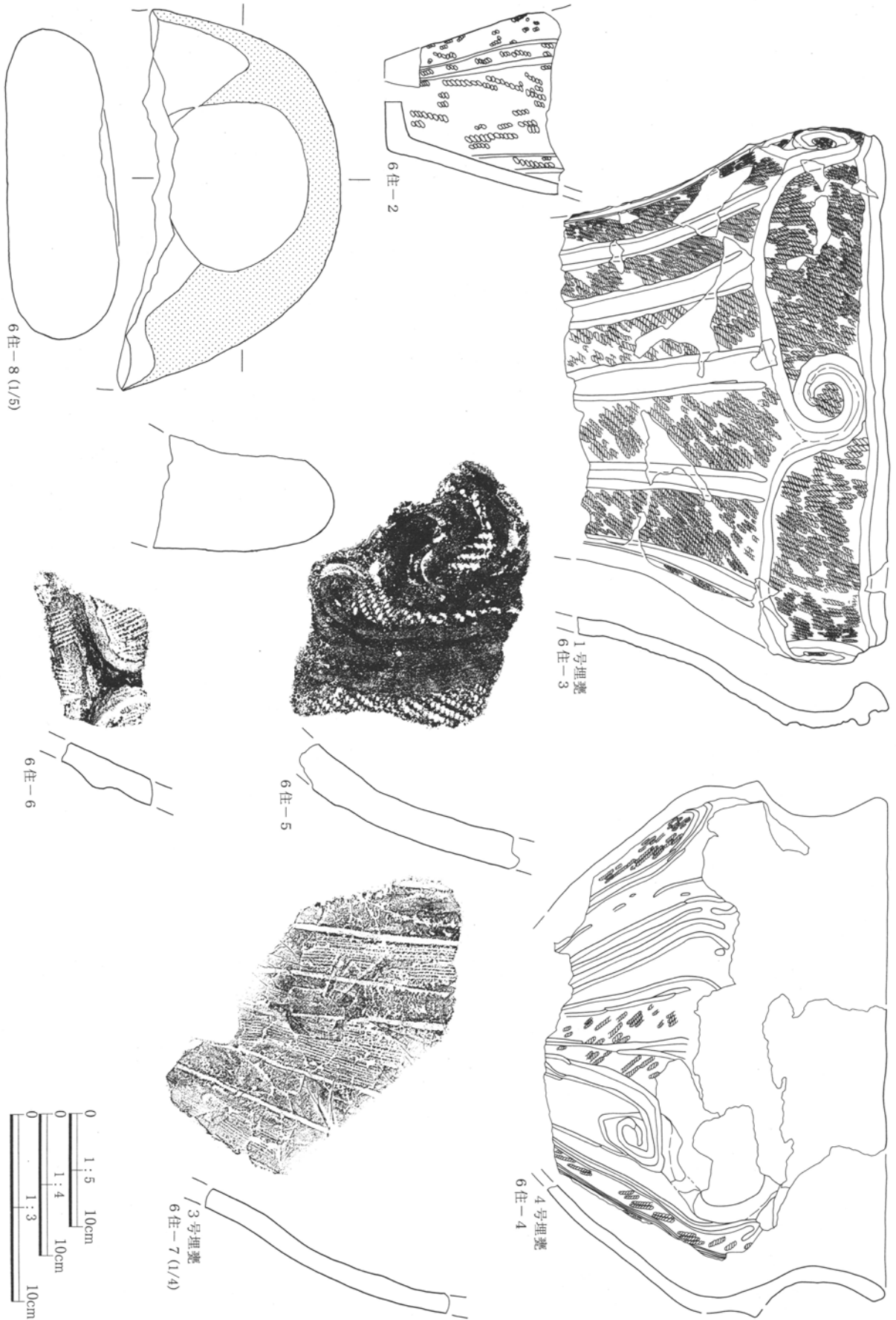


第43図 28区5号住居出土遺物(1)

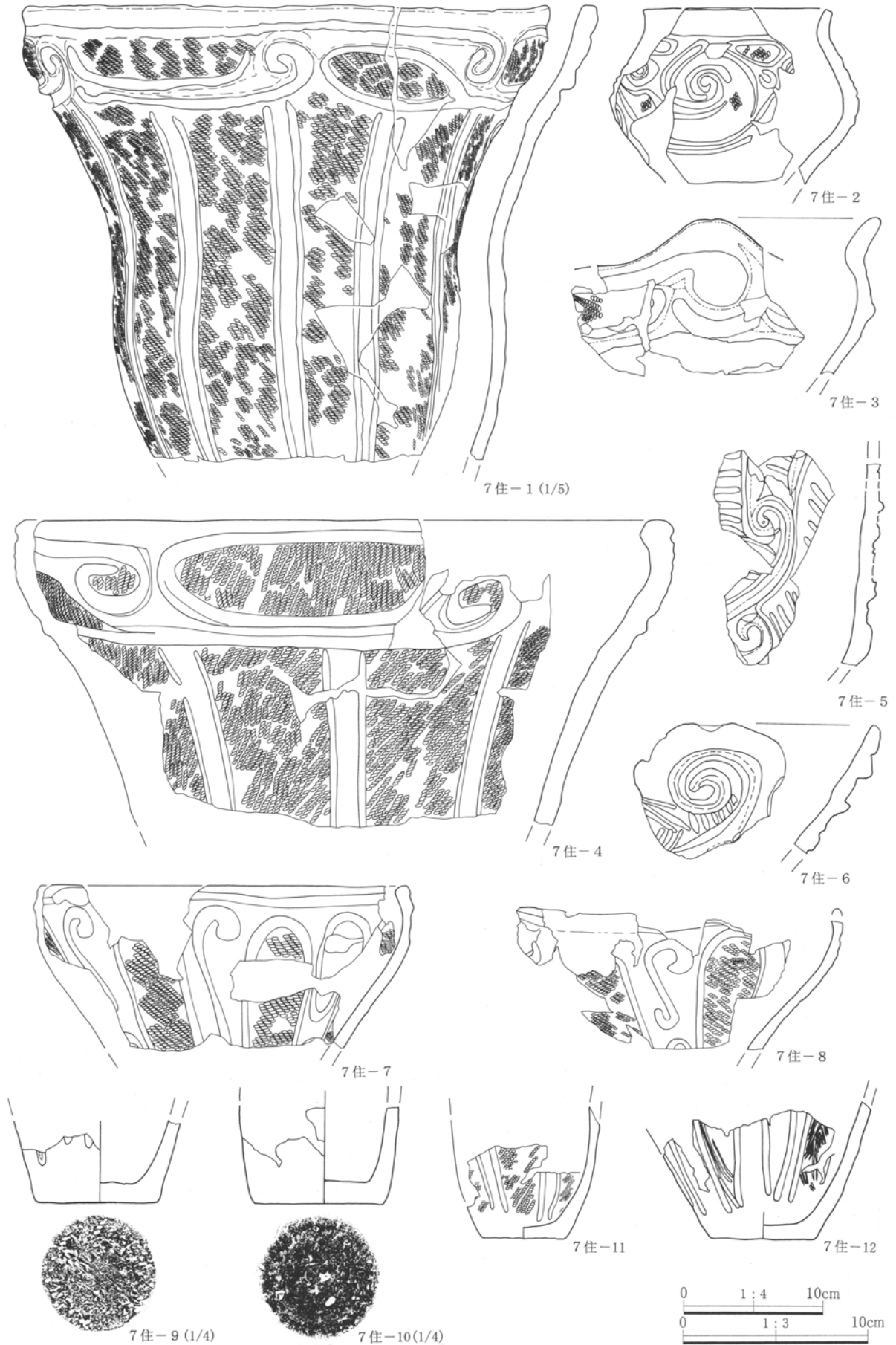
第3章 発見された遺構と遺物



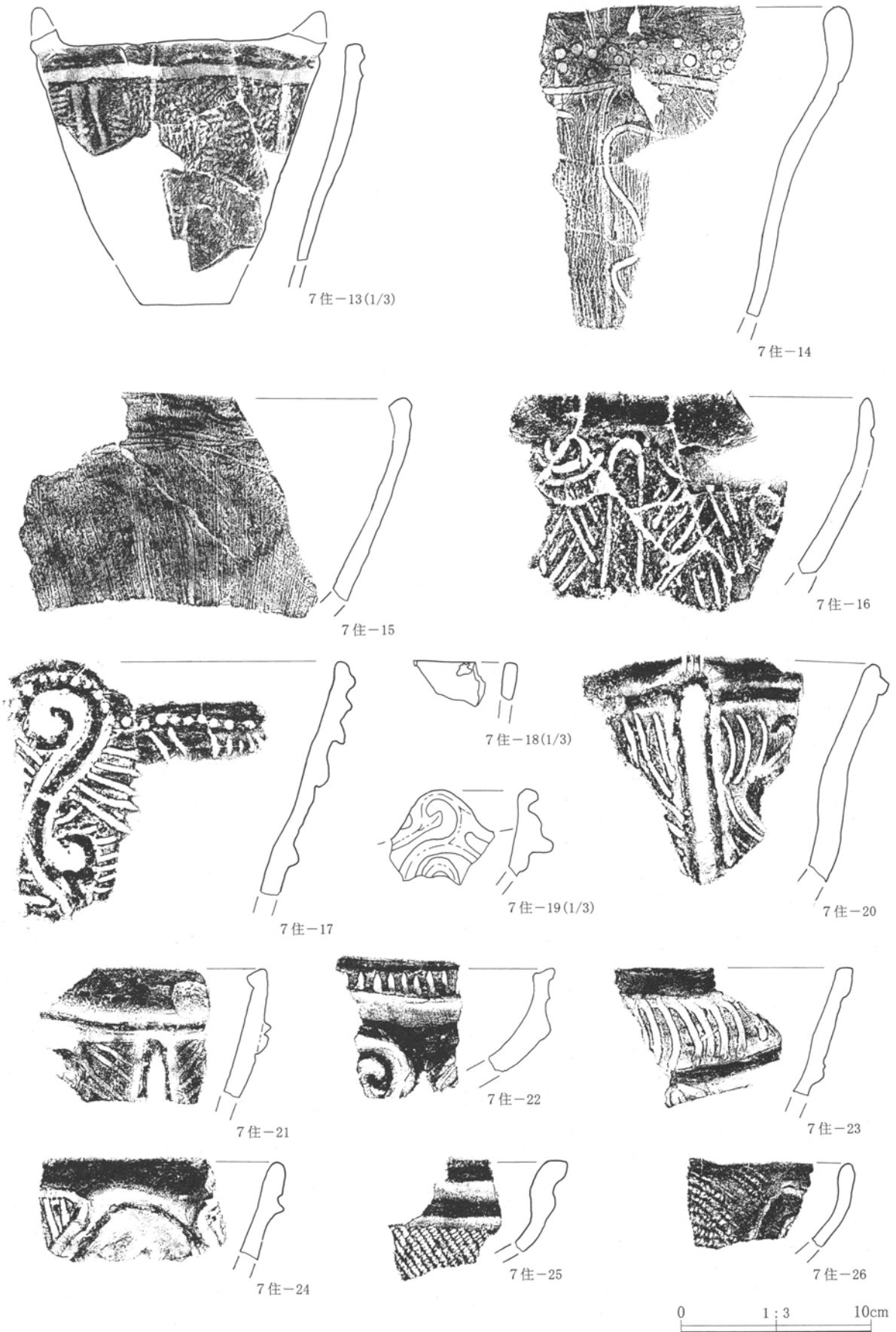
第44図 28区5号住居出土遺物(2)・6号住居出土遺物(1)



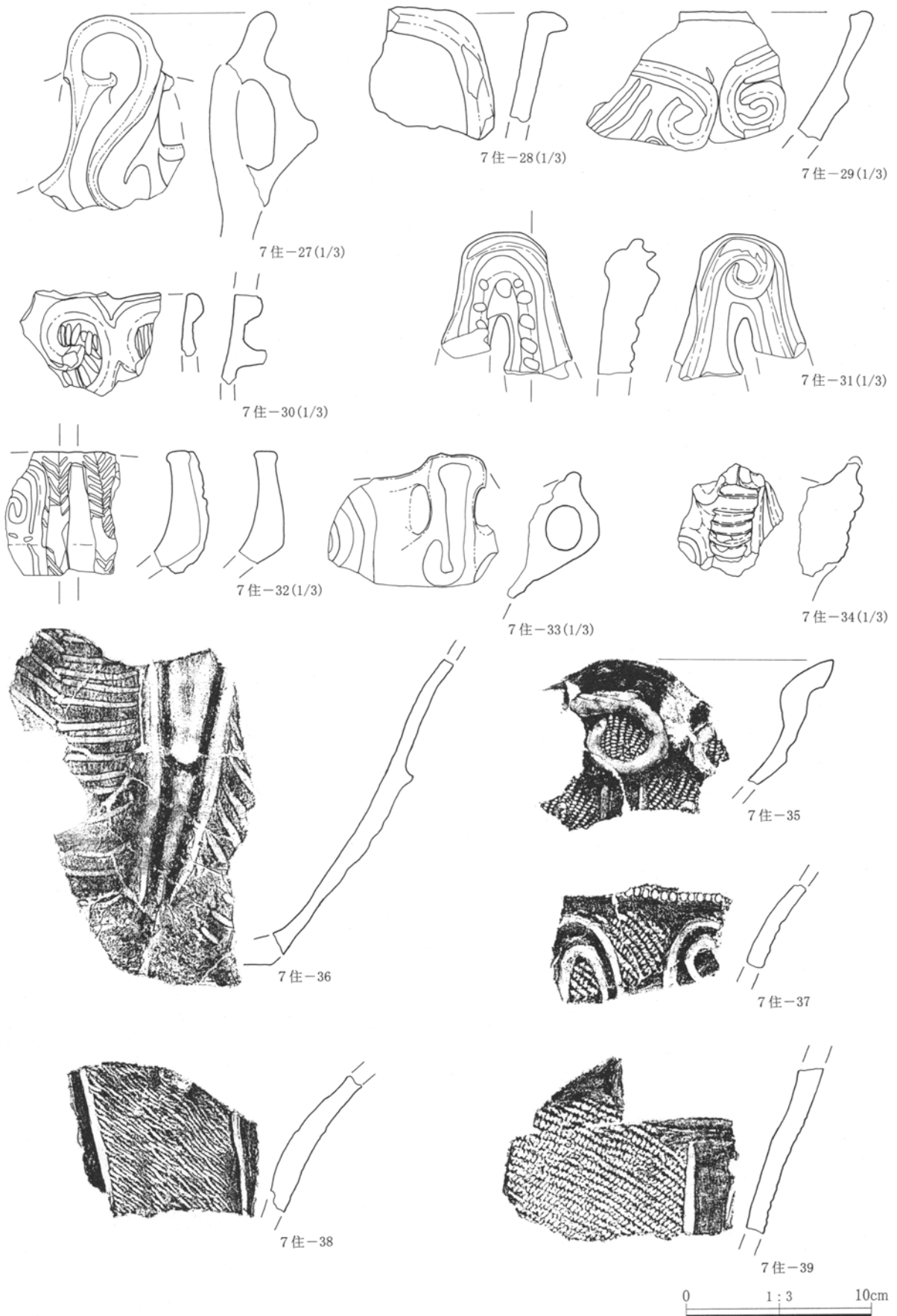
第45図 28区6号住居出土遺物 (2)



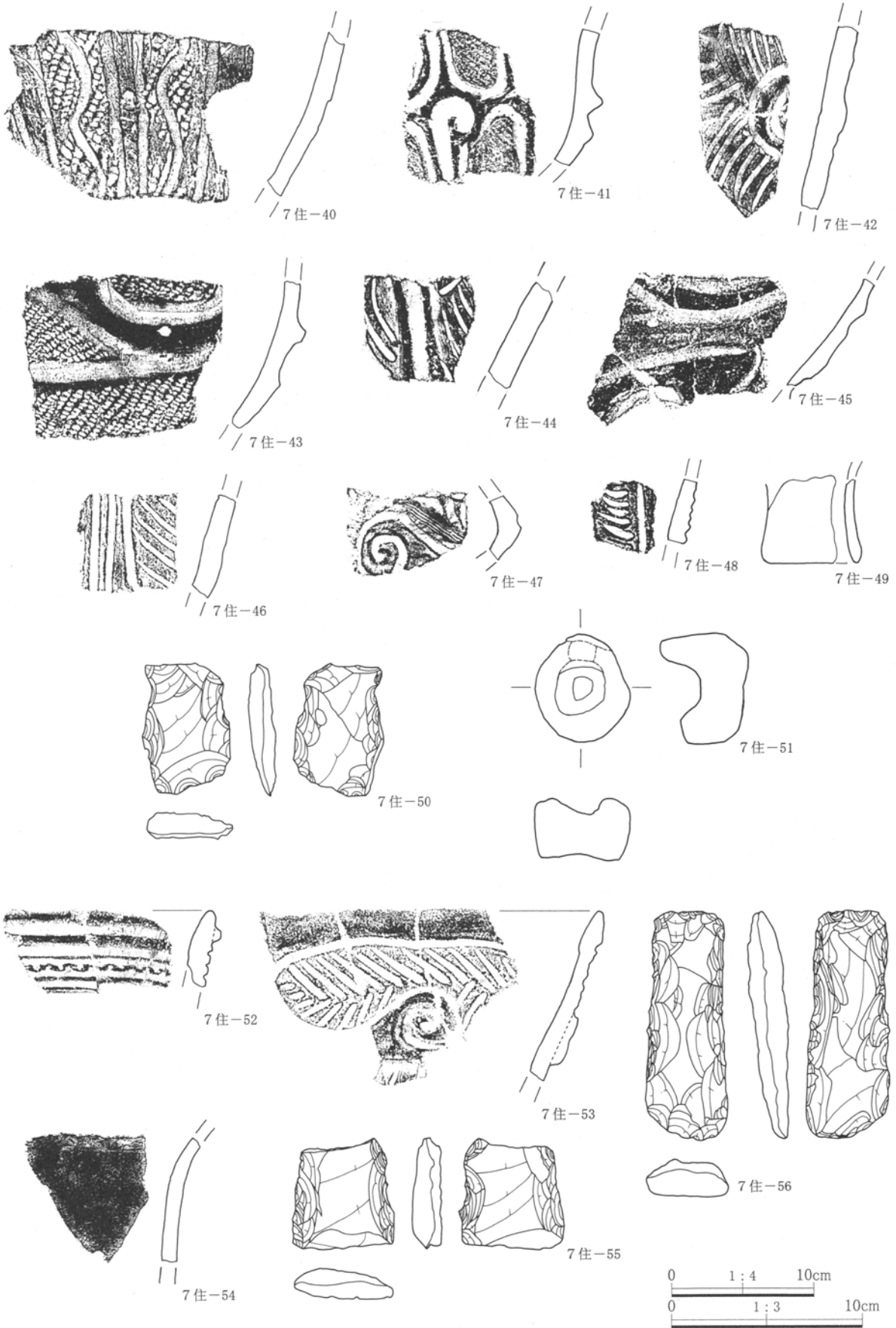
第46図 28区7号住居出土遺物(1)



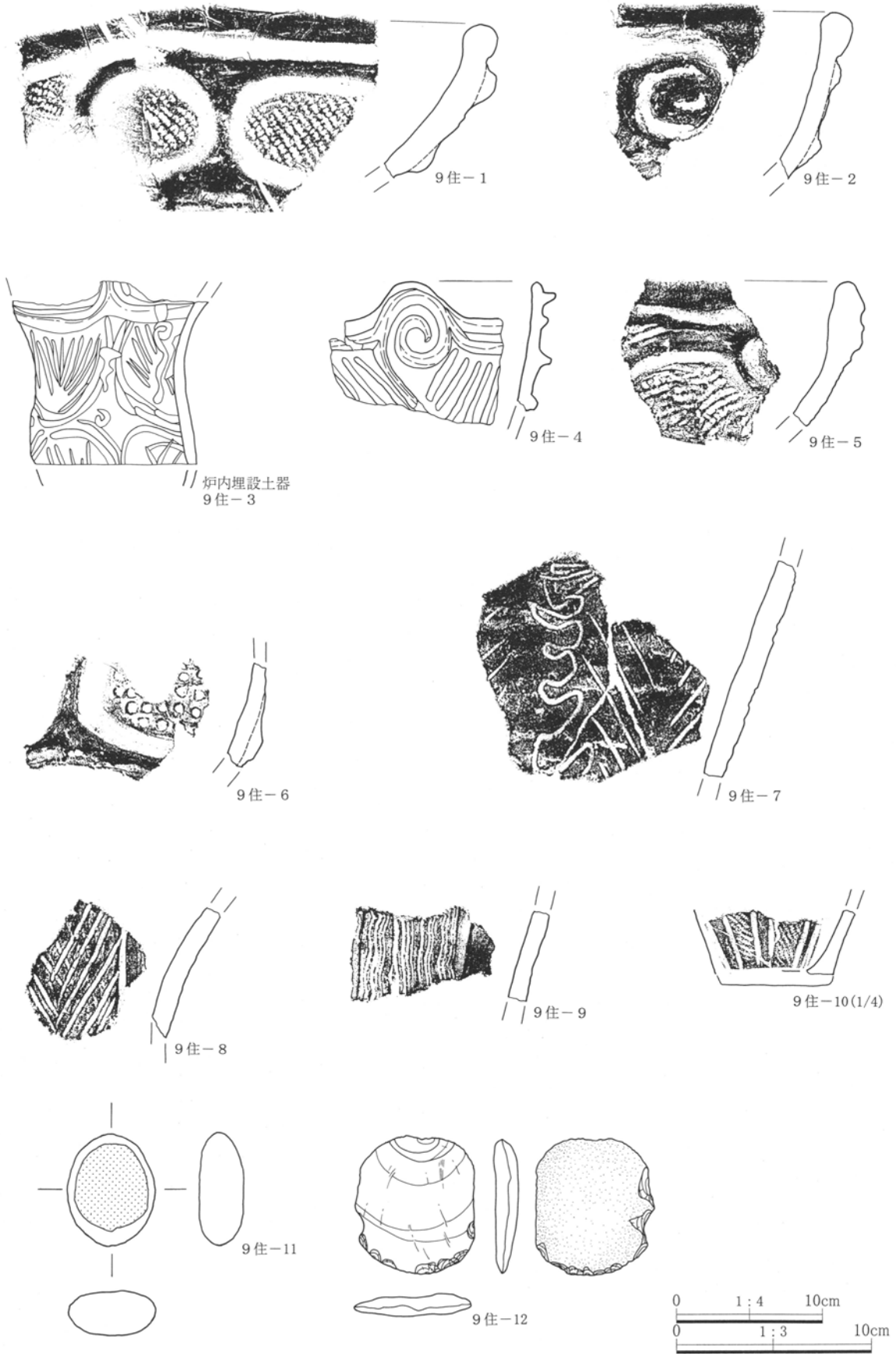
第47図 28区7号住居出土遺物(2)



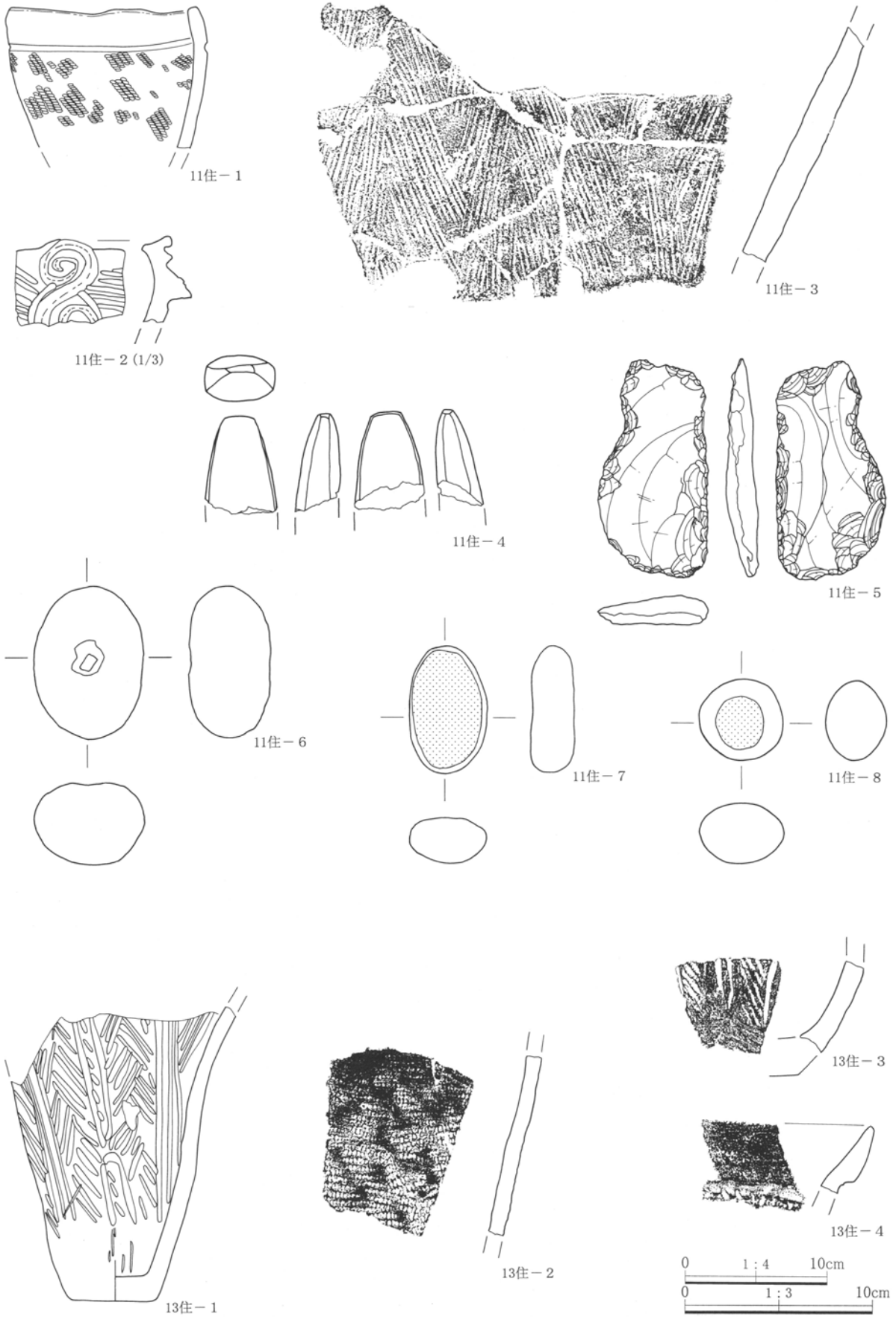
第48図 28区7号住居出土遺物(3)



第49図 28区7号住居出土遺物(4)

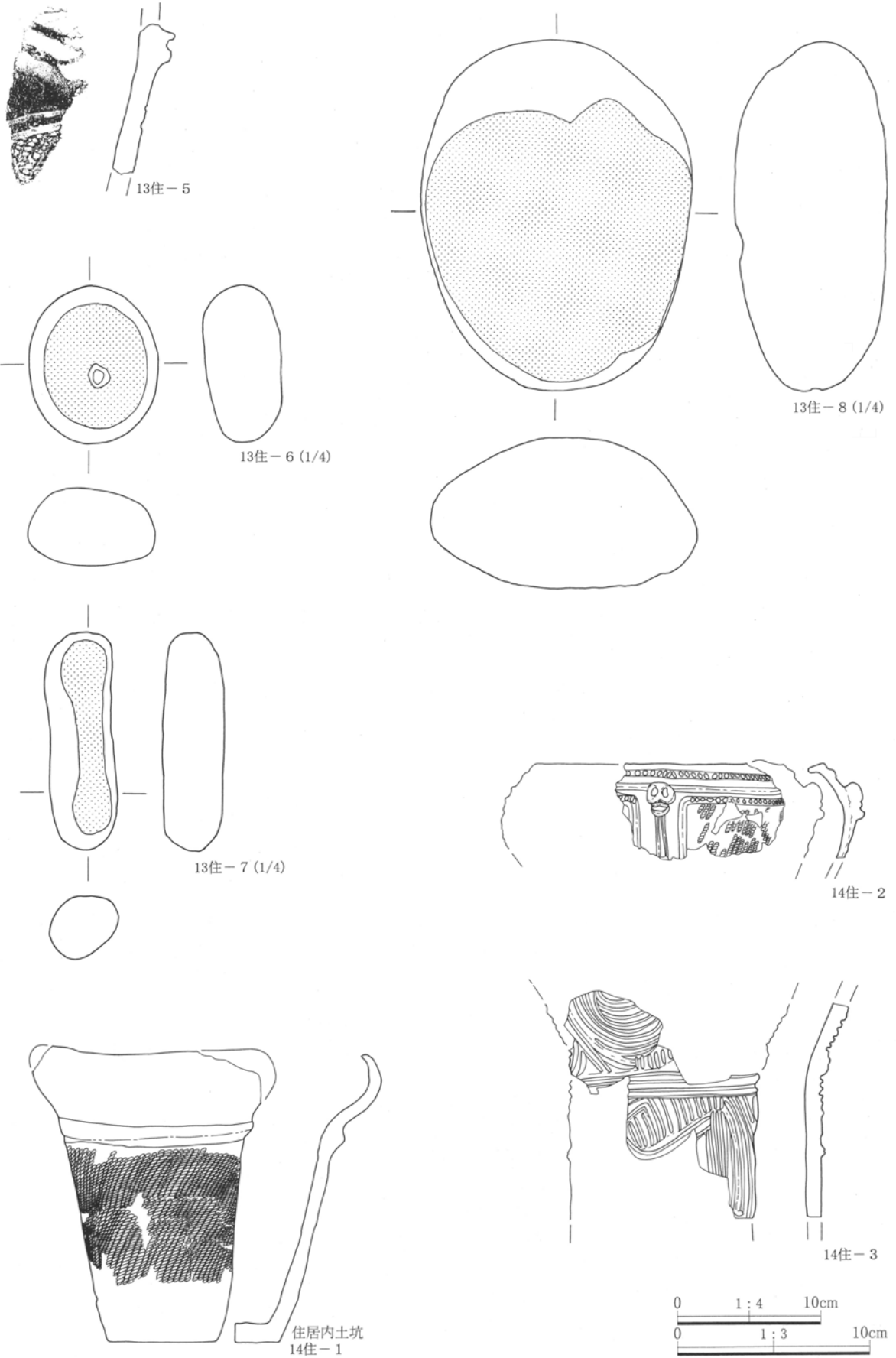


第50図 28区9号住居出土遺物

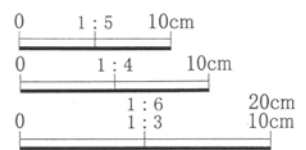
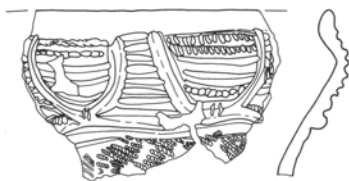
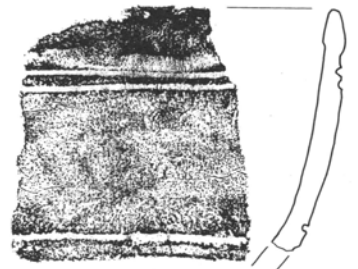
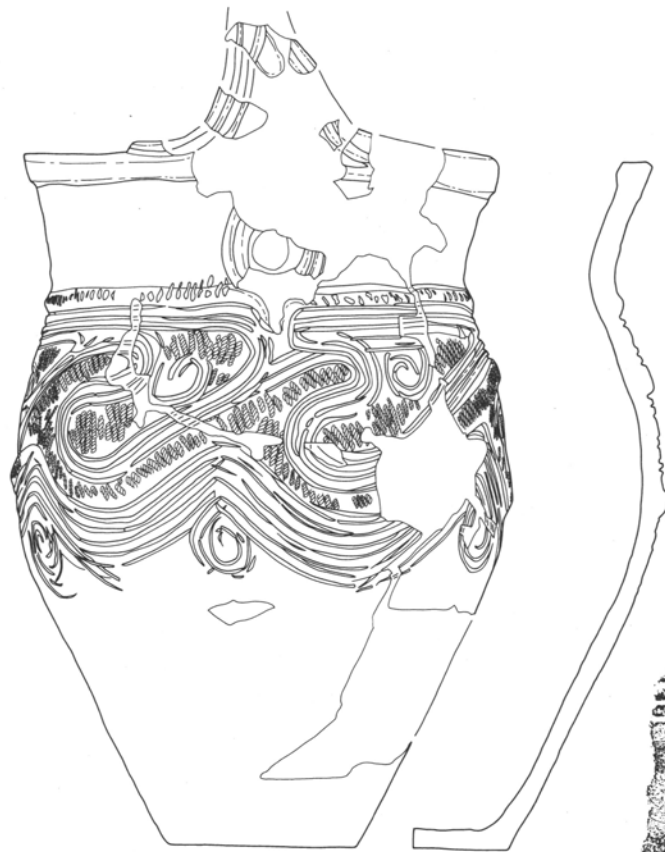
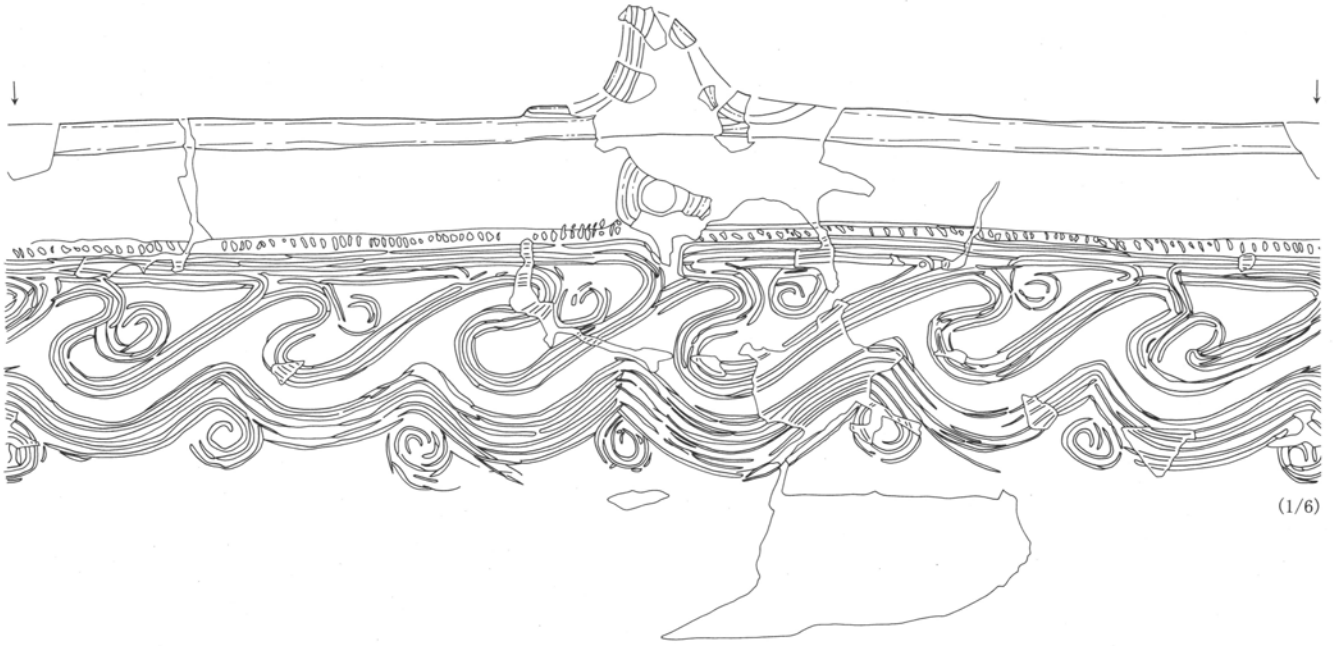


第51図 28区11号住居・13号住居出土遺物

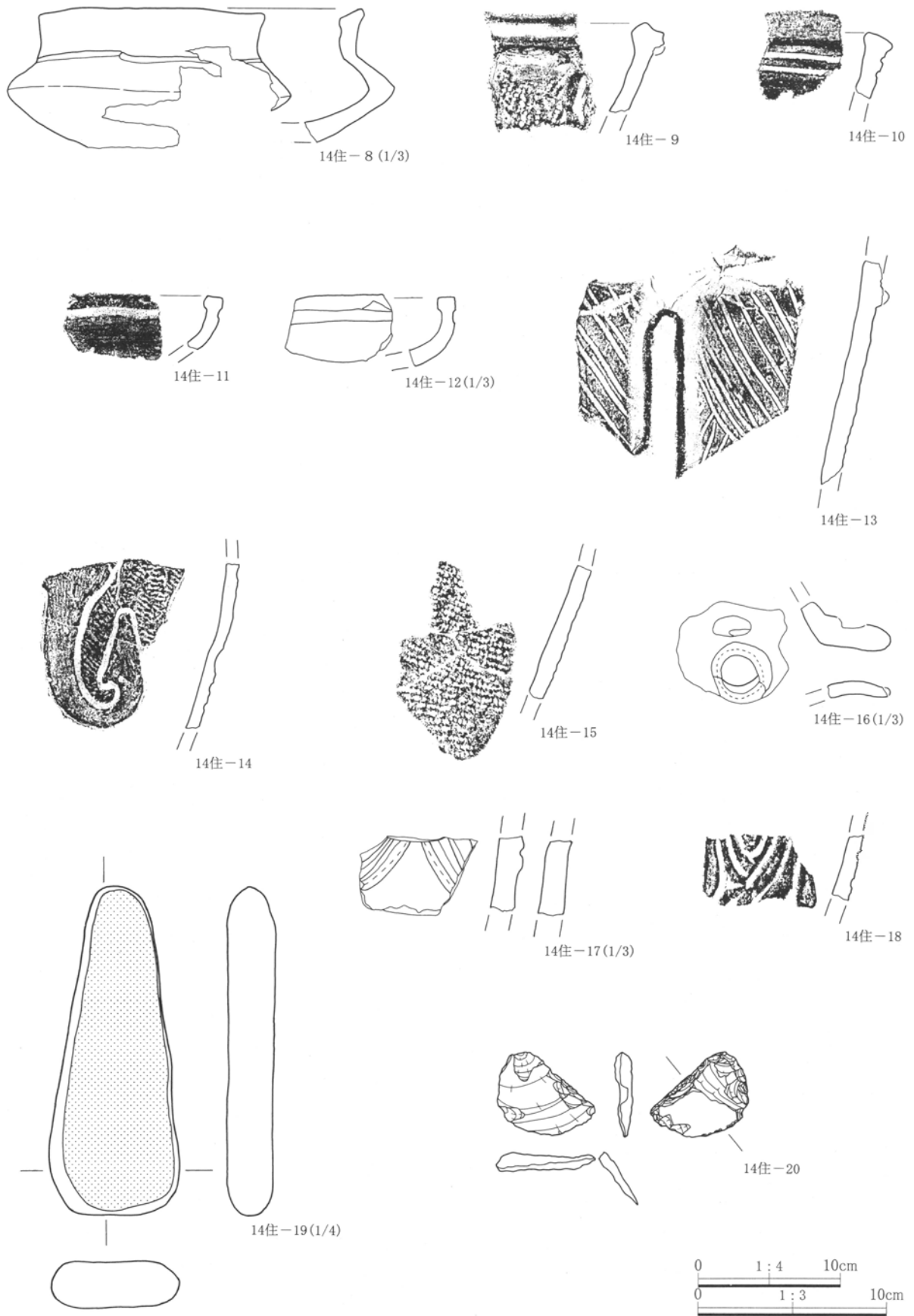
第3章 発見された遺構と遺物



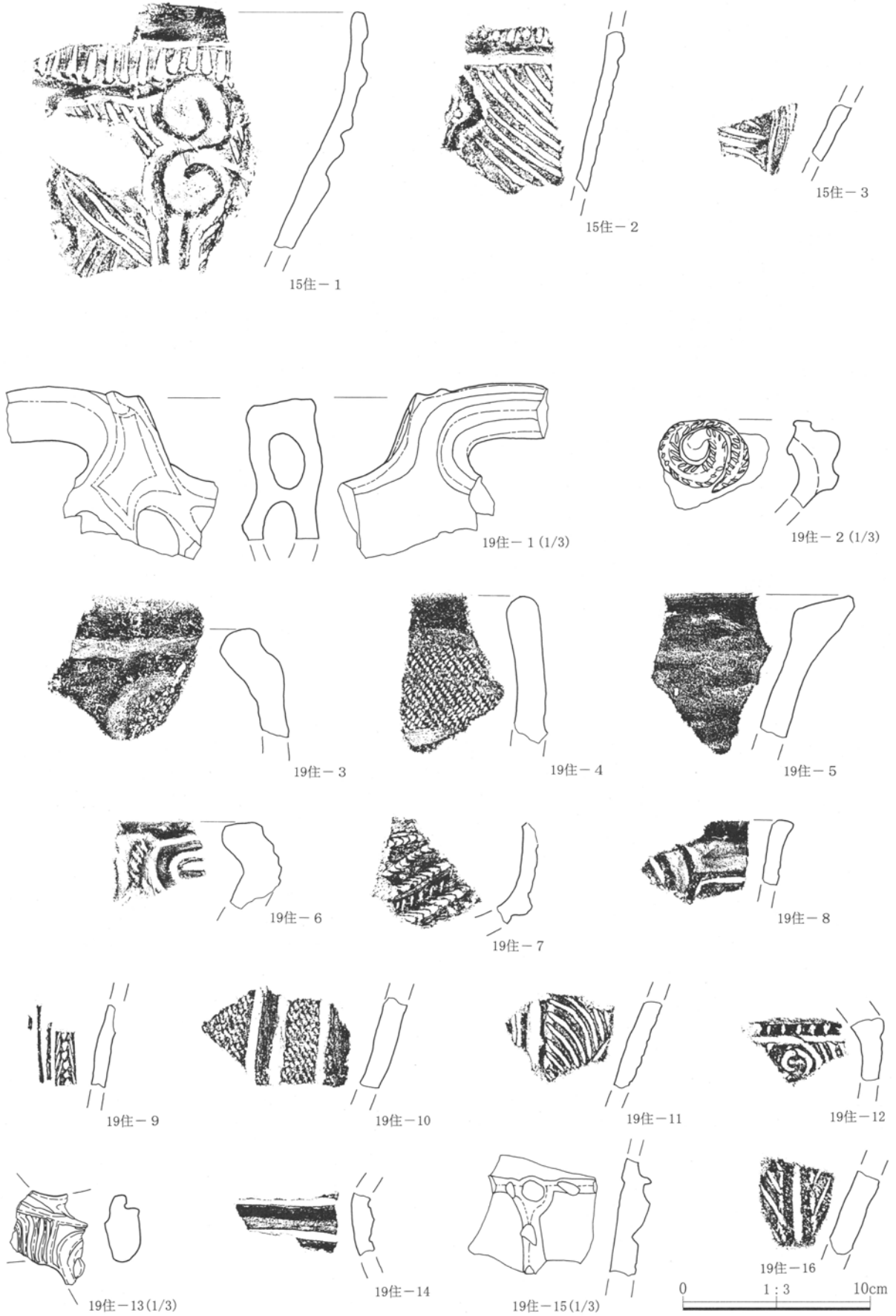
第52図 28区13号住居出土遺物(2)・14号住居出土遺物



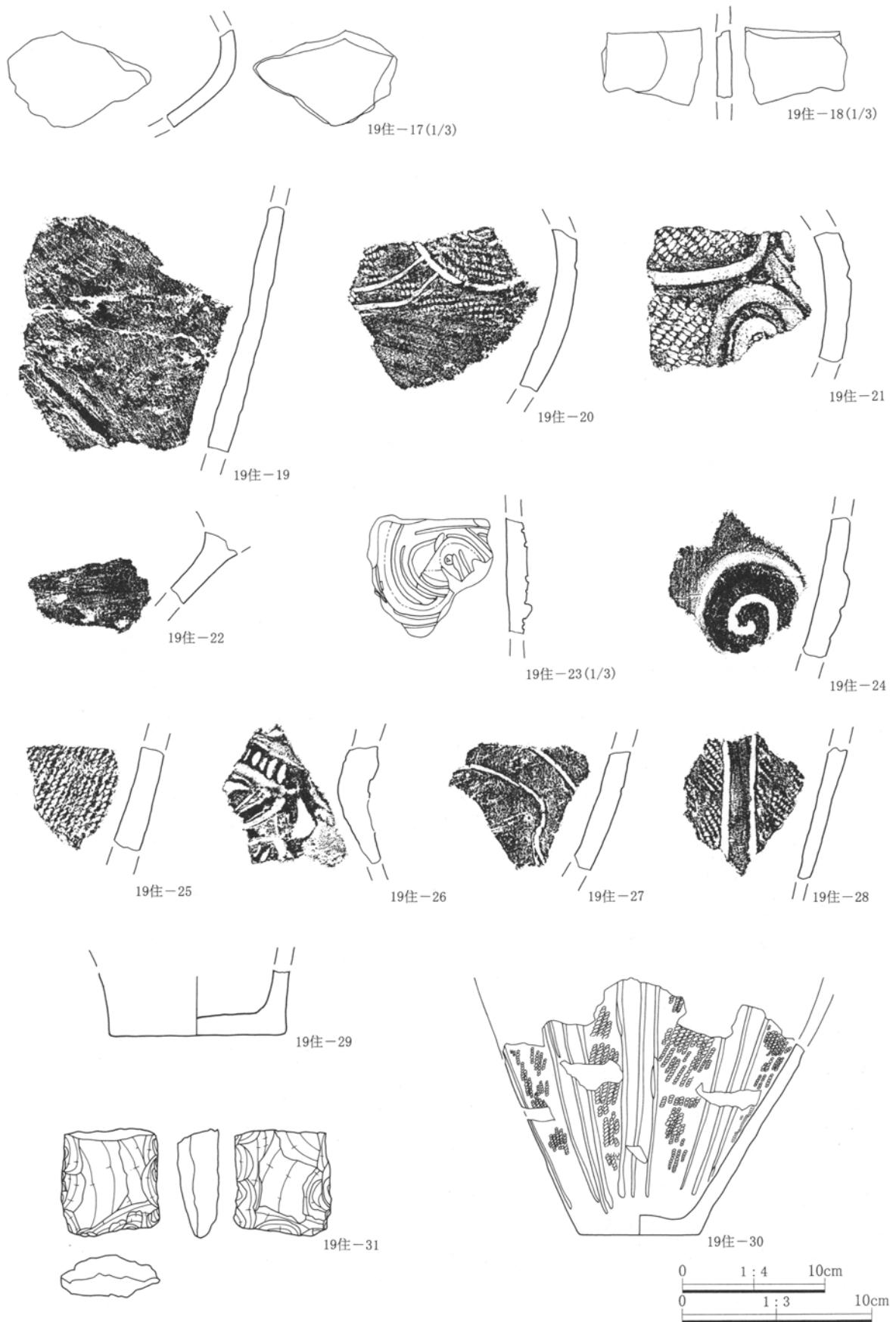
第53図 28区14号住居出土遺物(2)



第54図 28区14号住居出土遺物 (3)



第55図 28区15号住居・19号住居出土遺物



第56図 28区19号住居出土遺物(2)

18区1号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	地文は、口縁部には原体RLの単節斜縄文を横位に施文し、胴部には縦位に施文する。その後、端部が蕨手状の沈線と「∩」字状の沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部付近に円形状の隆帯を貼付する。地文は無文である。	加曾利E 4式
3	深鉢	口縁部片		砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部と胴部の一部に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E 4式
4	深鉢	口縁部片		小礫と砂粒をやや多く含む。良好。にぶ赤褐色。	口縁部に横位の沈線、胴部に「∩」字状の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部に隆帯を貼付する。	
6	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	地文は、縦位に原体LRの単節斜縄文を施文する。	
7	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	胴部は「∩」字状の隆帯を貼付し、縦位に沈線を垂下させる。縦位の沈線は、横位の沈線で区画する。	
8	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。明黄褐色。	端部が蕨手状の沈線を施文する。剥離面には、橋状の把手がついていたと思われる。	
9	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	斜位に沈線を施文し、低い隆帯を貼付する。	
10	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位に太い条線を垂下させる。	
11	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	縦位に条線を垂下させる。	
12	深鉢	底部	底径8.0	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	地文は無文。	
13	深鉢	底部		細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	底面に粘土を貼付して高台を成形する。	

18区1号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
14	打製石斧	完	124	53	24	202.2	粗粒輝石安山	
15	磨石	完	119	102	62	1249.8	粗粒輝石安山	
16	敲石	完	138	65	59	720.4	粗粒輝石安山	比熱を受けている。

18区2号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	スタンプ状の突起か。外面に刺突文を施文する。	後期
2	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	地文には、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線と平行する沈線を交互に垂下させる。	
3	深鉢	胴部片		細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	細かい条線をやや斜位に施文する。	

18区2号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
5	磨石	完	108	81	43	5886	粗粒輝石安山岩	

18区3号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	端部が蕨手状を呈する沈線と楕円形を呈する沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	平行する沈線を横位に施文する。	
3	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	平行する3本の沈線を横位に施文する。	後期 称名寺1式
4	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	端部が蕨手状を呈する沈線を垂下させた後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	

第3章 発見された遺構と遺物

5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	断面台形の隆帯を縦位に貼付した後、縦位に条線を施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	左右に対立する方向に横位の沈線を施文した後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	賀曾利E 4式
7	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して幾何学的な文様帯を区画する。区画内には、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。にぶい黄褐色。	沈線を縦位に垂下させた後、沈線間を原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
9	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	3本1組の沈線を縦位に垂下させた後、条線間に原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。沈線間は縄文を磨り消す。	
10	深鉢	底部片	細砂粒を微量に含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、幅約1cm間隔の沈線を縦位に垂下させる。沈線間と底面から約2cmの間は縄文を磨り消す。	
11	土製品	1/3欠	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	土器片の転用で、側面を磨っている。	

18区3号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
12	石棒	基部欠	260	79	64	1563.8	緑泥片岩	

18区6号住居石器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部～胴上部 口径38.0		細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口縁部は「ハ」の字に開く。地文は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。口縁部は粘土を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は、隆帯と磨り消し文で構成する。頸部には、3本の沈線を横位に施文する。文様帯と沈線の間は、磨り消し文を施文する。胴部文様帯は、3本の平行する沈線と蛇行する沈線を交互に縦位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部に粘土帯を貼付して肥厚し、そこに列点文を施文する。	
3	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	口縁部内面は面を持ち内傾する。	
4	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。暗い赤褐色。	地文は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部には、縦位に端部を「∩」字状に成形した隆帯を貼付した後、その端部に接合するように横位に平行する2本の隆帯を貼付する。その後、横位の粘土帯に接するように、縦位に平行する2本の沈線、蛇行する沈線、3本の沈線を垂下させる。胴部上位は無文である。	
5	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部には、縦位に端部を「∩」字状に成形した隆帯を貼付した後、その端部に接合するように横位に平行する2本の隆帯を貼付する。その後、縦位に沈線を垂下させる。	6・11・16と同一個体
6	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部には、縦位に端部を「∩」字状に成形した隆帯を貼付した後、その端部に接合するように平行する2本の隆帯を貼付する。その後、縦位に2本の沈線を垂下させる。	5・11・16と同一個体
7	深鉢	胴上部～底部 底径7.5		石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	沈線を「ハ」の字状に施文し、端部が「U」字状の隆帯で区画する。隆帯の先端部には、粘土を貼付して「U」字状に成形する。	炉埋設土器
8	深鉢	底部1/5 底径18.0		細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
9	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部はやや内傾する。	
10	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部端部は面を持ち、内傾する。	
11	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部には、縦位に端部を蕨手状に成形した隆帯を貼付した後、その端部に接合するように横位に平行する2本の隆帯を貼付する。	5・6・16と同一個体
12	深鉢	胴部片		細砂粒を多く含む。普通。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、平行する2本の隆帯を横位に貼付する。	
13	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	半円状の沈線と横位に蛇行する沈線で文様帯を区画する。文様帯内は、棒状工具で刺突文を施文する。	後期 称名寺2式

第3節 遺物観察表

14	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	斜位に条線を施文した後に、2本の隆帯を円形状に貼付する。	
15	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に3本の沈線を垂下させる。	
16	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に2本の隆帯を貼付する。	5・6・11と同一個体
17	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。黒褐色。	「S」字状に蛇行する隆帯を施文した後、隆帯に沿って棒状工具で刺突文を施文する。その後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
18	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に蛇行する隆帯を貼付する。	
19	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に平行する2本の隆帯と沈線を垂下させる。	
20	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。黒褐色。	「S」字状に蛇行する隆帯を施文した後に、隆帯に沿って棒状工具で刺突文を施文する。	
21	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。黒褐色。	「S」字状に蛇行する隆帯を施文した後に、隆帯に沿って棒状工具で刺突文を施文する。その後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。文様帯の上部は、無文である。	
22	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に蛇行する隆帯を貼付する。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に平行する3本の沈線を垂下させる。	
24	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に「く」の字状と「Z」字状の沈線を垂下させる。	後期 称名寺1式

18区12号住居土器観察表

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部～胴上部 推定口径35.0	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は波状を呈し、部分的に口唇部外面に原体LRの単節斜縄文を施文する。原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部から胴部文様帯は、隆帯により渦巻文、楕円文、Y字文など幾何学的な文様で区画する。	埋ガメ
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は、つまみ出し調整を施され内湾する。地文は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。文様帯は、縦位に端部が獸手状の沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	2本の平行する隆帯を縦位に貼付する。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。沈線部分は磨り消し文を施文する。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。沈線部分は磨り消し文を施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	文様帯は、横位の沈線と2本の平行する楕円形状の沈線で区画する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。	

18区20号住居土器観察表

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口縁部にドーナツ状の粘土を貼付した後、曲線の沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	口縁部に粘土帯を貼付して肥厚する。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、条線を施文する。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、半円状に2本の沈線で文様帯を区画する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	

第3章 発見された遺構と遺物

18区21号住居土器観察表

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に2本の沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	埴壇土器
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	

18区24号住居土器観察表

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部～胴上部 口径38.6	細砂粒を多く含む。良好。明黄褐色。	口縁部に楕円形の隆帯を貼付して文様帯を区画し、原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、交互に蛇行する沈線と沈線を垂下させる。	埋ガメ
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	スタンプ形突起に橋状把手が貼付される。橋状把手には、縦位に背割り状沈線を垂下させ、口唇部外面に接合する部分から連続して口縁部に沿って隆帯を貼付する。口縁部には丸みを帯びた長方形の沈線を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は直立し、口縁部内面に粘土を貼付して肥厚する。地文は無文である。	
4	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口縁部はやや内湾し、口唇部に平坦面がある。地文は無文である。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部に隆帯を貼付して文様帯を区画する。口縁部は波状を呈する。	
6	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	口唇部に押圧文を施文し、口縁部内面に横位の沈線を施文する。口縁部外面には斜位の浅い条線を施文する。	後期 加曾利B3式
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口唇部に粘土を貼付して肥厚し、横位の沈線や刺突文で文様を描出する。口縁部は波状を呈する。胴部は横位の沈線を施文した後、その下部に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	後期 称名寺1式
8	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は「ハ」の字に開く。口唇部を撫でてつまみ上げる。口縁部に粘土帯の痕跡が残存する。	
9	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に2本の沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	
10	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。	12・14～19と 同一個体
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	直線や三角形などの沈線で文様帯を区画する。区画内には、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	後期 堀之内2式
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に3本の沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	10・14～19と 同一個体
13	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、「U」字状沈線と縦位の沈線を施文する。沈線間は磨り消し文を施文する。	
14	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に2本の沈線を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	10・12・15～ 19と同一個体
15	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。	10・12・14・ 16～19と同一
16	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する隆帯上に端部が蕨手状の沈線を施文する。	10・12・14・ 15・17～19と 同一個体
17	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。隆帯上に端部が蕨手状の沈線を施文する。	10・12・14～ 16・18・19と 同一個体
18	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。隆帯上に端部が蕨手状の沈線を施文したり、隆帯の端部が渦巻き状を呈する部分もある。	10・12・14～ 17・19と同一 個体
19	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。	10・12・14～ 18と同一個体
20	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に2本の沈線を垂下させる。	
21	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	縦位に条線で施文する。	
22	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	縦位に波状文で施文する。	
23	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	棒状工具で刺突文を施文する。	後期 三十稲場式

第3節 遺物観察表

24	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	渦巻き状突起。粘土紐を渦巻き状に成形する。
25	深鉢	底部片 底径 7.4	石英を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	底部を成形した後に、粘土紐を積み上げて胴部を成形する。外面はミガキ調整を施す。
26	深鉢	底部片 底径 8.6	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	胴部は無文である。
27	深鉢	土製品	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	断面に磨り面を持ち、横位の沈線が施文される。
28	深鉢	土製品	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面に磨り面を持ち、横位の沈線が施文される。

18区 24号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
29	磨製石斧	ほぼ完	109	47	16	145.6	蛇紋岩	
30	打製石斧	刃部欠	63	53	25	110.7	粗粒輝石安山岩	
31	打製石斧	刃部欠	63	43	18	55.0	細粒輝石安山岩	
32	打製石斧	完	78	30	13	34.8	細粒輝石安山岩	
33	軽石製品	完	68	36	15	14.8	軽石	

18区 26号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部下部に横位の隆帯を貼付し、文様帯を区画する。上部に横位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、下部に縦位の原体LRの単節斜縄文を施文する。その後、縦位に沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	口縁部下部に横位の隆帯を貼付する。口縁部上部は無文で、口縁部は内湾する。	
3	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、縦位の沈線を施文する。部分的に縄文の施文されないところがある。	5・7～9は同一個体
4	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多めに含む。良好。にぶい黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に胴部上半がラッパ形に外反する。「Y」字形の隆帯と上部「U」+下部「∩」字状を呈する複合隆帯を交互に貼付して文様帯を区画する。区画内には、充填する。一部の「Y」字形の隆帯には、縦位の隆帯が1本付随する。	炉埋設土器
5	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、縦位の沈線を施文する。	3・7～9・17は同一個体
6	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、縦位の沈線を施文する。沈線間は磨り消し文を施文する。	
7	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、縦位の沈線を施文する。	3・5・8・9・17は同一個体
8	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位の沈線を施文する。	3・5・7・9・17は同一個体
9	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、縦位の沈線を施文する。	3・5・7・8・17は同一個体
10	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	渦巻き状の沈線を施文して文様帯を区画する。区画内は、原体LRの単節斜縄文を充填する。	
11	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	縦位の沈線を施文した後、縦位に原体RLの単節斜縄文を垂下させる。沈線間は磨り消し文を施文する。	
12	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	縦位に原体RLの単節斜縄文を施文した後、縦位に隆帯を貼付する。	
13	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	縦位に沈線を施文する。	
14	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、「V」字状の沈線を施文する。沈線間は磨り消し文を施文する。	
15	浅鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	「U」字状の沈線を施文して文様帯を区画する。区画内は、肋骨文を施文する。	
16	深鉢	胴部片		砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	歯状工具による条線を縦位に施文する。	
17	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、縦位の沈線を施文する。沈線を境として、縄文を施文しない部分がある。	3・5・7～9は同一個体

第3章 発見された遺構と遺物

18	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	胴部に縦位の隆帯を貼付する。	21と同一個体
19	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	条線を施文する。	
20	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	条線を施文する。	
21	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	胴部に縦位の隆帯を貼付する。	18と同一個体
22	深鉢	胴部～底部 底径5.4	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	胴部は撫で調整を施す。	

18区26号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
23	磨石	完	2480	160	117	6950	粗粒輝石安山岩	
24	磨石	完	104	80	30	428.8	粗粒輝石安山岩	
25	磨製石斧	完	160	71	38	730.1	蛇紋岩	
26	軽石製品	完	68	45	17	19.2	軽石	

18区28号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部		細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	口縁部から胴部まで斜位の条線を施文した後、口縁部にメガネ状の隆帯と沈線で文様帯を区画する。文様帯内は、条線と磨り消し文で構成される。	
2	深鉢	口縁部		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部に横位の条線を施文する。口唇部は平坦面を呈する。	前期諸磯b式
3	深鉢	胴部片		礫や細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	縦位に沈線を施文した後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。褐色。	縦位に沈線を施文した後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。暗赤褐色。	斜位の沈線を施文した後、蛇行する沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。普通。橙色。	やや間隔の広い条線を斜位に施文する。	
7	深鉢	胴部～底部 底径6.6		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	底部は丸底を呈し、無文である。	

18区28号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
8	打製石斧	完形	116	46	16	86.8	細粒輝石安山岩	

28区1号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口縁部に原体RLの単節斜縄文を横位に施文した後、半円状の沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	胴部に縦位の条線を施文し、口縁部に横位の沈線を施文する。口縁部は、「S」字状を呈する。	
3	深鉢	胴部片		砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	

28区1号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
4	打製石斧	完	101	56	21	151.8	紫蘇輝石安山岩	

28区2号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は、「く」の字状に内側に屈曲する。口縁部に2条の隆帯を横位に貼付して、文様帯を区画する。文様帯内は、交互刺突文と沈線を施文する。胴部は、原体Rの撚り糸文を縦位に施文した後、下部に横位の隆帯と沈線で文様帯を区画する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は、くの字状に内側に屈曲する。口唇部外側に横位の隆帯を貼付して肥厚する。口縁部は「∩」字状の隆帯などを貼付して文様帯を区画する。	

第3節 遺物観察表

3	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。普通。灰褐色。	口縁部は、「く」の字状に内側に屈曲する。「U」字状の隆帯を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は、「U」字状の沈線や縦位の沈線で構成される。隆帯には棒状工具でキザミを施文する。	
4	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁部はやや内湾する。縦位に原体LRの単節斜縄文を施文する。	
5	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	口唇部を平坦に調整し、外面に黒彩を施す。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁下部に隆帯を横位に貼付して、文様帯を区画する。文様帯内は、交互刺突文と沈線を施文する。	
7	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。橙色。	動物形把手と思われる。沈線と隆帯で文様を区画する。上部には渦巻き状の隆帯、左右に縦位の沈線とその端部に渦巻き状の隆帯を貼付する。正面上部に粘土を貼付して、嘴状に横一文字の沈線を施文する。	
8	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部に横位の沈線を施文する。胴部は赤彩・黒彩を施されている。	
9	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部に横位の沈線を2本施文する。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	横位に隆帯を貼付して、押圧文を施文する。その後、縦位の隆帯と斜位の沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を区画する。沈線は隆帯上にも施文する。	
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	「∩」字状の隆帯を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は、「∩」字状の沈線で構成される。隆帯にキザミを施文する。	
13	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯2本と半円状の隆帯を貼付して文様帯を区画する。横位の隆帯には押圧文を施文する。	
14	深鉢	胴部片	金雲母を含む。細砂粒を若干含む。良好。橙色。	斜位の沈線を施文する。	
15	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。褐色	原体Rの撚り糸を縦位に施文した後、蛇行する隆帯と横位の沈線で文様帯を区画する。	16と同一個体
16	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。褐色	原体Rの撚り糸を縦位に施文した後、蛇行する隆帯と横位の沈線で文様帯を区画する。	15と同一個体
17	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	沈線で文様帯を区画する。	
18	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	横位の隆帯を貼付し、押圧文を施文する。原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、等間隔に横位の沈線を施文する。	後期 加曾利B 1式
19	深鉢	胴部片	砂粒を若干含む。良好。にぶい褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
20	深鉢	胴部片	石英を含む。細砂粒を若干含む。良好。橙色。	条線を垂下させる。	
21	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。橙色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
22	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	縦位の隆帯を貼付した後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E 4式
23	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、原体Rの撚り糸を縦位に施文する。隆帯には、刺突文を施文する。	
24	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
25	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。褐灰色。	縦位の条線を施文する。	

28区2号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
26	凹み石	完	2560	1170	82	3580	粗粒輝石安山岩	
27	磨石	完	79	71	45	323	粗粒輝石安山岩	
28	ドリル	完	41	13	6	2.6	頁岩	
29	石鏃	ほぼ完	19	21	3	1.1	黒曜石	
30	石鏃	50%	18	14	5	0.6	黒曜石	
31	石核?	完	60	50	41	154.9	ガラス質安山岩	

第3章 発見された遺構と遺物

28区3号住居土器観察表

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	石英と小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。浅黄橙色。	縦位の原体LRの単節斜縄文を施文した後、口唇部と口縁部外面に横位の沈線を施文する。一部の沈線に崩れた交互刺突文を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を若干含む。良好。橙色。	山形の突起に橋状把手を造る。口縁部に「へ」の字状の粘土帯を貼付して山形突起を造る。この時に、口縁部と山形突起間に空洞を造る。その後、縦位に橋状把手を貼付する。口縁部文様帯は、渦巻き状や「U」字状の隆帯で構成される。外面に塗彩が施される。	
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部内面に粘土を貼付して肥厚する。	
4	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁部内面に粘土を貼付して肥厚し、内側に突出させる。口縁部端部を平坦にする。	
5	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	嘴状突起である。口縁部頂部と外面に沈線を施文して文様帯を区画する。	
6	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口縁部内面に粘土を貼付して突出させる。口唇部は平坦に調整する。隆帯と沈線で文様帯を構成する。	10と同一個体
7	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	横位の沈線を施文する。口縁部がやや外反する。	
8	深鉢	口縁部片	細砂粒を若干含む。良好。灰褐色。	口縁部に粘土帯を貼付して肥厚する。口縁部内面は沈線を施文する。口縁部外面は、端部が蕨手状の沈線を施文する。	
9	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部に粘土を貼付して肥厚し、口唇部に縦位の刻み目を施す。	
10	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	突起状を呈し、口縁部内面に粘土を貼付して突出させる。隆帯と沈線で文様帯を構成する。	6と同一個体
11	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の沈線や刺突文を施文した後、円形状や長方形に成形した粘土を貼付し、それらに縦位の沈線や刺突文を施文する。	
12	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	縦位の綾杉文と横位に隆帯を貼付して刺突文を施文する。	
13	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文した後、上部に横位の隆帯を貼付して突帯状を呈する。	
14	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	内面に横位の粘土帯を貼付して、突帯状に成形する。外面は、リボン状の隆帯を貼付した後、沈線やキザミなどを施文して文様帯を構成する。上部中央に半円状のスカシを穿つ。	
15	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	長楕円形状の隆帯を貼付した後、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、横位と縦位の沈線を施文する。横位の沈線上部は、磨り消し文を施文する。やや外反する。	
16	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の沈線と「つ」の字状の沈線を施文し、沈線を垂下させる。	
17	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は、縦位の条線や綾杉文、半円形の沈線で構成される。一部に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
18	深鉢	胴部片	雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線と条線で文様帯を構成する。隆帯は弧状を呈し、沈線は隆帯に平行して施文する。条線は斜位に施文する。	20・24は同一個体
19	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	弧状の隆帯を貼付した後、隆帯に沿って条線を施文し、沈線を垂下させる。	
20	深鉢	胴部片	雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線と条線で文様帯を構成する。隆帯は弧状を呈し、沈線は隆帯に平行して施文する。条線は斜位に施文する。	18・24は同一個体
21	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。赤褐色。	横位の条線を施文する。	
22	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	縦位の隆帯を貼付して、綾杉文を施文する。地文には押圧文を施文する。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	横位の隆帯と条線で文様帯を構成する。条線は、隆帯に平行する条線と、弧状を呈する条線がある。	
24	深鉢	胴部片	雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線と条線で文様帯を構成する。隆帯は斜位と弧状を呈し、沈線は隆帯に平行して施文し、条線は斜位に施文する。	18・20は同一個体
25	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	横位と曲線状の沈線を垂下させる。	
26	深鉢	胴部片	雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	斜位の隆帯と沈線を垂下させる。一部に刺突文を施文する。	

第3節 遺物観察表

27	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	交互刺突文と平行沈線を横位に施文する。	
28	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	曲線状の半隆起線文を施文する。	
29	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。明褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
30	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は、刺突文と沈線で構成される。隆帯上と地文には、原体Lの撚り糸を縦位に施文する。	
31	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
32	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
33	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文した後、横位の沈線を施文する。	
34	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	ナデ調整を施す。地文は無文である。	35と同一個体
35	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	ナデ調整を施す。地文は無文である。	34と同一個体
36	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
37	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
38	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
39	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、2条の横位の沈線と半円状の沈線、楕円形の隆帯を貼付する。楕円状の隆帯は端部が重複するように縦位に連結し、隆帯内に綾杉文を施文する。	
40	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	内面に赤彩が残存する。	
41	深鉢	底部 底径14	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。		
42	深鉢	底部 底径11.6	細砂粒を多く含む。良好。褐色。		
43	深鉢	底部 底径12.8	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	条線を垂下させる。	
44	深鉢	底部 底径9	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	

28区3号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
45	凹み石	完	100	82	34	427	多孔質安山岩	
46	磨石	完	127	93	50	919.8	粗粒輝石安山岩	
47	磨石	完	98	92	63	630.5	粗粒輝石安山岩	
48	磨石	一部欠	104	61	37	406.5	粗粒輝石安山岩	
49	石鏃	完	18	12	5	0.8	碧玉	

28区4号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。口縁部は横位の隆帯を貼付して肥厚し、下部に横位の沈線を施文する。文様帯には「入」状隆帯を貼付する。	
2	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文して口縁部文様帯を区画する。	
3	深鉢	口縁下部～胴下部		細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は、原体RLの単節斜縄文を横位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。胴部は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、端部が獸手状の蛇行する沈線と「∩」字状の沈線を交互に垂下させる。	埋ガメ
4	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	

第3章 発見された遺構と遺物

5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	2条の沈線を横位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい橙色。	横位の沈線、縦位の沈線や端部が蕨手状の沈線を垂下させる。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
9	深鉢	底部片 底径11.0	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、3本の沈線と磨り消し文を垂下させる。	

28区4号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
10	凹み石	一部欠	152	70	43	688.1	流紋岩	

28区5号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部 口径24.0		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	口縁部文様帯は、蕨手状の隆帯を横位に連結させた後、条線を垂下させる。胴部は、条線を縦位に施文した後、斜位の条線を垂下させる。	炉埋設土器
2	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	口縁部は凹線、刺突文、低い隆帯で文様を区画する。文様帯内は、斜位の条線を施文する。胴部は、斜位、縦位の沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	波状口縁を呈する。波頂部は山形の突起となる。口唇部は面を持ち、内湾して突帯状を呈する。山形突起下には、楕円状の突起を貼付した後、「S」字状の隆帯を貼付する。口縁部文様帯は、弧状、渦巻き状の半隆起線文と沈線で構成される。	
4	深鉢	口縁部片		細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部に粘土帯を貼付して肥厚する。	
5	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、斜位の沈線を垂下させる。	
6	深鉢	口縁部片		細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	波状口縁を呈する。口唇部に粘土を貼付して肥厚する。口縁部は、渦巻き状や楕円形状の隆帯を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は縦位の条線を施文する。胴部は肋骨文、「コ」の字状文、横位の「日」の字状文で文様帯を構成する。	
7	深鉢	口縁部片		細砂粒を多く含む。普通。橙色。	口唇部に横位の粘土帯を貼付して肥厚する。口縁部は、横位の沈線と交互刺突文で文様帯を区画する。	
8	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は、原体R Lの単節斜縄文を横位に施文した後、隆帯を貼付する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位の沈線と磨り消し文を施文する。口縁部と胴部との境目に横位の沈線を施文する。	
9	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文する。	
10	深鉢	口縁部片		細砂粒を少量含む。良好。橙色。	橋状把手で、両側に直線状の隆帯を貼付する。	
11	深鉢	底部 底径6.5		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線と懸垂文を垂下させる。	
12	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
13	深鉢	胴部片		砂粒を少量含む。良好。橙色。	斜位の沈線と蛇行する沈線を垂下させる。	
14	深鉢	胴部片		雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	斜位の沈線を垂下させる。	
15	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。橙色。	蛇行する隆帯と沈線を垂下させる。	
16	深鉢	胴部片		細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	横位の沈線を施文する。外面が黒斑状を呈する。	
17	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	屈曲する隆帯とそれに平行する沈線を垂下させる。	
18	深鉢	底部 底径4.5		細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、幅広の沈線を垂下させる。	
19	深鉢	胴部片		雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	蛇行する隆帯と沈線を斜位に施文する。	

第3節 遺物観察表

20	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の条線を施文する。その後、縦位の条線と端部が円形の条線を横位に施文する。
21	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	「∩」字状の隆帯に蜂局状の隆帯を貼付する。隆帯には押圧文を施文する。地文には幅広の沈線を垂下させる。
22	深鉢	台部片	細砂粒を少量含む。不良。黒褐色。	外面は剥離している。

28区5号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
23	多孔石	完	4850	2600	2150	41140	粗粒輝石安山岩	
24	石鏃	完	180	160	50	1.0	黒曜岩	
25	ドリル	完	420	280	80	6.4	黒曜岩	
26	ドリル	完	220	100	50	1.0	黒曜岩	
27	打製石斧	完	990	590	210	110.4	細粒輝石安山岩	
28	打製石斧	ほぼ完	1240	480	140	85.6	細粒輝石安山岩	
29	打製石斧	完	1130	520	210	141.2	細粒輝石安山岩	
30	打製石斧	完	1010	470	170	105.1	細粒輝石安山岩	
31	磨製石斧	一部欠	1160	1420	280	241.2	蛇紋岩	

28区6号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部		細砂粒を多量に含む。普通。浅黄色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文を垂下させる。	2号埋甕
2	深鉢	胴部～底部 底径6.5		細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部～胴部 口径36.0		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は、端部が蕨手状の隆帯を横位に貼付して文様帯を区画する。区画内は、原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	1号埋甕
4	深鉢	口縁部～胴部 口径24.1		細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は無文を呈する。肩部は円形と横位の隆帯を貼付する。肩部から胴部にかけて、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蕨手状の沈線、渦巻き文、平行沈線を垂下させる。	4号埋甕
5	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、巴状の隆帯と沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。文様帯内は、斜位の条線を充填する。	
7	深鉢	胴部片		細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	細かい条線と懸垂文、磨り消し文を垂下させる。	3号埋甕

28区6号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
8	台石	1/2	1600	2740	860	8980	粗粒輝石安山岩	

28区7号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部～胴部 口径41.7		細砂粒を多量に含む。良好。褐色。	口縁部は、端部が蕨手状の隆帯と楕円形の隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内は、原体LRの単節斜縄文を充填する。胴部は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部～胴部 口径14.0		細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	胴部は、渦巻きや半円形の隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内は、原体RLの単節斜縄文を充填する。	
3	深鉢	口縁部		細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	波状口縁で内側に肥厚し、「く」の字状に屈曲する。原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部文様帯を隆帯と沈線で区画する。胴部は磨り消し文を施文する。	
4	深鉢	口縁部～胴部 口径46.6		細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	口縁部は、端部が蕨手状の隆帯と楕円形の隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内は、原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	

第3章 発見された遺構と遺物

5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	端部が蕨手状の隆帯を縦位に連結して貼付する。胴部は斜位の沈線を平行に施文する。	
6	深鉢	口縁部突起	細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	波頂部の突起は山形状の突起で、渦巻き状の隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内は、斜位の短沈線を施文する。	
7	深鉢	口縁部 口径26.0	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	端部が蕨手状の沈線と楕円形の沈線を縦位に施文する。区画内は、原体LRの単節斜縄文を充填する。	8と同一個体
8	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	端部が蕨手状の沈線と楕円形の沈線を縦位に施文する。区画内は、原体LRの単節斜縄文を充填する。	7と同一個体
9	深鉢	胴部～底部 底径8.0	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	棒状隆帯と沈線を縦位に施文する。底部に植物を敷いた痕跡がある。	
10	深鉢	胴部～底部 底径8.5	石英と金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。明褐色。	胴部は無文を呈する。底部に植物を敷いた痕跡がある。	
11	深鉢	胴部～底部 底径5.8	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
12	深鉢	胴部～底部 底径7.4	細砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	斜位の細かい条線を施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
13	深鉢	口縁部～胴部 口径13.0	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	2対のスタンプ形突起が付くと思われる。懸垂文を垂下した後、口縁下部に横位の沈線を施文する。懸垂文間に、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
14	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は肥厚し、円形状の刺突文と下部に1条の沈線を横位に施文して文様帯を区画する。胴部は、細条線を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	
15	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	細条線を縦位に施文した後、懸垂文を垂下させる。口縁部付近には、横位の沈線を施文する。	
16	深鉢	口縁部片	細砂粒を多量に含む。普通。赤褐色。	「∩」字状の沈線や斜位の沈線、半円状の沈線を施文する。	
17	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁で、端部が蕨手状の隆帯を縦位に連結して貼付した後、斜位に短沈線を施文する。口縁に沿って、円形状の刺突文を施文する。	
18	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口唇端部を平坦にする。	
19	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	波状口縁で、蕨手状の隆帯や楕円形状の隆帯と沈線で文様帯を区画する。	
20	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	「∩」字状の隆帯を縦位に貼付した後、口縁に沿って1条の隆帯を連結して貼付する。胴部は斜位の沈線と半円状の隆帯を横位に施文する。	
21	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付する。胴部は斜位の沈線を施文した後、楕円形の隆帯を縦位に貼付する。	
22	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁上部に棒状工具による刺突文を施文する。胴部は、渦巻き状隆帯や半円状隆帯で文様帯を区画する。	
23	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内は、斜位の沈線を施文する。	
24	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	半円状の隆帯と沈線で文様帯を区画する。沈線の区画内は、斜位の沈線を施文し、隆帯の区画内は、隆帯を貼付する。	
25	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
26	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、半円状の懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
27	深鉢	把手	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	橋状把手。背割り状に巴状の隆帯と沈線を垂下させる。	
28	深鉢	口縁部片	金雲母や石英を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	波頂部の突起は台形状の突起で、口縁端部が外側に肥厚する。	
29	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁端部が内側に肥厚する。口縁部文様帯は、蕨手状の隆帯と斜位の短沈線で構成される。	
30	深鉢	口縁部突起	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	波頂部の突起は山形状の突起で、蕨手状隆帯と楕円形状の隆帯で文様帯を区画する。区画内は、斜位の短沈線を施文する。	
31	深鉢	口縁部突起	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	「∩」字状の突起で、連結する蕨手状の隆帯と棒状工具による押圧文を施文した「∩」字状の隆帯を片側づつに貼付する。口唇部に横位の沈線を施文する。	
32	深鉢	口縁部片	黒雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇端部は平坦で、口縁部は「く」の字状に屈曲する。口縁部文様帯は、矢羽根状のキザミを有する2条の隆帯と渦巻き状の沈線で構成させる。	
33	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい橙色。	背割り状に「J」字状の沈線を施文した橋状把手が付く。文様帯は、幅広い沈線を施文する。	

第3節 遺物観察表

34	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄褐色。	瘤状の突起で、半円状の粘土帯を縦位に重ねて成形する。胴部は半円状の沈線と隆帯を施文する。
35	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	波状口縁で、「く」の字状に屈曲する。原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、文様帯を隆帯と沈線で区画する。
36	深鉢	胴部～底部	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	連結する「U」字状の隆帯と肋骨文を施文する。
37	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による円形刺突文と半円状の沈線を垂下させる。
38	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Lの撚り糸を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。
39	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。
40	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文、蛇行する沈線、磨り消し文を垂下させる。
41	深鉢	胴部片	黒雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、端部が蕨手状の隆帯と格子目状の隆帯を連結させて文様帯を区画する。
42	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	半円状の隆帯と斜位の沈線を施文する。
43	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、半円状の隆帯と横位の凹線を施文する。
44	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	2条の懸垂文を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。
45	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	横位の凹線を施文する。内面に赤彩が残存する。
46	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	懸垂文と斜位の沈線を施文する。
47	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい橙色。	原体Lの撚り糸を施文した隆帯、渦巻き状の沈線、短沈線で文様帯を構成する。
48	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	懸垂文、磨り消し文と斜位の沈線を施文する。
49	深鉢	台部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	無文で、ミガキ調整を施す。
52	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	横位の隆帯と沈線と交互刺突文で文様帯を区画する。
53	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部には、山形状の突起が付くと思われる。縷杉文と蕨手状の隆帯で文様帯を構成する。口唇部下部に、横位の沈線を施文する。口唇部内面が肥厚する。
54	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	無文で、外反する。

28区7号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
50	打製石斧	完形	64	46	12	57.5	細粒輝石安山岩	
51	凹み石	ほぼ完形	57	51	33	24.6	軽石	
55	打製石斧	刃部・基部欠	119	43	23	123.3	細粒輝石安山岩	
56	打製石斧	完形	58	53	16	63.5	黒色頁岩	

28区9号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		細砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、メガネ状の隆帯を貼付して文様帯を区画する。	
2	深鉢	口縁部片		黒雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は外側に肥厚する。口縁部は、渦巻き状の隆帯を貼付して文様帯を区画する。	
3	深鉢	胴部		細砂粒を多く含む。良好。橙色。	斜位の短沈線、巴状沈線、半円状沈線、蛇行する沈線などで文様帯を区画する。上部には横位の隆帯を貼付する。	炉埋設土器
4	深鉢	口縁部片		細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部には、山形状の突起が付く。口縁部は斜位の沈線を施文した後、渦巻き状の隆帯とそれに連結する横位の隆帯を貼付して文様帯を構成する。	
5	深鉢	口縁部片		細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内に、原体LRの単節斜縄文を充填する。	
7	深鉢	胴部片		細砂粒を多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には、円形状の刺突文を施文する。	

第3章 発見された遺構と遺物

6	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	短沈線と蛇行する沈線を施文する。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。橙色。	斜位の短沈線を施文した後、懸垂文、磨り消し文を垂下させる。	
9	深鉢	胴部片	雲母や石英を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	条線、懸垂文、磨り消し文を垂下させる。	
10	深鉢	底部 底径8.2	細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	

28区9号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
11	磨石	完形	76	59	30	201.5	多孔質安山岩	
12	使用剥片	完形	70	61	12	65.3	細粒輝石安山岩	

28区11号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部	口径13.2	雲母や石英を含む細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部下部に横位の沈線を施文する。口縁部は外側に肥厚する。	
2	深鉢	口縁部片		金雲母や石英をやや多く含む。良好。黒褐色。	波頂部の突起は緩やかな山形状の突起で、口縁部は内側に肥厚する。口縁部は斜位、横位の条線を施文した後、連結する渦巻き状の隆帯を縦位に貼付する。	
3	深鉢	胴部片		細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	斜位の条線を施文する。	

28区11号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
4	磨製石斧	刃部欠	69	50	32	156	蛇紋岩	
5	打製石斧	完形	113	58	11	106.9	黒色頁岩	
6	凹み石	完形	107	78	58	650.8	粗粒輝石安山岩	
7	磨石	完形	91	54	32	235.3	安山岩(緑色変質)	
8	磨石	完形	57	59	43	194.8	粗粒輝石安山岩	

28区13号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部～底部	底径65.0	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	3条の懸垂文を垂下させた後、斜位の短沈線を施文する。	
2	深鉢	胴部片		石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	
3	深鉢	底部片		細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	口縁部片		雲母や石英を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口唇部下部に横位の沈線を施文した後、斜位の沈線を施文する。	
5	深鉢	胴部片		雲母や石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、2条の沈線と連結した2条の隆帯を斜位に貼付する。	

28区13号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
6	凹み石	完形	108	88.5	53	756.8	粗粒輝石安山岩	
7	磨石	完形	240	188	105	524.5	安山岩	
8	磨石	完形	300	43	43	6800	粗粒輝石安山岩	

28区14号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部～底部	器高19.9 底径7.3	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	器形はキャリバー状を呈する。胴部に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、くびれ部に横位の隆帯を貼付する。	住居内土坑出土

第3節 遺物観察表

2	深鉢	口縁部～胴部 口径16.8	細砂礫を少量含む。良好。 赤褐色。	口縁部は平坦で内側に突出する。押圧文を施文した隆帯で文様帯を区画する。区画内は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。区画内に、背割り状の沈線を持つ双環状突起が付く。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。 暗赤褐色。	文様は隆帯の連続文様で、その間隙に集合沈線文を充填する。文様構成は横位の隆帯により区画されている。	
4	深鉢	口縁部～底部 口径32.3 器高45.4 底径13.0	細砂粒を多く含む。良好。 暗赤褐色。	口縁部には、1対の山形状突起に橋状把手が付く。口縁下部に押圧文を施文した横位隆帯を貼付する。口縁部文様帯は、連続する「人」字状隆帯とそれに平行する沈線と円形状の沈線で構成される。隆帯と区画内には、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	口縁部～胴部 口径11.5	細砂粒を少量含む。良好。 暗赤褐色。	口縁部文様帯は、半円状の隆帯と横位の隆帯と沈線で区画される。区画内は、横位の沈線と押圧文が施文される。胴部文様帯は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
6	深鉢	底部 底径6.0	細砂粒をやや多く含む。良好。 にぶい褐色。	炭化物が付着している。	
7	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。褐灰色。	2条の平行沈線を施文する。	
8	浅鉢	口縁部～胴下部 口径15.5	細砂粒をやや多く含む。良好。 にぶい褐色。	口縁部端部は平坦で、やや外側に肥厚する。胴部はくの字に屈曲する。内外面に赤彩が残存する。	
9	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は内側に肥厚し、外面には横位の隆帯を貼付する。原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に隆帯を貼付する。	
10	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部はやや外側に肥厚する。口唇部に2条の横位の沈線を施文する。	
11	浅鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部端部は平坦で、内側にやや肥厚する。口唇部に横位の凹線を施文する。	
12	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部端部は平坦で、内側にやや肥厚する。口唇部に横位の凹線を施文する。	
13	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	斜位の条線を施文した後、「∩」字状の隆帯と横位の隆帯を貼付する。	
14	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	「J」字状のモチーフの沈線を施文した後、沈線間に原体LRの単節斜縄文を充填する。	後期 称名寺1式
15	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
16	注口土器	注口部	細砂粒を少量含む。良好。 にぶい黄褐色。	注口上部に突起が付く。	後期
17	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	背割り状に沈線を施文した隆帯を斜位に貼付する。内外面に赤彩が残存する。	
18	深鉢	胴部片	雲母や石英を少量含む。良好。赤褐色	斜位の沈線を施文する。	

28区14号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
19	磨石	完形	228	89	34	1135.6	細粒輝石安山岩	
20	使用剥片	完形	43	52	9	15.9	珪質変質岩	

28区15号住居土器観察表

番号	器種	残存状態	計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片		石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤灰色。	蛇行する隆帯や縦位に連結する渦巻き状の隆帯に2条の懸垂文と横位の隆帯を連結させて貼付した後、胴部には斜位、口縁部には縦位の幅広い条線を施文する。口唇部下部には横位の沈線を施文する。	2・3と同一 個体
2	深鉢	口縁部片		石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤灰色。	蛇行する隆帯と横位の隆帯を貼付した後、斜位・縦位の幅広い条線を施文する。	1・3と同一 個体
3	深鉢	口縁部片		石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤灰色。	幅広い斜位の条線を施文する。	2・3と同一 個体

第3章 発見された遺構と遺物

28区19号住居土器観察表

番号	器種	残存状態 計測値	胎土・焼成・色	器形・文様の特徴等	期・備考
1	深鉢	把手	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	環状把手付き橋状把手で、内外面に赤彩が残存する。	
2	深鉢	口縁部片	黒雲母や石英を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部にキザミを施文した蝸局状スタンプ形突起が付く。	
3	深鉢	口縁部片	黒雲母・片岩・小礫を含む細砂粒を多く含む。普通。明黄褐色。	口縁部は肥厚し、口唇部下部に横位の凹線を施文する。口縁部文様帯は、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯で区画する。	
4	深鉢	口縁部片	石英や小礫を含む細砂粒を多く含む。普通。明黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、凹線を施文する。	
5	深鉢	口縁部片	石英や砂礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は外側に肥厚し、口縁部端部は平坦である。	
6	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は内側に肥厚し、口縁部端部は平坦である。口縁部は、「く」の字状に屈曲する。口縁部文様帯は、キザミを施文した縦位の隆帯と沈線で構成される。	
7	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	キザミを施文した横位の隆帯と半截竹管による横位の爪形文で文様帯を構成する。	
8	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明黄褐色。	口縁部は外側に肥厚する。口縁部文様帯は、格子状の隆帯と沈線で構成する。	
9	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	斜位の沈線を施文した後、刺突文と懸垂文を垂下させる。	
10	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	2条の隆帯を縦位に貼付した後、斜位の条線を施文する。	
12	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	キザミを施文した横位の隆帯と斜位や円形の沈線で文様帯を構成する。	
13	深鉢	把手	黒雲母・石英・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	橋状把手で、環状突起が付く。	
14	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄褐色。	横位の隆帯と凹線を施文する。外面に赤彩が残存する。	
15	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	押圧文を施文した格子状の隆帯を貼付する。	
16	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	2条の隆帯を縦位に貼付した後、斜位の条線を施文する。	
17	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	内面に塗彩痕あり。	
18	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	内面に円形状の塗彩痕あり。	
19	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	斜位の低い隆帯を貼付する。煤が付着している。	
20	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、半円状の沈線と磨り消し文を施文する。内面に煤が付着している。	
21	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。灰褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、円形状の沈線で文様帯を区画する。区画内は、原体RLの単節斜縄文を充填する。	
22	浅鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	内面に赤彩が残存する。	
23	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	円形状の突起を貼付する。突起に沈線を施文する。渦巻き状に隆帯と沈線を施文する。	
24	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	渦巻き状の隆帯に巴形の沈線を施文する。	
25	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体Rの撚り糸を縦位に施文する。	
26	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	「く」の字状に屈曲する。キザミを施文した横位の隆帯と、それに連結する曲線状の隆帯と沈線で文様帯を構成する。	

第3節 遺物観察表

27	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。黒色。	蛇行する沈線を垂下させる。	
28	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	
29	深鉢	底部 器高 4.4 底径 12.4	石英や小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	底部に植物痕が付く。	
30	深鉢	胴部～底部 器高 17.9 底径 8.4	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、3条の懸垂文と磨り消し文を垂下させる。	埋ガメ

28区19号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
31	打製石斧	茎部欠	56	52	21	76	細粒輝石安山岩	

土層説明

18区1号住居

A-A'

- 1：暗褐色土 黄褐色軽石、白色軽石をわずかに含み、均質。しまりやや弱い。
- 2：暗褐色土 不均質で小礫を含む。軽石が混入する暗褐色土ブロックを含む。しまり中程度。
- 2'：暗褐色土 2に近似するが、この部分だけ10～15cm大の礫を多く含む。
- 3：暗褐色土 2より均質でやや粘性が強い。黄褐色軽石、白色軽石をやや多く含む。

B-B'

- 1：暗褐色土 粘性強い。白色、黄褐色軽石粒を含む。小礫を少量含む。

炉H-H'

- 1：暗褐色土 小礫を多く含む。黄褐色軽石、白色軽石を少量含み、やや粘性あり。
- 2：暗褐色土 1よりも色調暗い。1よりも粘性強い。軽石を含まない。
- 3：暗褐色土 2に近似するが、2よりも均質。

18区2号住居

A-A'

- 1：暗褐色土 少量の白色微小軽石と5mm大の小礫を含む。土器片も少量含む。
- 2：暗褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を少量含む。炭化物を少量含む。
- 3：暗褐色土 2よりも色調明るい。2よりも炭化物が多く、砂質の割合が強い。
- 4：赤褐色土 焼き締まった焼土。
- 5：暗褐色土 黄色軽石、白色軽石をやや多く含む。やや粘性がある。

18区3号住居

A-A'

- 1：暗褐色土 締まり強く、軽石多く、炭化物を少量含む。

炉D-D'

- 1：黒褐色土 径50～80mm程の礫を少量含む。

- 2：黒褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。径20mm程の礫が混じる。

- 3：黒褐色土 径20～50mm程の礫が混じる。

18区6号住居

S P A-A'

- 1：暗褐色土 締まりやや弱く、軽石を僅かに含む。
- 2：暗褐色土 1より締まり強く、軽石が1より多い。
- 3：暗褐色土 1、2より色調やや暗い。やや粘性あり。
- 4：暗褐色土 3に近似する。3より軽石が少ない。

炉D-D'

- 1：暗褐色土 黄褐色軽石を僅かに含む。均質でやや締まる。

18区12号住居

A-A'

- 1：暗褐色土 径1mm程の石粒を少量含む。
- 2：褐色土 灰白色砂質土を少量含み、さらさらする。
- 2'：褐色土 2に近似する。2よりやや締まる。
- 3：黄褐色土 2より締まり、粘性も強い径1mm程の石粒を少量含む。地山に近似。
- 4：黄褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 5：褐色土 炭化物粒子を少量含む。1より粘性が強い。
- 6：黄褐色土 bより色調明るく、粘性は低い。

18区20号住居

炉A-A'

- 1：暗褐色土 径2mm程の石粒を多く含む。粘性、しまりともに低い。
- 2：暗褐色土 地山のローム質砂質土を含む。
- 3：灰褐色土 しまりなく軟らかい。この層の下部から焼土が検出されている。
- 4：黄褐色土 地山主体で灰褐色土を含む。

18区21号住居

炉A-A'

- 1：灰褐色土 焼土粒、炭化物粒を少量含む。
- 2：褐色土 全体がやや焼土化する。

- 3：黄褐色土 焼土粒、炭化物粒を少量含む。
 4：灰褐色土 1に近似するが、1よりやや締まり強い。

18区24号住居

柱穴1、2、3、7

淡褐色土 白色、黄褐色鈳物粒をごく少量含む。

柱穴4、5、6、8

柱穴1の埋没土に近似するが、鈳物粒の量がやや多い。

炉K-K'

- 1：淡褐色土 締まり弱く、黄褐色鈳物粒を僅かに含む。
 2：淡褐色土 1に近似する。炭化物粒を少量含む。
 3：暗褐色土 炭化物粒を少量含む。
 4：暗褐色土 径5～10mmの小礫を含む。
 5：暗黄褐色土 地山に近似する。

18区26号住居

- 1：暗褐色土 黄橙色鈳物粒を僅かに含み、やや締まる。黄褐色土をごく少量含む。
 2：暗褐色土 1よりもやや暗く、炭化物を僅かに含む。
 3：暗褐色土 炭化物粒を少量含む。暗黄褐色土を混入する。1よりも締まり弱い。
 4：淡褐色土 灰褐色土を含むため、2よりも明るく見える。
 5：暗褐色土 白色鈳物粒を少量含む。

18区28号住居

- 1：暗褐色土 白色鈳物粒を少量含む。
 2：暗褐色土 1よりも鈳物粒が少ない。
 2'：暗褐色土 2に近似するが、軟らかい。
 3：暗褐色土 黄褐色軽石粒を少量含む。
 4：暗褐色土 やや締まり強く、炭化物粒を少量含む。
 5：淡褐色土 黄褐色土を少量含む。
 6：地山か
 7：暗褐色土 4に近似する。やや大きめの炭化物粒を含む。
 8：淡褐色土 炭化物と黄褐色土を少量含む。

- 9：淡褐色土 8に近似するが、含有物がやや少ない。

- 10：暗褐色土 締まり弱く、炭化物をやや多く含む。

28区1号住居

D-D'、E-E'

- 1：暗褐色土
 2：暗褐色土

28区2号住居

A-A'、B-B'

- 1：暗褐色土 しまり中。小礫を少量含む。白色軽石と黄褐色軽石を少量含む。
 2：暗褐色土 1に近似するが、締まり弱い。
 3：暗褐色土 1に近似するが、1より小礫が多く、やや砂質。
 4：暗黒褐色土 しまり弱い。白色、黄褐色軽石を含まない。

28区3号住居

A-A'

- 1：黒褐色土 締まりあり。白色鈳物粒、黄褐色軽石を少量含む。
 1'：黒褐色土 1とほとんど同質だが、やや色調が暗い。
 2：黒褐色土 ローム土と思われる、黄褐色土粒が不規則に混入する。
 3：黄褐色土 暗褐色土が少量混入する。
 4：暗褐色土 白色鈳物粒、黄褐色軽石を含み、黒褐色土ブロックを混入する。
 5：暗褐色土 炭化物、焼土粒を含む。
 6：黒褐色土 白色鈳物粒を含む。
 7：黄褐色土 灰色小軽石、黄褐色軽石を含む。

B-B'

- 1：黒色土 表土
 2：暗褐色土 黄褐色土粒が混入する。締まりなし。
 3：暗褐色土 黄褐色土ブロック、黄褐色軽石を少量含む。
 4：黒褐色土 暗褐色土ブロックが不規則に混入する。
 5：黒褐色土 白色鈳物粒を少量含む。

第3章 発見された遺構と遺物

6：黒褐色土 5に近似するが、白色鉱物粒が5より多い。

7：黒褐色土 締まり弱い。根痕か。

28区4号住居

炉D-D'

1：明暗褐色土 焼土ほどの焼き締まりは見られないが、比熱していると思われる。

2：暗褐色土 ややしまりあり。白色軽石を少量含む。ほぼ均質で、やや粘性有り。

3：黒褐色土 小礫をやや多く含み、砂質気味。不均質でやや粘性有り。

4：焼土

埋甕E-E'

1：黒褐色土 均質で小礫を僅かに含む。

2：黒褐色土 1に近似する。やや粘性あり。

3：黒褐色土 2よりやや締まり弱い。

4：黒褐色土 色調は1、2よりやや暗い。黄褐色軽石を僅かに含む。

5：黒褐色土 締まりやや弱く、均質で軽石は混入しない。

6：黒褐色土 軽石を僅かに含み、5より締まりあり。ほぼ均質。

7：黒褐色土 6に近似するが、6より締まり弱い。

8：黒褐色土 小礫を含み、やや不均質。軽石粒を僅かに含む。

28区5号住居

B-B'、F-F'、G-G'

1：黒褐色土 締まり強い。黄褐色軽石を多く含み、炭化物を少量含む。

2：黒褐色土 締まり弱い。

3：黒褐色土 締まりあり。白色鉱物粒を含む。

4：黒褐色土 締まりあり。黄褐色軽石、炭化物を少量含む。

5：黒褐色土 4より締まり強い。黄褐色軽石を少量含む。

6：黒褐色土 焼土粒を多く含む。

7：暗褐色土 黄褐色軽石を少量含む。

8：赤褐色土 焼土のブロック。

9：暗褐色土 地山の褐色土を多く含む。

10：暗褐色土 小礫、黄褐色土を少量含む。

11：暗褐色土 しまりややあり。黄褐色軽石、白色軽石をわずかに含む。

12：暗褐色土 締まり弱い。

13：暗褐色土 締まりあり。白色鉱物粒、黄褐色軽石を少量含む。

14：黒褐色土 しまりあり。白色鉱物粒、黄褐色軽石を僅かに含む。

15：黒褐色土 3に近似するが、炭化物をやや多く含む。

C-C'

1：暗褐色土 やや不均質。

2：暗褐色土 締まりあり。白色鉱物粒、黄褐色軽石を含む。

2'：暗褐色土 締まりあり。白色鉱物粒、黄褐色軽石を含むが、2より少ない。炭化物を少量含む。2よりやや暗い。

3：黒褐色土 白色鉱物粒、黄褐色軽石を僅かに含む。

3'：黒褐色土 3と近似する。径50~100mmの礫を多く含む。

4：黒色土と暗褐色土の混土 小礫、軽石粒を含む。締まり強い。

D-D'

1：暗褐色土 やや砂質で、地山の砂質土をブロック状に多く含む。

2：暗褐色土 締まり強く、白色軽石粒を少量含む。

E-E'

1：暗褐色土 締まりやや弱い。均質で軽石、礫を含まない。やや粘性あり。

1'：暗褐色土 1と同質だが、やや締まり強い。

2：暗褐色土 締まり強く、白色軽石、黄色軽石を多く含む。

3：暗褐色土 1と同質であるが、1よりも砂質。

28区6号住居

H-H'

1：くすんだ褐色土 締まりなし。

2：くすんだ褐色土 炭化物を少量含む。締まりあり。

3：くすんだ褐色土 焼土をブロック状に含む。締まりあり。

I - I'

1：黒褐色土 しまりやや欠く。白色、褐色軽石をやや多く含み、不均質。

2：黒褐色土 締まりやや欠く。1より白色軽石がやや多い。

3：黒褐色土 1、2に近似するが、軽石が少ない。

M - M'、N - N'、O - O'、P - P'

1：黒褐色土 締まり弱い。

2：黒褐色土 締まりあり。軽石粒多く含む。

3：黒褐色土 締まりあり。軽石粒を含む。黄褐色土ブロックを少量含む。

3'：黒褐色土 2より締まり弱い。軽石粒をわずかに含む。

4：黒褐色土 2より締まり弱い。軽石粒を少量含む。

5：黒褐色土 2より締まり弱い。部分的に黄褐色土ブロックを少量含む。

28区7号住居

A - A'

1：暗褐色土 やや粘性あり。不均質で小礫をやや多く含む。白色、黄褐色軽石を少量含む。径10cmほどの礫も含む。

1'：暗褐色土 1と同質だが、締まり弱くふかふか。

2：黒褐色土 1より砂質で、軽石粒も僅かに含まれる。締まり強い。

E - E'

1：黒褐色土 やや赤みをおびる。締まり強い。黄褐色軽石をわずかに含む。

2：黒褐色土 1より締まり弱く、やや粘性あり。均質で礫、軽石を含まない。

28区9号住居

A - A'、B - B'

1：暗褐色土 締まりなし。軽石を少量含む。

D - D'

1：暗褐色土 しまりなし。

2：暗褐色土 焼土粒を含む。

3：暗褐色土 2より炭化物が少なく、ブロック状に明褐色の焼土を含む。

4：暗褐色土

5：暗褐色土 白色、黄褐色軽石を少量含む。

28区13号住居

A - A'、B - B'

1：褐色土 軽石等の含有物が少ない。

1'：褐色土 白色鈹物粒を少量含む。

2：黒褐色土 締まりあり。白色鈹物粒、黄褐色軽石を含む。

2'：黒褐色土 2と同質だが、炭化物を含む。

3：黒褐色土 含有物少ない。2より締まり弱い。

4：褐色土 締まりあり。

5：暗褐色砂質土と黒褐色土の混土

6：黒色土を主体に褐色土が不規則に混じる。(地山と思われる)

7：暗褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。

8：黒褐色土 焼土粒を少量含む。

9：砂層

10：黒色土と暗褐色土の混土 白色鈹物粒を含む。

11：黒色土 褐色粘質土ブロックを含む。

E - E'

1：暗褐色土 砂粒、白色軽石を含む。

2：褐色土 砂粒、小礫を含む。

28区14号住居

A - A'、B - B'

1：黒褐色土 締まりあり。黄褐色軽石を少量含む。

1'：黒褐色土 1と同質。1よりも締まりあり。

2：黒褐色土 締まり弱い。黄褐色軽石を少量含む。

3：黒褐色土 締まり強い。白色鈹物粒を含む。

4：暗褐色土 締まり不均質。黄褐色軽石、白色鈹物粒を含む。

5：暗褐色土と黒褐色土の混土 締まりあり。黄褐色軽石を多く含む。

6：黒色土 暗褐色土、黄褐色土が不規則に混ざる。

第3章 発見された遺構と遺物

部分的に砂が混じる。貼り床か。

- 7：暗褐色土 黒色土のブロックを含む。
- 8：流砂のブロック
- 9：黒色土 砂をブロック状に含む。
- 10：褐色土 黒色土をブロック状に含み、締まり不均質。白色鉍物粒、黄褐色軽石が不規則に混じる。
- 11：褐色土 締まり不均質。灰色軽石、小礫を少量含む。
- 12：褐色土と黄褐色砂質土の混土 締まり不均質。
- 13：暗褐色土 締まりあり。径2～20mmほどの灰色軽石を多く含む。
- 14：暗褐色土 黄褐色砂質土、褐色土をブロック状に含む。灰色軽石粒を多く含む。
- 15：明褐色砂質土

C - C'

- 1：暗褐色土 炭化物を少量含む。白色軽石を少量含む。締まり強い。
- 2：赤褐色土 焼土を主体とする。焼き締まった土。炭化物を多く含む。
- 3：褐色土 地山の砂質土を含み、地山に比べて締まりがある。ほぼ均質で、炭化物を含まない。

D - D'

- 1：黒褐色土 締まりあり。白色鉍物粒を含む。
- 2：暗褐色土 締まりあり。
- 3：黒褐色土 締まりあり。黄褐色軽石、白色鉍物粒を含む。
- 4：黒褐色土 締まりあり。炭化物を含む。
- 5：黒褐色土 締まりあり。黄褐色軽石を含む。
- 6：暗褐色土 黒色土のブロックを含む。

H - H'

- 1：暗褐色土 締まり不均質。黄褐色軽石、白色鉍物粒を少量含む。
- 2：暗褐色土 1よりも締まり弱い。
- 3：暗褐色土 締まりあり。白色鉍物粒を含む。
- 4：暗褐色土 やや粘性あり。

I - I'

- 1：黒褐色土 締まり弱く、黄褐色軽石を少量含む。
- 2：暗褐色砂質土
- 3：暗褐色砂質土 2より色調暗く、小礫を少量含む。

J - J'

- 1：黒褐色土
- 2：暗褐色土 締まり不均質。小礫、明褐色砂質土を含む。
- 3：黒褐色土と暗褐色土の混土 灰色軽石を含む。
- 4：黒褐色土 明褐色砂質土を少量含む。

28区15号住居

S P A - A'

- 1：黒褐色土 黒褐色土と褐色土が斑状に混じった土。黄褐色軽石を少量含む。一部ブロック状に黒褐色土を含む。
- 2：黄褐色土 焼土を少量含む。
- 3：黒褐色土 1より黒味が強い。黄褐色軽石をごく少量含み、締まりなく軟らかい土。
- 4：黒褐色土 ローム土をブロック状に含む。3よりやや黄色味が強い。
- 5：褐色土 1よりも褐色土を多く含み、全体として褐色を呈する。黒褐色土も斑に含む。下部にはローム土がブロック状に混入し、少量の焼土が確認される。

28区19号住居

A - A'

- 1：暗褐色土 締まりなく乱れた土。軽石を僅かに含む。小礫は含まず、やや粘質。

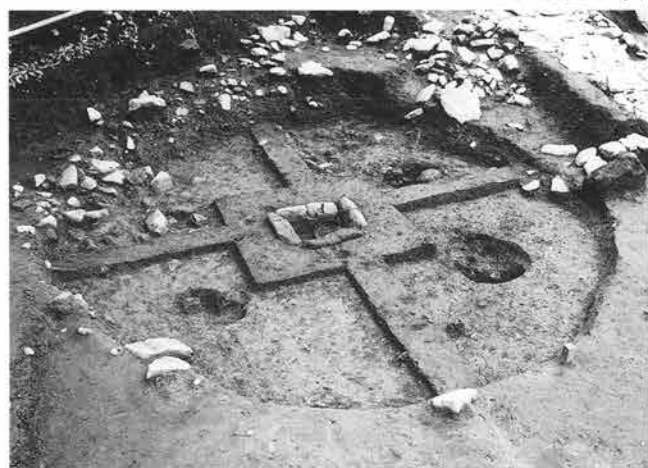
報告書抄録

書名ふりがな	よこかべなかむらいせきかっこよん
書名	横壁中村遺跡（4）
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	10
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	381
編著者名	池田政志
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20060831
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	よこかべなかむらいせき
遺跡名	横壁中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざよこかべ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁
市町村コード	10424
遺跡番号	24
北緯（日本測地系）	36° 32' 54"
東経（日本測地系）	138° 40' 25"
北緯（世界測地系）	36° 32' 21"
東経（世界測地系）	138° 40' 13"
調査期間	19960401-20051231
調査面積	30000
調査原因	ダム建設
種別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落-縄文-竪穴住居24-縄文土器+石器
特記事項	縄文時代中期から後期にかけての拠点集落

写 真 图 版



1. 18区1号住居全景（北から）



2. 18区1号住居掘り方（北から）



3. 18区1号住居炉全景（北東から）



4. 18区2号住居炉全景（北西から）



5. 18区2号住居全景（南東から）



1. 18区3号住居全景（北から）



2. 18区3号住居石棒出土状況（北東から）



3. 18区3号住居周辺状況（北東から）



4. 18区3号住居掘り方（北から）



5. 18区3号住居調査状況（東から）



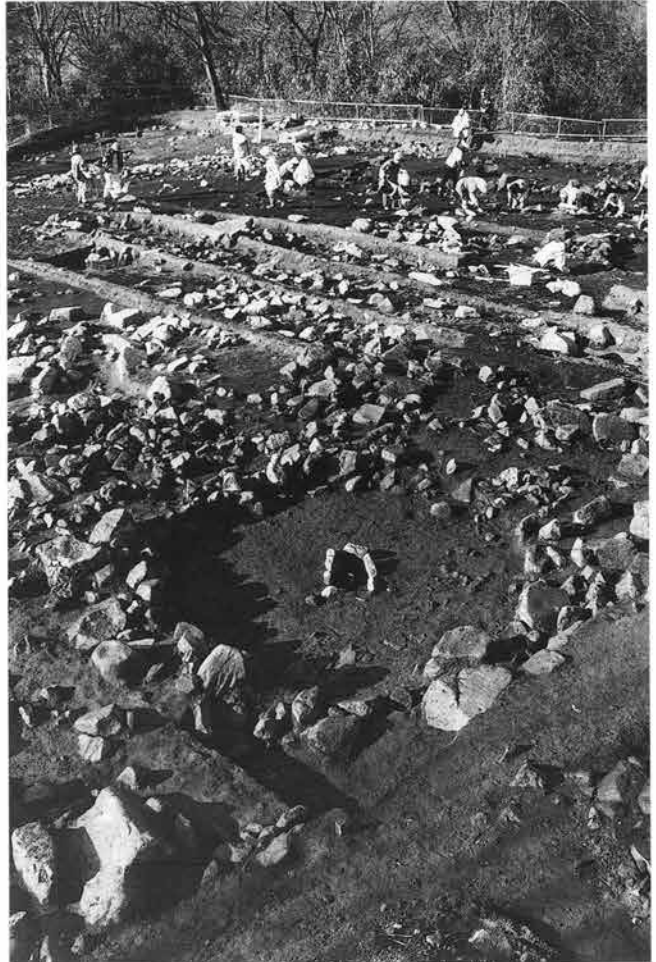
1. 18区6号住居全景 (南東から)



2. 18区6号住居遺物出土状況 (北から)



3. 18区6号住居炉全景 (南から)



4. 18区6号住居周辺状況 (南東から)



1. 18区12号住居全景 (西から)



2. 18区12号住居確認状況 (北西から)



3. 18区12号住居確認状況 (北から)



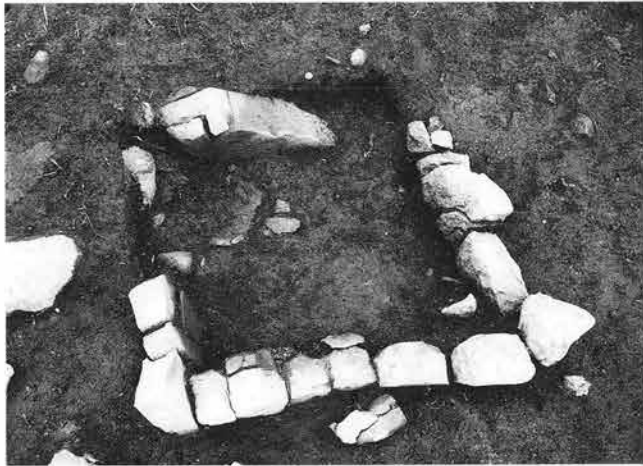
4. 18区12号住居埋壘出土状況 (東から)



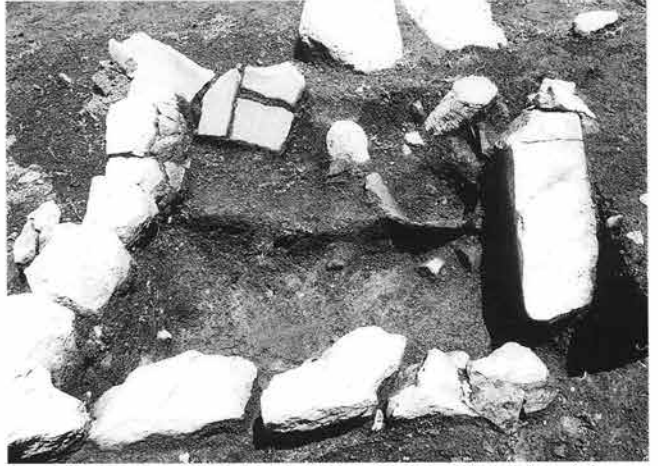
5. 18区12号住居炉全景 (北から)



1. 18区20号住居周辺状況（南から）



2. 18区20号住居炉全景（西から）



3. 18区20号住居炉内埋設土器出土状況（南から）



4. 18区21号住居全景（南から）



5. 18区21号住居炉内埋設土器出土状況（西から）



1. 18区24号住居全景（北から）



2. 18区24号住居出入口部と思われる立石（西から）



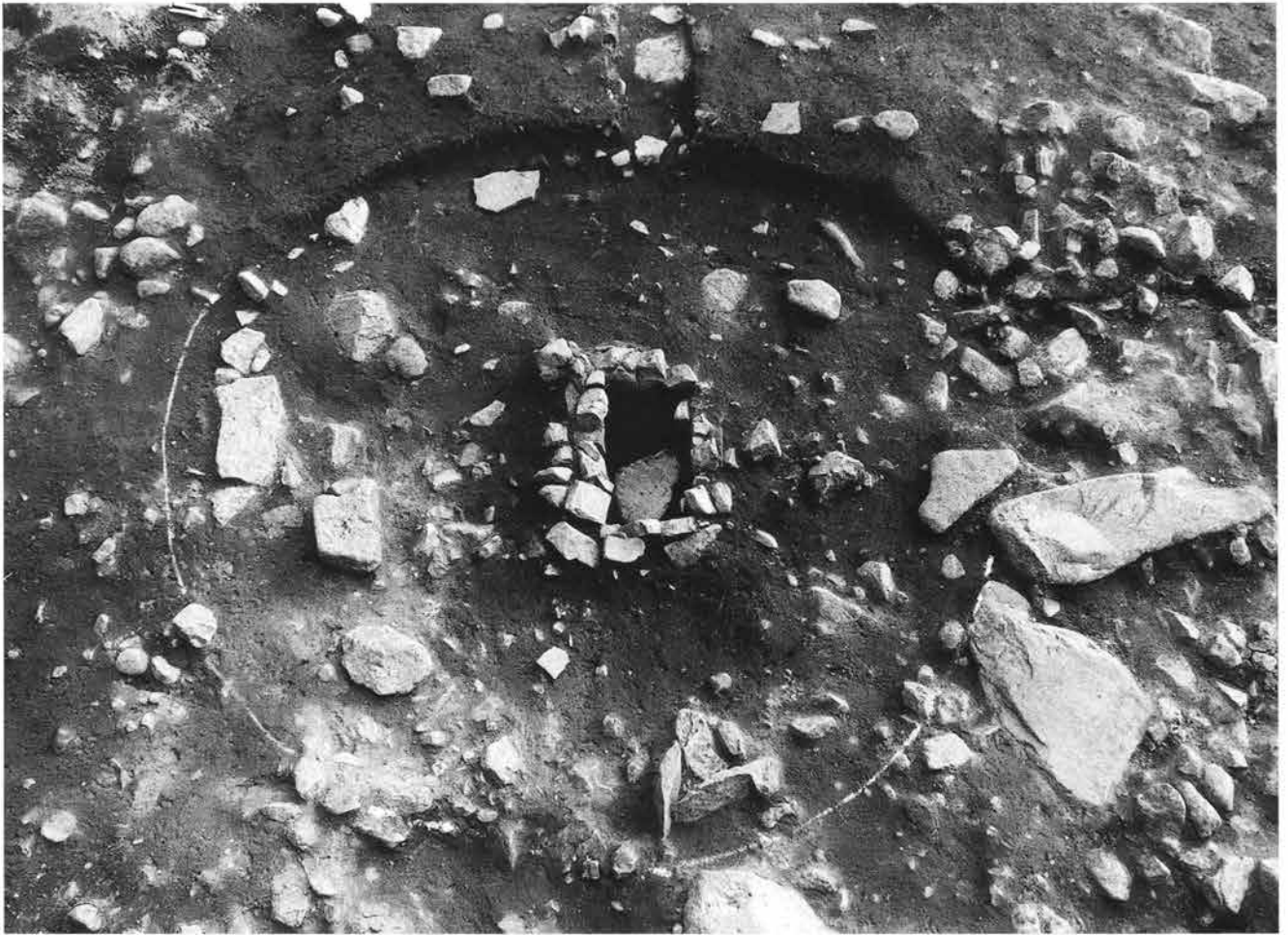
3. 18区24号住居遺物出土状況（北から）



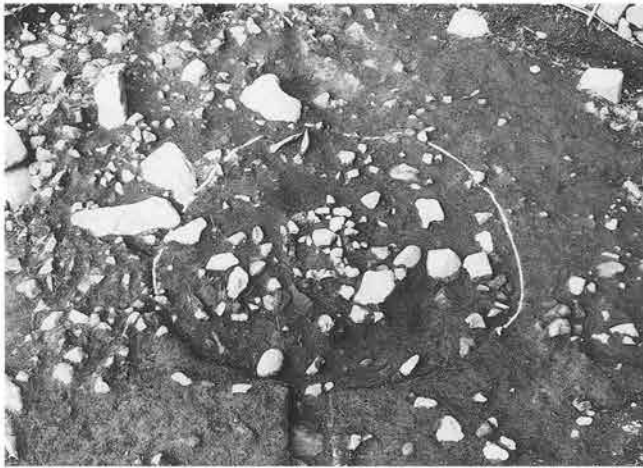
4. 18区24号住居炉全景（北から）



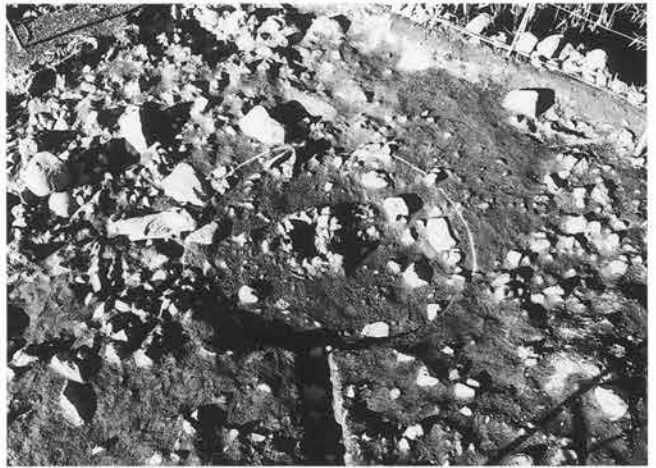
5. 18区24号住居炉掘り方（北から）



1. 18区26号住居全景（北から）



2. 18区26号住居確認状況（南から）



3. 18区26号住居周辺状況（南から）



4. 18区26号住居炉内埋設土器出土状況（北から）



5. 18区26号住居炉底部の磔（北から）



1. 18区28号住居全景 (西から)



2. 18区28号住居床面炭化物出土状況 (南から)



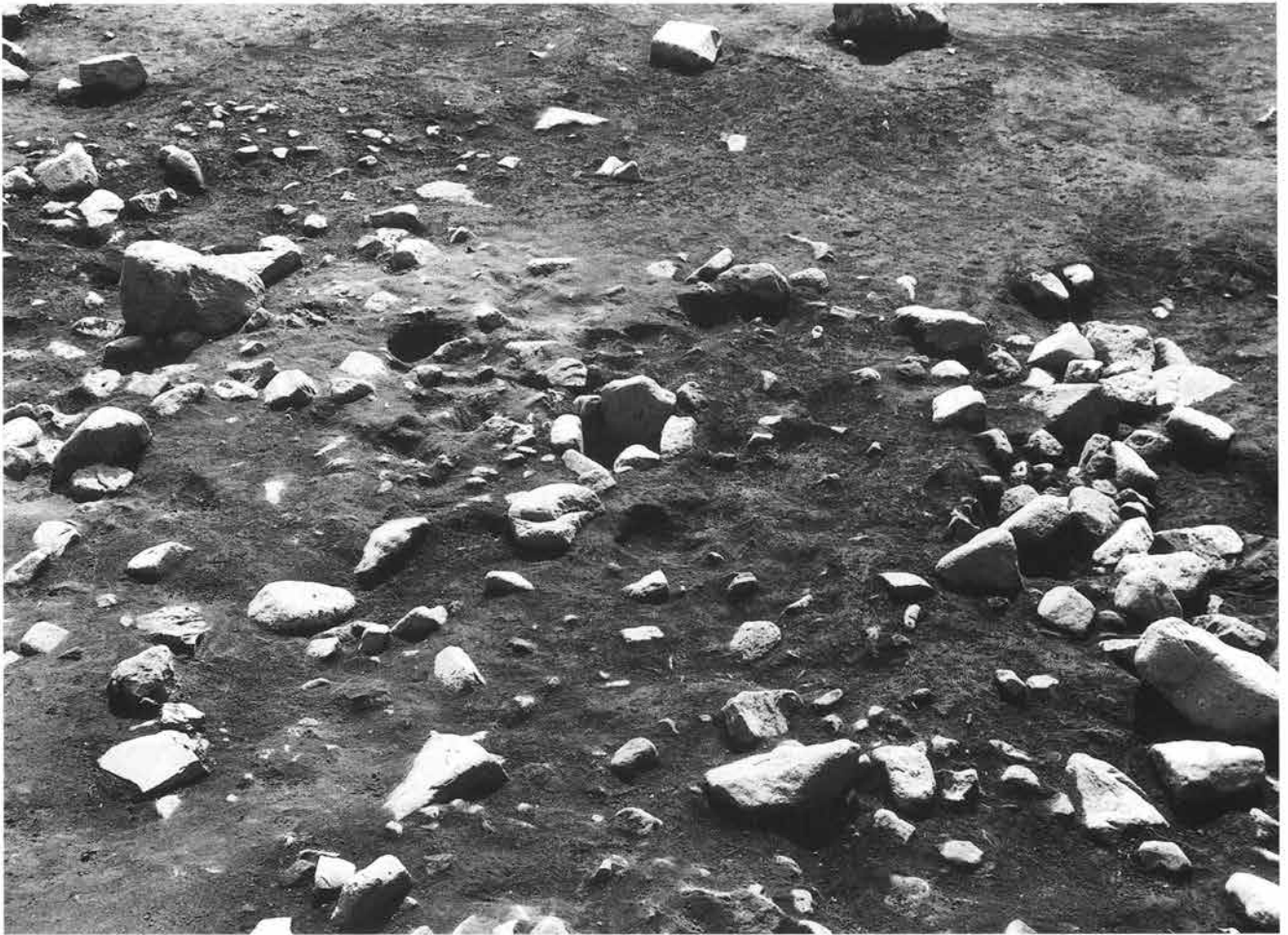
3. 18区28号住居掘り方 (東から)



4. 18区28号住居炉全景 (南から)



5. 18区28号住居周辺状況 (上は5号列石) (西から)



1. 28区1号住居全景（北東から）



2. 28区1号住居周辺状況（北東から）



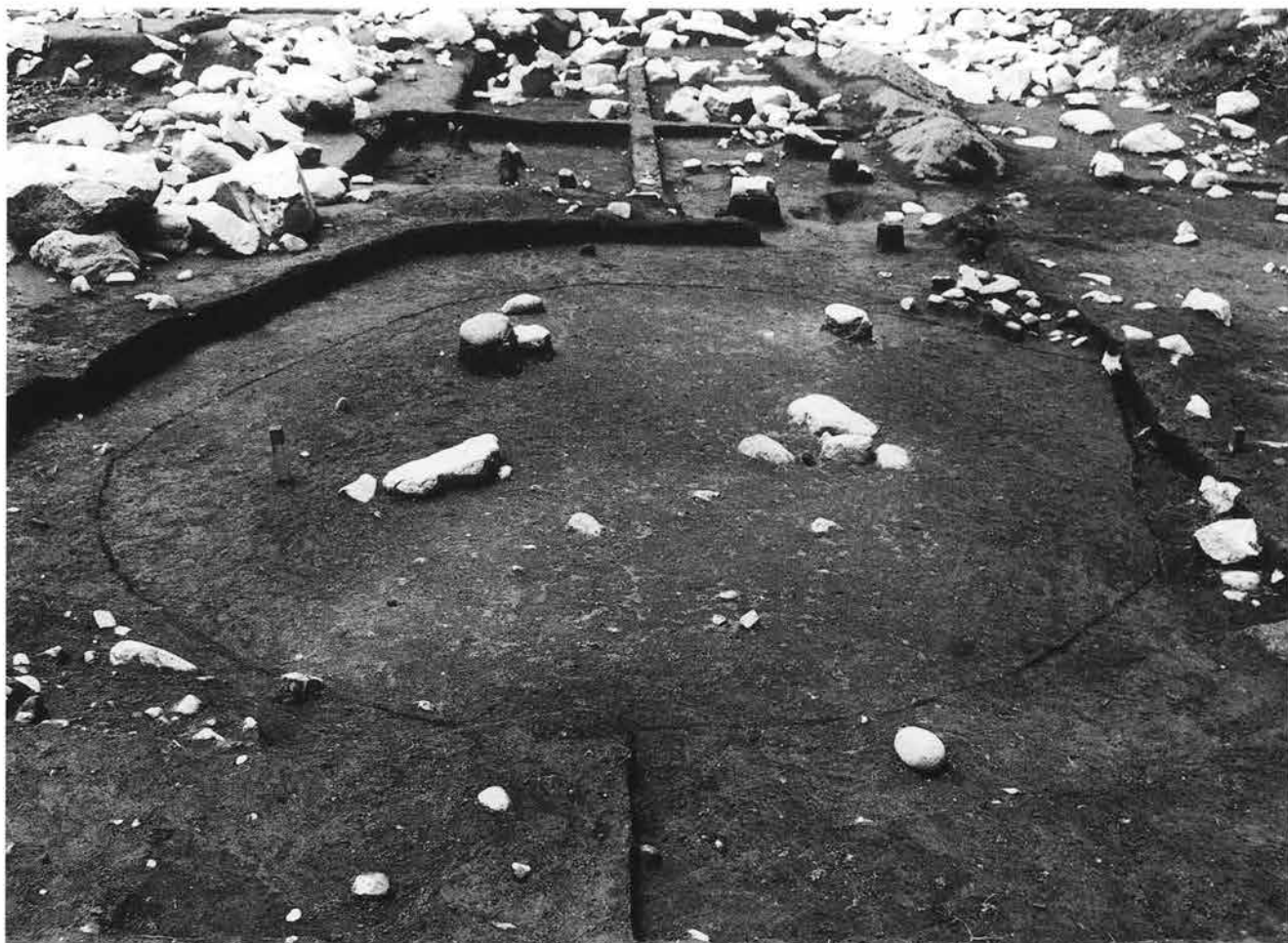
3. 28区1号住居炉全景（東から）



4. 28区1号住居床面の敷石と思われる礫（東から）



5. 28区1号住居炉下面（東から）



1. 28区2号住居全景（東から）



2. 28区3号住居全景（南から）



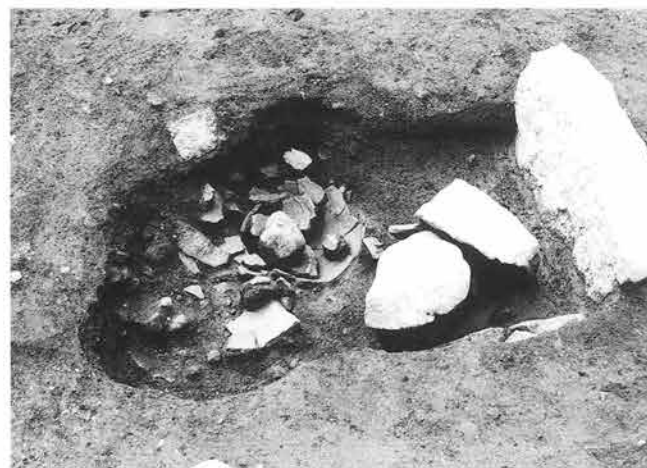
1. 28区4号住居北半部（東から）



2. 28区4号住居埋甕出土状況（北から）



3. 28区5号住居全景（南から）



4. 28区5号住居炉遺物出土状況（東から）



5. 28区5号住居炉全景（西から）



1. 28区5号住居周辺状況 (奥は6号住居) (東から)



2. 28区5号住居内1号配石確認状況 (北から)



3. 28区5号住居内2号配石全景 (南から)



4. 28区5号住居遺物出土状況 (東から)



5. 28区5号住居掘り方 (南から)



1. 28区6号住居全景（東から）



2. 28区6号住居周辺状況（東から）



1. 28区6号住居炉全景（北から）



2. 28区6号住居内1号配石（南から）



3. 28区6号住居内2号配石（南から）



4. 28区6号住居1号埋甕（西から）



5. 28区6号住居2号埋甕（東から）



6. 28区6号住居3号埋甕（東から）



7. 28区6号住居4号埋甕確認状況（東から）



8. 28区6号住居4号埋甕断面（東から）



1. 28区7号住居全景（北東から）



2. 28区7号住居遺物出土状況（北から）



3. 28区7号住居炉全景（東から）



4. 28区7号住居全景（南から）



5. 28区7号住居遺物近接（北から）



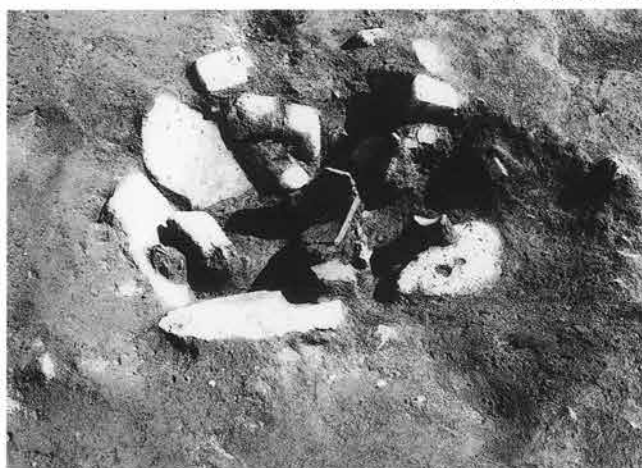
1. 28区9号住居全景（北西から）



2. 28区9号住居炉全景（北から）



3. 28区11号住居全景（北から）



4. 28区11号住居炉遺物出土状況（西から）



5. 28区11号住居炉全景（南西から）



1. 28区13号住居全景（北から）



2. 28区13号住居全景（東から）



3. 28区13号住居炉全景（北から）



4. 28区13号住居遺物出土状況（東から）



5. 28区13号住居遺物出土状況（東から）



1. 28区14号住居全景 (南東から)



2. 28区14号住居炉全景 (西から)



3. 28区14号住居掘り方 (東から)



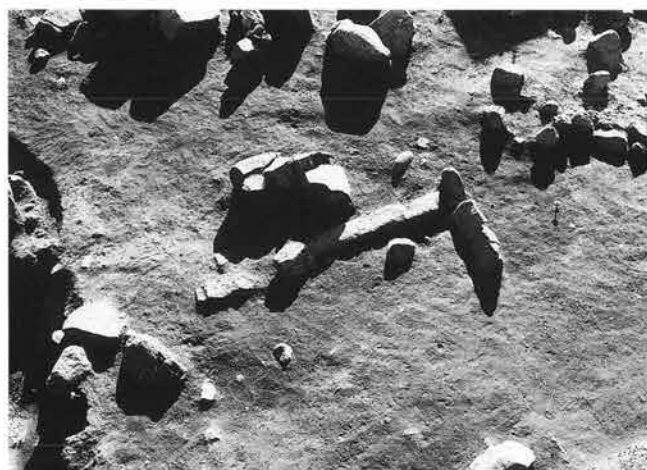
4. 28区14号住居遺物近接 (南から)



5. 28区14号住居遺物出土状況 (北東から)



1. 28区15号住居炉全景（北から）



2. 28区15号住居炉確認状況（北から）



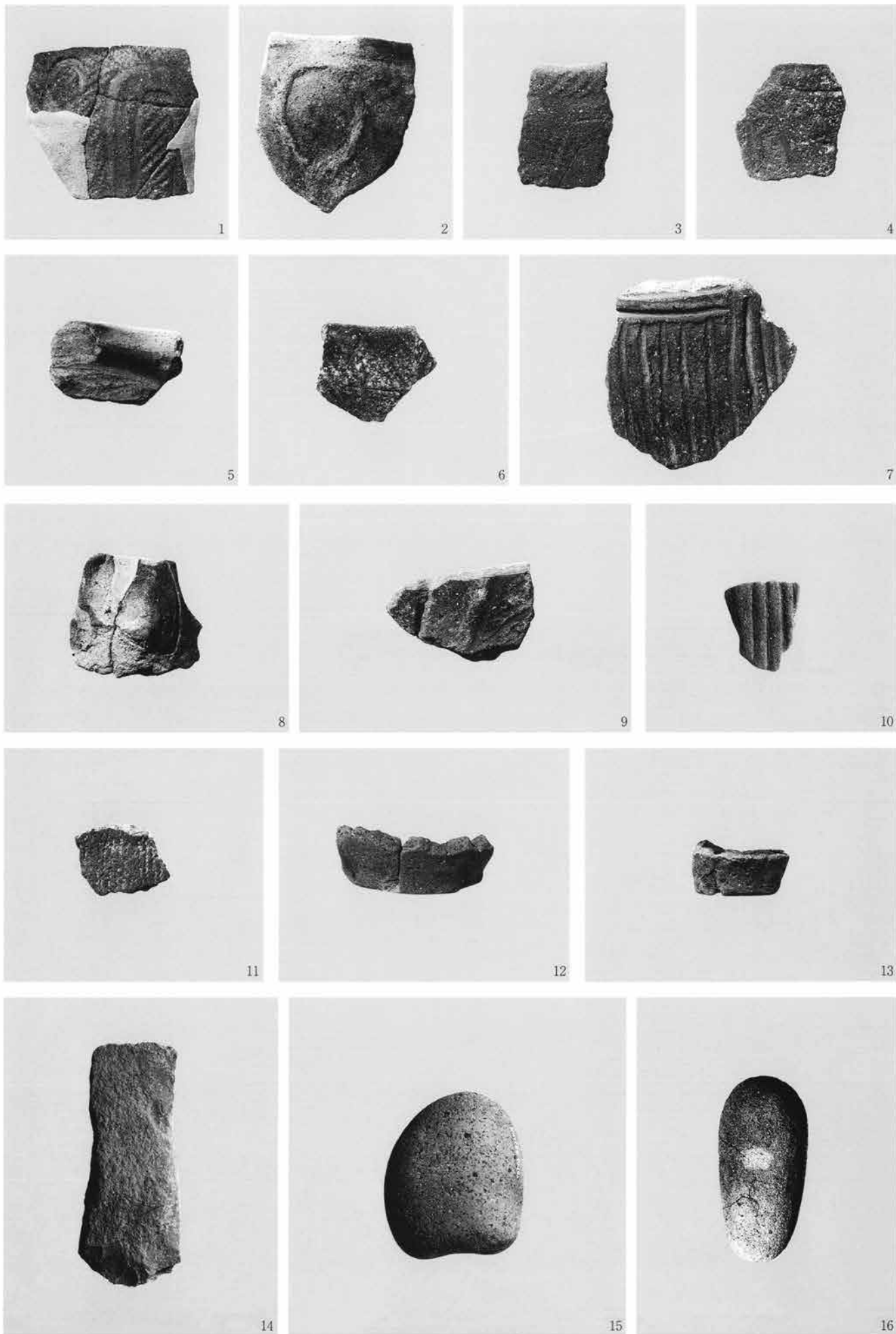
3. 28区15号住居炉石復元状況



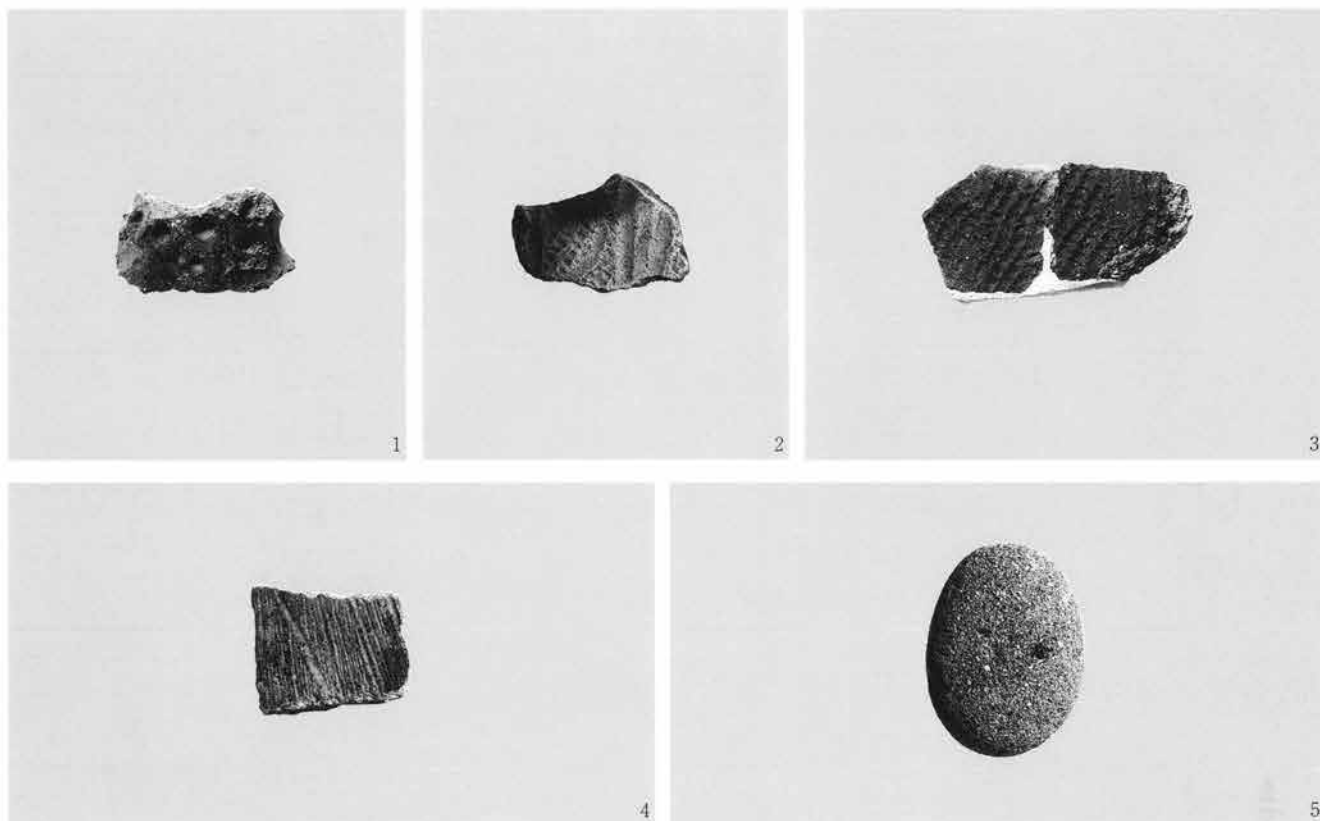
4. 28区19号住居炉全景（東から）



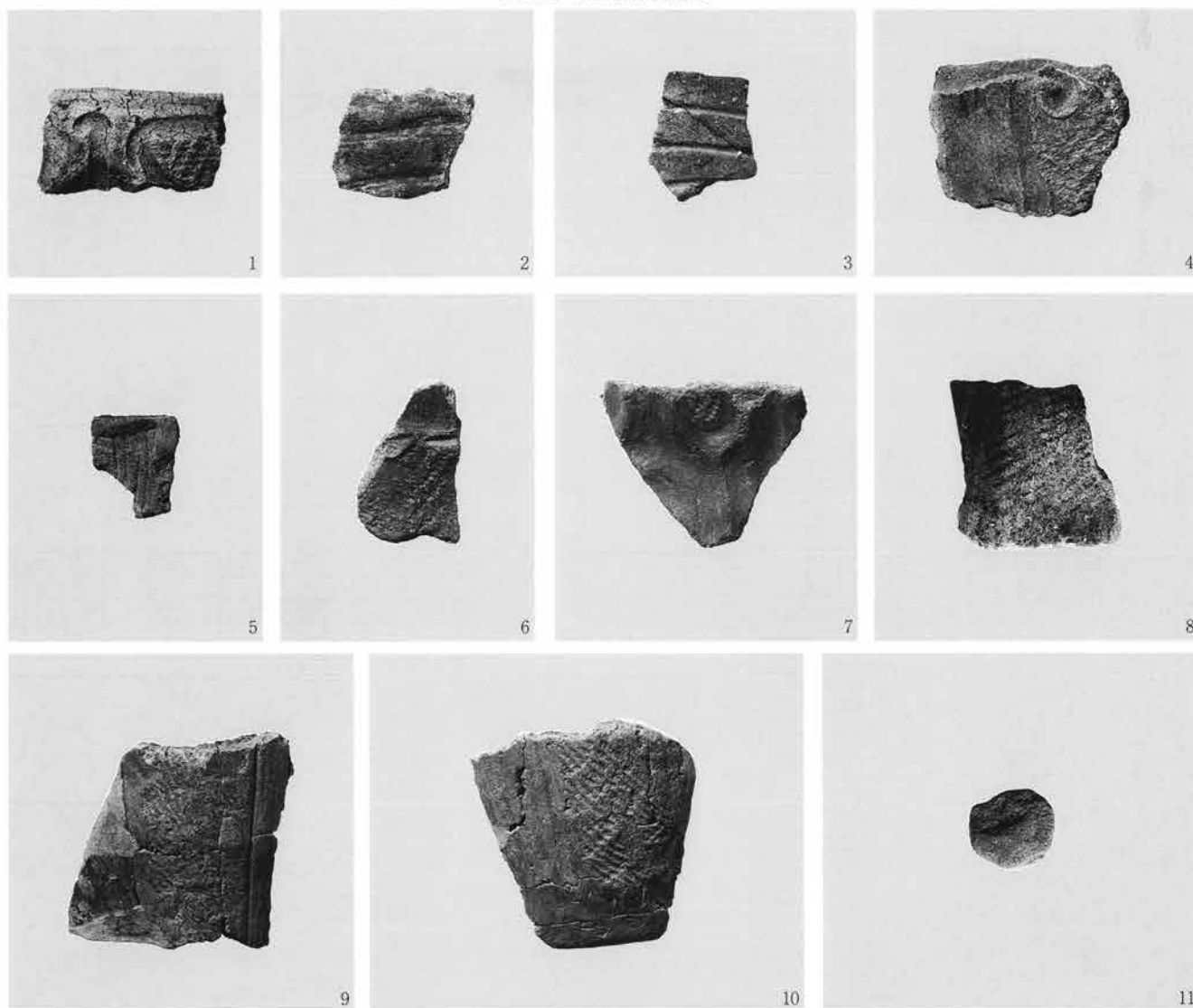
5. 28区19号住居埋甕出土状況（南西から）



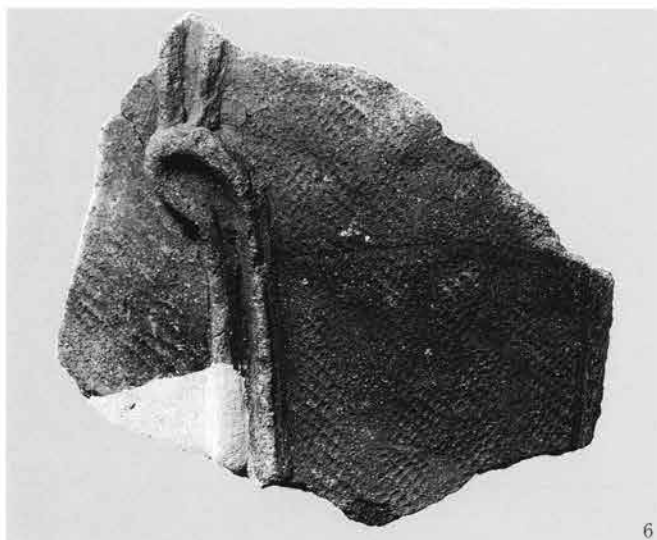
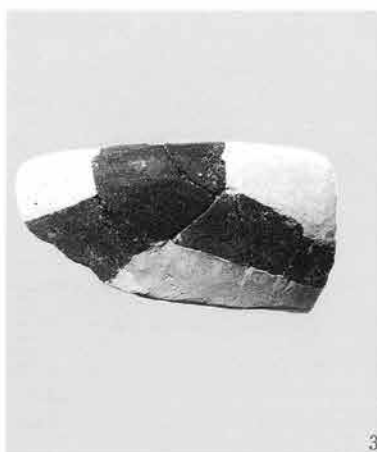
18区1号住居出土遺物



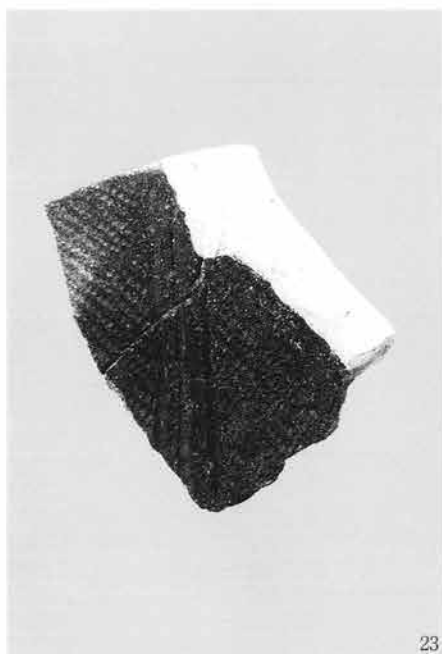
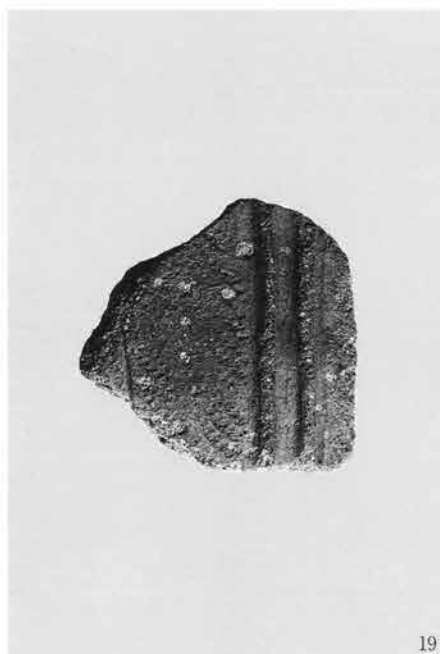
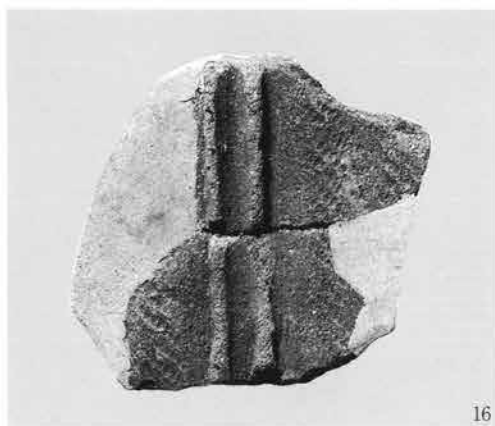
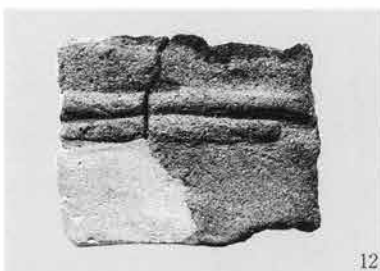
18区2号住居出土遺物

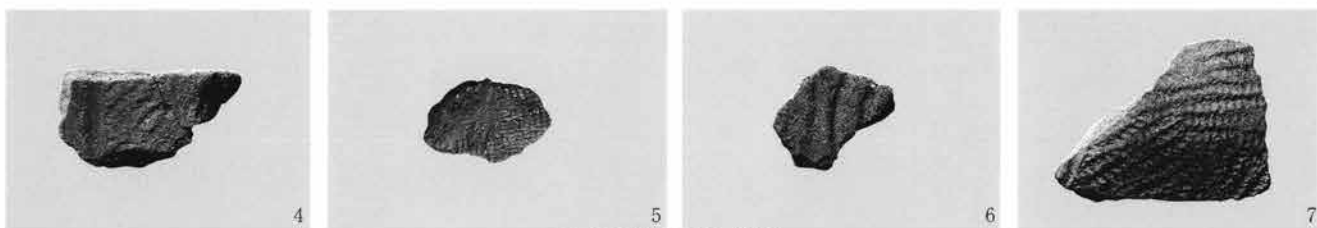
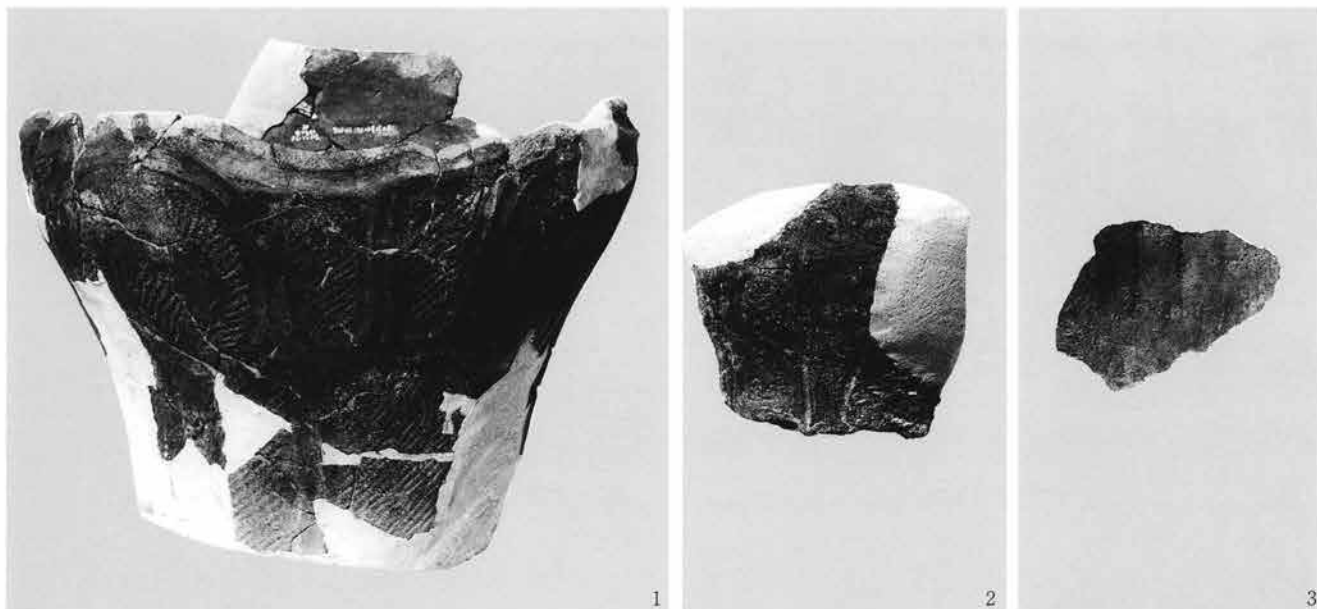


18区3号住居出土遺物

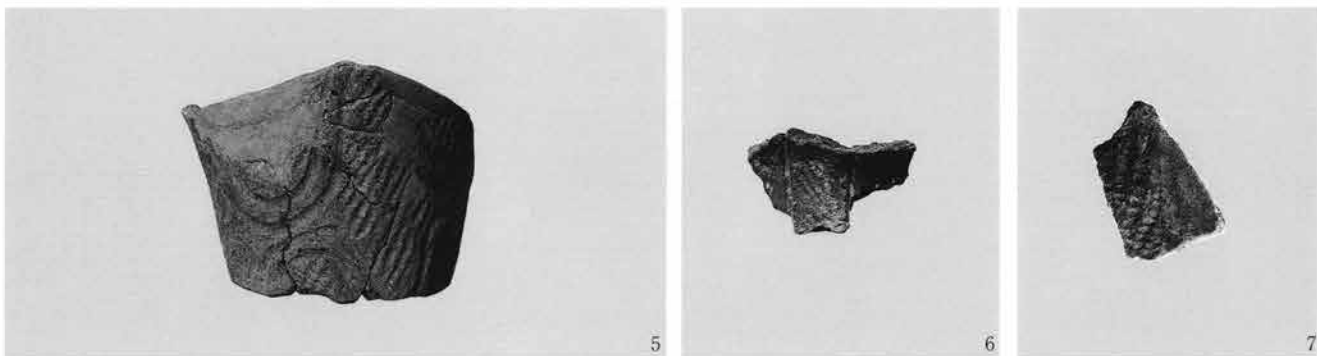
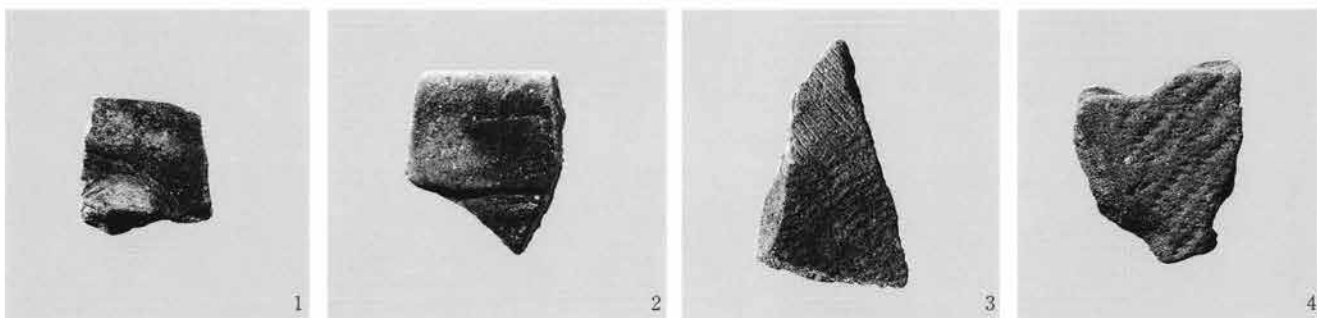


18区6号住居出土遺物(1)

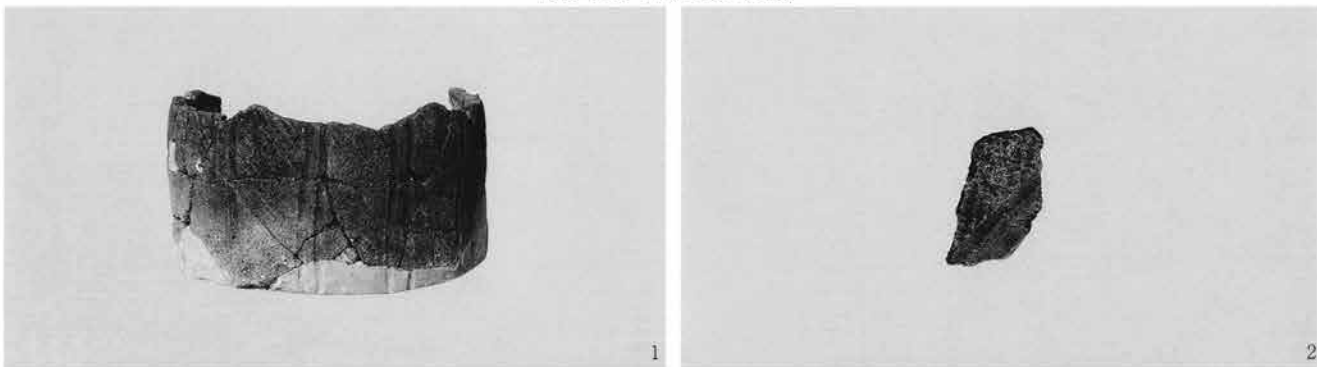




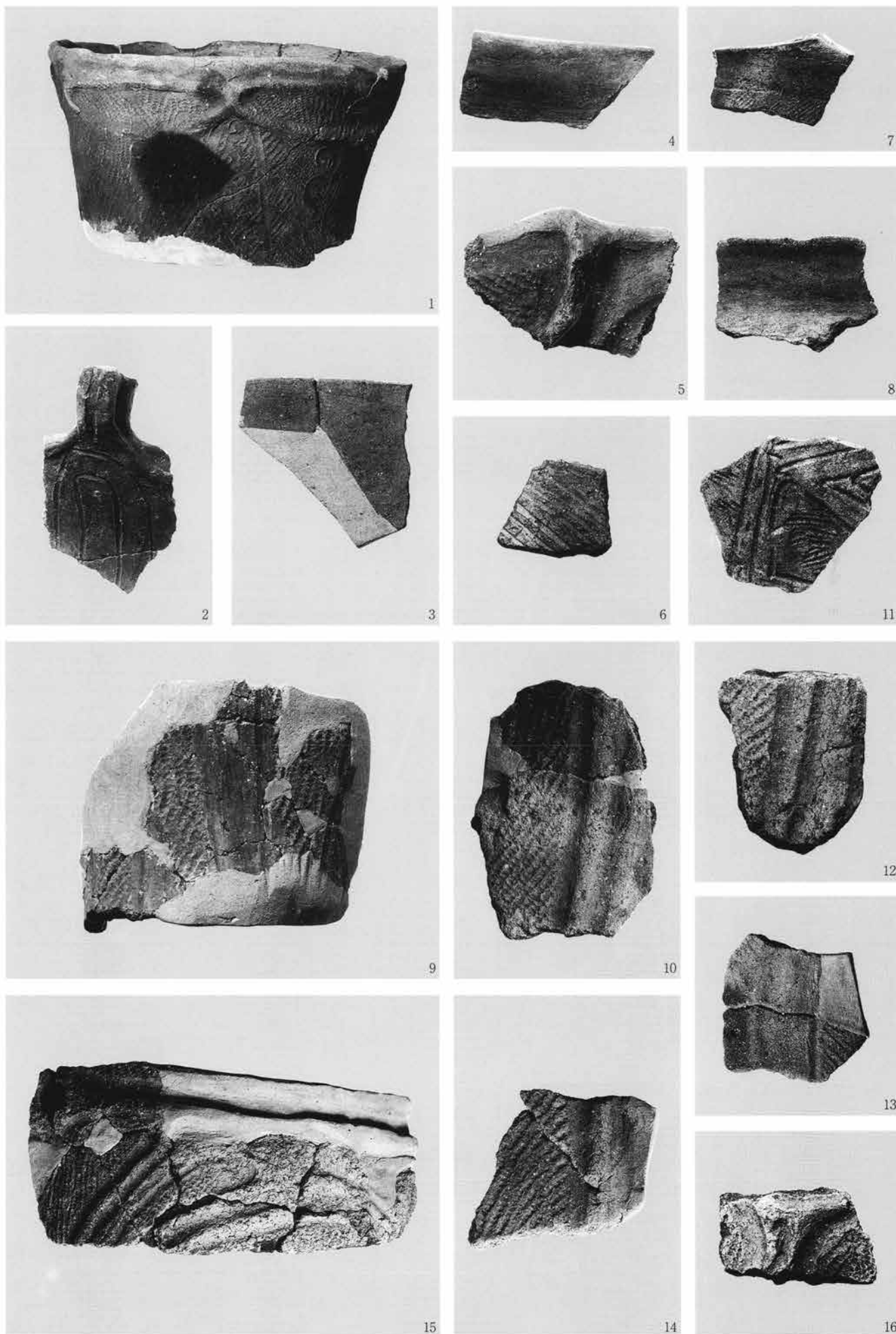
18区12号住居出土遺物



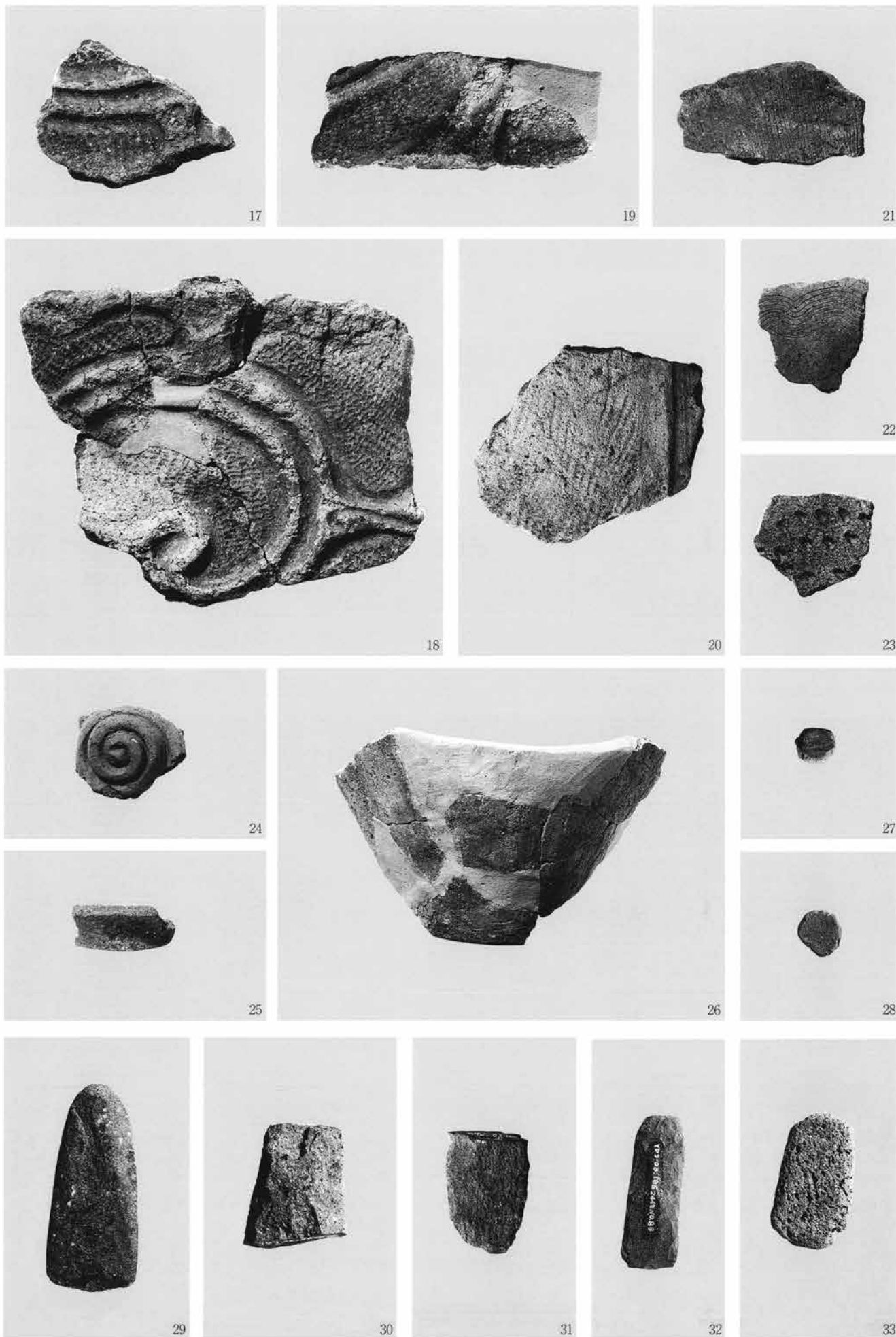
18区20号住居出土遺物



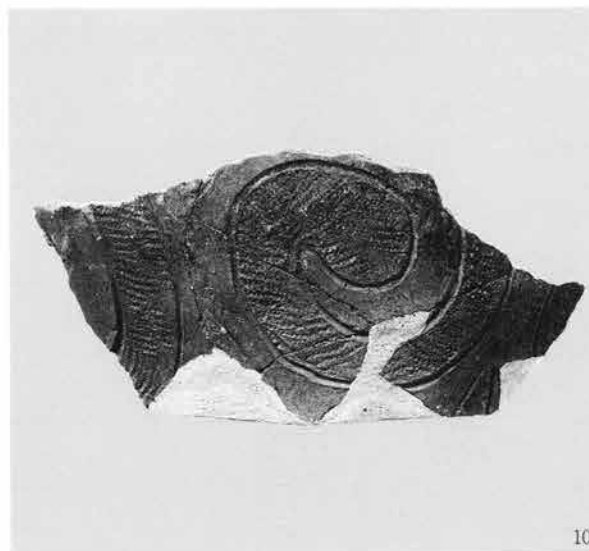
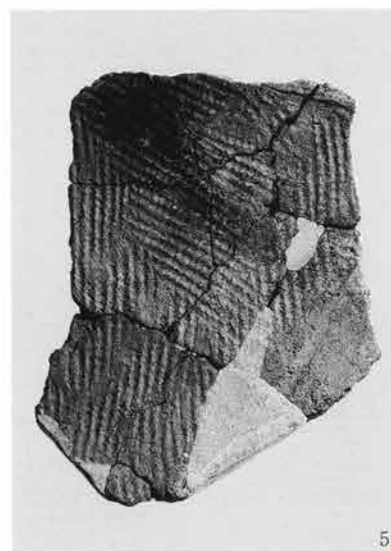
18区21号住居出土遺物



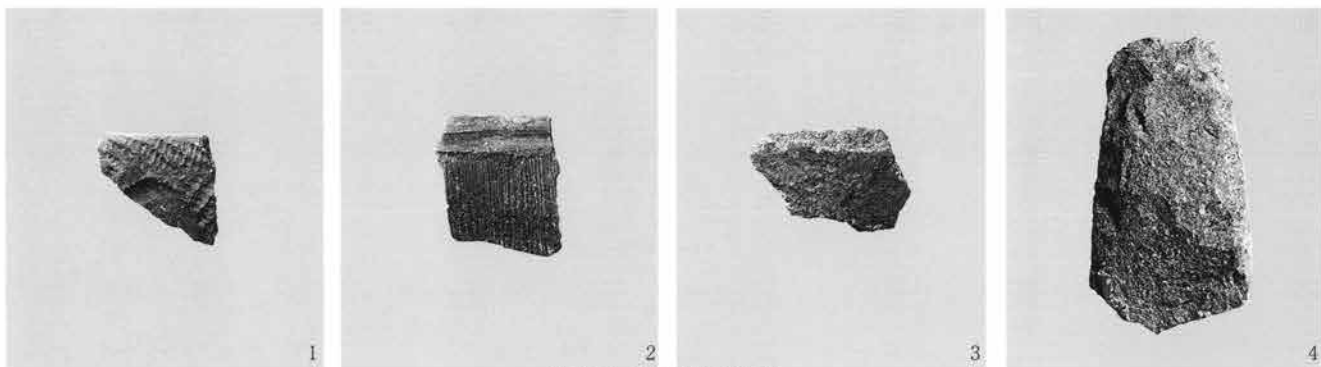
18区24号住居出土遺物(1)



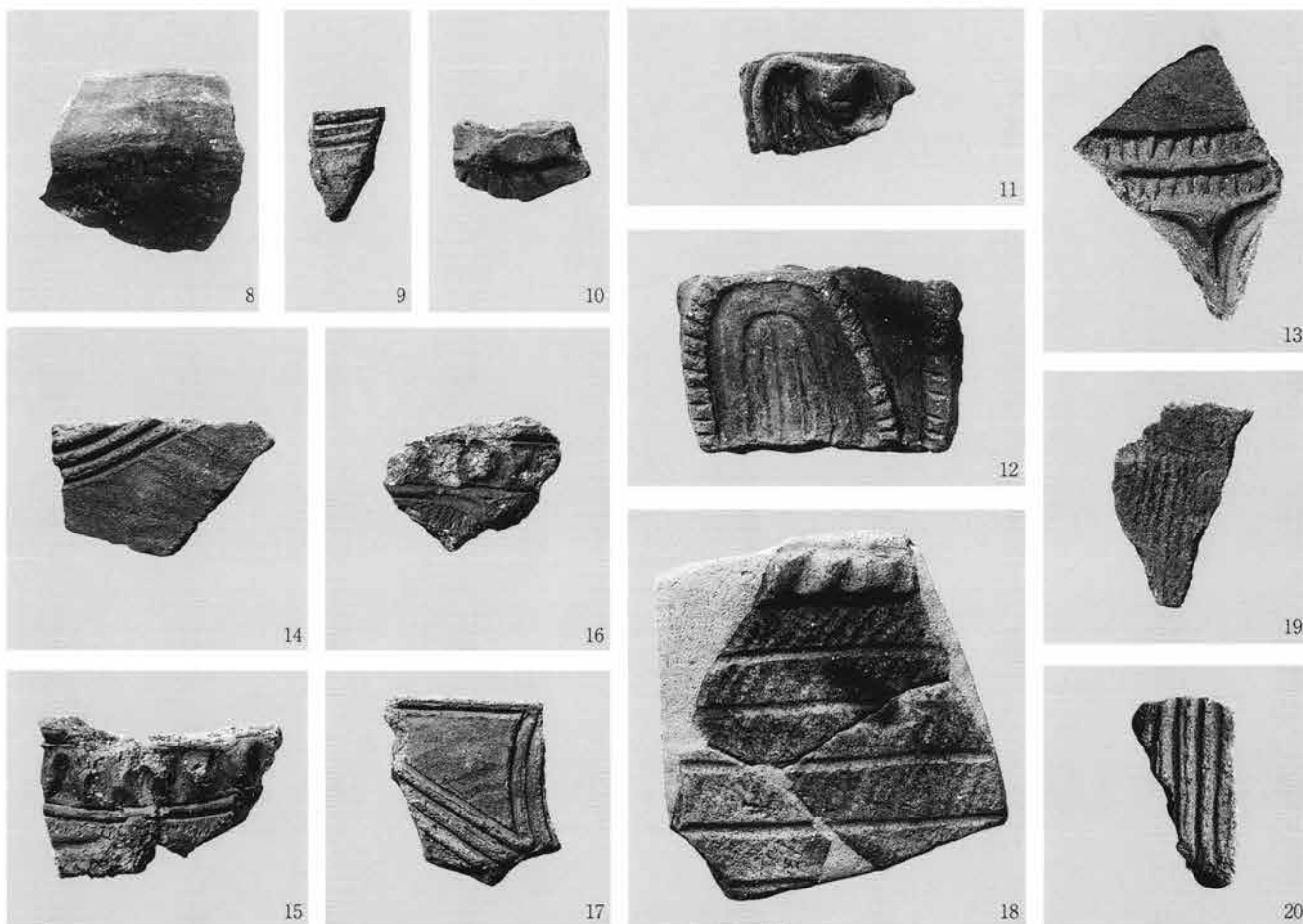
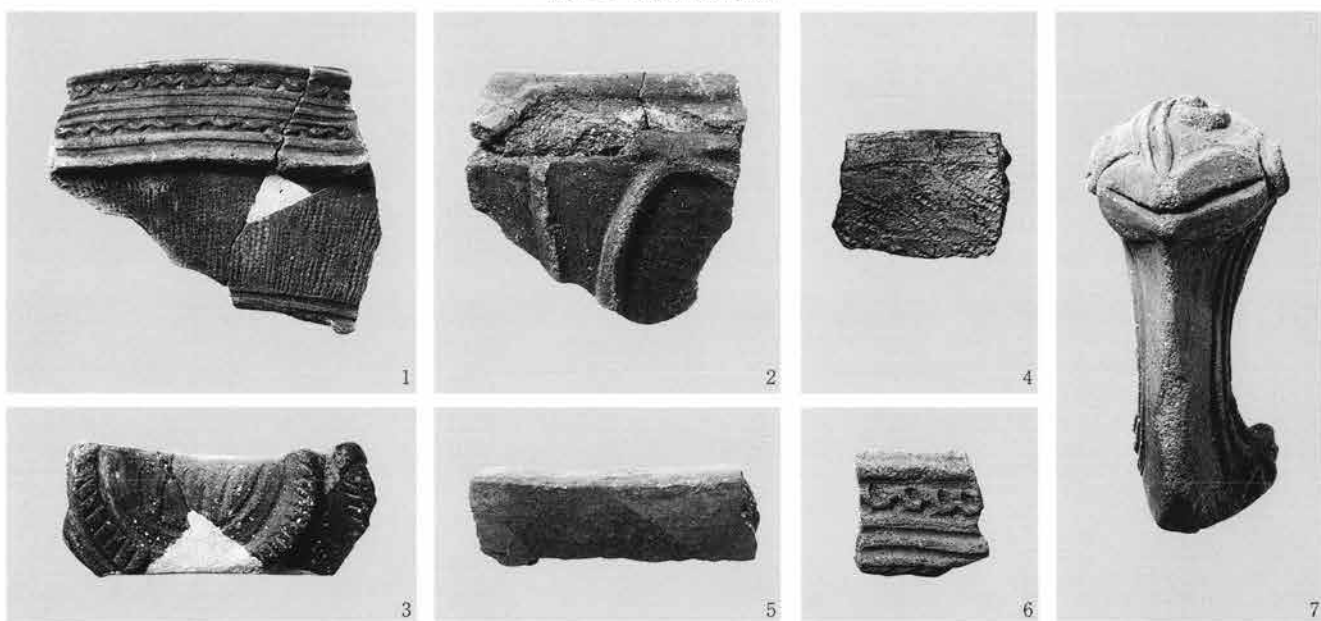
18区24号住居出土遺物(2)



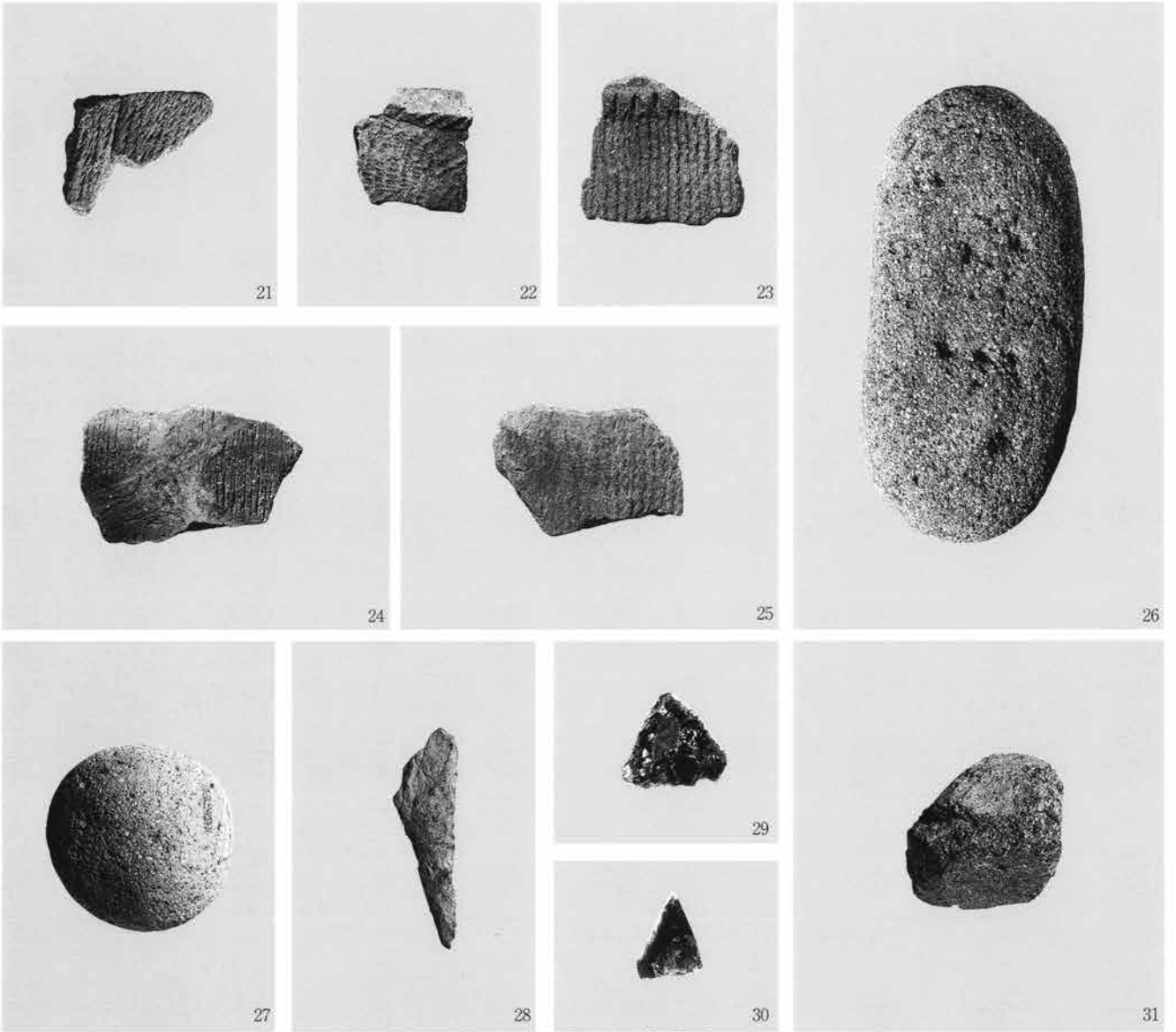
18区26号住居出土遺物(1)



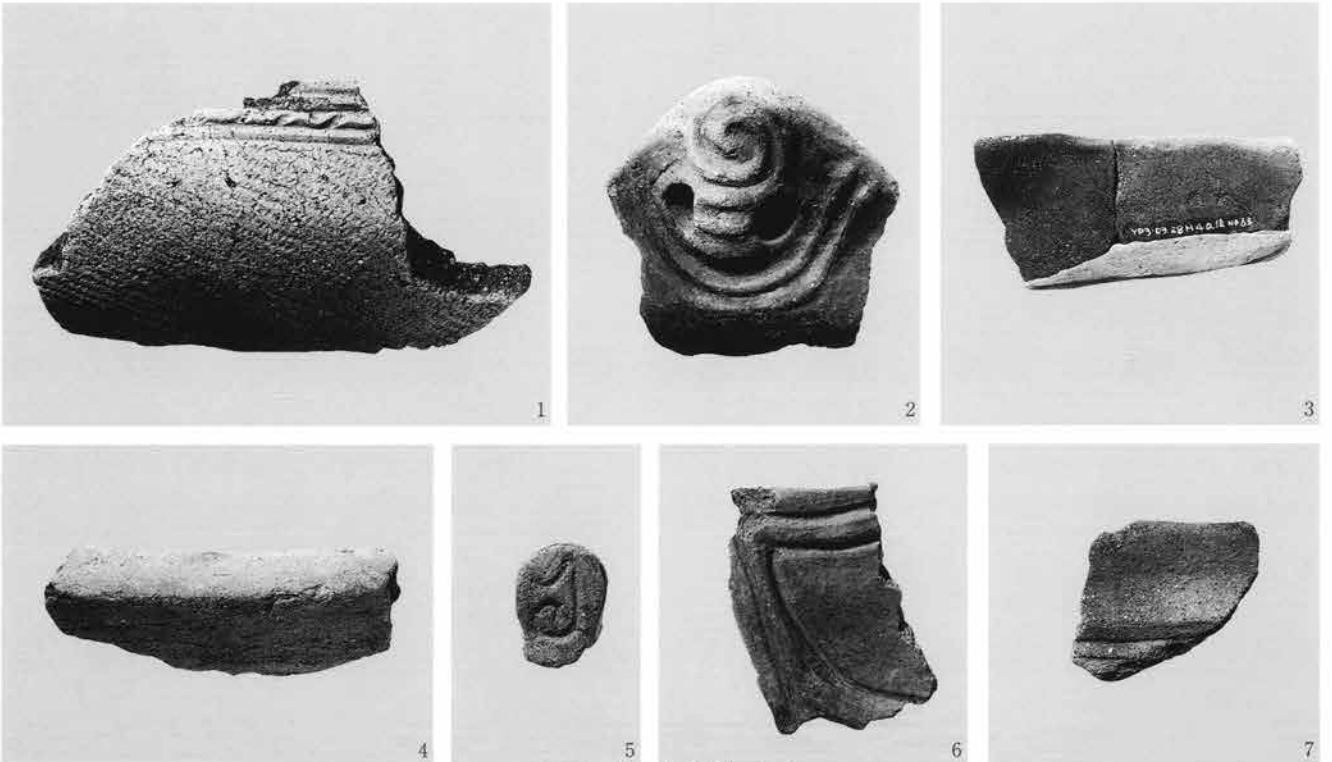
28区1号住居出土遺物



28区2号住居出土遺物 (1)



28区2号住居出土遺物(2)



28区3号住居出土遺物(1)



8



9



10



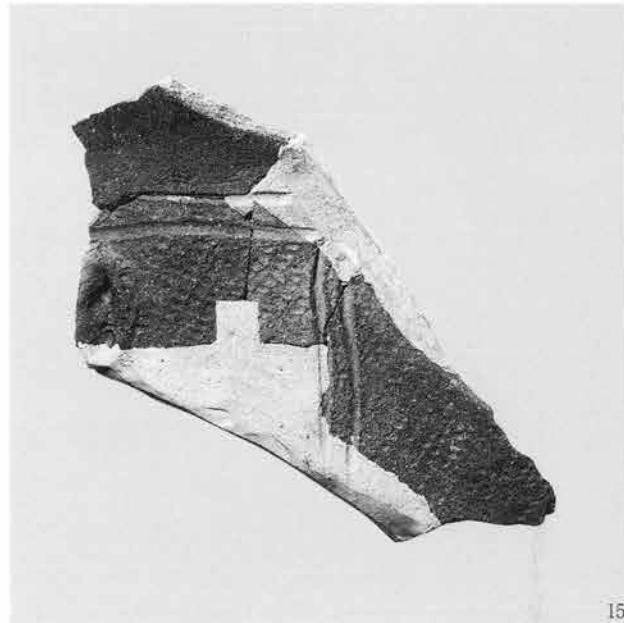
11



13



16



15



14



12



17



18



22



19



20



21



23



24



25



26

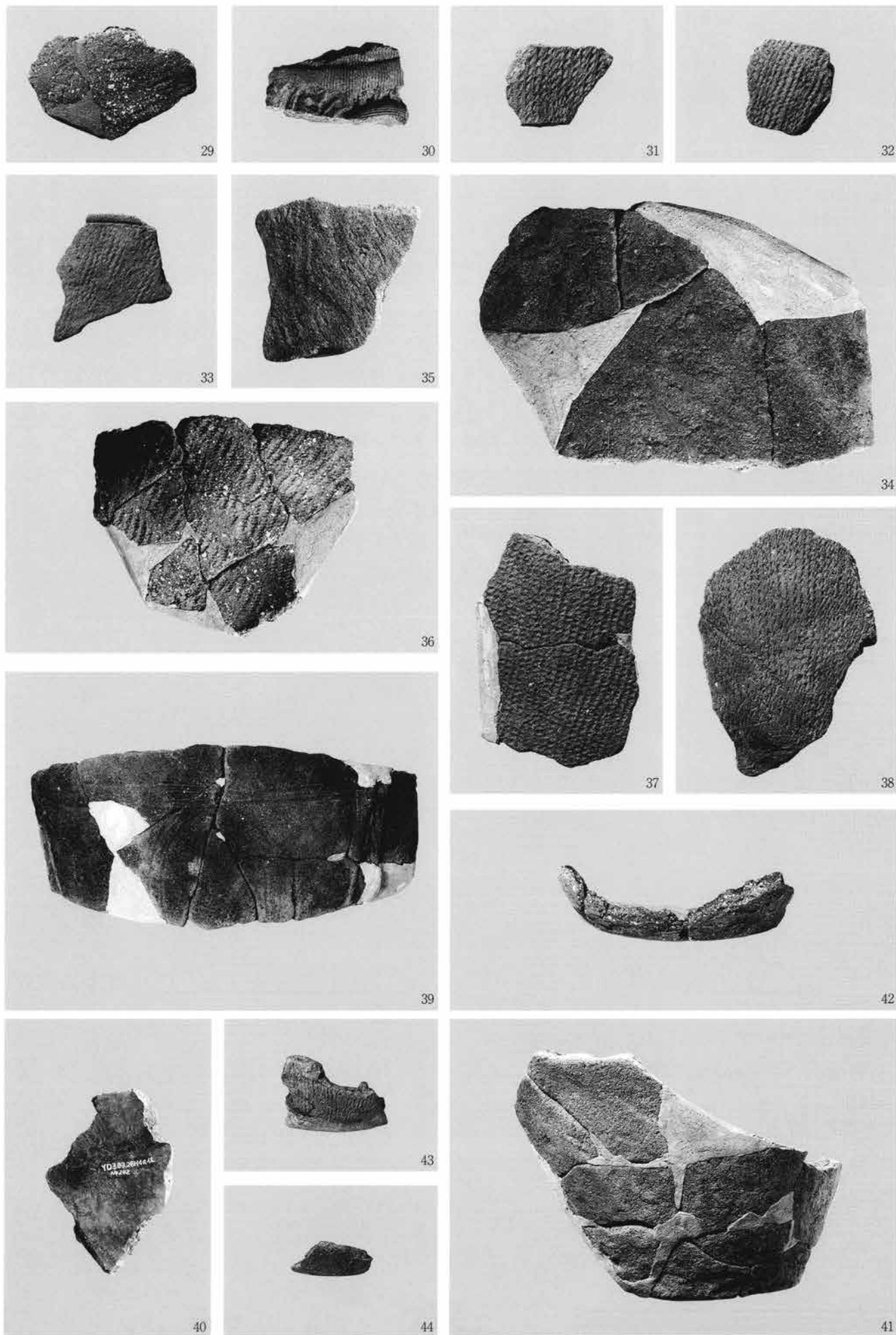


27

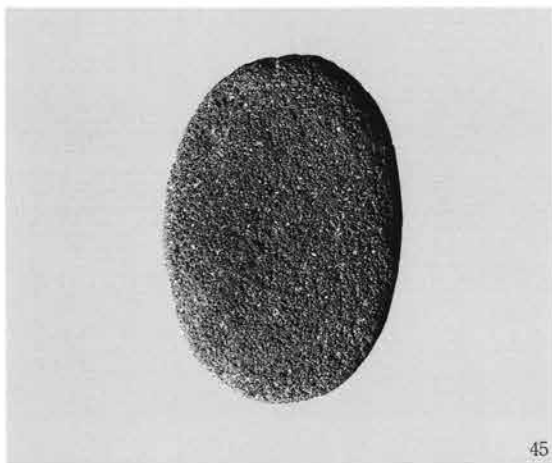


28

28区3号住居出土遺物(2)



28区3号住居出土遺物(3)



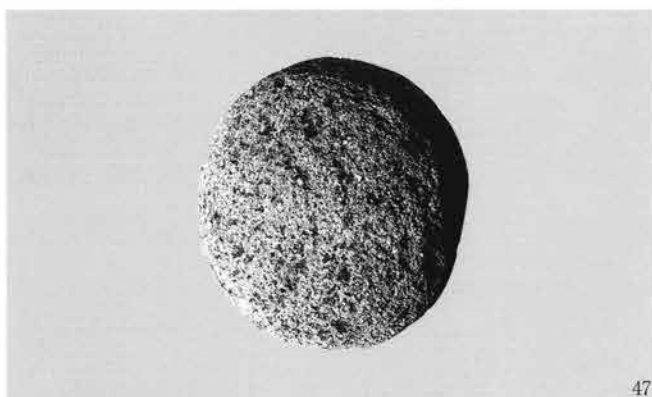
45



46



49



47



48

28区3号住居出土遺物(4)



1



2



3



4



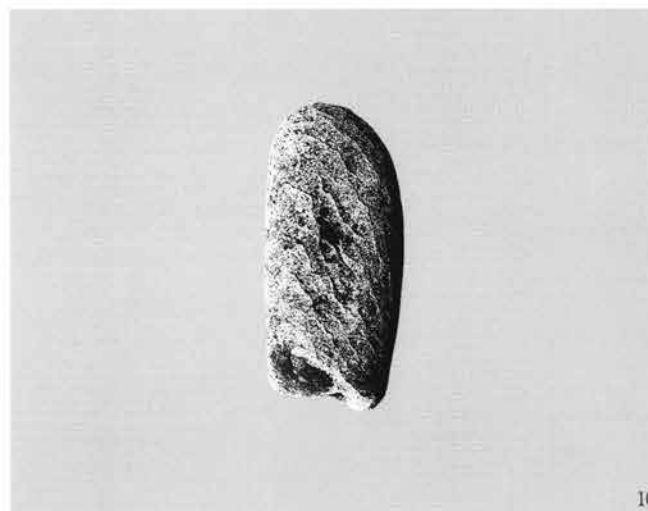
5



6



7



10

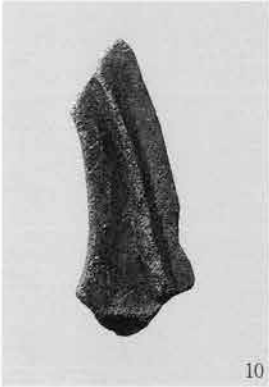


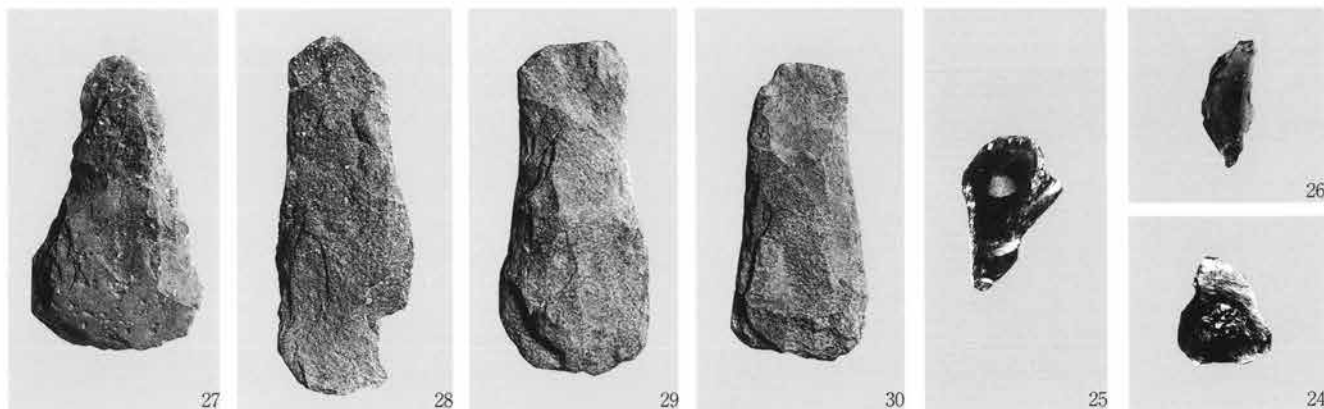
8



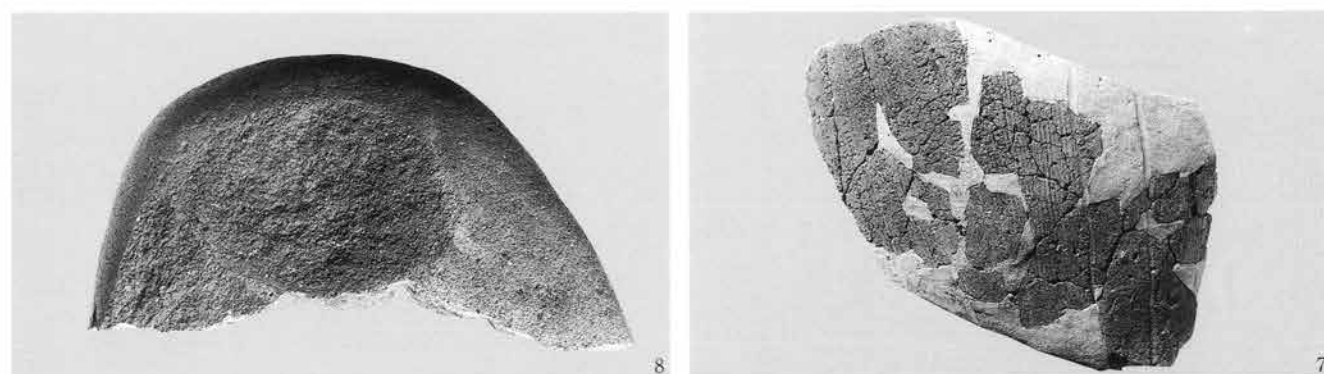
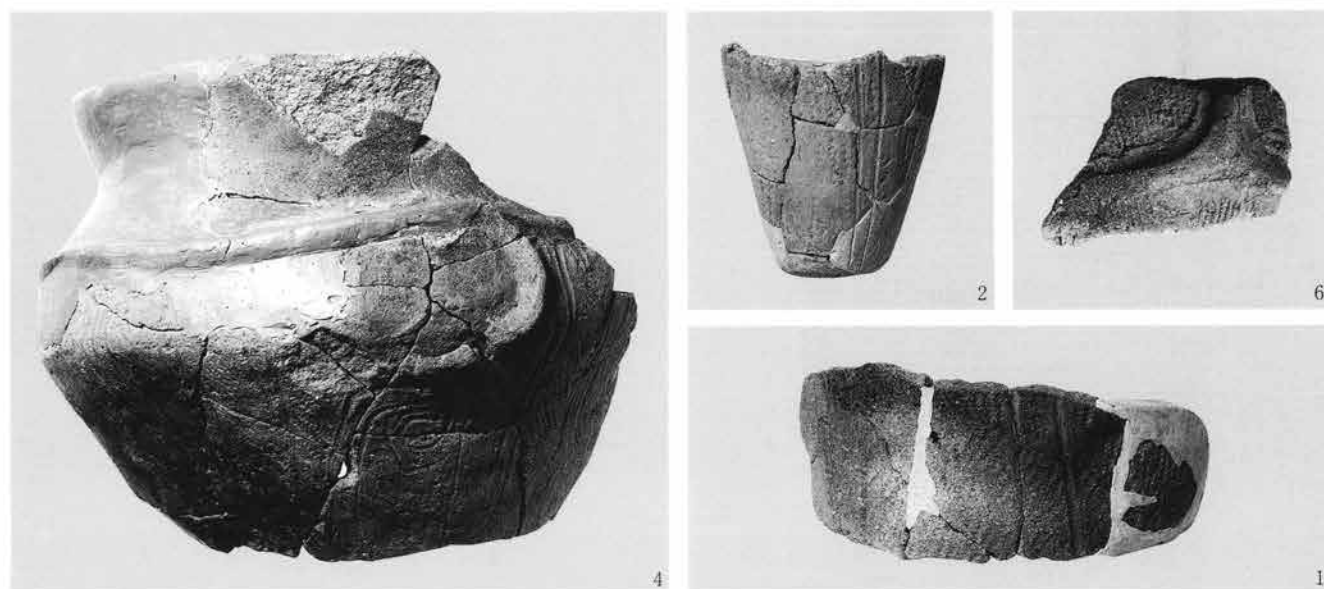
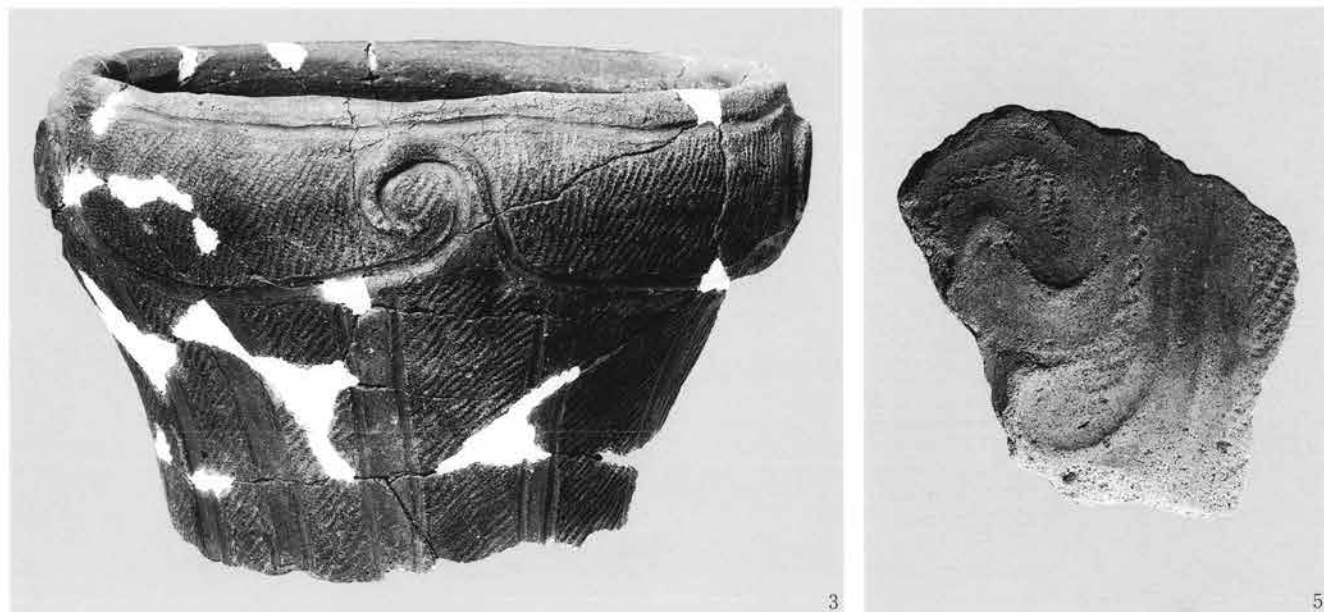
9

28区4号住居出土遺物

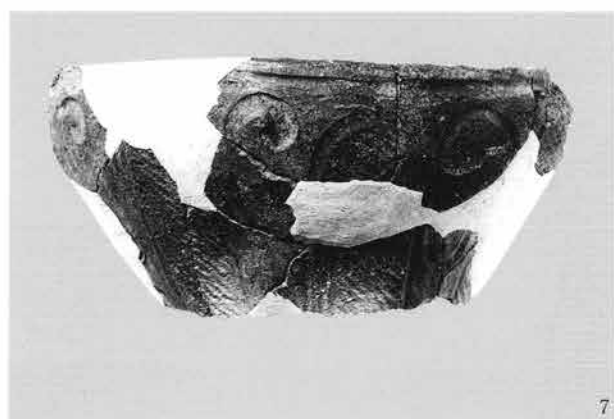




28区5号住居出土遺物(2)



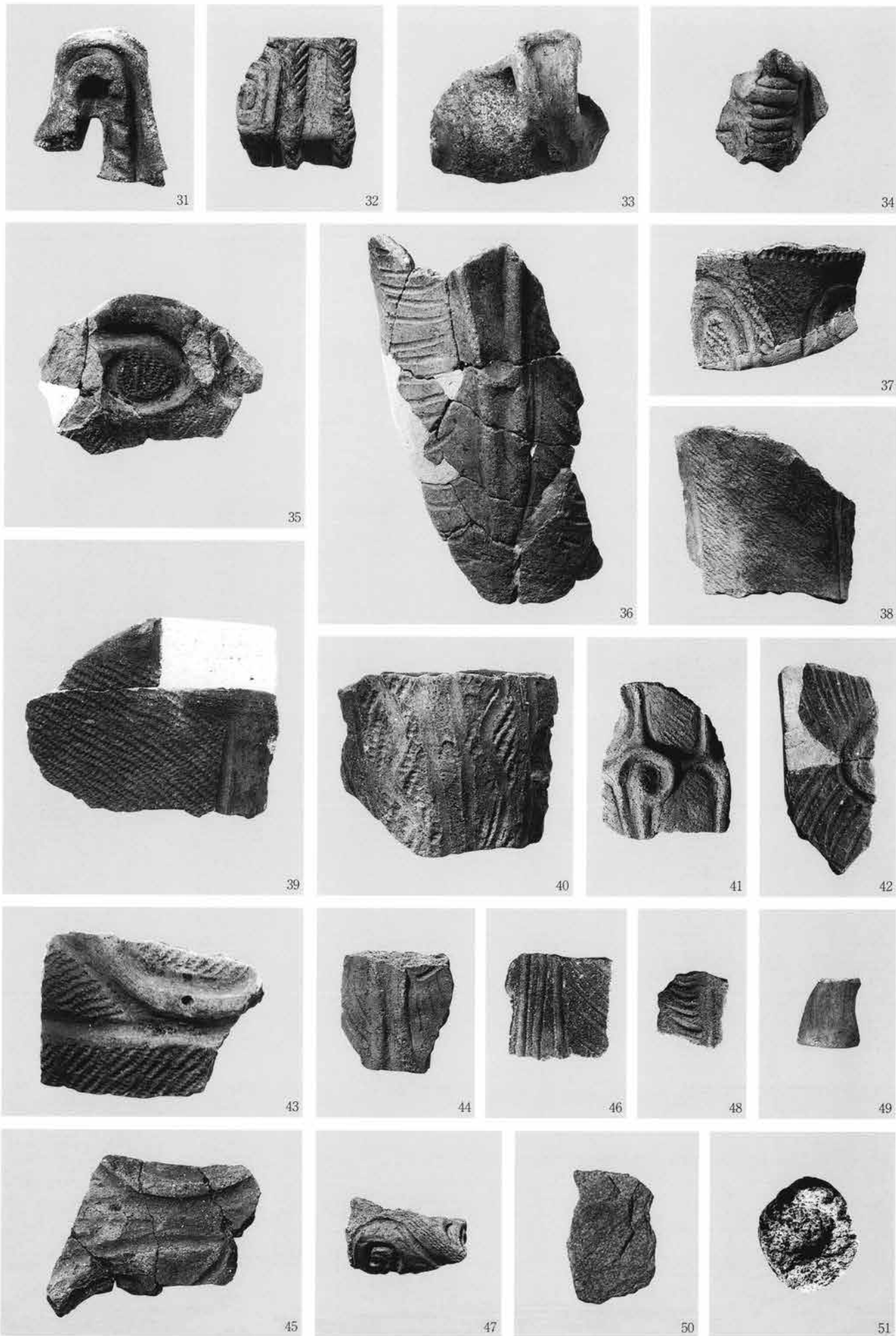
28区6号住居出土遺物



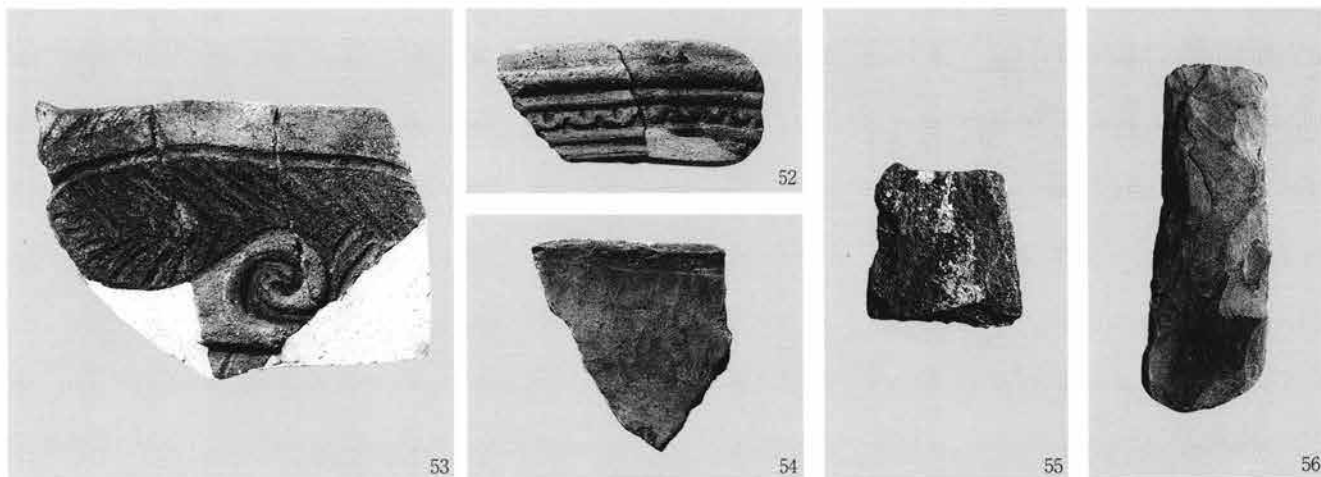
28区7号住居出土遺物(1)



28区7号住居出土遺物(2)



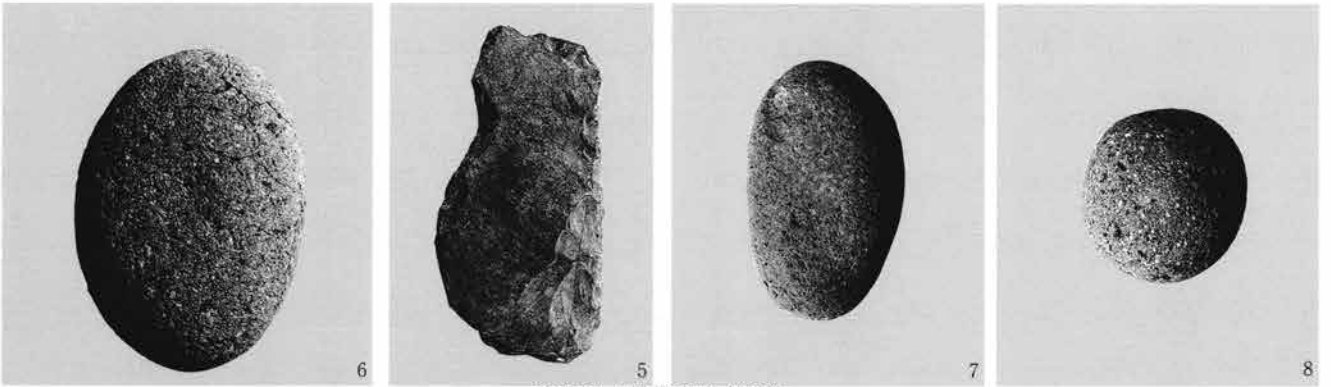
28区7号住居出土遺物(3)



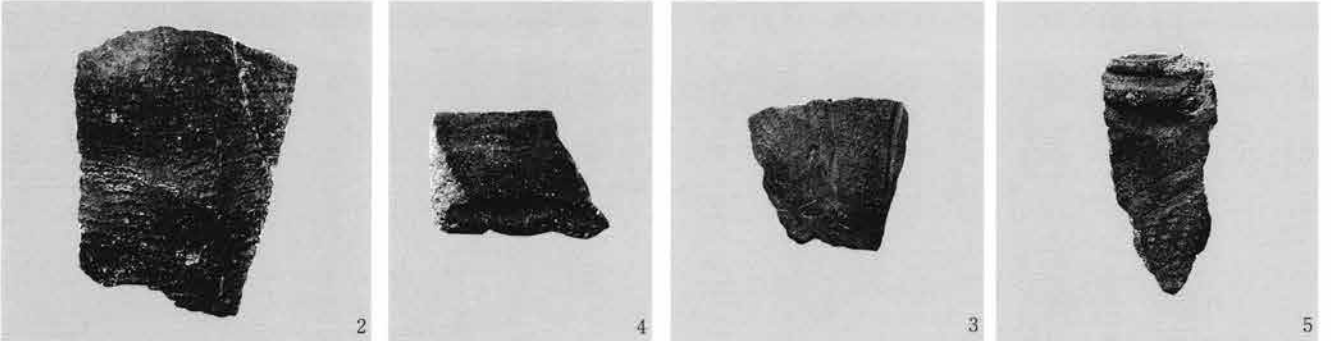
28区7号住居出土遺物(4)



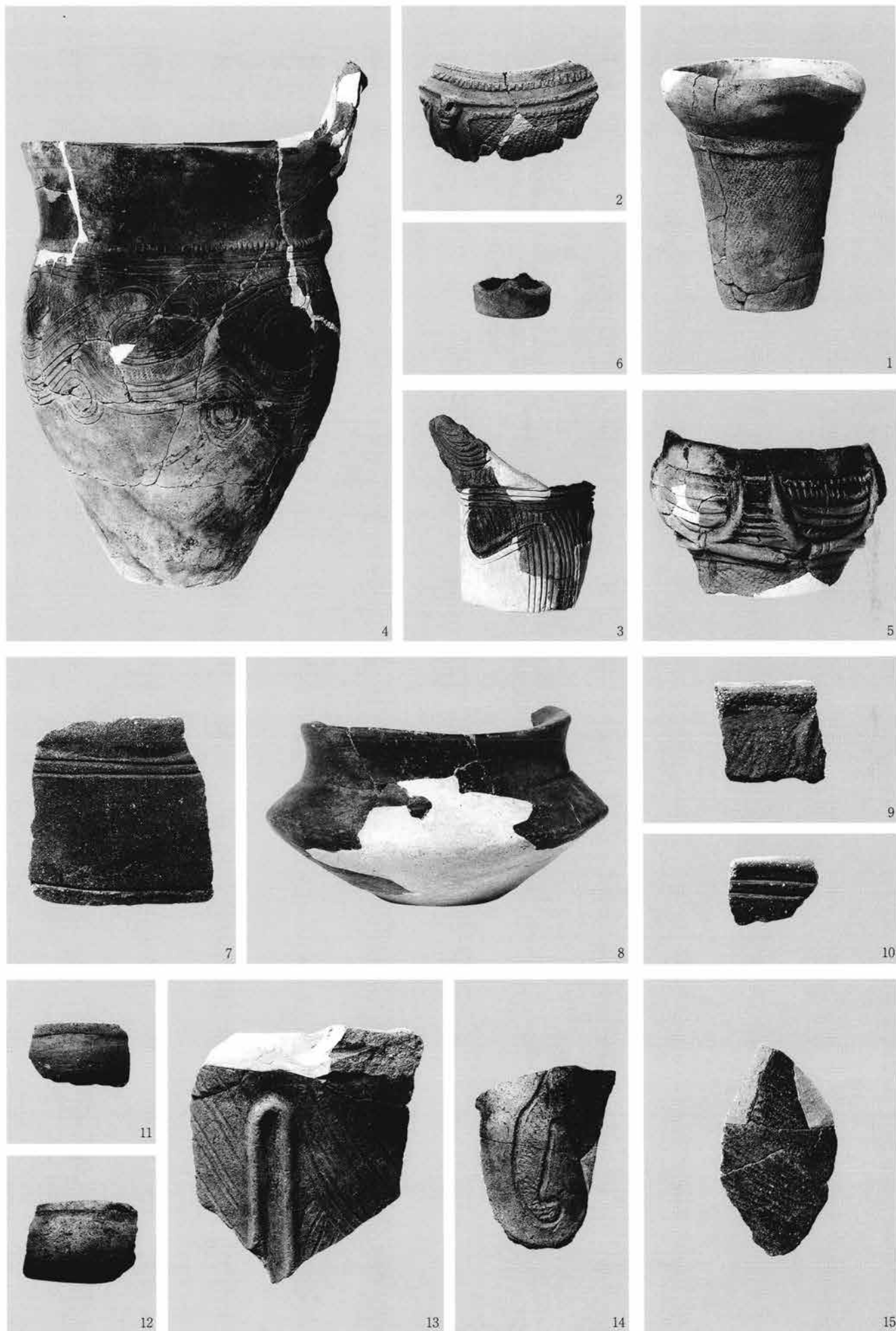
28区8号住居出土遺物



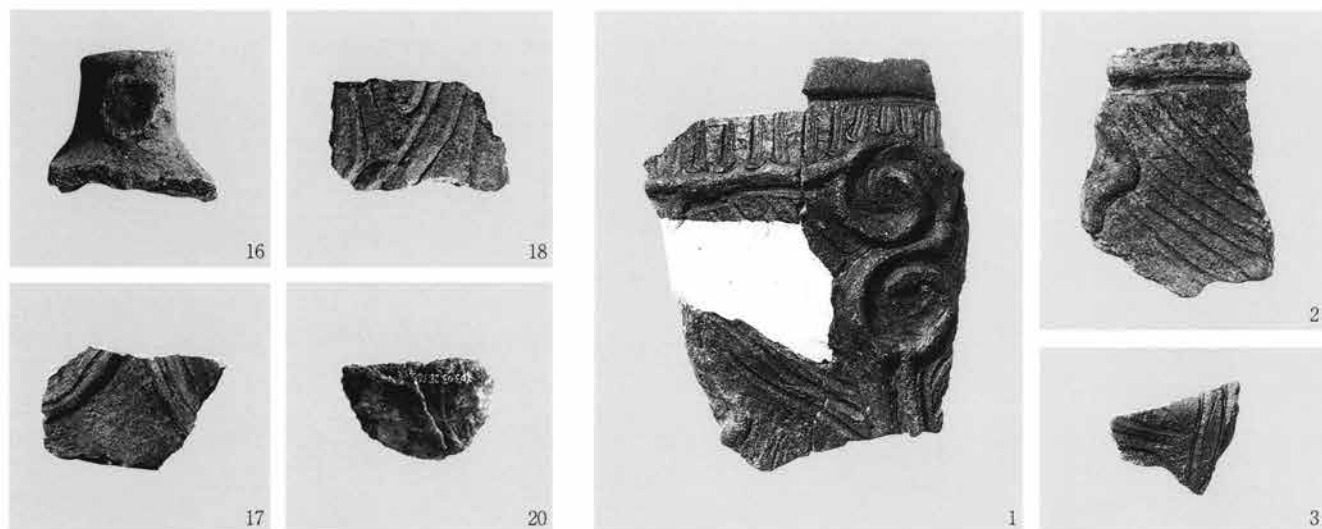
28区11号住居出土遺物



28区13号住居出土遺物

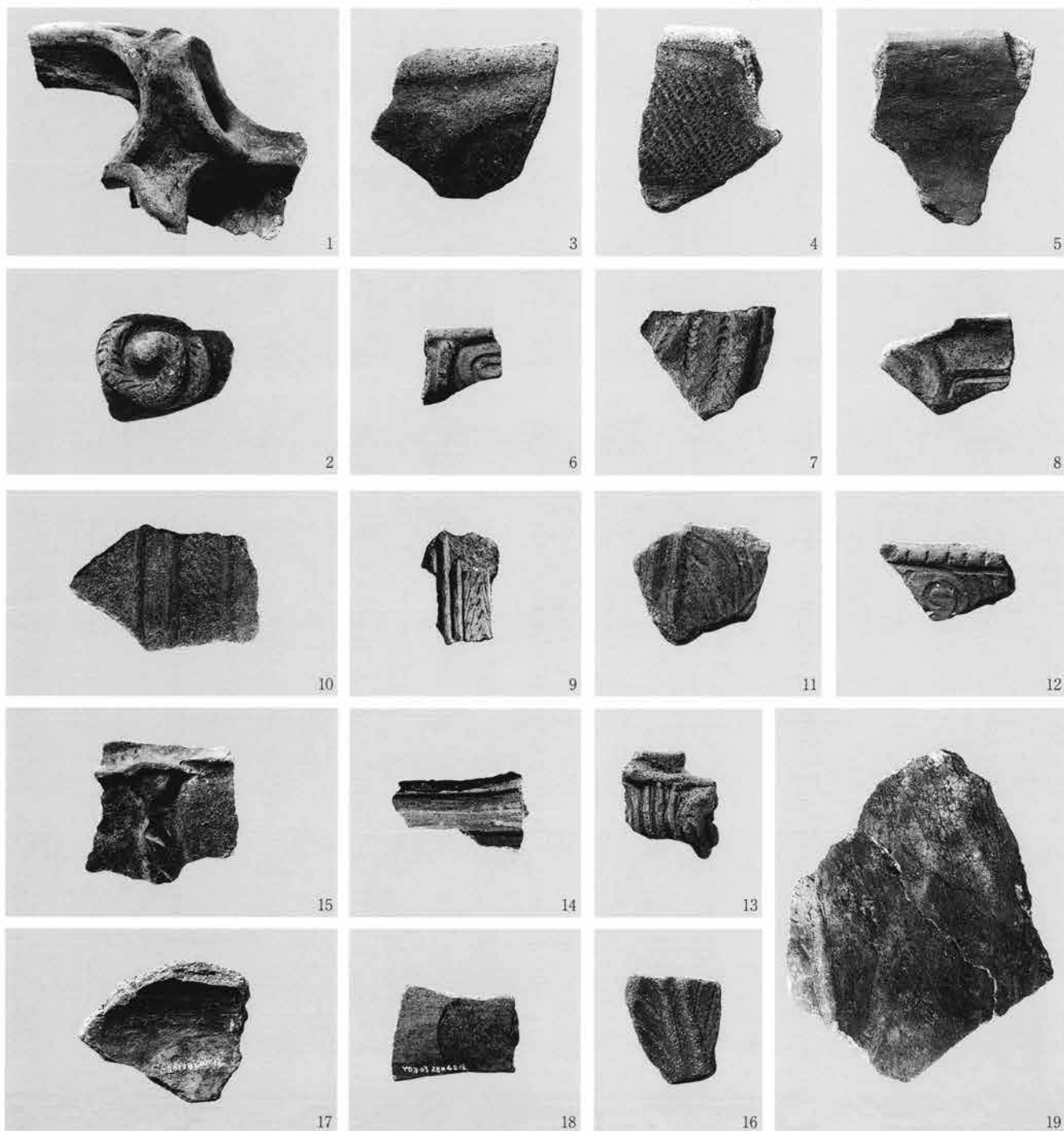


28区14号住居出土遺物(1)

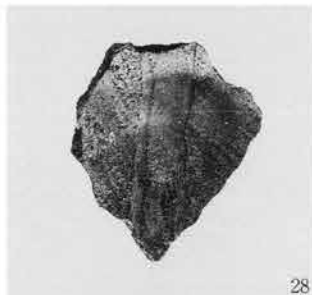
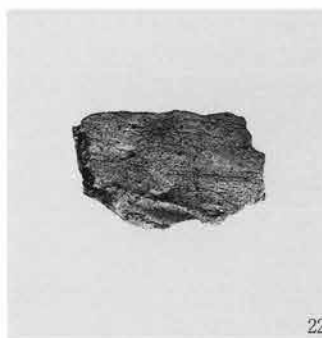


28区 14号住居出土遺物 (2)

28区 15号住居出土遺物



28区 19号住居出土遺物 (1)





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第381集

横壁中村遺跡(4)

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集

平成18年(2006)8月23日 印刷

平成18年(2006)8月31日 発行

発行／編集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2

電話 0279-52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org>

印刷／松本印刷工業株式会社